TVアニメ『sin 七つの大罪』
公式魔導書 淫果応報ノ書
グリモワール
HOBBY JAPAN MOOK
TVアニメ『sin 七つの大罪』公式魔導書
淫果応報ノ書
HOBBY JAPAN
Hobby JAPAN
© HOBBY JAPAN

TVアニメ『sin 七つの大罪』

公式魔導書（グリモワール）

淫果応報ノ書

ANIMATION GALLERY

TVアニメ

sin 七つの大罪 公式魔導書（グリモワール）

淫果応報ノ書

黙示

CONTENTS

愚裸美亞惚素墮（グラビアポスター） …… 折込

愚裸美亞（グラビア） …… 004

悪奴伽羅軀多（ワールド＆キャラクター）

sin 七つの大罪の世界 …… 018
十束真莉亜 …… 020
『sin 七つの大罪』スペシャルインタビュー十束真莉亜役・戸田めぐみ …… 022
ルシファー …… 026
レヴィアタン …… 028
サタン …… 030
ベルフェゴール …… 032
マモン …… 034
ベルゼバブ …… 036
アスモデウス …… 038
ベリアル …… 040
アスタロト …… 042
ミカエル、美菜、その他 …… 044

喘裸筋（あらすじ）

オープニング …… 046
第一話 傲慢たる堕天使 …… 048
第二話 嫉妬ゆえの暴走 …… 050
第三話 色欲の渚 …… 052
第四話 強欲うごめく霧の街 …… 054
第五話 憂鬱なる歌姫 …… 056
第六話 怠惰オンライン …… 058
第七話 咎なき暴食 …… 060
第八話 解き放たれた憤怒 …… 062
第九話 汝、一切の希望を捨てよ …… 064
第十話 汝の敵を愛し、汝らを責むる者のために祈れ …… 066
第十一話 求めよ、さらば与えられん …… 068
第十二話 神は天にいまし、すべて世は事も無し …… 070
エンディング …… 072
エンドカード集 …… 073
EXTRA美術ボード …… 076

隠多美遊（インタビュー）

Niθ×AMAKUNI×オーキッドシードスペシャル座談会 …… 084
［監督］よしもときんじインタビュー …… 090
［キャラクターデザイン］安田祥子×［総作画監督］小関雅インタビュー …… 092
［総作画監督］ごとうじゅんじインタビュー …… 094
［メインライター］鈴木雅詞／［インダストリアルデザイン］松枝聖
コメントインタビュー …… 096
［美術監督］益田健太／［ビジュアルコーディネーター］松原貞姫
／［撮影監督］藤田智史コメントインタビュー …… 097
［音楽］横山克／［音楽］堤博明コメントインタビュー …… 098

啜貞資料（せっていしりょう）

キャラクター設定 …… 100
美術設定 …… 110

乳房茄子愛転夢（ボーナス＆アイテム）

懺悔録 …… 116
罪の告白 電脳グリモワール！ 誌上出張版 …… 120
フィギュアカタログ …… 122
新作フィギュア …… 125
アイテム …… 126
新作アイテム …… 128
スタッフ＆初出一覧 …… 129

ワールド＆キャラクター

魔王、人間、天使の欲望絡み合う世界観をはじめ、
強く麗しい登場人物（キャラクター）たちを美麗カットを交えて解説。

－INDEX－

018	sin 七つの大罪の世界
020	十束真莉亜
022	『sin 七つの大罪』スペシャルインタビュー 十束真莉亜役・戸田めぐみ
026	ルシファー
028	レヴィアタン
030	サタン
032	ベルフェゴール
034	マモン
036	ベルゼバブ
038	アスモデウス
040	ベリアル
042	アスタロト
044	ミカエル、美菜、その他

sin 七つの大罪の世界

2011年にスタートしたホビージャパンオリジナル企画『七つの大罪』。フィギュア化を前提に人気悪魔絵師Niθがイラストを担当した本シリーズはその後、コミックスや様々なグッズとなって展開し、2017年、ついに待望のTVアニメ化を果たした。

TVアニメシリーズの舞台は人間が暮らす地上界、魔王が支配する地獄、神が司る天界の3つの世界。人間を堕落させる魔王たちと神の下僕である天使たちとは敵対関係にあり、時に人間界をも巻き込んで永きにわたり争い続けている。人間たちはそのことに気づかず魔王や天使たちに翻弄されている。

コミック版『sin 七つの大罪』配信中!

天使時代のルシファーや信者獲得に励む美しき魔王たちの活躍が描かれる『sin 七つの大罪』前日譚がコミックファイアで配信中! コミックス第１巻も大好評発売中!

ホビージャパンが贈る完全無料のコミックサイト
コミックファイア
URL https://hobbyjapan.co.jp/comic/series/taizai/

「コミックアライブ」では、『sin 七つの大罪 日常黙示録』も連載中!
コミックアライブ
URL http://www.mediafactory.co.jp/comic-alive/

魔王に魅入られた女子高生

十束真莉亜

Totsuka Maria

聖蹟女学院に通う女子高生。争いを好まない穏やかな性格で、どんなときも他人を思いやる優しさをもっている。学校の聖堂で堕天したルシファーと出会ったことで“七つの大罪”の座を巡る戦いに巻き込まれてしまう。ミッション系らしからぬ大胆なデザインの制服をまとうが、本人は心身共に清らかであり、そのことでアスモデウスにからかわれてしまったことも。なぜか魔王たちを惹きつける不思議な魅力の持ち主でもある。

私、なんとなくだけどこうなる気がしていたの。

魔王に魅入られちゃったのかな？

▲地上界で再会したルシファーに心臓を奪われた真莉亜。 心臓がルシファーの手にある限り、老いることも死ぬこともないものになってしまった

▲ルシファーから「天使の血」を預けられた真莉亜は、ルシファーに乳首を舐められることで“七つの大罪”の居場所を感知する能力を得る。なぜ乳首なのか？ それは魔王のみぞ知る神秘のひとつである

堕天使が出会った天使のような無垢な乙女

なんの特殊能力も持たないはずの真莉亜だが、普通の人間には見えない「天使」であるはずのルシファーがなぜか最初から見えていた。十字架に貼り付けられて空から落ちてきた不審人物を警戒しながらも、ケガをしていることに気づいて放ってはおけなくなり、手を差し伸べてしまう。天使よりも天使らしい優しさがまぶしすぎる…！

◀怪我をしたルシファーを助けようとした真莉亜がとんでもない運命に巻き込まれたと知るのは、ルシファーと再会した後のこと

拝悦の間

おおむねエロい魔王たちの間にあって、恥じらう姿が新鮮な真莉亜。だがそこがいい、と思うココロは止められない！ 控えめな性格と反比例する立派なボディをぜひ、拝悦させていただこう。

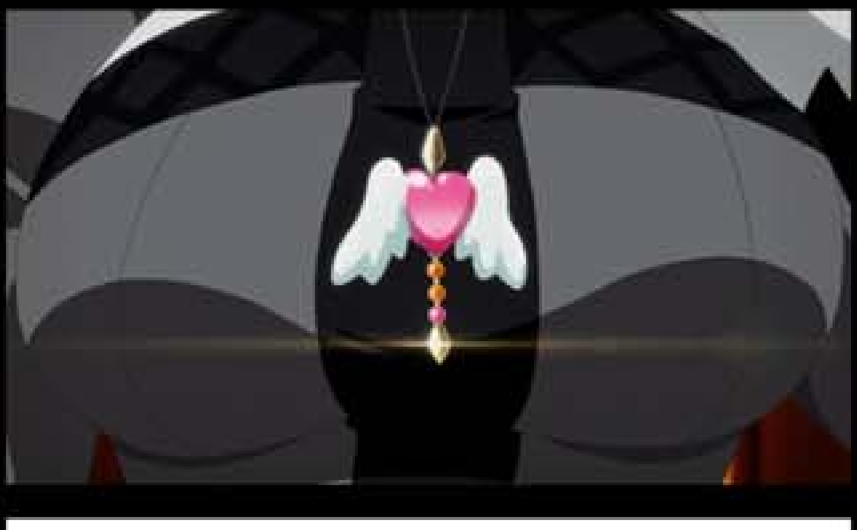
▲アスモデウス様に対抗するためにルシファー様が真莉亜に選んだ水着は、シンプルな白のワンピース。水に濡れると肌が透けて、大変けしからんことに

◀地上に戻ってきたルシファー様との再会シーンでは制服のスカートの構造があきらかに。短いスパッツの布地はパンツが見えるくらい無防備な薄さ

▼ホテルのプールに入るのを嫌がる真莉亜だが、ルシファー様に操られて自ら服を脱ぐことに。服だけ破られるより、なんかエロい

▲ベルフェゴール様の支配するネトゲ世界で修行する真莉亜。葉っぱのビキニ装備にハチミツを塗って、蜂と戦いレベルアップ!?

真莉亜'sアイテム



ストラップ

▲子供のころから天使が好きな真莉亜。親友の美菜と一緒に訪れた雑貨店で天使モチーフのストラップを買っていた。このストラップは7話でベリアルに拉致された際落としてしまったものの、ルシファーが真莉亜失踪に気づく手がかりになった

学生鞄

▲通学に使っている学生鞄。 学校の指定のものらしく、わりと大きめで前面には校章がデザインされている。まじめな真莉亜は、飾りなどをつけることもせず愛用しているよう

『sin 七つの大罪』スペシャルインタビュー
十束真莉亜役・戸田めぐみ

Mwgumi Toda

『sin 七つの大罪』の主要キャラクターで唯一の人間となる十束真莉亜。強烈な個性を放つ大罪たちの中で立ち回る彼女を戸田めぐみはどう演じたのか、戸田が見た真莉亜像を教えてもらう。と同時に、『七つの大罪』という作品の特徴、共演者とのエピソード、さらには「大罪なら自分は『嫉妬』。『嫉妬』の気持ちがよくわかります（笑）」と話す理由やフィギュア好きな一面など、『七つの大罪』という作品を題材に思いっきり語ってもらった。

人間はみんな「欲」を
背負っているものなのに。
「ちょっと傲慢な子だな」って思いました。

――真莉亜のことはどういう女の子だと思いましたか？

戸田　最初は「ちょっと傲慢な子だな」って思ったんですよね。

――というのは？

戸田　人間ってみんな、「欲」を持っているじゃないですか。だけど真莉亜は「欲」を受け入れないんですよね。欲に関して自覚がないというか。欲がないわけではないのに、欲の具現であるルシファー達を受け入れられないと言うところが、人間らしい、傲慢さを感じるなと。ただ、それを自覚していないからこその、子供のような無垢さというか、純粋さもあったりして。

そんな真莉亜が"七つの大罪"に触れることで、一つひとつの欲望を自覚して、自分の内側を知っていくのを見ていると、『sin 七つの大罪』（以下大罪）はルシファーの成長ストーリーであるけど、真莉亜が一人の人間として確立できていくお話でもあるのかな、って今思いました。

――真莉亜を演じる上で苦労した点はありましたか？

戸田　真莉亜は、自分の気持ちを表に出しすぎない控えめなところと、わりとズケズケと言い放つ大胆なところがあるので、その微妙なさじ加減は難しかったですね。

あくまで真莉亜の性格ラインを越えないように…と思いつつも、私は感情をストレートに出す表現の方が得意なので、すぐ出しすぎちゃうから（笑）。

ただ、オリジナルキャラクターではあるので、自分が想像した真莉亜像を演じられるという点では実際やりやすかったです。

――どんな真莉亜像をイメージしましたか？

戸田　オーディションの時は今より儚げなイメージだったんですよ。2話の「自分で脱ぎますから」というセリフがオーディション台本にあって、そこから受け身な性格を想像していました。受け身な子だから、体の線は細くてあまり活発ではない。とすると色白だろうし、「肌の白さをより際立たせるなら黒髪ロングのキャラクターかな」って考えを巡らせていました。まだ、キャラクターのイラストもいただいていなかったので。実際（の髪型）はショートでしたね、全然違う（笑）。

――まるでプロファイリングですね。

戸田　あはは（笑）。

オーディションと言えば、スタジオで演じたのがベルフェと真莉亜だったんです。真莉亜役の子は若い女性に決まると予想していたんですよ。

そういうところを考えると、ベルフェの方がまだ受かる確率が高いかな～と思っていたので、真莉亜に決まったと聞いた時は、私が一番びっくりしました（笑）。

――想像と違っていた部分はあまりなかったですか？

戸田　というか、始まる前はほとんど教えてもらえなかったんですよ（笑）。公式サイトに置かれるサンプルボイスを録る時に、カトリック系の学校に通う女子高生と教えてもらったくらいかも。

なので各話収録の際にいただいた台本で少しずつ知った情報をヒントにしていきました。

最初は、真莉亜の立ち位置も分からなかったし、ルシファーと組むことも知らなくて、　たまたま別の現場でキタエリ（＝喜多村英梨）さんとご一緒した時、人間側も複数いて悪魔サイドと戦うらしいと聞いたんですね。それで「決戦物なの？」って話もしていました。収録の時に、「ルシファーが魔王に至るまでのお話だったんだねー」ってみんなが言っていました（笑）。あと最終話では、ベリアルの謎がいろいろと明かされていったので「これ、ベリアル物語だったんだな」って。

――ほかに共演者さんとのエピソードで印象に残っていることというと？

戸田　11話の収録は、映像と台本のあがりがギリギリだったので、現場でみんなでチェックするんですけど、そうするとチェックが1回しかできないんですよ。決められた時間内で収録しないといけないので。

みなさんは歴を重ねた方たちなので一発でいい芝居ができるだろうけど私はできるだろうか、ご迷惑をおかけするんじゃないだろうかと萎縮してしまって…シーンもクライマックスですし、真莉亜が下手なことをしたら凄く興ざめじゃないですか。

だから本当に不安で、怖くて。

そうしたら、ルシファーがベリアルに真莉亜の居場所を聞くシーンのテストで、（ルシファー役の）キタエリさんが「真莉亜は？」と言うところで「戸田は？」って（笑）。（ベリアル役の伊藤）静さんも「戸田は死んだわ」って言うんですよ。思わず「死んでないし！」って突っ込んでしまいました。おふたりとも、気を使っていると私が知ったら、より萎縮するとご存じなのでそういうやり方をしてくださったんですよね。その心遣いはすごく覚えてますね。本当にすごく演じやすい現場でした。

――作中に登場した中でお気に入りのシーンを教えてもらえますか？

戸田　やっぱり12話ですね。ルシファーの杖を自分に突き刺してルシファーを復活させるところは、映像を見た時にうるっときました。

話が進むごとに、どんどん真莉亜もルシファーに打ち解けて、私自身も凄くルシファーに心を許していたところだったので、彼女が死んでしまうというのはすごく衝撃的でした。

あの時の真莉亜の気持ちは「自己犠牲」ではあるけど、蘇らせた人のあとの気持ちを考えていないところはやっぱり「傲慢」ですよね。（4話で）マモンにも一度指摘されていたように。

傲慢な気持ちで、傲慢の魔王を蘇らせる、というのも、なんと言うか、彼女達らしいです。

ルシファーには
ハーレムを作ってほしいな。
でも正妻は真莉亜がいいですけど

――各キャラクターのBGMとしてキャラソンがかなり差し込まれていて、音楽要素も多かったですね。ルシファーとアスタロトにいたっては5話で歌ったり、2人でセッションしたり。

戸田　そうなんですよ！　私、「ルシファーと一緒に歌いたい！」って延々と言い続けていたのに、アスタロトと歌っちゃうんですよ。「なんでそっちなの！」って嫉妬が爆発しましたよ（笑）。キタエリさんに「なんでなんでなんでなんでっ！」と言ったら、「お仕事」って言われました…。レヴィの気持ちが誰よりも分かった瞬間でしたね（笑）。

――七つの大罪たちのキャラソンを聴いていかがでしたか？

戸田　そうですね。現場では、全体を通して見ると「レヴィが一番キャラソンぽい」と話題になっていました。2話で最初にレヴィのキャラソンが流れて、みんなが、このラインかーと想像をしていたら、3話のポールダンスシーンが凄くハイレベルでびっくりしました（笑）。実は最初に入っていた仮歌さんは全英詞だったんですよ。完成版は日本語でしたけど。言語が変わっただけで、ハイレベルな楽曲なのは変わらないんですけどね！（笑）あと、マモンの歌なんかは聖なる感じがしましたね…素敵でした。

――七つの大罪は衣装もかなり凝っていますが、「可愛かった！」とか「好きだ」と思った衣装はありましたか？

戸田　私、ルシファーが黒いガウンを着ているところがすごく好きなんですよ。なんか「旦那感」があって（笑）。2話で、ルシファーと真莉亜が2人で仲良く食べているところは、すごく夫婦感があるんですよ!! だから、気に入っているんです、黒いガウン～♪

キタエリさんが「真莉亜は正妻ポジションだね」って仰っていましたし！ ただ最近のルシファーはハーレム状態だから心配…一番は真莉亜にしてほしいな。

――キタエリさんが仰るように正妻ですから大丈夫ですよ。

戸田　でもでも！後半に進むにしたがってレヴィが結構がんがん来ているのも、ちょっと納得いっていないんですよ！ 正妻としては！（笑）

――七つの大罪と言えば、ということで戸田さんから見て印象的だったセクシーシーンも教えていただければ。

戸田　ベルゼブブ回（7話）でのルシファーの食事シーンは、「私は上品に食べるわ」みたいな感じで、すごくセクシーに感じました。私は女性の細やかな所作にすごく魅力というか、セクシーさを感じるので「はぁ～…」ってなりました。

――戸田さんは女子高出身ですか？

戸田　私は共学でした。重いからですか？（笑）

――いえ（笑）。女性の所作に憧れると仰ったので周りに女性が多い環境にいたのかと思ったので。

戸田　どっちかというと、小さい頃は男の子と混ざって外で駆けずりまわるみたいなタイプでした。だから、上品な大人らしい女性にドキドキするのかもしれませんね。体は女、心は男、みたいな（笑）。今回、智秋さんや静さんと話していてもすごくドキドキしていました。初めて智秋さんとお会いした時、かなりセクシーな衣装を着ておられて。目線をどこに持っていけば分からなくて「え、えっと、どこ見たらいいですか？」って本人に聞いたんですよ（笑）。

――直接？（笑）。

戸田　はい。「この目線で正解ですか？ セクハラになりますか？」って。そうしたら「……見なさい」って言ってました（笑）。今でも顔を見ると視界の中に胸が入ってくるのでとてもドキドキします。

――それでは大罪も見ながら、かなりドキドキしていましたか？

戸田　していました。セクシーなシーンが多いアニメを見たことがあまりないんですよ。ある、シャワーシーンが多めの学園物アニメでもうドキドキレベルな小心者なので（笑）。そのことを先行上映会の楽屋で話したら、「あれは別にえっちなアニメじゃないだろ」って言われて。みんなの基準が分かりませんでした。

――『七つの大罪』を無事完遂できてよかったですね（笑）。では、「このセクシーキャラを演じてみたい」「このセクシーシーンに挑戦したい」というのもなかったですか？

戸田　そうですね。アフレコを12本やってきた中で、（藤田）茜さんがすごく楽しそうにレヴィを演じられていたので、「ちょっとやってみたいなぁ」とは思いました。でも、根が重たい私がレ

ヴィをやったらドロッとしちゃって、茜さんのようなカラッとした嫉妬じゃなくなると思うので、「やっぱり茜さんだな、うんうん」ってなります。

――『七つの大罪』のアフレコ中に「嫉妬」とか重たさを発揮したことはありましたか？

戸田　3話かな？ キタエリさんはいつも私の隣に座っていたんですけど、確か3話あたりで静さんの隣に座ったんですよ。そのとき私は、「どうしていつも私の隣にいてくれるのに今日は静さんの隣なんだろう」ってず～っと考えちゃって。その翌週にはまた隣に座ってくれたんですけど。それで、「先週は私の隣にいてくれなくて、もうずっと一緒にいてくれないのかと思って。でも今週帰ってきてくれてよかったです」「なんで先週はあっちいっちゃったのかなってすごい思ったんですよね」ってキタエリさんに言ったら、

――また直接？（笑）

戸田　はい（笑）そしたら「重い重い重い重い」って言われました。「ホント、ウェッティな女だよ」って。昔から仲のいい子が他の子と仲良くしているのを見ると、「捨てられちゃったのかな」って思うタイプなので（笑）。

――戸田さんバージョンのレヴィも見たいと思わせる話ですね（笑）。一方、最終話まで演じた今、真莉亜はどのような女の子だと感じていますか？

戸田　私の中で気になっていることがひとつあって。母子家庭で育ってお母さんが亡くなったのか、両親がいてお母さんだけが亡くなったのか、というところなんですね。ただ、真莉亜はこの年まで屈折せず、愛情が不足したことで起きそうな問題を抱えていないので、「真莉亜を思ってくれる人が周囲にたくさんいたんだろうな」とは思いました。

あと受け身っぽい子かな、って先ほどお話させてもらったんですけど、最終話まで演じてみると芯の強さを感じましたね。頑固に譲らないところとか、魔王を論破するとか。

――魔王たちに翻弄される人間代表というよりは、対等に近いポジションでいると感じました。

戸田　そうですね。私は振り回される系の役柄が多いんですけど、真莉亜は振り回されるけど心の奥底では自分を貫いている、という女の子でしたね。

七つの大罪たちが真莉亜を落とそうとしてさまざまな手段を使ってくるけど、あくまでも自分を貫いている…、そういうところは一人の人間として「勉強になるな」とも思いました。私、振り回され気質なので（笑）。自分だったら折れちゃったり、魅了されてしまったり、という時でも彼女はちゃんと「NO！」って言えるので。自分の信じた道を進める、強い女性だと感じました。

――役を演じる際はいつも、そのバックボーンも気にしたり考えたりされるんですか？

戸田　そうですね。ひとりの人間が形成されるまでに得た経験や

知識や環境なんかはすごく考えます。真莉亜がどういう人生を歩んで今の人格になったのかな、とか。それこそ、「真莉亜はどうして髪が短いんだろう」というのも気になりますし。
アニメオリジナルということ以外にも、いろいろ特殊な子でしたから、真莉亜を演じるのは、ちょっと難しかったですね。

フィギュアでも色彩に惹かれて ピンク色に白のハイライト の入った膝が好きです

――最終回以降の真莉亜について想像したことはありますか?

戸田　あります。『七つの美徳』が始まる前は、「真莉亜が美徳のどこかの枠に入るのかなぁ」って思っていたんですけど、冷静になってみたら美徳たちの考え方って真莉亜は好きじゃないかもって思ったんです。なんだかんだで真莉亜って結構魔王寄りの思考回路をしているというか、たぶん、ミカエルや美徳の人と会っても反発するような気がするんですよね。天国に行けなさそうな（笑）。
なんだかんだ、自分から選んでルシファーたちに会いに行くんじゃないかな（笑）。ただ、魔王側だとしても信者とはまた別の立ち位置だとは思います。

――番外編といえば、『大罪』には懺悔録やドラマCDもありましたが、何か印象に残っていることはありますか?

戸田　ドラマCDは魔王様しか出られなくて！（歯をギリギリ）みんなと会ったら、「先録ってきたよ」って言われて、「え？ わ、私は…?」ってなりました。悲しいですよ、魔王じゃないという理由で。「歌いたい」って言ったら「魔王じゃないからな」、「フィギュアいいなぁー」って言ったら「魔王じゃないからな」みたいな。魔王がなんぼのもんじゃーいっ!(笑)

――嫉妬と強欲にまみれていますね(笑)。

戸田　もうぐちゃぐちゃですよ(笑)。

――懺悔録ではどの回が印象に残っていますか?

戸田　すごかったのは、2話の「私、趣味に素直なんです」かな。レヴィがだいぶ暴走していらっしゃって。公開された映像を、「レヴィ…さん?」ってなりながら観ていました。(笑)。
あとは、5話の懺悔録では、ベリアル様とベルフェゴールが普通にカメコをやっているのを見て、「やっぱ魔王って平和で好きだな」と思いました（笑）。

――あらためて、今回の作品と演じたキャラクターについて、今思うところを教えてもらえますか? まずは『大罪』についてはどんな作品だったと感じていますか?

戸田　最初にイメージしていたものが、いい意味で最終話にはすごく変わっていって、どんどんといろいろな色を見せられた作品でした。引き込まれましたね。先行上映会の時は「エロか？ギャグか？」みたいなことを言っていましたけど（笑）、最終話を見終わったら「あれ?いい作品だったなぁ」って感じてくれるんじゃないかな。私も、真莉亜がルシファーを救おうとするシーンでは、演じながらもほろっと来ましたし。仲間たちが一堂に会してルシファーと一緒に戦う場面はすごく熱かったですよね。
あまり語りすぎると、これを読まれた方が、これから本編を観る時に面白みを感じられなくなってしまう気がするので、多くは語りませんが！（笑）本当に、いろいろな側面、いろいろな魅力を抱えた作品だったと思います。ぜひ本編で、その魅力に触れてほしいです。

――最後に。『大罪』はフィギュアのラインナップも充実していますが、戸田さんもフィギュアがお好きなんですよね。

戸田　はい。もともと『大罪』にかかわる前からフィギュアはすごく好きで、いつか自分のキャラのフィギュアが出ないかと夢見ているんですが、まだ叶っていないので、真莉亜をすごく推しているところです（笑）。こうやって言ってたら誰か実現してくれないかと思って。

――どういったフィギュアがお好きなんですか?

戸田　ねんどろいども好きですけど、女の子のフィギュアが多いかもしれないですね。っていうか男の子のフィギュアは買わない。

――きっぱりと（笑）。

戸田　可愛い女の子を見ているのが好きなので、買ってまで家に男の子を置こうと思わないです(笑)。
アフレコ現場でも「ホビージャパンさんから出ているフィギュアはいいよね」って話題になっていましたよ。（フィギュアが目の前に並べられ）うわ、改めて見るとやっぱり可愛いなあ…もう細部まで全部愛しい！ でも、こんなに魔王がいるならひとりぐらい人間がいても…。

――(笑)。戸田さんが感じるフィギュアの魅力とはどんなところですか?

戸田　私、色彩心理学に興味があって、キャラクターのバックグラウンドを考える時にも色彩のことをすごく考えるタイプで。だから、フィギュアでも色彩に惹かれますね、エアスプレーの着色とか。私、関節がピンク色に染まっていて、そこに白のハイライトがあるのがすごく好きなんですよ。あと、アスタロトのフィギュアもイベント終わりに触ったんですけどすごくよくて！ ゴスロリの服が好きなので「アスタロトさんっ！」って萌えました（笑）。髪の毛の動きもすごくきれいに再現されていて。透明のところとか！ スカートの動きもいいし、最近のフィギュアの出来ってすごいですよね。もちろん、いろいろフィギュアによって差があって。でも、そんな中でもめちゃくちゃ美しくて、私、びっくりしました。『七つの美徳』のフィギュアもさっき見てきたんですけど、そっちはそっちですごく可愛くて…。そういえば、魔王様のフィギュアって着脱可能じゃないですか。そんな中、さっき話したアスタロトのフィギュアってニーソックスは脱げないんですよね。それを聞いた瞬間、「分かりますっ！」「それ、脱がないでください」って言いましたよ。すごく気持ちが分かります。……が何よりも、真莉亜のフィギュアを早く作ってくれーっ!!(笑)

戸田めぐみ

Megumi Toda

1990年12月8日生。東京都出身。ケンユウオフィス所属。代表作に『アイドルマスター ミリオンライブ！』（舞浜歩）、『NEW GAME！』（篠田はじめ）など。

地獄に堕ちた傲慢の魔王

ルシファー Lucifer

かつて天界でもっとも強い力をもっていた天使。決して己の正しさを疑わず、自分以外の何者にも従わない信念を貫いたがゆえに堕天した。傲慢の魔王となってからも天使時代の非凡さは変わらず魔王たちを驚かせている。誰の指図も受けない反面、非常に仲間思いであり、これと見込んだ相手には誠意を尽くす一面をもつ。

我が名はルシファー！

神に逆らいし傲慢の罪を背負った魔王よ！

▼堕天直後、十字架に両手足を拘束された状態でもレヴィアタンの攻撃を軽く跳ねのけるルシファー。天界でも傲岸不遜だったが、それは単なる自信過剰ではなくたしかな実力に裏打ちされたものだった

▲常に我が道をいくルシファーだが、決して冷酷非情ではない。自分を心から心配してくれる真莉亜やレヴィアタンには感謝の言葉を伝えることも。こんな顔を見れば真莉亜たちが尽くしたくなるのも納得だ

神の軛を断ち切り、“七つの大罪”の頂点へ！

かつて天使の一団“七つの美徳”の首座として、天使の最高位にありながら堕天使となったルシファー。地獄を統べる“七つの大罪”たちから手痛い歓迎を受けてなお心折れることはなく“七つの大罪”の頂点へ立つべく7人の魔王に宣戦布告した。地獄での激戦で天使の証である両翼を失ったルシファーは“神の軛”を断ち切り、渦巻く角をもつ傲慢の魔王へと生まれ変わった。

◀“七つの大罪”によって本来の力を封じる「戒め」を施されたルシファーの肢体。全身に巻きつくような印が浮かんでいる

拝悦の間

美しさにおいても、“七つの大罪”の頂点にふさわしいルシファー様。気高さが醸し出す内面からの美しさは、肉にかぶりつこうとも、触手に苛まれようとも、決して揺らぐことはありません。

▲ベルゼバブ様との大食い勝負では、骨付き肉を官能的かつ綺麗にしゃぶり尽くすお姿で観衆を魅了。自分もルシファー様に食べられて、全身しゃぶり尽くされたいという欲望に駆られた者は数知れず

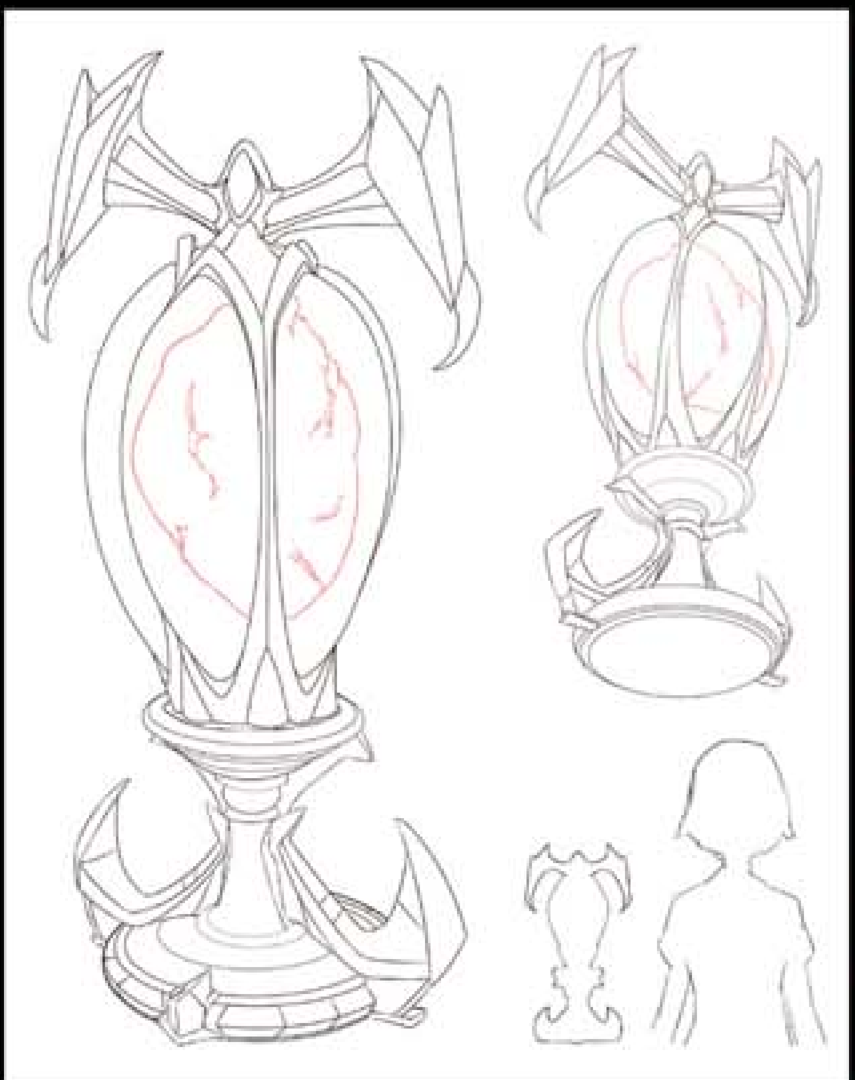
◀マイアミのビーチでは、艶やかなヒップを惜しげもなく披露。キワドイデザインの水着でも、決して下品にはならないのがルシファー様の品格です

▼アスモデウス様の触手を使った快楽責めにも、気高さで耐え抜いたルシファー様。おいたわしい姿ながら、目が離せません

▲誇り高いルシファー様は、濃厚なスキンシップは少々苦手。レヴィアタン様にお体を丹念に洗われたときは、こんな恥じらいの表情も

ルシファー's アイテム

杖 ▲堕天時にルシファーが縛り付けられていた十字架を変化させて生まれた杖。上部にあるドクロと悪魔の翼の意匠は魔王の武器としてふさわしい重厚感がある



器 ▲ルシファーが抜き取った真莉亜の心臓を保管しておくための陽気。一見残酷に見えるが、ルシファーが心臓を持っている限り真莉亜は永遠に死ぬこともなく歳もとらなくなるという夢のアイテム

ルシファーを慕う嫉妬の魔王

レヴィアタン

Leviathan

ルシファーが天使だったころから恋い焦がれている嫉妬の魔王。水の力や水にまつわる眷属を操る力をもつ。魔王としてはまだまだ未熟であり"七つの大罪"からは軽視されている。好きな相手にはとことん尽くすが非常に嫉妬深く、自分以外の誰かがルシファーに近づくことも許さない。ルシファーのことは「お姉さま」と呼んでいついかなるときも深い愛情をもって接している。

レヴィだよ。水を司る魔王のレヴィアタン。これからずっとお姉さまについていくから！

▲ルシファーを独占したいレヴィアタンにとって最大の障害となるのが真莉亜の存在。出会ったばかりのころはルシファーの目を盗んで真莉亜の心を壊そうとするなど、"嫉妬の魔王"の本領を発揮していた

▲ルシファーお姉さまに冷たくあしらわれても、決してめげないレヴィアタン。積極的にスキンシップを積み重ね、日々思いの丈を伝えようと努力している。その甲斐あって過激なアプローチに成功！

レヴィも地獄も、お姉さまのもの！

天使と対立する魔王のひとりでありながら、ルシファーに憧れてきたレヴィアタン。そんな折、ルシファーの突然の堕天はレヴィアタンにとって僥倖でしかなかった。 これまで思い描いてきたルシファー像とのギャップに一時は暴走してしまったレヴィアタンだが、ルシファーからの愛の一撃によって「一生ついていく」ことを決意。自身と地獄をルシファーに支配してもらうべくルシファーと行動を共にする。

◀脳内設定でルシファーと仲睦まじい姉妹関係を妄想していたレヴィアタン。妄想を現実に変えるチャンスが到来し、喜びが隠せない

拝悦の間

魔王としては、まだまだお子様なレヴィアタン様。精神的な幼さは否めませんが、お体の方は既に立派に成長されているご様子。そのアンバランスさが魅力と申せましょう。

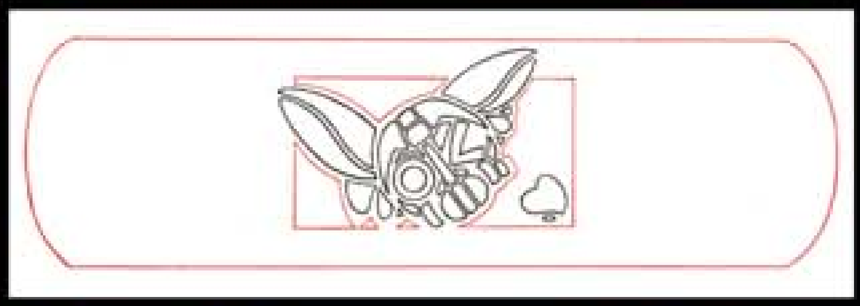
▲たわわに実った2つの果実は、ルシファーお姉さまにもひけをとらない立派な大きさ。どうやらノーブラのようですが、それでも崩れたり垂れたりしていないのは、さすがの若さと言えましょう

◀ブラジャーだけでなく、パンティーも普段から履かれていないもよう。ノーパン・ノーブラ健康法を、実践されているのでございましょうか？

▼まるで赤ちゃんのように、ルシファーお姉さまのオッパイにしゃぶりつくレヴィアタン様。ですが、これでは姉妹というより母娘のような……

▲アスモデウス様とのポールダンス勝負では残念ながら完敗。ポールダンスに必要な大人のエロスは、まだまだ足りないようです

レヴィアタン's アイテム



絆創膏

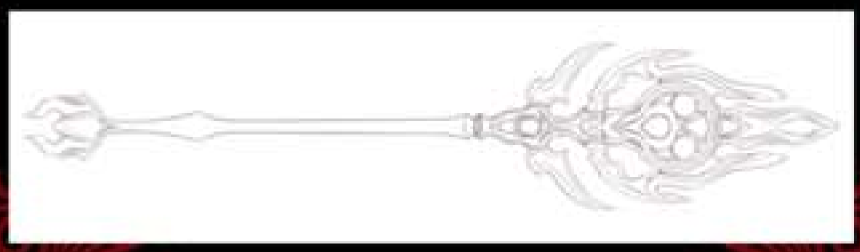
▲中央にベヒモスが描かれたパンツ代わりの絆創膏。どんなに激しく動いても剥がれず、レヴィアタンの大事な場所をガードしている

ベヒモス

▲レヴィアタンの忠実な眷属。時折ぬいぐるみのふりをしているが、いざというときにはレヴィアタンの危機を救う頼りになる存在

スマートフォン

◀いまどきの魔王として、スマートフォンは必需品。水を司るレヴィアタンらしく、スマホケースには巻き貝の意匠が施されている



槍

▲サタンやアスタロトとの戦いで使用した槍。ルシファーの役に立ちたいという思いが具現化したものといえる

地獄を守護する憤怒の魔王

サタン Satan

ここは天使ごときが来る場所ではない。
我が叩きのめしてくれよう！

招かれざる侵入者から地獄門を守る憤怒の魔王。地獄一の豪腕の持ち主であるが、その強大な力を弱者に向けることをよしとせず､場合によっては首座であるベリアルの命令に反することも。どんな敵であろうと常に正々堂々とした勝負を心がけている。好戦的な性格から荒くれ者の軍人に信者が多いが、実は小さくてかわいらしいものを愛玩しており、とくにベルゼブブは目の中に入れても痛くないほど溺愛している。

▲地獄を守護する役目を担う者として、敵対する天使の侵入も阻むサタン。ルシファーたちが万魔殿へ乗り込んできたときも先陣を切って迎え撃った

▲愛らしいベルゼバブの前では憤怒の魔王も形なし。まるで壊れ物にでも触るような手つきでルシファーのそばを離れないベルゼバブを連れ帰ろうとする

その魔王、戦いを尊び嗜む。

“七つの大罪”の座を狙うルシファーとの最初の勝負で不覚を取ったサタン。リベンジマッチの機会は早々に訪れ、ベリアルに力を封じられ弱ったルシファーを打ち取るチャンスを得た。しかし一方的に相手をなぶるのはサタンの信条に反すること。サディスティックなベリアルを強く窘めつつも、サタンは力を取り戻したルシファーとの再戦を願いながら一時戦線から離脱する。

▲戦いを好むサタンにとって、体術にも優れるルシファーはまたとない好敵手。自慢の戦斧の軌道を見切るほどの相手と巡り会えたことに歓喜の声を上げた

拝悦の間

硬派なサタン様は、色仕掛けで信者を募るような真似は致しませぬ。とはいえ、サタン様の肉体美に目と心を奪われるのはやむなきこと。その麗しきお体を、とくとご堪能いただきましょう

▲贅肉などという言葉とはまったく無縁な、サタン様のお体。引き締まったウエストは、鍛え抜いた筋肉の賜物です。それでいて「出ているべきところは出ている」のは、奇跡のプロポーションといえましょう

◀自分にすがりつく亡者を冷たく見下ろすサタン様。まこと罪深きことながら、もしも地獄に落ちたらこうしてサタン様の腹筋に触れてみたいものです

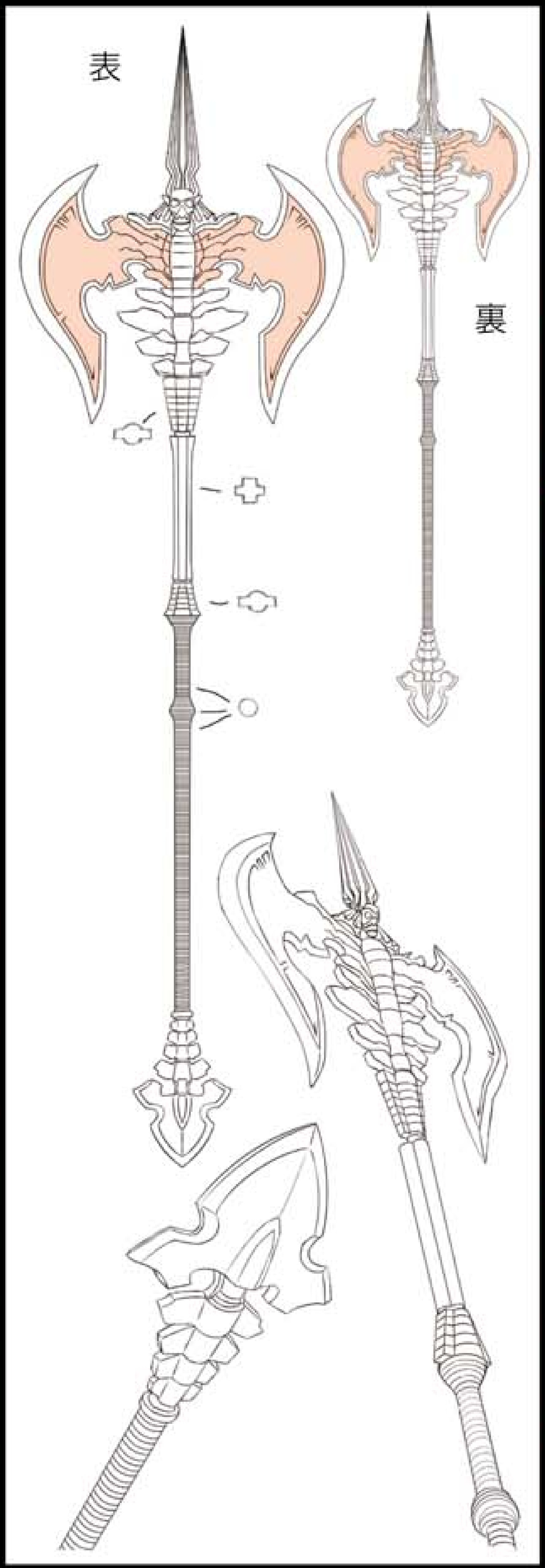
▼レヴィアタン様の水流攻撃を受け、激しく揺れるサタン様のお胸。筋肉質な体の中で、ここだけは弾力があってとても柔らかそうです

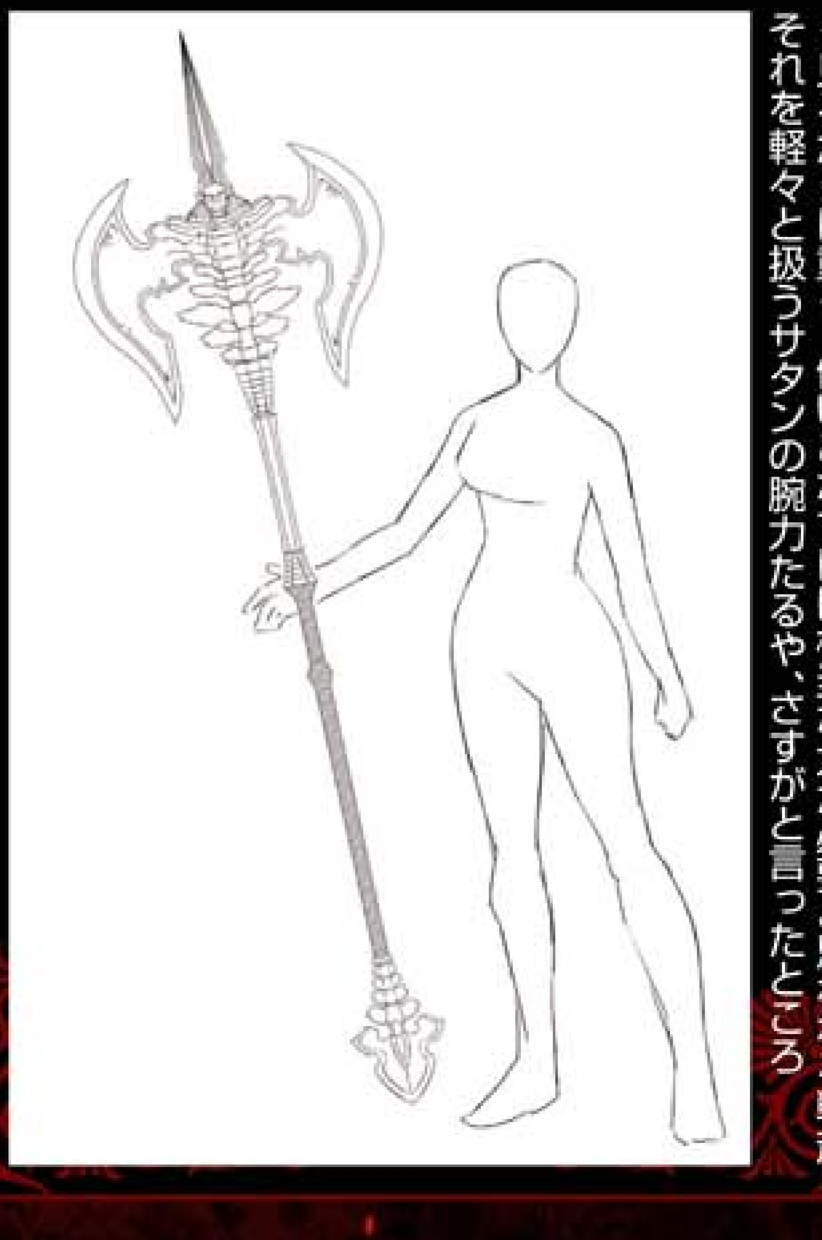
▲戦いが専門のわりには、肌の露出が多いサタン様。大胆に開いた胸元の谷間に見とれている間に、討ち取られた敵も多そうです

サタン's アイテム

戦斧

▼背丈よりも長い巨大な戦斧がサタン愛用の武器。斬りつける以外にも、投げてブーメランのように使ったり、幅広の刃を立て代わりにすることも





◀見るからに重く、使いこなすには相当な力が必要と思われる戦斧。それを軽々と扱うサタンの腕力たるや、さすがと言ったところ

働いたら負けな怠惰の魔王

ベルフェゴール

Belphegor

大丈夫〜。
どこになにがあるかわかってるし尻尾も届くから

面倒なことはしたくない、できれば働かずに楽しいことだけしていたい。そんな人間の本音を具現化したような怠惰の魔王。自他共に認めるほど自堕落な性格をしており、室内に引きこもっては散らかし放題にしてしまう。その点ではベリアルにも呆れられているが、遊ぶためなら寸暇を惜しんで努力することができる。非力に見えて強力な電撃を操るなど攻撃力も高く、潜在能力だけでいえば“七つの大罪”一の力を秘めているとも噂されているらしい。

▲ベルフェゴールの辞書に「掃除」や「整理整頓」の文字はない。万魔殿でもベルフェゴールの席の周囲だけはご覧の通り。しかし、本人はどこになにがあるか把握しているため不都合はないとのこと

▲オンラインゲームを通じて信者集めをしているベルフェゴール。ベリアルの命令でルシファー討伐に乗り出した際には、魔王退治のイベントにルシファーを組み込んでゲームを盛り上げる、抜け目のない一面もみせる

面倒事は嫌いでも、面白ければ話は別。

なにもかもが面倒なベルフェゴールからしてみれば、堕天使が地獄に落ちて来ようがどうでもいいこと。ルシファーが万魔殿に乗り込んでも、はじめはまったく興味を示さなかった。ところが、ルシファーが堕天使から魔王になったと聞けば話は変わってくる。新たな魔王の誕生はベルフェゴールの好奇心を掻き立て、怠惰の魔王の重い腰を上げさせるまでに至った。

◀▲ルシファーが魔王化する瞬間を見て、これから面白いことがはじまるとはしゃぐベルフェゴール。アスモデウスやレヴィアタンが倒れ伏す中、笑顔を浮かべる様は穏やかであっても"魔王"なのだということを感じさせる

拝悦の間

寝転がってゲームをするか、おやつを食べるか、酒を飲んでいるのがベルフェゴール様の日常。毎日の生活に疲れきっているそこのアナタ！ 怠惰の魔王様と一緒に堕落して、幸せになりましょう。

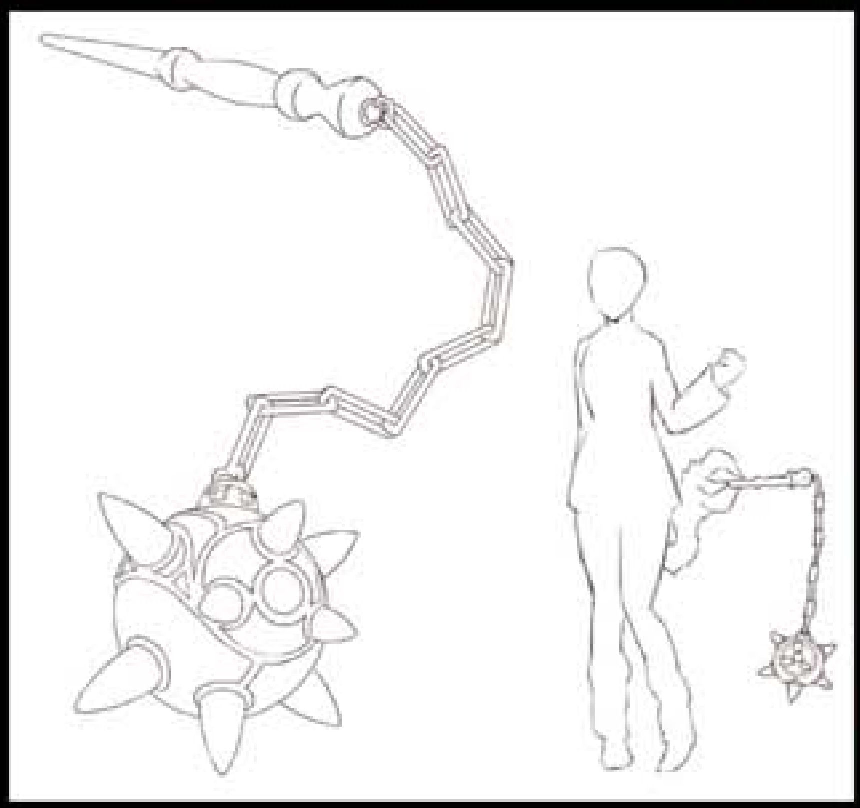
◀服を着るのもめんどくさいとばかりに、普段着はパンツとシャツ1枚だけ。どうせ用事はネットで済ませてめったに外出しないのだから、問題ありません

▲珍しく外出してアスタロト様の部屋を訪れたときも、やっぱりシャツとパンツだけ。なにしろ着替えは面倒くさいですから、仕方がないですねー

▲ゲームの世界でルシファー様と対決した際は、珍しく別の服装に。普段ろくに運動してないのにお腹が出ていないのは、羨ましい限り

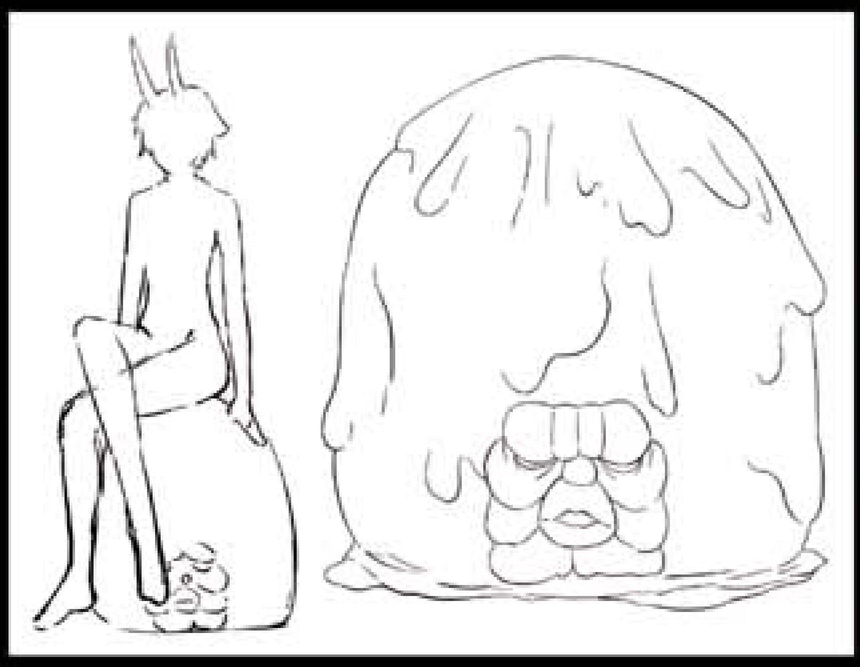
◀ムッチリとしたお尻から生えた大きな尻尾が、ベルフェゴール様のチャームポイント。カワイイだけでなく、手足のように自在に操る物をつかむこともできる、便利な尻尾でございます

ベルフェゴール's アイテム



鉄球

▲肉弾戦をする姿はあまり想像できないベルフェゴールだが、意外にも重量級の鉄球がメイン武器。見た目よりパワフルな尻尾を操りルシファーに重い一撃を加えた



スライム

▲動く椅子としてベルフェゴールに使役されているスライム。もちろん、原作のフィギュアでベルフェゴールが腰を掛けているスライムが元デザイン

タブレット

◀▲ネットが活動拠点のベルフェゴールにとって、タブレットは引きこもったまま信者を獲得するのに、欠かすことのできない最重要アイテム

不運で子沢山な強欲の魔王

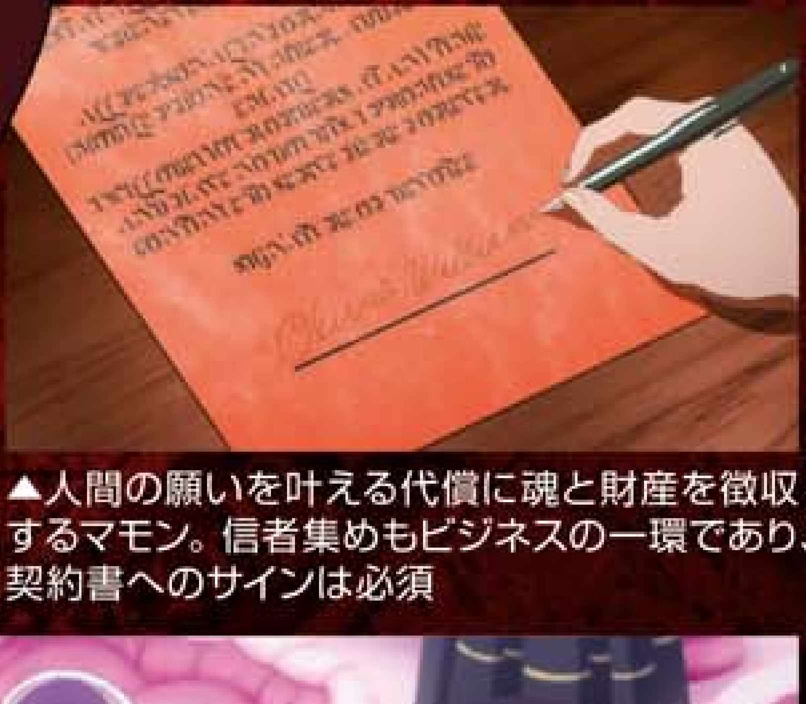
マモン

Mammon

この世のすべての財を欲する強欲の魔王。"七つの大罪" 唯一の婚姻歴ありの経産婦で、夫の借金の返済と50万匹以上もいる子供たちを養うため、女手ひとつで怪しげなビジネスを手広く行なっている。柔和な喋り方や口調とは裏腹に自ら精製した危険な薬品を武器にしていたりと行動は過激。強欲だが物事の道理は弁えており、損得勘定を抜きにしても従えないことには真っ向から反論する一本筋のとおった一面をもつ。

人のお金に手を出すなんて
いけない子たちですね

03



▲人間の願いを叶える代償に魂と財産を徴収するマモン。信者集めもビジネスの一環であり、契約書へのサインは必須

▲子供たちのためにアコギな商売していたマモンだが、真莉亜にそのことを咎められても決して自分を恥じたりしない。かわいい我が子のためなら母は魔王より恐ろしい存在になれるのだ

人も魔王も天使も、すべてが商売相手

薬品の調合に長けたマモンは実に様々な相手に望みの薬を売りさばいている。そのためルシファーが万魔殿に乗り込んできた時も、はじめは天使が怪しげな薬を求めてやってきたのかと考えていた。ベリアルの命令でマモンがルシファーに攻撃を仕掛けた際は、お手製の薬品のひとつである強力な爆薬を使い、ルシファーをも驚愕させ追い詰めていた。

◀▲商売人らしくチャンスには敏感なマモン。最初は状況を見極めていたものの、ルシファーが弱った隙を突いての一斉攻撃では一番手に名乗りを上げた

拝悦の間

50万の子を持つ母として、母性あふれるマモン様。身も心も委ね甘えたい衝動に駆られたとしても、無理からぬことでございます。ついでに、財産も委ねてマモン様に甘えましょう。

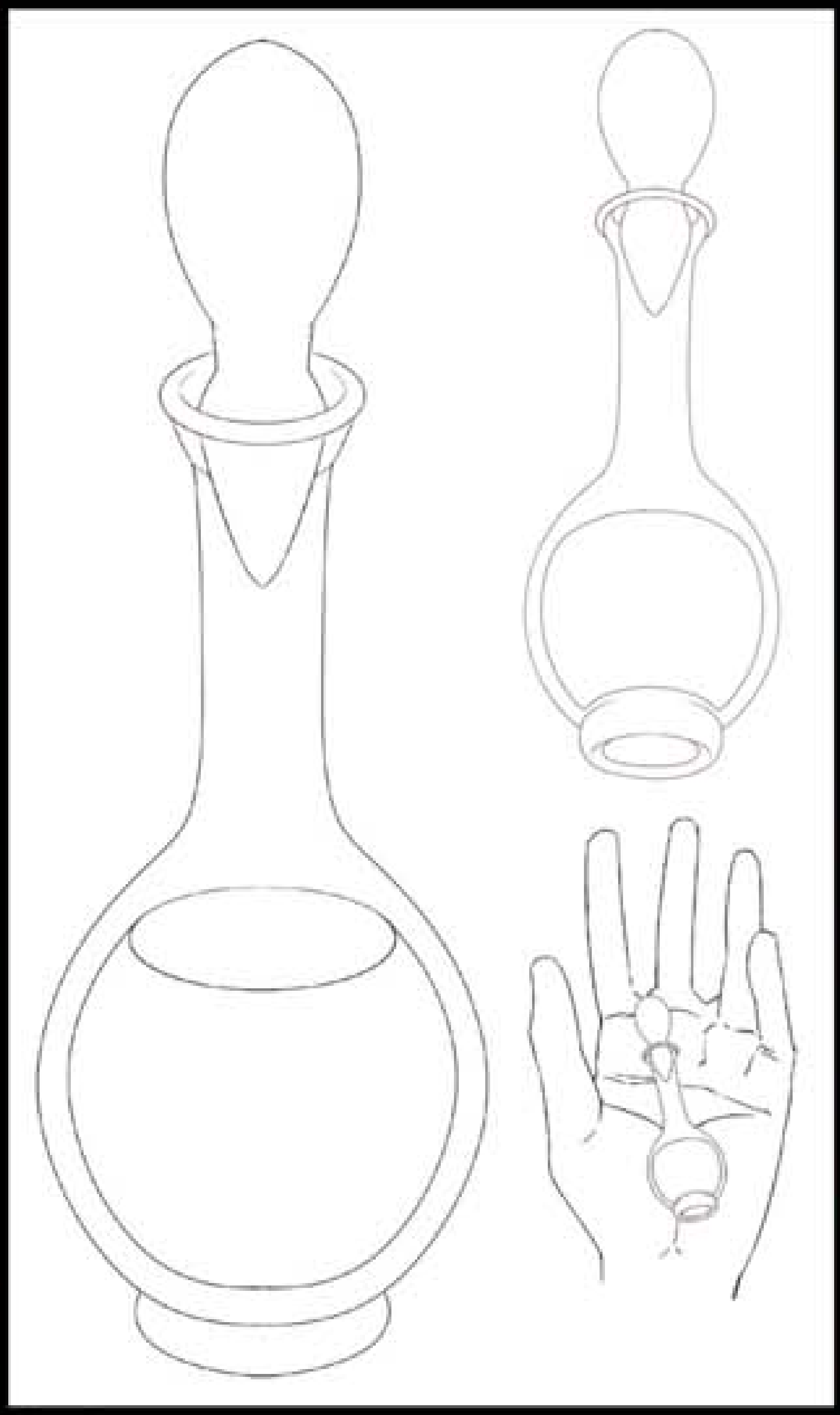
▲50万の子にお乳を与えてきた、じつに見事なオッパイ。マモン様の母性の象徴といえましょう。お乳を味わってみたいという方がいらっしゃいましたら、まずはマモン様と契約を

◀柔和な笑顔で相手を安心させるのも、商売では大切なこと。人を騙すようなお方には見えないでしょう？ あなたもマモン様を信じて契約するのです

▼50万のお子様を宿してきたマモン様ですが、全く体型は崩れておりません。お励みになれば、あと100万でも産めそうでございます

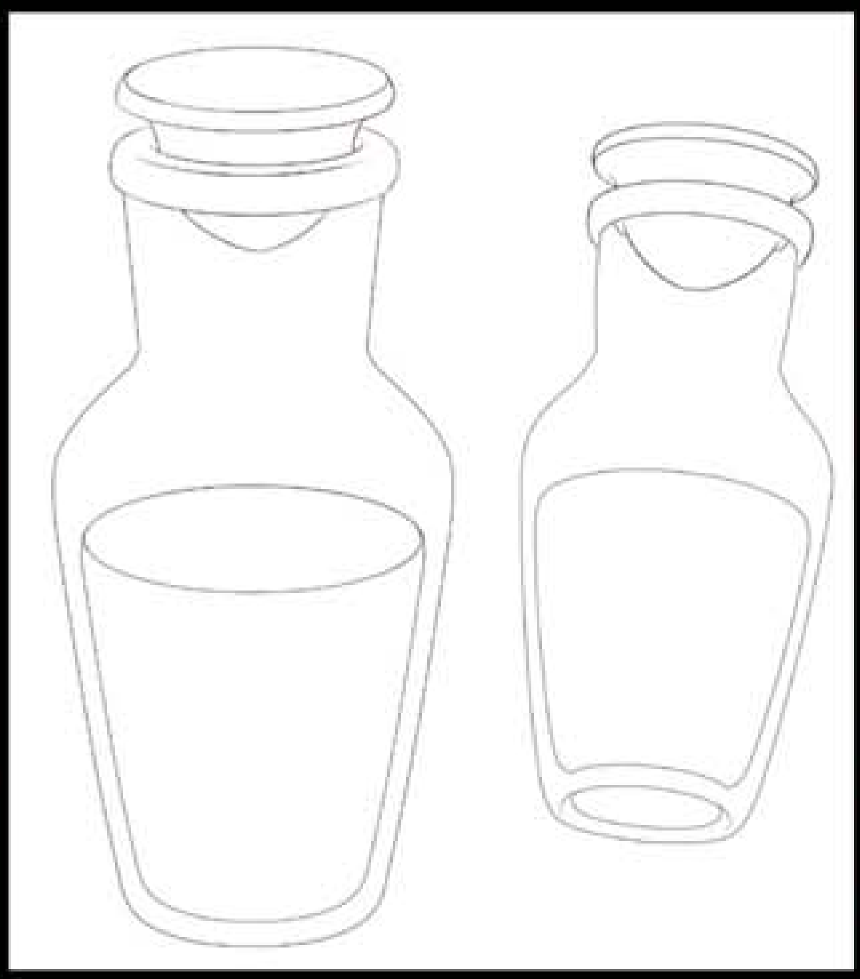
▲マモン様のオッパイに包まれるとき、人は母の愛を感じて大きな安らぎを得られます。オッパイの魔力に逆らえる人間などいないのです

マモン'sアイテム



薬瓶 1

▲マモンが調合した願いが叶う薬の入った薬瓶。子を失って悲しむ人間が飲むと、マモンの子を自分の子と錯覚する効果をもつ幻覚剤



薬瓶 2

▲主に戦闘用の危険物を容れた薬瓶。中身は可燃性物質、溶解液、麻酔ガスなどで、瓶ごと敵に投げつけて使用する。うかつに割ると大変なことになるので取扱いには注意が必要

食を尊ぶ暴食の魔王

ベルゼバブ

Beelzebub

黙々と食べ続ける暴食の魔王。口数は少ないが、親しい相手の前ではかわいらしい笑顔を浮かべることも。暴食の魔王でありながら誰よりも食事のありがたさを理解しており、食を粗末にする者を苦手としている。よく骨付き肉を食べているイメージがあるが、意外にも素材の味がそのまま感じられるお粥を好物としている。

▲美味しい食事がベルゼバブにとって至福の時間。万魔殿でもなにかを食べている様子が見受けられたが、じっくり味わって食べることを心がけているので食事のスピードはとてもマイペース

地獄でおなかすかせてまってる

▲ルシファーと大食い対決で戦ったベルゼバブ。ルシファーから餌付け…… 食事をご馳走されたことをきっかけに、ルシファーのペットを自称するようになった

暴食の魔王様は暴言も魔王級（？）

“七つの大罪”で、もっとも小さく幼い魔王であるベルゼバブ。おとなしそうな顔をして仲間である魔王たちには案外辛辣であり、ベリアルに対しては「器用貧乏」、アスモデウスには「ハレンチ」、自分をかわいがってくれるサタンにも「(ルシファーに) コテンパンにやられた」となかなかの物言いをしている。いっそのこと“暴言”の魔王と名乗れそうなほどだ。

◀▲初めての戦いでは基本的に前に出なかったベルゼバブ。抜群の鋭さを誇る舌鋒を披露するのみに留まった

拝悦の間

およそ暴食の魔王とは思えぬほど、華奢で小柄なベルゼバブ様。そのギャップに萌えて信者になる者もいるとかいないとか。暴食と萌えのコラボメニューを、とくとご賞味あれ。

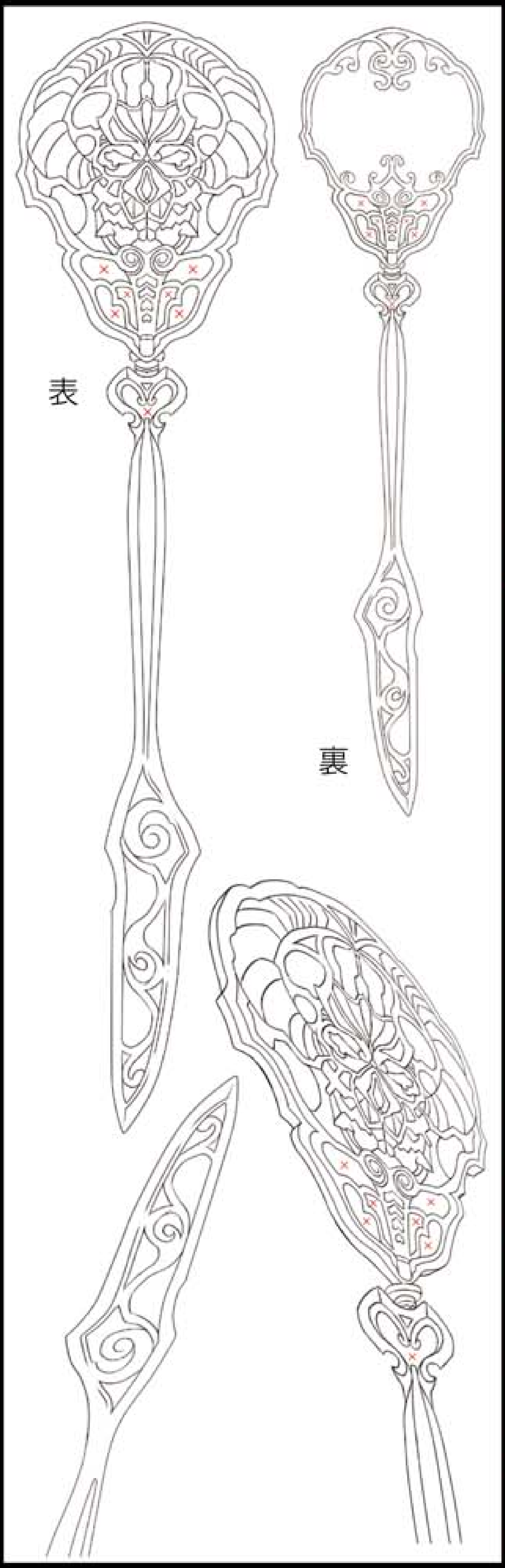
▲アスモデウス様のルシファー様に対するハレンチ行為を目にして、顔を赤らめるベルゼバブ様。汚れなき天使のようなお方ですが、これでも“七つの大罪”の一角を占める魔王であらせられます

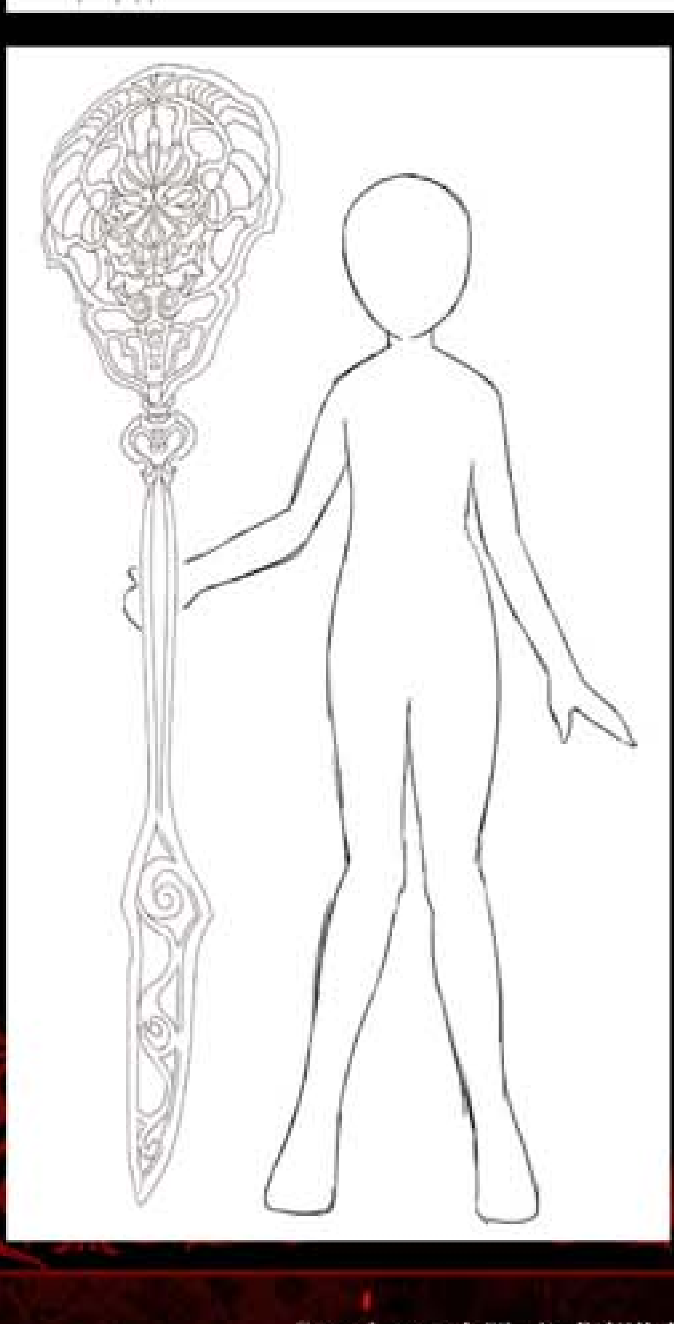
◀戦闘で出番をベルフェゴール様に取られ、ご不満なベルゼバブ様。むくれた様子もまたかわいいと思ってしまうのは、やはり罪でしょうか…

▼ひらめくスカートの下には清らかな純白のパンツがチラリ♡ ニーハイとパンツとの間から覗く絶対領域の絶妙なバランスも最高です

▲暴食の魔王ながら、じつは、大食いは不得意なベルゼバブ様。小さな体で懸命に食べるお姿に、萌え萌えキュンでございます

ベルゼバブ’s アイテム





地獄の禍虎璃（カトラリー）

◀槍だが突き刺すのではなく平らな部分で打撃を加えるのが主な使い方。アスモデウスらのお仕置きにも使われた

快楽へ誘う色欲の魔王

アスモデウス

Asmodeus

老若男女を虜にする色欲の魔王。自由奔放で開放的であり、「エロ」は生きることにおいて必要であり自然なこととして全肯定している。周囲の人間の色欲をあおることで力を増すことができ、そのために率先して肌を見せることも多い。色欲を司るだけに本人も頭の中までエロ一色かと思いきや、鋭い推理力で“七つの大罪”の中で一番はじめにベリアルの企みに気づいたりと、なかなかの切れ者でもある。

変態さんは人間も魔王も同じ。
憐れな変態さんたちを私の愛の力で救ってあげる

▲マイアミのビーチで信者集めに勤しむアスモデウス。ただ寝転ぶだけで男たちが集まってくる様は、さながら色香という蜜に引き寄せられ群がる虫のよう

▲男女問わずわけ隔てなく愛されるアスモデウスだが、中でもカワイイ女の子が大好物。とりわけ、真莉亜のようにバージンの子に性の悦びを教え、色欲に溺れる瞬間を見ることを一番の楽しみにしている

好奇心旺盛なエロの開拓者

色欲の魔王にふさわしく、あらゆる性体験を重ねてきたアスモデウス。しかしながら天使を味わう機会には恵まれなかったようだ。そこへ降って湧いたルシファーの堕天は、天使にイタズラする絶好のチャンス。しかしルシファーを捕らえたもののその体を存分に堪能する前に魔王化してしまい、夢のひとときはルシファーとの再戦まで持ち越すこととなってしまった。

◀▲快楽を知った天使がどんな声で鳴くのか興味津々のアスモデウス。ここぞというときにベルゼバブに邪魔されてしまいアスモデウス的には残念な結果に

拝悦の間

自分に欲情する人間たちの視線は、アスモデウス様の力の源泉。欲情すればするほど、色欲の魔王の力は高まります。遠慮はいりません、アスモデウス様の痴態でもっと欲情するのです！

▲アスモデウス様の豊満なボディは、色欲の魔王の名にふさわしいもの。それだけでなく、自分の体をどう見せつければ最大限に情欲を刺激できるかも熟知しておられます。表情も実にエロくて最高です！

◀天使の味を知るべく、ルシファー様を欲情させようとするアスモデウス様。自分も同じことをして欲しいと思うのは私だけではないはず…

▼官能的なポールダンスを披露されるアスモデウス様。しぐさのひとつひとつが大人のエロスを醸し出し、男だけでなく女性客も大興奮!!

▲真莉亜の体に性の手ほどきをするアスモデウス様。色欲の悦楽を知らぬ者に、その素晴らしさを教えるのも大切なお務めなのです

アスモデウス's アイテム

触手植物

▼ルシファーを捕らえるためにアスモデウスが召喚した触手植物。分泌する粘液には媚薬成分が含まれており効き目は抜群。粘液を浴びた者は全身が性感帯化し、どこを触られても快楽が押し寄せる絶頂地獄へと陥ってしまう

ルシファーを憎む虚飾の魔王
ベリアル
Belial

虚飾の罪を司る魔王にして、現在の“七つの大罪”の首座。地獄の名門バーンデール家の令嬢だが、家は没落して久しい様子。自尊心は山より高く、態度はいつでも上から目線で、常に実力以上の大風呂敷を広げてしまう。そんな態度のせいか他の魔王たちからあまり尊重されておらず、首座として命令しても無視されることしばしばなのだが、めげることもない。ルシファーを強く憎み、なんとしても倒そうと、様々な陰謀を画策する。

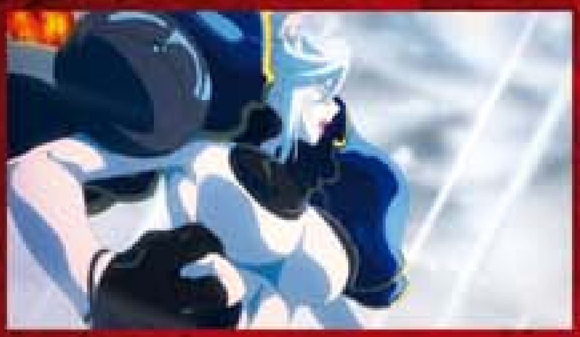
▲生意気な天使を懲らしめるためなら、首座であろうと自ら前に出るベリアル。その負けず嫌いな性格とあきらめない執念深さは、虚飾の魔王らしい

▲いざライブとなった時に怖じ気づき、トイレにこもったアスタロトに出てくるように呼びかける。トイレを破壊することも可能なはずだが自分を慕うアスタロトには、つい甘くなってしまうようだ

さあ、その身の程知らずのくされ天使に
地獄の責め苦のフルコースを味わわせておやりなさい

なんでもできるが常に二番手な器用貧乏

“七つの大罪”の首座を務めるだけのことはあり、その実力はなかなかのもの。ただし戦闘力はサタンに次ぎ、色気はアスモデウスに、強欲さはマモンに負けており、なんでもできるが常に二番手という残念さで、ベルゼバブには器用貧乏と切って捨てられる。だが、やることなすことがいつも裏目に出てしまうあたりは、能力よりも詰めの甘さが原因かもしれない。



◀▲ルシファーに戦いを挑むものの、装備をあっさり壊され、最後に残ったパンツも風に飛ばされた。ルシファーへの憎しみは募るばかりだ

拝悦の間

甲冑もドレスも失ったベリアルが身につけるは、魔戦車グノーシスが変化した鎧のみ。普段からほぼマッパではあるものの、やはりチラリと見える乳首やお尻には、ぜひとも拝悦の栄に浴したい！

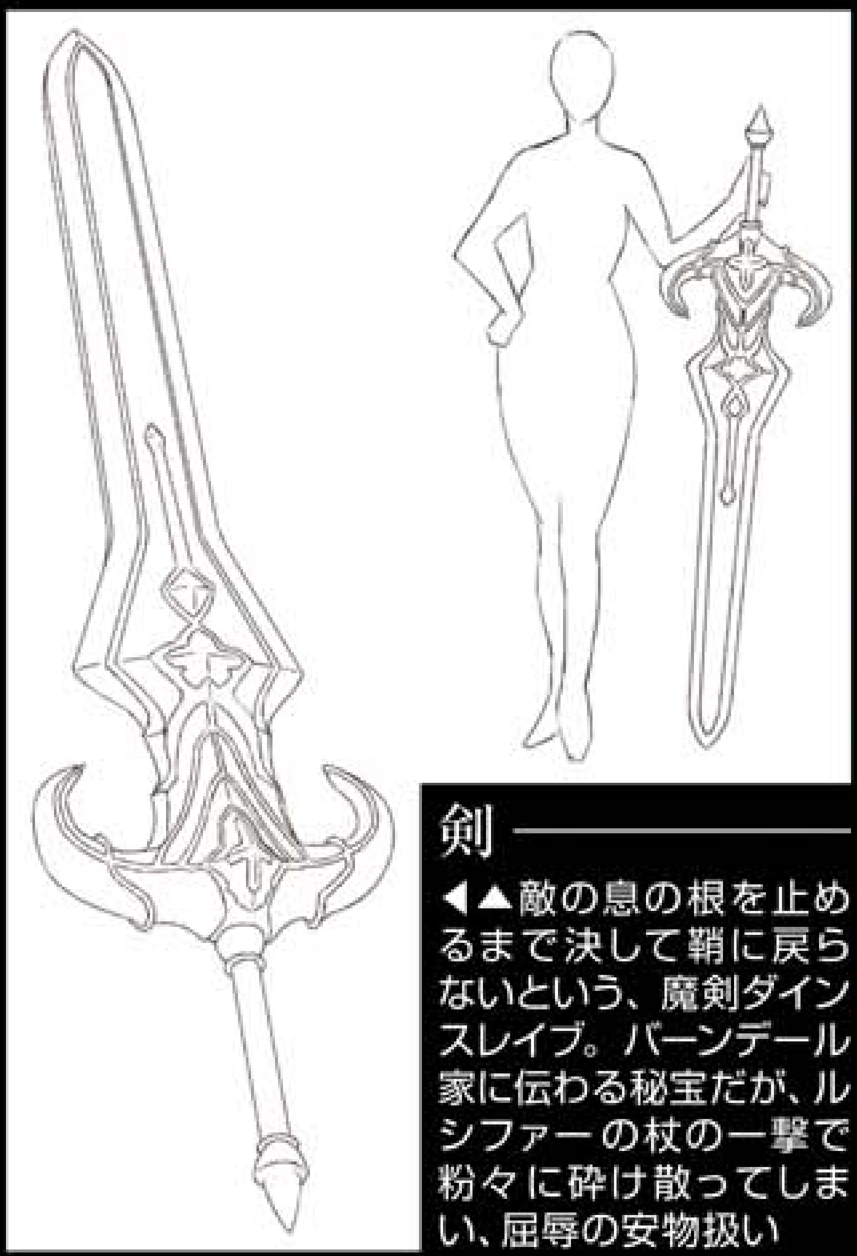
▲先祖伝来の甲冑やドレスが、ルシファー様の攻撃であっという間にボロボロなる第一話。超ボリュームなオッパイが、たわわな姿をあらわにすることに。眼前にせまられると、つい拝みたくなるのは気のせいだろうか

▶装備を失いほぼマッパのベリアル様に、グノーシスが鎧になろうと申し出る。展開したグノーシスが、ベリアル様の裸体にガシッと装着されるシーンは見逃せない！

▲地上に住むアスタロト様のもとを訪ねたベリアル様。パンツの面積が極端に小さいため、この角度ではまるではいてないとしか……

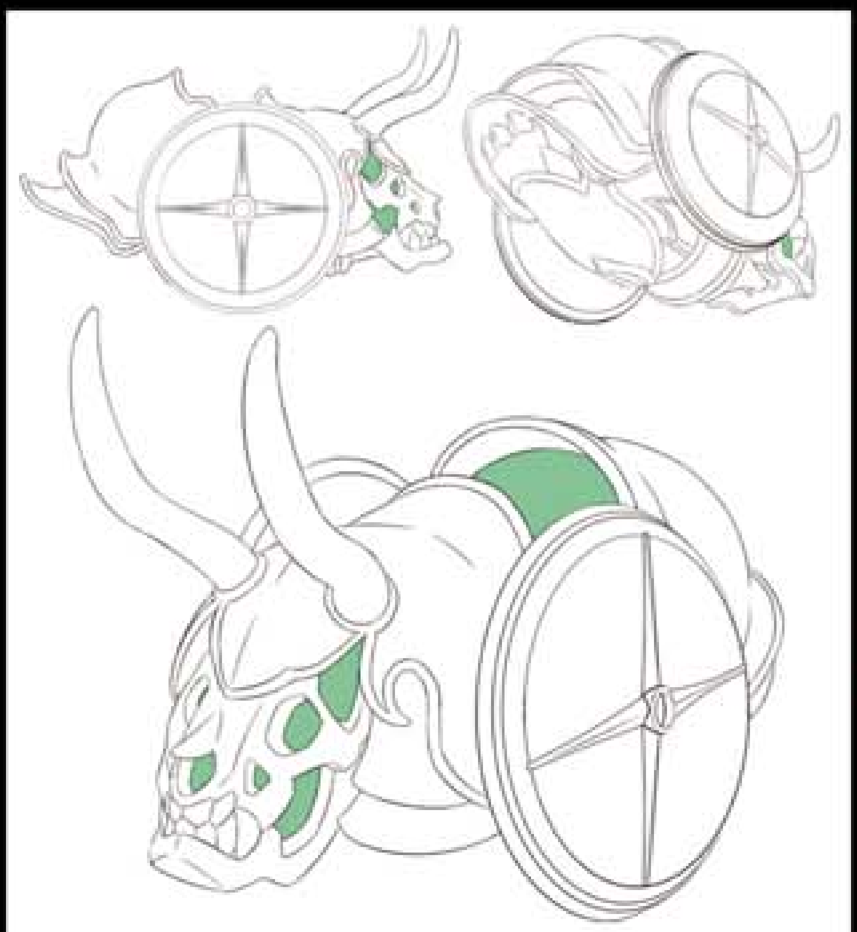
▼第7話では、入院したルシファー様の病室に現れる。秘密を探るため、眠っているルシファー様の胸と自分の胸をこすりあわせで…

ベリアル's アイテム



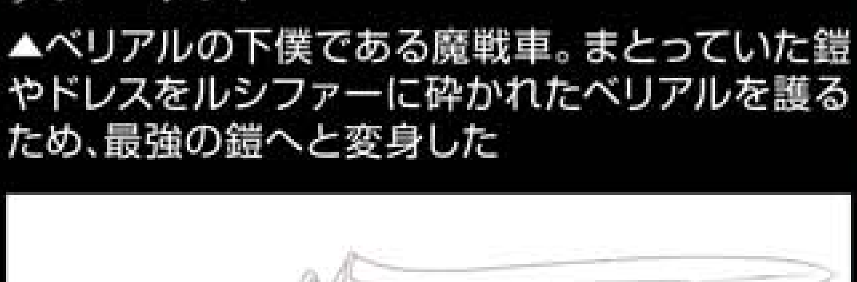
剣

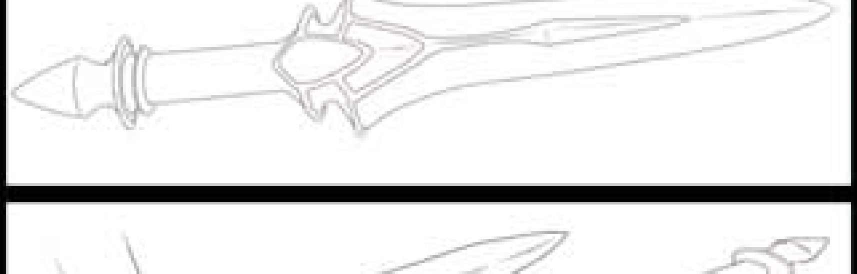
◀▲敵の息の根を止めるまで決して鞘に戻らないという、魔剣ダインスレイプ。バーンデール家に伝わる秘宝だが、ルシファーの杖の一撃で粉々に砕け散ってしまい、屈辱の安物扱い



グノーシス

▲ベリアルの下僕である魔戦車。まとっていた鎧やドレスをルシファーに砕かれたベリアルを護るため、最強の鎧へと変身した





ナイフ

▲ルシファーの天使の翼を斬り落とすのに使用した大振りのナイフ。嬉々とした表情で楽しそうにルシファーをナイフでいたぶったが、結果としてその行為がルシファーを魔王として覚醒させるきっかけとなってしまう

歌を愛する憂鬱の魔王

アスタロト
Asutaroth

憂鬱の罪を司る魔王。"七つの大罪"の1人だが、現在は地上界のボロアパートで独り暮らしつつ、ネットアイドル活動でコツコツと信者を集めている。かわいい容姿と陰鬱な作風のギャップの虜になったファンも多いらしく、アップすると秒で再生数が10万を越える。後ろ向きかつひがみっぽい性格で、被害妄想が激しいため、自分の気持ちを周りに伝えるのは苦手。なので本音を相手に伝えたいときは、突然メロディーに乗せてラップのリズムで歌い出す。

ル、ルシファーさん。あたし……あなたから……このステージを取り返します……

▶そのままの自分でいいと認めてくれたベリアルを心から慕っているアスタロト。そんなアスタロトには、ベリアルも周囲には見せない表情を浮かべる

▲コミュ症のアスタロトだが、ベルフェゴールとは仲が良くて、SNSっぽいアプリで親しげなやり取りをかわしている。後ろ向き全開なアスタロトの発言に、ベルフェゴールのゆるい励ましを送る様子はまるで年頃の女の子の微笑ましいやり取りのようだ

憂鬱な歌姫の慎ましき地味系地上生活

大罪の座を空けたまま、地上界で独り暮らしをするアスタロト。その生活はといえば、渋すぎる六畳一間のアパートに住み、倉庫作業の地味なアルバイトをし、慎ましやかな買い物をし…とまるで上京したミュージシャン志望の若者そのもの。偵察に来たルシファーとレヴィアタンは地味すぎだと文句を言っていたが、アスタロト自身は今の生活に大きな不満はなく、戦いと無縁な生活を満喫しているようだ。

◀▲服屋を覗いただけなのに、店員の勧めを断り切れずに服を買わされてしまう。間違いなく、街中を歩くだけで、チラシやティッシュを山ほど押しつけられるタイプ

拝悦の間

引っ込み思案で地味な性格ながら、そのボディには隠しきれない魅力が盛り盛り。胸の谷間に目が吸い寄せられそうなゴシック調のステージ衣装、そして個室の中の禁断の（？）姿まで拝悦～♥

▲いざライブの開幕直前になって、観客の人数におびえてトイレの個室に引きこもり。ベルフェゴール様やベリアル様の呼びかけに耳を塞いで震える姿に、見ている方の心も痛むと同時に可憐な姿についクラッと…

◀逃げ込んで引きこもっているだけのはずなのに、律儀にパンツを降ろしているアスタロト様。これぞ便器に座る際の正しき礼儀というもの。その意気やよし！

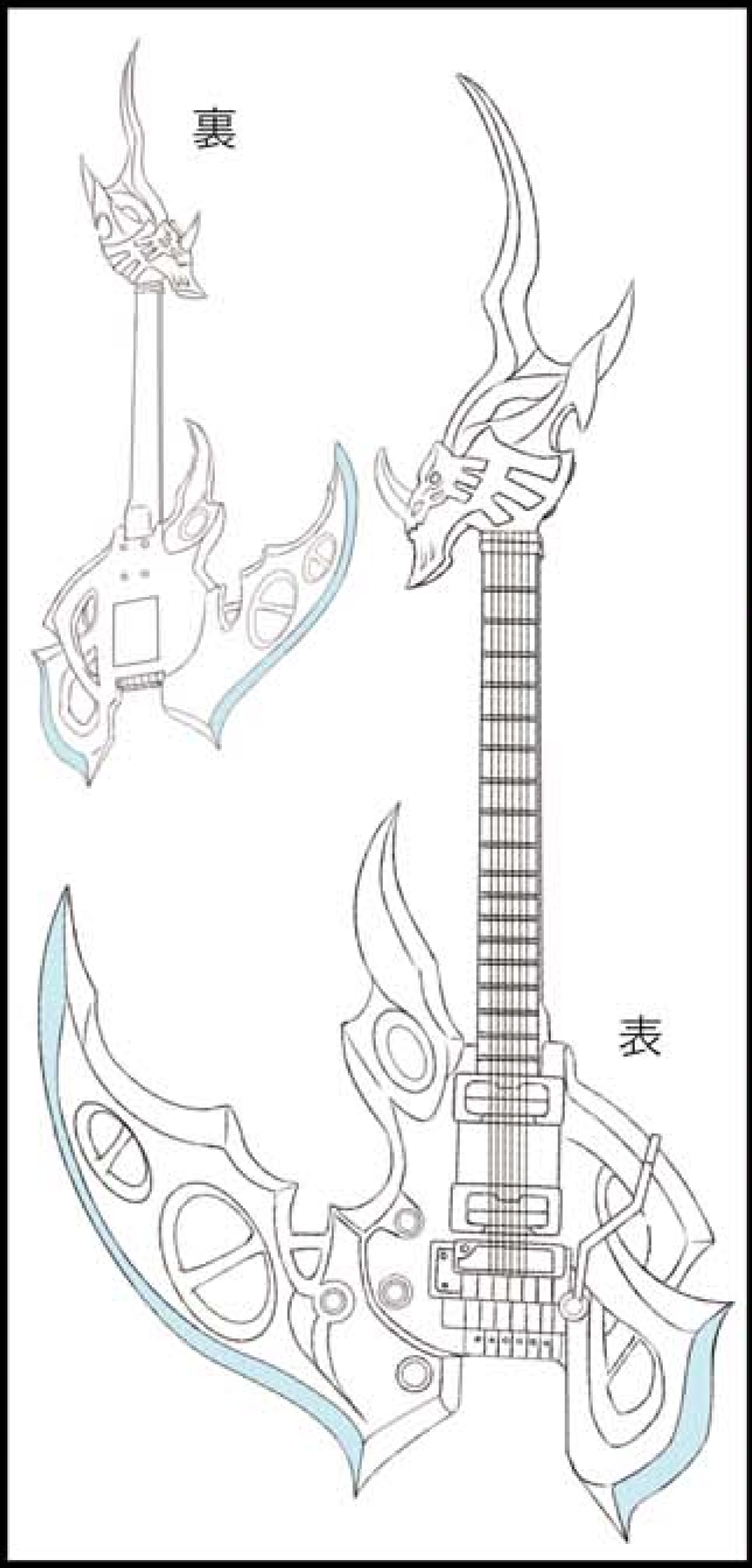
▼プレッシャーを乗り越え、大勢が見つめるステージで熱唱！ 小さなボディからあふれる最強の輝きが、会場を熱気の渦に巻き込んだ

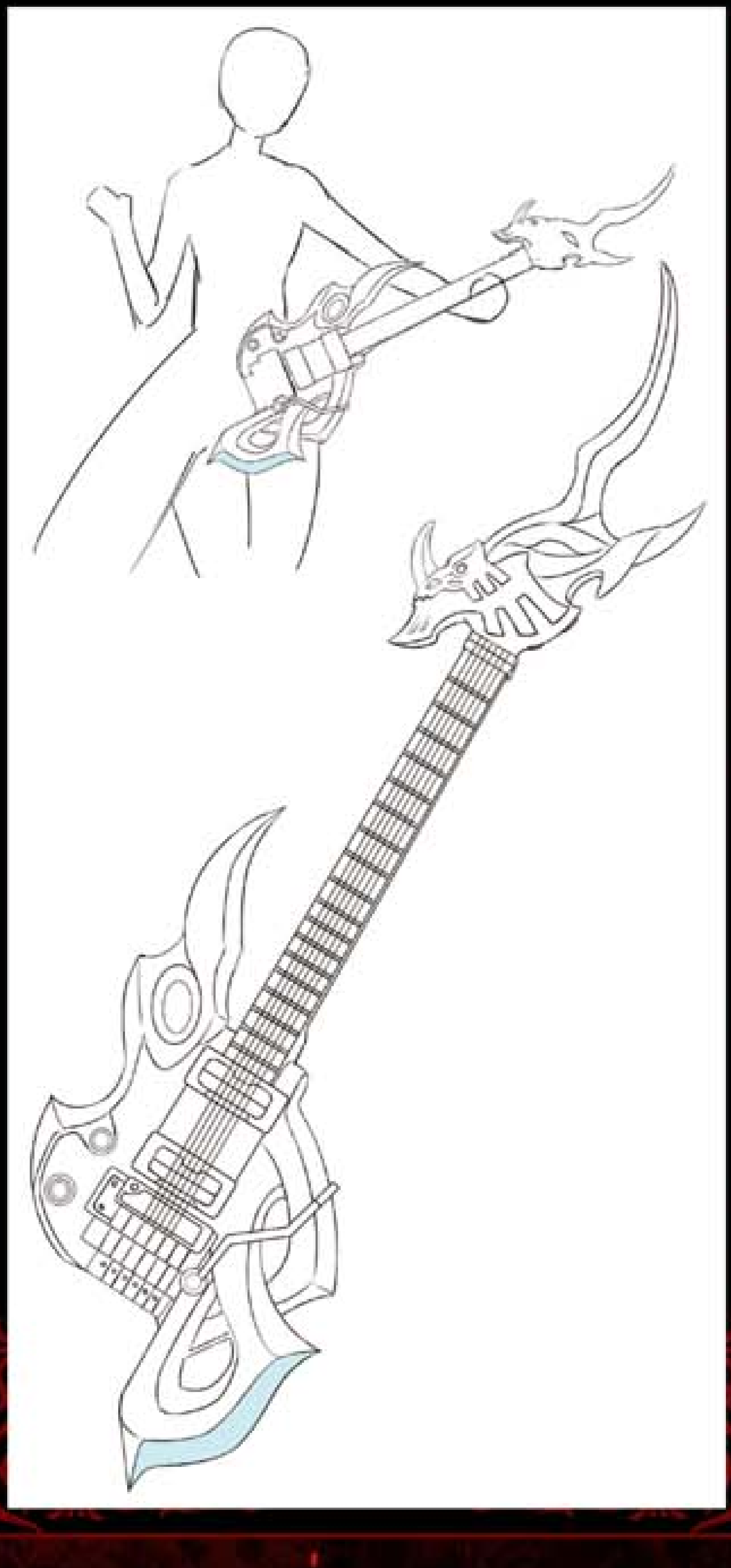
▲ステージ後の楽屋では、衣装を脱いでTシャツ姿に。ルシファーとのいいシーンなのに、胸元の切りこみとのぞく谷間が無性に気になる

アスタロト's アイテム

ギター

▼アスタロト愛用のギター。ひっくり返すと武器の鎌としても使える優れもの。弾くと魔力による振動で魔界の氷を溶かすことができるなど未知の能力も秘めている

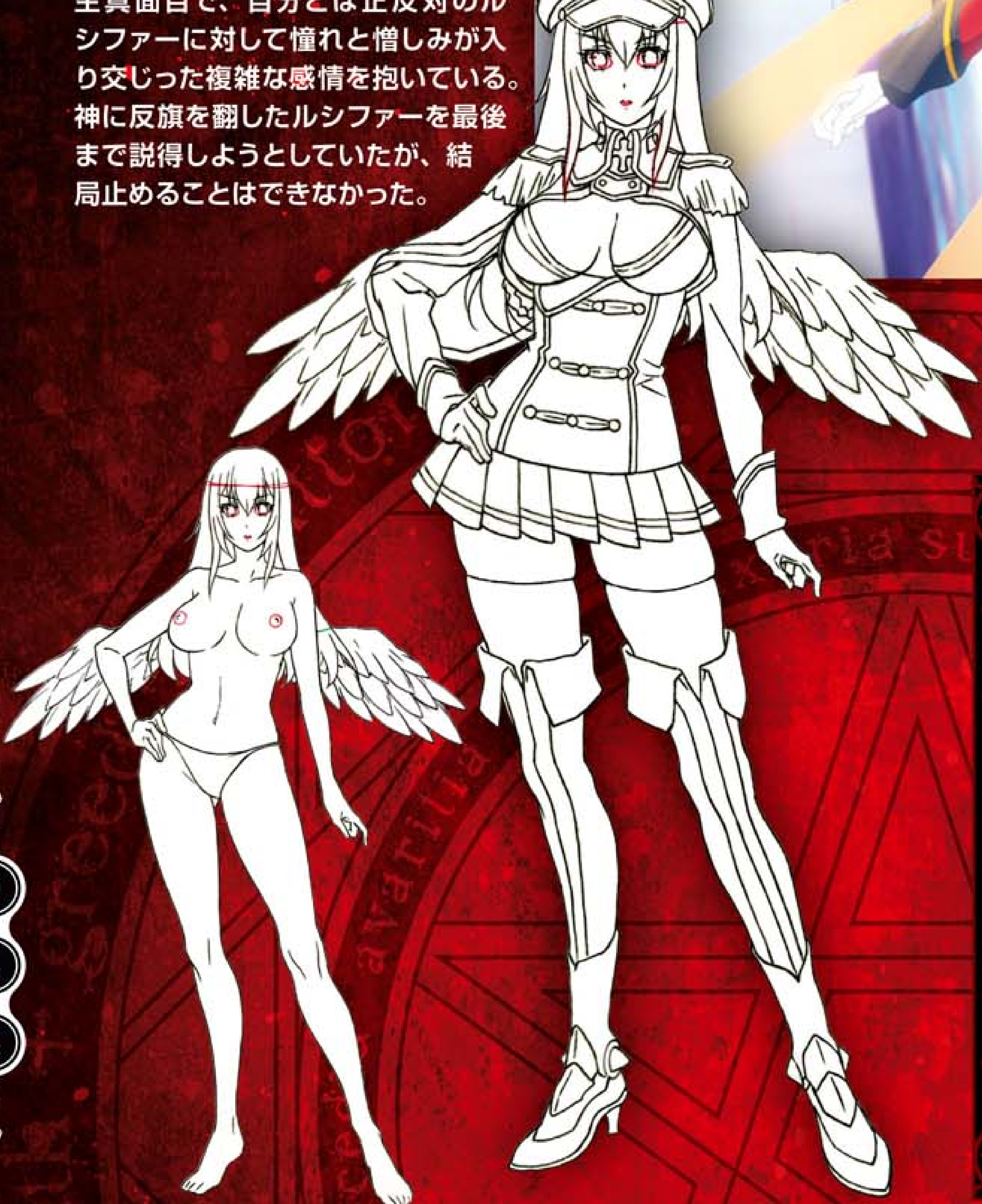




屈折した忠義の天使
ミカエル Michael

“七つの美徳”の首座にして、第一の美徳「忠義」を司る天使。忠義の名にふさわしく、よくも悪くも生真面目で、自分とは正反対のルシファーに対して憧れと憎しみが入り交じった複雑な感情を抱いている。神に反旗を翻したルシファーを最後まで説得しようとしていたが、結局止めることはできなかった。

▶ルシファーが天使だったころから、ずっと本気で向き合ってほしいと願っていたミカエル。それでたとえ破滅しても本望だと思うほどの想いは、神への忠義とにはさまれ、いつしかひねくれて歪んでしまっていた



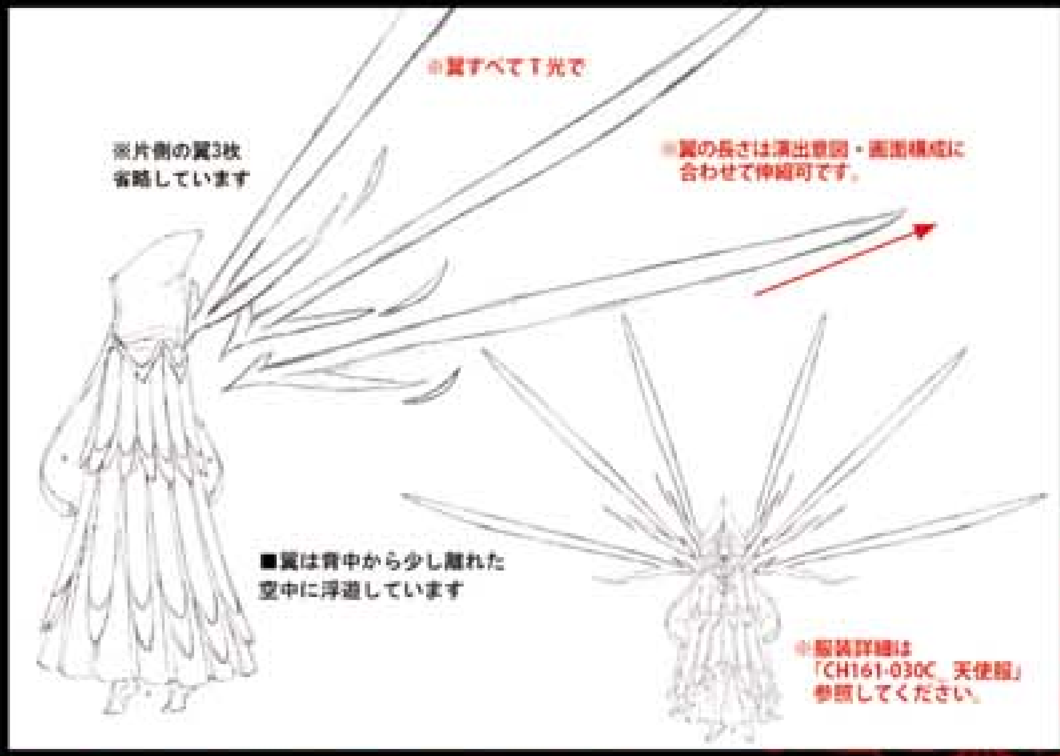
ミカエル's アイテム

ラム・サン＝ミッシェル

◀ミカエルが帯刀する剣。真紅の刃が特徴的な片刃の剣で、剣というより刀のように見える。この剣でルシファーとの本気の戦いに挑むミカエルは、心底嬉しそうな表情で見事な剣さばきを見せるのだった。

光翼

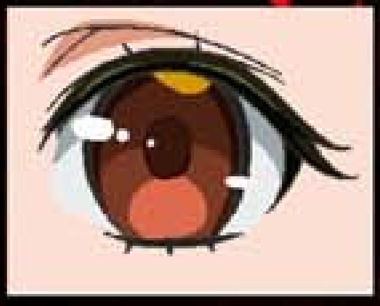
▶七つの美徳の首座にだけ与えられる、神からの信頼の証である聖なる光翼。光り輝く六枚の羽根は、その一枚一枚が七つの美徳に相当する力を持っている。 かつてはルシファーの背にあったが、堕天の際に砕け散り失われてしまった



気さくな真莉亜の親友
美菜 Mina

聖蹟女学院に通う女子高生で真莉亜の親友。明るくノリのいい性格で軽く見えるけれど、真莉亜が落ち込んでいるとさりげなく励ましてくれる思いやりのある少女。

▲ずっと元気のない真莉亜を心配する美菜だが、理由を問いただしたりはしない。ただ新しい音楽を勧めたり真莉亜の好きな小物をプレゼントしたり、さりげなく気づかってくれる



ホテル従業員

水着女性

中世の失踪者

戦士

ソーサラー

看護師

あらすじ

全12話からなる叛逆の物語やオープニング、
エンディングカット集をセクシーショット満載で解説。
また、悪魔絵師12名が描くエンドカードイラストや
物語の中から厳選した美術ボードも収録。

I N D E X

046 オープニング

048 第一話 傲慢たる堕天使

050 第二話 嫉妬ゆえの暴走

052 第三話 色欲の渚

054 第四話 強欲うごめく霧の街

056 第五話 憂鬱なる歌姫

058 第六話 怠惰オンライン

060 第七話 咎なき暴食

062 第八話 解き放たれた憤怒

064 第九話 汝、一切の希望を捨てよ

066 第十話 汝の敵を愛し、汝らを責むる者のために祈れ

068 第十一話 求めよ、さらば与えられん

070 第十二話 神は天にいまし、すべて世は事も無し

072 エンディング

073 エンドカード集

076 EXTRA 美術ボード

オープニング

オープニングテーマ

「My Sweet Maiden」

作詞／真崎エリカ
作曲／SHINTA-LOW、本多友紀（Arte Refact）
編曲／本多友紀（Arte Refact）
歌／Mia REGINA

STAFF
絵コンテ・演出／よしもときんじ
作画監督／安田祥子、神木はな
原画／石橋有希子、うるし原智志、田村勝之、塚田ひろし、よしもときんじ

イバラの戒めにとらわれるルシファーが印象的なOP。よしもときんじ監督自ら絵コンテ・演出を手がけており、随所に散りばめられたサービスカットは必見。ラストのルシファーと真莉亜が寄り添う姿はOPテーマ「My Sweet Maiden」をそのまま表わしているかのようだ。

第一話

傲慢なる堕天使

STAFF
脚本／鈴木雅詞、吉本欣司
絵コンテ・演出／よしもときんじ
総作画監督／安田祥子、小関雅
作画監督／塚田ひろし、小関雅、岡田豊広、神木はな

天界から追放された大天使・ルシファー。地獄の最下層まで落下した彼女は嫉妬の魔王・レヴィアタンに誘われ、地獄を統べる"七つの大罪"らが棲む万魔殿へと向かう。"七つの大罪"の首座ベリアルは、ルシファーが天使として地獄の侵攻に来たのだと難癖をつけ彼女を攻撃。"大罪"全員で袋叩きにし、翼をもいでしまう。だがそれが功を奏し、ルシファーは神の軛から解き放たれ、魔王として覚醒を果たす。冥府の扉に飲み込まれて地上に戻り、女子高生十束真莉亜と再会するのだった。

あたしはもう天使じゃない！

聖堂で祈りを捧げる真莉亜の前に、天界を追放されたルシファーが落ちてきた。血まみれのまま十字架に架けられたルシファーを真莉亜は助けようとするが、床の崩落と共に奈落へと消えてしまう。

憧れていたルシファーが目の前に現われ、興奮を禁じ得ないレヴィアタン。つれなくあしらわれたことに怒って一度は戦いを仕掛けるも、今では従順なお供に。あまりにスキンシップが過激で、ルシファーからしかられることも。

レヴィアタンに誘われ、"七つの大罪"の拠点万魔殿へ。居並ぶ地獄の魔王たちを前にしても一切怯むことのないルシファーは、まさに"傲慢"の貫禄だ。

名門の実家に伝わる魔剣・ダインスレイブで果敢に斬りかかるベリアルだが、ルシファーは意に介さず、圧倒的な戦闘力の違いを見せつけた。初めはのんきに見物していた大罪たちも、魔王の面目を守るため、重い腰を上げルシファーに戦いを挑む。

神の軛は断ち切った！

ベリアルを一蹴したルシファーに、"七つの大罪"の面々が迫る。６人の魔王を同時に相手にしては、さすがのルシファーもなすすべもない。傷つき、地面に伏しているところを捕えられ、嗜虐的な笑みを浮かべるベリアルに天使の証である翼を斬り落とされてしまった。

ベストバトルショット

両翼を失ったルシファー。だが元より神を棄てた気でいた彼女は、これを利用して本当の悪魔として覚醒、魔王の証である角を頭に生やすことに成功した。

冥府の穴に飲み込まれ、地上に出たルシファーは、かつて自分を助けた少女、十束真莉亜と再会を果たす。喜ぶ真莉亜だが、次の瞬間ルシファーの杖が彼女の胸を貫いていた。果たしてルシファーの真意とは。

♡セクシーピックアップショット♡

戦いに敗れ下僕となったレヴィアタンは、スキンシップと称してルシファーの体をまさぐりはじめた。胸から腰、脚へと手を這わせ、しまいにはパンツの中にまで手をさしこみ、熟れた桃のような尻を揉みしだく。

監督コメント | よしもときんじ

１話で自社制作（フォルテス）回でもあったことから、制限をつけずに作ろうと意気込みました。全キャラ登場というノルマを果たしつつ、盛り上げる。さらには作品の方向性を示すというのは難題でした。結局、脚本・コンテは勢いで乗り切ることに。色彩面では手間を惜しまず丁寧に作ることができました。絵的にもキャラデザの安田さんの良い部分が表われて美しくまとまったと思います。

第二話

嫉妬ゆえの暴走

STAFF 脚本／鈴木雅詞、吉本欣司
絵コンテ／西島克彦
演出／日下直義、勝亦祥視
総作画監督／ごとうじゅんじ
作画監督／野本正幸

再会を喜ぶ真莉亜だが、ルシファーはもはや天使ではなかった。魔王と化した彼女に心臓を奪われ、困惑しながらもついて行くしかない状況に。一方、ルシファーを独り占めにしたいレヴィアタンは、真莉亜の存在が面白くない。必死にルシファーの気を引こうとするも空回るばかり。思い詰めた結果、ルシファーが外出している隙に真莉亜を亡き者にしようと企む。だが真莉亜は彼女の所業を許容し、レヴィアタン自身もその気丈さに気圧されてしまう。戦わずして魔王を制した真莉亜を見て、ルシファーは満足そうに微笑む。

今すぐ消えてよ。お姉さまの前から！

心臓を奪われた真莉亜は、わけもわからぬままルシファーと同行を供にすることに。そんな真莉亜の気持ちは露知らず、何かにつけてルシファーに構われる真莉亜に、レヴィアタンは嫉妬の炎をメラメラと燃やす。

地獄通信

6人の魔王を相手に大立ち回りを繰り広げたルシファーに、大罪たちは興味津々。サタンは戦闘能力を称え、マモンはその美貌を惜しむ。ベリアルだけは「所詮負け犬ですわ」と一蹴するが、ほかの大罪の助けが無ければ負けていたとは思えない上から目線。さすが"虚飾"の魔王。

レヴィアタンが司る罪は"嫉妬"。その名の通り、自分を差し置いてルシファーに構われる真莉亜に激しい嫉妬心を向ける。ルシファーが地獄に落ちてきたときから一緒にいるという自負も相まって、その憎しみは深まるばかり。

嫉妬に狂ったレヴィアタンは、ルシファーが留守の隙を突いて真莉亜に襲いかかる。水を触手のように操り体を束縛。ヌルヌルの粘液で敏感な部分を撫で回され、真莉亜の全身が羞恥に赤く染まる。

お前のことが羨ましいよ。妬ましいよ。

ベストバトルショット

攻撃されているにも関わらず、レヴィアタンを慰めるような言葉を発する真莉亜。通常なら考えられないような反応に、ついつい圧倒されてしまう。

「嫉妬は罪じゃないよ」とレヴィアタンに微笑みかける真莉亜。自分を責め立てている相手を労わるその優しさは、魔王には理解できないものだった。

一部始終を見ていたルシファーは、レヴィアタンの激しい責めに打ち勝った真莉亜をねぎらう。優しい言葉をかけたかと思えば、突如胸への愛撫が始まり、真莉亜は体をよじらせる。そして絶頂に達した瞬間、真莉亜はある場所の名を叫ぶ。

♡セクシーピックアップショット♡

ルシファーの魔力で無理やり服を脱がされる真莉亜。慎ましさを絵に描いたような制服姿の下には、欲望をかきたてる淫靡なふくらみが隠されていた。飴色の肌と純白のブラのコントラストもたまらない。

監督コメント | よしもときんじ

この回から歌パートが入ります。これはキャラソンを作るのならやってみたかった演出方法で、イメージとしては韓ドラ風！ 時間を削減しつつ分かりやすさ第一で纏めました。なんとなく昔の米ドラマみたいになりましたが、これも気に入っています。クライマックスの人間（真莉亜）と魔王の対比、嫉妬や傲慢といった魔王たちの背負う罪を明確に魅せたかったので、エレベーターの密閉空間でのバトルになりました。

第三話

色欲の渚

STAFF
脚本／鈴木雅詞、吉本欣司
絵コンテ／斎藤久
演出／藏元穂高
総作画監督／ごとうじゅんじ
作画監督／石動仁、神田岳、中島美子、山崎輝彦、李周絃

"七つの大罪"のひとり、アスモデウスに会うため、マイアミを訪れたルシファー一行。常夏のビーチでは、裸同然のセクシー水着に身を包んだアスモデウスが、海水浴客の視線を独り占めにしていた。レヴィアタンは果敢にセクシー対決を挑むが、"色欲"を司るアスモデウスには手も足も出ない。唯一色気に屈しなかった真莉亜に、アスモデウスは興味を示す。彼女をさらい、手練手管で淫欲に落とそうとしたところヘルシファーが。アスモデウスのお色気攻撃を持ち前の精神力だけで持ちこたえ、彼女に敗北を認めさせるのだった。

みんなで気持ちよくならなきゃ……ね。

真莉亜の体にはルシファーが天使だったころの血が混ざっており、それが"七つの大罪"の居場所を教えてくれるのだという。報復を誓うルシファーはアスモデウスに会うため、真莉亜とレヴィアタンを連れマイアミへ飛んだ。

夜のダンスホールでなまめかしいポールダンスを披露するアスモデウス。その様子に対抗心を燃やしたレヴィアタンは、局部に絆創膏を貼っただけのギリギリな姿でステージへ。苛烈なセクシー対決が繰り広げられるも、やはりそこは"色欲"のアスモデウスに軍配が上がった。

どうしようもないことなの。人間はみんな、色欲の罪を背負っているの。

真莉亜を助けに来たルシファーにアスモデウスの淫欲責めが炸裂。しかしルシファーの"傲慢"は生物の本能・色欲さえも凌駕。輝くような美しさで逆にアスモデウスを欲情させてしまう。

ベストバトルショット

戦いに敗れたアスモデウスは、大罪の座を明け渡そうと申し出る。だがルシファーはそんなものに興味などないとそれを一蹴。ベリアルへの宣戦布告だけを遺し、その場を去るのだった。

アスモデウスから真莉亜を取り戻したルシファー。気絶した真莉亜を優しく抱きかかえる姿にはどこか高貴な、天使だったときの面影が見られる。

激しい戦いの末アスモデウスを倒したルシファーたち。色気に支配されていたビーチもすっかり平和となり、3人で束の間のバカンスを楽しんだ。

♡セクシーピックアップショット♡

アスモデウスが召還した触手植物にからめとられたレヴィアタン。一糸まとわぬ姿となり、強力な催淫効果のある粘液を全身に浴びせられると、熟れた桃のような美尻をブルンと震わせ、快感に悶えた。

監督コメント | よしもときんじ

これまでのTVエロの概念を壊したい！ と攻めまくったお話です。とにかく色欲なのでありきたりでは許されないだろうと…（笑）。そのため、脚本が長くなってしまい、作画的にカロリーが高くなる結果に。ポールダンスの悩ましく激しい動きなどが省略された点が残念でした。開放的なマイアミと奔放なアスモデウスの性的な部分が伝わるなら嬉しいです。

第四話
強欲うごめく霧の街

STAFF
脚本／松原貞姫、吉本欣司
絵コンテ／うるし原智志
演出／千葉孝幸
総作画監督／安田祥子、小関雅
作画監督／正金寺直子、
塚田ひろし、
神木はなな、
小関雅、
石橋有希子

強欲を司るマモンを追いロンドンにやってきたルシファー一行。屋敷に踏み込むも、マモン特製の毒薬によってルシファーが囚われの身となってしまう。地下牢に監禁され、三角木馬で苛烈な責め苦を受けるルシファー。一方、屋敷を物色していた真莉亜もまたマモンに囚われ、50万匹いるマモンの子を育てるための乳母として働くよう迫られる。子を想うマモンの気持ちにほだされかかった真莉亜だが、なんとかマモンの誘惑をはねのけることに成功。木馬責めから逃れたルシファーも駆けつけ、マモンを倒すことに成功した。

できあがり♪

ネットの噂をたよりに、マモンの隠れ家に辿りついたルシファー一行。ひっそりと静まり返った室内を物色していると、床に落ちた1枚のコインを発見。真莉亜が拾い上げた瞬間にマモンの罠が発動し、3人とも捕えられてしまった。

不動産売買も手がけるマモンは、ルシファーにまで物件を売りつけようとする。相手にせず仕掛けるルシファーだが、攻撃は外れ建物に直撃。これが"強欲"マモンの逆鱗に触れ、彼女の毒薬攻撃で強制的に失神させられてしまう。

ルシファーが意識を取り戻すと、そこは薄暗い地下牢の中。目の前には資産を壊され怒りに燃えるマモン。両腕を縛り上げられ、三角木馬に乗せられると、鋭い股間の痛みに身をよじった。

そう、それでいいの。あなたもこれからは、わたくしの子供たちの世話をしてくださいね。

ベストバトルショット

マモンの誘惑をはねのけた真莉亜の元に、ルシファーが助けに現われる。自分の力で三角木馬責めを打ち破ったルシファーには、もはやマモンなど敵ではなかった。

母親の愛情とは何かを真莉亜に諭されたマモン。無理矢理操った人間を乳母役にすることはやめ、自分の手でわが子を抱き、自分の母乳でわが子を育むことにしたようだ。穏やかなその微笑みからは母性を感じさせる。

♡セクシーピックアップショット♡

マモンの毒薬によって服を溶かされたルシファー。まろび出たバストは旬の果実のように豊かでみずみずしい。木馬責めの苦悶と恍惚に彼女が身をよじるたび、たっぷりのボリュームを持って妖しく揺れた。

監督コメント　よしもときんじ

4話は、作品の表現に幅を持たせるためにドラマのようにカットを積んでいきました。大罪たちは人間より長く生きていて、歴史にすら簡単に干渉できてしまう闇のフィクサーとも言えます。だからこそ、己の罪に従い人間たちを地獄へと誘っていく。マモンは己の不幸体質に気づきながらも強欲に生き、歴史に介在していくのです。そのキーアイテムが母乳。信心深いためか、真莉亜はそれに打ち勝ちましたが。この話も長くなりすぎ、バトルを削る羽目に。難しいです。

第五話

憂鬱なる歌姫

STAFF
脚本／小鹿りえ、吉本欣司、松原真姫
絵コンテ／石黒達也
演出／川西泰二、山口美浩、冨田剛司
総作画監督／安田祥子、小関雅
作画監督／安田祥子、小関雅、手島隼人、飯飼一幸、服部益美
作画監督補佐／余島郁枝、田中美奈

憂鬱を司るアスタロトは動画サイトに自作の曲を投稿し、歌い手として活動していた。彼女に対抗してルシファーも歌手活動を開始。美貌とカリスマでファンを増やしていく。アスタロトもベリアルとベルフェゴールの力を借りて人気をさらに爆発させ、リアルライブをするまでに至る。だが元来内気な彼女は大勢の客に怯え引き籠ってしまう。動揺する聴衆を見かね代わりにステージに立つルシファー。彼女の雄姿とベルフェゴールの説得で意を決したアスタロトはステージに舞い戻り、ルシファーと共に最高のライブを演出する。

闇は光には敵わない。
でも、あたしは歌い続けたい……。

アスタロトと勝負するため、歌手活動を始めるルシファー。素材が最高級なためキュートなアイドル風の楽曲からセクシーなテクノスタイルまで、何をやらせても一級品。

梅津泰臣

ASUDEKO（アスタロト・ミュージックビデオ）

◉PROFILE　梅津泰臣（うめつ・やすおみ）
アニメーション監督、キャラクターデザイナー。代表作は『A KITE』『ガリレイドンナ』『ウィザード・バリスターズ 弁魔士セシル』など。

Q. アスタロトの第一印象を教えてください。
A. 画の印象になりますがカラフルでエロチックでムッチムチだなと…（笑）。あとギターデザインのインパクトにびっくりしました。
Q. MVはどんなイメージで制作しましたか？
A. まず詞の印象を大事にしました。アスタロトのキャラ性と詞のイメージを合わせてグラフィカルなイメージ先行の画作りを目指しましたね。ある種の哲学性を画にしたかったんです。
Q. フィギュアを見て参考にしたところは？
A. 突起物は立体で見て描かないと正確に形を把握することができません。特に頭の角の部分はよく参考にしました。
Q. もっとも苦労したシーンは？
A. 大変だったのはギタープレイとビルが破壊されるカットでしょうか。各原画さんたちの労作です。曲もアップテンポのよいメロディだったのでもっとカットを刻んでも良かったかなとは思いましたが、OPやEDと違うので少しアプローチを変えています。
Q. お気に入りのシーンを教えてください。
A. 気に入っているカットの積み重ねなので、強いてあげるならギタープレイ、ビル破壊、滴り落ちる血とアスタロトです。コンテに入る前のイメージで真っ先に思いついたシーンなんです。ちなみにアスタロトがバストを揉みしだかれるシーンは絵コンテにはありません。後から追加で挿入した新規カットです。詞やキャラの整合性よりもMV全体のバランスやインパクトを優先したチョイスです。ちなみに原画は僕が描いています（笑）。

素直に……歌に……！

大勢の客を前にしたプレッシャーで一時は引きこもってしまったアスタロト。だが歌が好きという強い気持ちで弱気に打ち勝ち、ルシファーにも負けない堂々たる歌い振りを見せつけた。

ベストバトルショット

大盛況のうちに幕を閉じたアスタロトのライブ。プロデュースしたベリアルにはルシファーを倒すという目的もあったが、壇上で意気投合した２人を見てあてが外れたと悔しがる。

弱い自分を克服し再び歌うことを決めたアスタロトをライバルと認めたルシファー。初めはルシファーに怯えていたアスタロトも、「今度会うときは敵同士」とまっすぐに彼女を見つめられるようになった。

♡セクシーピックアップショット♡

魔王でありながら、弱気で引っ込み思案なアスタロト。いきなり部屋に押し入ってきたルシファーとレヴィアタンに歌の勝負を挑まれたことにびっくりして、大事なところを少し湿らせてしまったもよう。

監督コメント　よしもときんじ

人間社会に憧れ、魔王としての意識の低いアスタロト。憂鬱の罪がそうさせるのか常にネガティブ。でも歌うことは別、熱いパッションを激しく舞台でぶつけます。客席が暗くて人間が見えてない？　真っ赤なドレスの内側の逆りを圧倒的な歌量で表現したい！　極度の対人恐怖症の憂鬱と傲慢との演奏バトルをやりたい一心でかなりカロリーオーバーの話にしてしまいました。別注でミュージックビデオまで作っちゃいましたから（笑）。

第六話

怠惰オンライン

STAFF
脚本／大久保昌弘、吉本欣司
絵コンテ／大畑晃一
演出／日下直義、勝亦祥視、野本正幸
総作画監督／ごとうじゅんじ
作画監督／朝岡卓矢、ごとうじゅんじ、斉藤香織、
斉藤和也、清水勝祐

怠惰を司るベルフェゴールが作ったゲームの世界に引きずり込まれたルシファー。魔王として世界を征服すれば勝ちという誘いに乗り、プレイヤーを次々と撃破していった。一方ベルフェゴールは真莉亜を勇者として召喚。その気になった真莉亜は果敢にルシファーに戦いを挑み、瀕死にまで追い詰める。この機を待っていたベルフェゴールがとどめをさそうとするが、企みに気づいていた真莉亜は身を挺してかばう。復活したルシファーにゲーム世界を破壊されたベルフェゴールはすべてが面倒になり、すごすごと魔界へ帰っていった。

じゃあゲームで勝負だお！

ベルフェゴールの作ったネットゲームの世界。ルシファーは魔王として、真莉亜は勇者として召喚された。ルシファーはいつも通りだが、他プレイヤーの期待を背負って戦う真莉亜は、いつもより強気で勇敢な性格になっていた。

勇者マリリンの名を与えられた真莉亜は、魔王となったルシファーに勝負を挑む。下級モンスターなら一撃で倒してきた真莉亜だが、やはり魔王には及ばない。装備のビキニを破壊され、裸に剥かれてしまう。

もう君たちとは絶対ゲームやりたくないお！

ベストバトルショット

真莉亜の攻撃に倒れたルシファー。決着は着いたと安堵する真莉亜だが、このときを待っていたとばかりに、ベルフェゴールはルシファーにとどめを刺そうとする。

真莉亜の攻撃を受け一度は倒れたかに見えたルシファーだが、実はまだ力を温存していた。もはやゲームに乗ってやる必要もないと判断し、ゲーム世界そのものを破壊。有無を言わさずベルフェゴールを屈服させた。

ベルフェゴールを倒し、無事ゲームの世界から脱出したルシファーと真莉亜。ひとりゲームの世界で憧れの天使役についていたレヴィアタンは、ルシファーに怒られるのを恐れて縮こまっていたがとうとう見つかってしまう。

♡セクシーピックアップショット♡

ルシファーを倒すために差し向けたベルフェゴールが敗れ、激しく憤慨するベリアル。怒りに体を震わせるたびに、規格外の爆乳がぶるんぶるんと揺れ動く。鎧からこぼれた下乳は、まさに大迫力の眺め。

監督コメント　よしもときんじ

本気を出せば最強といわれているベルフェゴール。ところが常にだらけてる。扱いづらい娘ですが、それを逆手に取ったお話にしてみました。ゲーム世界のナンセンス、ご都合主義にもかかわらず、知ってか知らずか中に入ったプレイヤーはその虚構に浸りきってしまう。人間を内側から堕落させる意味で最強なのでしょう。見どころは、怠惰なのに何かと面倒見が良いところ。特訓シーンはお気に入りです。もちろん温泉バトルが見せ場ですが（笑）。きっと真莉亜はウソ世界と分かっていてルシファーを支配したいと思ったのでは、と考えています。

第七話
咎なき暴食

STAFF
脚本／鈴木雅詞、吉本欣司
絵コンテ／高本宣弘
演出／高橋順
総作画監督／安田祥子、小関雅
作画監督／山本善哉

暴食の大罪、ベルゼバブに大食い勝負を挑むルシファー。威勢よく食べ始めたはいいものの、開始早々猛烈な不調に見舞われ入院するハメに。病状はなんとウィルス性胃腸炎。入院生活のストレスも相まって心身ともに弱った隙をつかれベリアルに真莉亜の心臓を奪われてしまう。煩悶の日々を送っていたある日、ルシファーの隣のベッドにベルゼバブが入院してきた。病人同士、奇妙な連帯感で結ばれる2人。退院後の会食でベルゼバブの真意を知ったルシファーは、"来たるべき刻"まで大罪の座を預けると言い残し去っていく。

にく……にく……。

大食い勝負を繰り広げるルシファーとベルゼバブ。観衆に見せつけるように艶めかしく口を付けるルシファーに対し、淡々と口へ運ぶだけのベルゼバブ。限界を迎えたルシファーが苦悶の表情を見せるが、ベルゼバブは気づかず優雅に食事を続けていた。

ウイルス性胃腸炎で入院したルシファーだが、人間とは体の作りが違うためか薬の効き目が芳しくない。イライラして真莉亜たちに当たっていたところ、女医に化けたベリアルが登場。無理やり座薬を入れられてしまい、初めての感覚に、甘い声を漏らしてしまう。

ご飯は笑顔になる一番のお薬。早くご飯食べたい……。

病院に勤務する女医に化け、入院中のルシファーに接近することに成功したベリアル。彼女が寝ている隙を突き、"七つの大罪"の座を狙う理由をその体から聞きだそうと目論む。

ベストバトルショット

ルシファーの裸身に肌を重ねると、真莉亜の心臓が飛び出してきた。これが秘密のカギと考えたベリアルは、引きずりだして地獄へ持ち去った。

制約の多い入院生活でストレスを溜めていたルシファーの隣にベルゼバブが入院してくる。素直で穏やかな性格のベルゼバブをルシファーも気に入り、2人は敵味方の垣根を超えて、次第に仲良くなっていく。

回復したルシファーは、同様に退院したベルゼバブを食事に誘う。食を通してルシファーに参同したベルゼバブは、彼女の所有物になることを約束する。首輪の鎖はルシファーが与えた親愛の証。

すっかり元気になったルシファーを温かく見つめる真莉亜。そこへ女医に化けたベリアルが現われ、助けを呼ぶ暇も与えず彼女をさらっていく。ルシファーから真莉亜の心臓を奪ったことで、2人の秘密に気づいたのだろうか。

♡セクシーピックアップショット♡

女医に化けたベリアルに無理やり座薬を挿入されるルシファー。病気で普段の力が出せないため抵抗することもできず、衆人環視の中、あられもない嬌声を上げながら、侵入に無防備な場所に異物を受け入れてしまう。

監督コメント　よしもときんじ

暴食ちゃんは難題でした。どう考えてみても大食い選手権になってしまう。アニメではうまく受け手に伝わらないから。そんなとき偶然というか、僕が人生初の入院生活を送ることに。そこで感じたカルチャーショックをまんまやってみることにしました。地味な話ですがアリかなと。みどころは、うーん…まったりと息が抜けるとこでしょうか。それぞれの自分勝手な感情がぶつかって、それでもなんとなく解決していくみたいな。レヴィがオチ要員として完成したお話でもありますね。

第八話
解き放たれた憤怒

STAFF
脚本／大久保昌弘
絵コンテ／西島克彦
演出／ながはまのりひこ
総作画監督／ごとうじゅんじ
作画監督／朝岡卓矢、石動仁、神田岳、中島美子、西山伸吾

さらわれた真莉亜を奪還する方法を思案するルシファー。そこへ憤怒を司るサタンがベルゼバブを取り戻しにやってくる。ベリアルに力の源を奪われたルシファーに代わりサタンと戦うレヴィアタンだが、大罪最強の戦力を持つ彼女の前になすすべなくやられてしまう。覚悟を決めたルシファーを、戦艦で迎え撃つサタン。天地を揺るがす激しい攻防の末、乾坤一擲の一撃を放ったルシファーに軍配が上がった。敗北を認めたサタンは地獄門への扉を開くことを約束。ルシファーは地獄で待つベリアルの元へ向かう。

ルシファー！　さあ、戦争だ！

数々の大罪を打ち破ったルシファーの前に、ベルゼバブを奪還しようと怒りに燃えるサタンが現われる。弱体化したルシファーを守ろうとレヴィアタンは全力の攻撃をぶつけるが、擦り傷ひとつ付けることもできず返り討ちに遭い、海の底へ沈んでいった。

地獄通信

真莉亜を誘拐し、万魔殿に幽閉したベリアル。ルシファーが助けに来るのを信じている真莉亜に対し、自分に協力すれば奪われた心臓を返してルシファーの呪縛から解放してやると誘いをかける。まさに悪魔の誘惑だ。

近代兵器で武装した海軍を率いて、ルシファーとの戦いに臨むサタン。人間の憤怒を魔力に変える彼女は、戦闘が激化すればするほどにその力を増していく。その一撃は海をも割り、地上を破壊しつくすほどのもの。

第三の大罪・憤怒のサタン、参る！

戦いの余波で地上を破壊してしまうことを嫌った２人は、戦いの場を月面へと移した。ここなら誰にも気兼ねせずに全力が出せると喜ぶサタン。
ベリアルにかけられたルシファーの"戒め"を解き、正々堂々と戦いに臨んだ。

激しい連続攻撃をくり出すサタンと、それをすべて受けきるルシファー。隙を突いたルシファーが回し蹴りを放てば、サタンはそれをつかみ取り魔力の集中砲撃を浴びせた。拮抗する２人の戦いは次第に激しさを増していく。

ベストバトルショット

サタンの一撃が大地を割り、あたりには砂煙が立ち込めた。これを好機とみたルシファーは煙に紛れ、死角からサタンの胴を貫いた。武人の誇りを持つサタンは素直に敗北を認め、ルシファーを地獄へ導くと約束する。

♡セクシーピックアップショット♡

真莉亜がさらわれこれでルシファーを独り占めと思いきや、ベルゼバブに彼女を取られてしまい悔しがるレヴィアタン。トイレでひとりクネクネと裸身をよじって思い悩むたびに、豊満なバストが肉感たっぷりに揺れている。

監督コメント　よしもときんじ

ここまで闘いらしい闘いは１話のみ。正当（？）なバトルを回避し続けたのはこの回のため。ステータスを作画全振りで、3Dも使った全編アクションに挑戦しました。キャラソンもうまくはまったと思っています。サタンは武士な性格で扱いやすかったです。第七艦隊戦からの宇宙バトルは夢見のお告げがあったからです。本当です。

第九話

汝、一切の希望を捨てよ

STAFF
脚本／鈴木雅詞、吉本欣司
絵コンテ／よしもときんじ、夕澄慶英！
演出／夕澄慶英！、山口美浩
総作画監督／安田祥子、小関雅
作画監督／KIM SU-HO

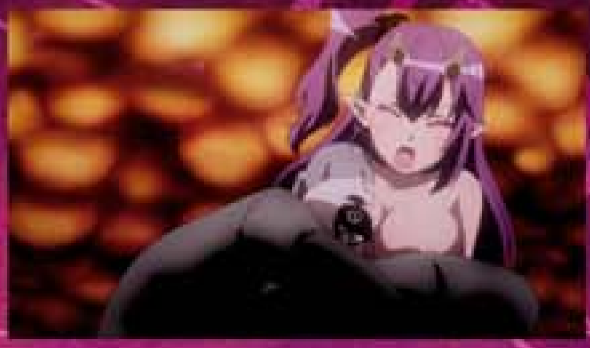
1億の信者の魂を獲得したルシファーは、堂々と地獄へ凱旋する。サタンの開けた地獄門を通過し、血に染まったアケローン川を渡っていると、渡し守のカロンが襲い掛かってきた。レヴィアタンの機転でそれを退けると、ついに"七つの大罪"の巣窟・万魔殿に到着。大罪たちと再会し、自身の思惑と天使に与したベリアルの陰謀について語る。真実を知った大罪たちはルシファーの邪魔はしないとその場を後にする。だがアスタロトだけは戸惑いながらもベリアルへの忠誠心を発揮し、ルシファーたちに刃を向けるのだった。

ルシファーなら絶対あきらめないもん…！

ルシファーに敗北・屈服したことを理由に、サタンに苛烈な拷問を加えるベリアル。監禁している真莉亜に対しても責め苦を与え続けていることから、単なる懲罰というよりは、ベリアル自身の嗜虐性を満たすものであることがうかがえる。

世界中を周って人間の傲慢さを看破し続けたルシファーは、瞬く間に1億の信者を獲得。魔王として地獄へ凱旋すると、大罪たちにベリアルの企みを暴露。真実を知った大罪たちは次々とベリアルの元を去っていった。

お姉さま！ ここはレヴィが引き受けたから、先へ行って！



ベストバトルショット

カロンの唾液攻撃で全身をドロドロにされてしまったルシファー。機転を利かせたレヴィアタンは魔獣ホエーユを召喚。熱湯でカロンをやけどさせ、同時に唾液を洗い流したのだった。

地獄の深奥へ続くアケローン川の渡し守・カロンの船に乗ったルシファーとレヴィアタン。女好きのカロンは2人を見るやいきなり本性を現わし、巨体と長い舌で凌辱の限りを尽くす。

♡セクシーピックアップショット♡

ベリアルの苛烈な責めを必死に耐えるサタン。四肢を縛る鎖がピンと張り詰めると、両足を開いたあられもない姿を晒してしまう。普段は凛々しい彼女だけに、脂汗を流して苦悶する様は一層の背徳感を感じさせる。

監督コメント　よしもときんじ

ここからは地獄編。大罪の戒めにより力を失い続けたルシファーが勝負に出ます。傲慢の罪で1億の生きた魂を得ます。傲慢な理論で人間たちを裁くルシファーはほんと男前です。アケローン川での船頭カロンの責めは重要なポイントです。ルシファーが女の弱さを晒す、エロ爺の舌技によって快楽堕ち直前まで行くのですから、地獄は恐ろしいところです。

第十話

STAFF 脚本／大久保昌弘、鈴木雅詞
絵コンテ／柳沢テツヤ
演出／吉田俊司
総作画監督／ごとうじゅんじ
作画監督／朝岡卓矢、石動仁、岡辰也、神田岳、ごとうじゅんじ、斉藤香織、清水勝祐、渡辺はるか

汝の敵を愛し、汝らを責むる者のために祈れ

ベリアルの元へ行くため、地獄の階層をひとつひとつ降りていくルシファー。道中では " 七つの大罪 " たちが、首座の力を発動させたベリアルによって激しい責め苦にあっていた。敵同士ではあるが、戦いを通して心を通わせた間柄。ルシファーはたまらず助けようとするが、大罪たちはそれを拒む。これは自分自身の罪だから罰を受けなければならないと、甘んじて苦痛を受けることを選択したのだ。大罪たちの覚悟を見たルシファーは、必ず助けると誓い道を急ぐ。一方のベリアルは、囚われの真莉亜に手をかけようとしていた…。

お前たちが私を選んだのです。その事実がある限り、私には逆らえませんわ。

ベリアルが大罪の首座に座りたいと言ったとき、他の大罪たちは深く考えずにそれを許してしまった過去がある。その贖罪として責め苦を受ける彼女らを救うため、ルシファーはベリアルを追って地獄の最下層へ向かう。

地獄の名門・バーンデール家の出という出自は、ベリアル自身によってねつ造されたものだった。ウソの経歴、天使との暗躍…虚飾にまみれた彼女の過去は、大罪たちとのやり取りを通して徐々に浮かび上がっていく。

囚われの身の真莉亜は、その身にルシファーの天使の血が隠されていることをベリアルに看破されてしまった。ベリアルの魔剣ダインスレイブによって胸を切り裂かれ、ほとばしる鮮血とともに悲痛の叫びを上げる。

お前には役に立ってもらいますよ。我がダインスレイブに、新たな力をもたらすために！

遥か昔、神に挑み敗れたという巨人たちがルシファーを迎え撃つ。連戦に継ぐ連戦で魔力を消耗し、囚われのレヴィアタンを救う余裕もない。ベリアルを目前にして、最大のピンチだ。

ベストバトルショット

巨人たちをなんとか退けたルシファー。だが激しい戦いの連続で魔力を使い果たし、その場に倒れ込んでしまう。そんな彼女を上空から見つめるのは、不敵に笑うベリアル。無防備なルシファーにベリアルの魔の手が迫る。

♡セクシーピックアップショット♡

不信を抱えたままベリアルに従うより、ルシファーに投資することを選んだ"強欲"のマモン。衣服を剥がされ黄金の三角木馬で責められると、授乳経験もあるボリュームたっぷりの豊乳を揺らして苦しげに呻いた。

監督コメント　よしもときんじ

魔王たちが自らの罪に苛まれるお話。これは永劫に続く贖罪であり彼女たちの現実の立場であることを出したかったのです。もちろん堕ちた人間の魂は死ぬこともなく、こうなります。苦しむ彼女たちのなかで唯一アスモ姉さんだけは新しい快楽に目覚めましたね（笑）。さすがです。ついに地獄の最下層にある万魔殿に辿りつくルシファー。地獄を降りるだけで残った力を使い果たし、氷床に伏してしまいます。見せ場はここですね。

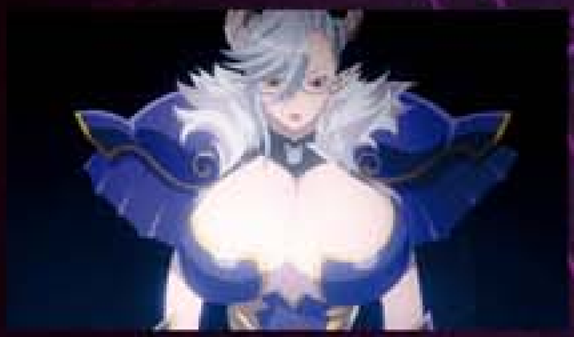
第十一話

求めよ、さらば与えられん

STAFF
脚本／大久保昌弘、鈴木雅詞
絵コンテ／原博
演出／藏本穂高、相浦和也
総作画監督／小関雅、ごとうじゅんじ
作画監督／飯飼一幸、石動仁、神田岳、小関雅、ごとうじゅんじ、清水勝祐、服部益実、Lee Sok Yun、Hue Hey Jung、Chang Bum Chul、Choi Nak Jin

万魔殿で目覚めたルシファーをベリアルの拷問が待ち受ける。責め苦を受けながらも果敢にベリアルを挑発するルシファー。挑発に乗ったベリアルは「大罪の首座の座すら必要ない」とまで言い放つが、これが形勢逆転のチャンスに。言霊によってベリアルの首座の力が失われ、囚われの大罪たちが復活してしまったのだ。ベリアルは真莉亜の力を利用して対抗するが、ルシファーの機略でそれも早々に打開。駆けつけた大罪たちと共に取り囲み、これにて決着と思いきや、大地を貫く轟音と共に天使ミカエルが降臨し…。

あたしが刺していいって言ってんだから…刺せばいいのよ！



ベリアルの正体は天界を追放された堕天使サタナエルだった。人間を堕落させた罪でルシファーから地獄に落とされたことを恨み、復讐の機会を虎視眈々と狙っていたのだという。一方、当のルシファーは、そんなつまらないことは忘れたと、ますます彼女のプライドを傷つける。

ルシファーを痛めつけて調子に乗り、「七つの大罪の首座など必要ない」とまで言い放ったベリアル。純粋な実力差ではなく、首座という言霊に縛られていた大罪たちはこの台詞と共に戒めから解放。ルシファーと共にベリアルを追い詰める。

ルシファーを殺すよう真莉亜に命令するベリアル。真莉亜は泣いて許しを乞うが、ルシファーは自らその刃に飛び込んだ。胸を切り裂かれ、血の海に沈むルシファー。思わず大罪たちも息を飲み、辺りは静寂に包まれた。

あたしの心臓をくれてやったんだから、死ぬまで大切にしなさい！

一度死んでみせることでベリアルを欺き、真莉亜を取り戻したルシファー。真正面から戦えば、ベリアルなど恐るるに足らず。圧倒的な力で叩きのめし、これまでの屈辱をそそいだ。

ベストバトルショット

ついにベリアルを追い詰めたルシファーと大罪たち。ベリアルの処遇について話を進めていたところ、大地を震わす轟音と共に天使ミカエルが降臨。まだ勝負は終わっていないと、ほくそ笑むベリアルであった。

♡セクシーピックアップショット♡

怠惰なベルフェゴールに対するベリアルの拷問は、燃えるランニングマシーンで強制的に走らされることだった。汗でびしょ濡れになったパンツが張り付き、大きなお尻が丸見えになってしまっている。

監督コメント　よしもときんじ

氷漬けにされたルシファーをベリアルの炎が焼きます。グロくならないギリギリの責めを模索しました。ベリアルが紡ぐ言葉は嘘になり、ルシファーは真実を語る。人間である真莉亜の自我は失われ、すべてがベリアルの望むままに。ところが、小さな綻びが逆転を生む、ベリアルとの最後の闘い。ドラマ部分が見せ場ですね。

第十二話

STAFF
脚本／鈴木雅詞、よしもときんじ
絵コンテ／西島克彦、柳沢テツヤ
演出／ながなはまのりひこ、柳沢テツヤ
総作画監督／安田祥子、小関雅、ごとうじゅんじ
作画監督／朝岡卓矢、石動仁、神田岳、斉藤和也、清水勝祐、中島美子、渡辺はるか

神は天にいまし、すべて世は事も無し

地獄を征服するため、天使ミカエルが降臨。裏切られ怒り心頭のベリアルと"七つの大罪"そしてルシファーは、地獄を守るためミカエルに立ち向かう……が、ミカエルは圧倒的な力を持っていた。大罪たちは次々と倒れ、最後はルシファーとミカエルの一騎打ちに。戦いの最中、魔王を滅ぼす聖槍に身体を貫かれ瀕死の重症を負うルシファーだが、真莉亜の身を呈した献身を受けて蘇生。天使・悪魔・人間、３つの力を得てミカエルの撃退に成功。晴れて傲慢の魔王ルシファーとして、"七つの大罪"の首座に就くのだった。

あたしは地獄に冠たる"七つの大罪"を従える傲慢の魔王、ルシファー！

ミカエルの降臨に歓喜するベリアル。地獄を明け渡すことで天界に帰還する密約を交わしていたのだ。だがミカエルは「神と悪魔は取引をしない」との一言のもとに、約束を反故にしてしまう。

かつて神に仕える"七つの美徳"の首座であり、強大な力を持つ"聖なる光翼"を備えていたルシファー。神に逆らいその怒りに触れたことで光翼を奪われ、堕天させられてしまった。

一枚で"七つの美徳"一人に匹敵する力をもつミカエルの"聖なる光翼"。裏切りに憤るベリアルを皮切りに、"七つの大罪"たちが総攻撃を仕掛ける。その最中、ルシファーはベリアルに代わり新たな"七つの大罪"の首座に就く。

天界にいたころは、ルシファーに戦いの稽古ひとつとっても、まともに相手にしてもらえなかったというミカエル。堕天し、晴れて敵となったルシファーと全力で戦えることに狂喜の笑みを浮かべる。

あなたが堕天して…これは神が与えてくれた最後のチャンスだと思ったんだ！

次第に激しさを増す戦いの最中、一筋の光がルシファーの胸を貫いた。魔王を滅ぼすために作られた聖槍ロンギヌスだ。瓦礫の中に倒れ込んだルシファーの元に真莉亜が駆け寄る。

ベストバトルショット

生贄を捧げることで、魔王は人間の願いを聞き届けるという。瀕死のルシファーを救うため、真莉亜は自らの胸に杖を突き立て、その命を捧げる。

一度は死の淵に陥ったものの、真莉亜の命を賭けた献身によって復活を果たしたルシファー。天使・魔王・人間、三位一体の力を得た彼女は圧倒的な力でミカエルをねじ伏せ、天界に送り返した。

真莉亜の死に沈痛な表情を浮かべる大罪たち。号泣するレヴィアタンの傍らでルシファーが血の涙を流すと、突如まばゆい光がルシファーを包み込み、傷ひとつない真莉亜が復活する。ルシファーに残ったわずかな天使の血が"奇跡"を起こしたのだ。

罰として人間の世界に送られてしまい、ひとりたそがれるベリアル。彼女への忠誠心から一緒についてきたアスタロトに、身のまわりの面倒を見てもらっている様子だ。

♡セクシーピックアップショット♡

アスモデウスの細い指で全身をまさぐられるミカエル。貞節を絵に描いたような凜々しい面差しも、"色欲"の魔王が繰り出す巧みなテクニックの前では、次第に帯びていく赤みを隠し切ることができないようだ。

監督コメント よしもときんじ

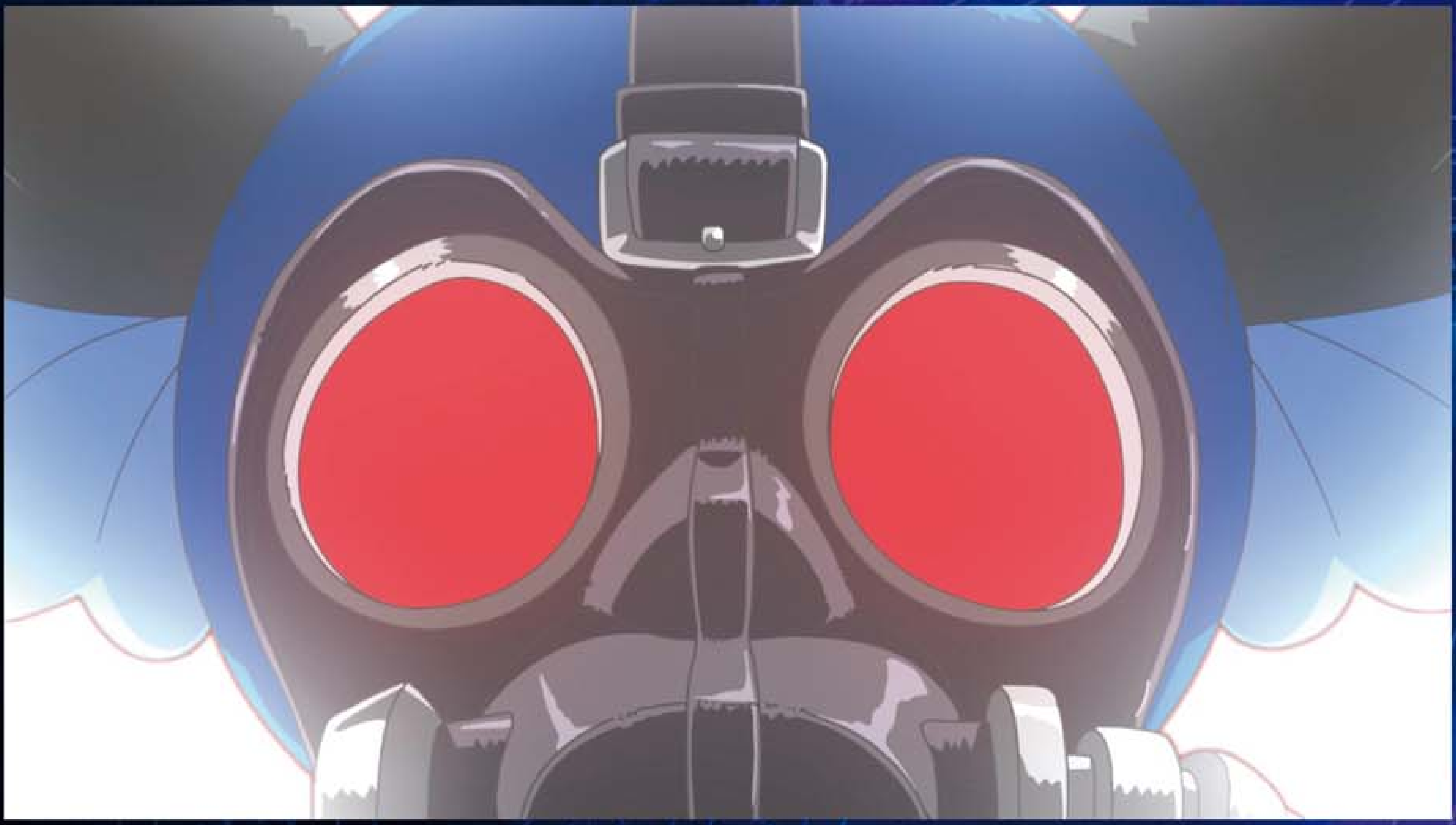
サブタイトルがすべてです。ルシファーの堕天やミカエルの画策、きっと神にとってはそれさえも悠久の流れの一瞬の余興なのかもしれません。だから姿を現わさない。翻弄され続ける天使、魔王、人間たちが精一杯生きている姿が伝わればと。『七つの大罪』の物語はまだ続いていきます。さらには『七つの美徳』も…。

エンディング

STAFF
絵コンテ・演出／よしもときんじ
原画／小関雅、安田祥子、手島勇人、吉本欣司

エンディングテーマ
「Welcome To Our Diabolic Paradise」

作詞・作曲／デーモン閣下
編曲／pal@pop
歌／Mia REGINA



露出の限界に挑む扇状的なEDはOPと同じくよしもときんじ監督が絵コンテ・演出を担当。大胆過激なポーズをとる美しき魔王たちと無垢な乙女に視線が釘付けだ。AT-Xを除くTV放送時にはベヒモスによって隠されていた女体を隅々までご覧いただきたい。

エンドカード集

第一話
Illustration：うるりひ

第二話
Illustration：宮元一佐

第三話
Illustration：日吉ハナ

第四話
Illustration：いのうえたくや

第五話
Illustration:まろん☆まろん

第六話
Illustration:Hisasi

第七話
Illustration:小路あゆむ

第八話
Illustration:新藤エル

第九話
Illustration：Zトン

第十話
Illustration：水龍敬

第十一話
Illustration：左

第十二話
Illustration：Niθ

EXTRA美術ボード

『sin 七つの大罪』の世界を構成する選りすぐりの美術ボードをここにご紹介！

地上界

〈聖蹟女学院聖堂・外観〉

〈聖蹟女学院聖堂・内観〉

〈ダンスホール〉

〈マモンの店〉

〈古城・地下拷問室〉

〈ライブハウス〉

〈廊下〉

天界

ゲーム世界

〈空中都市〉

〈ワッコール遺跡〉

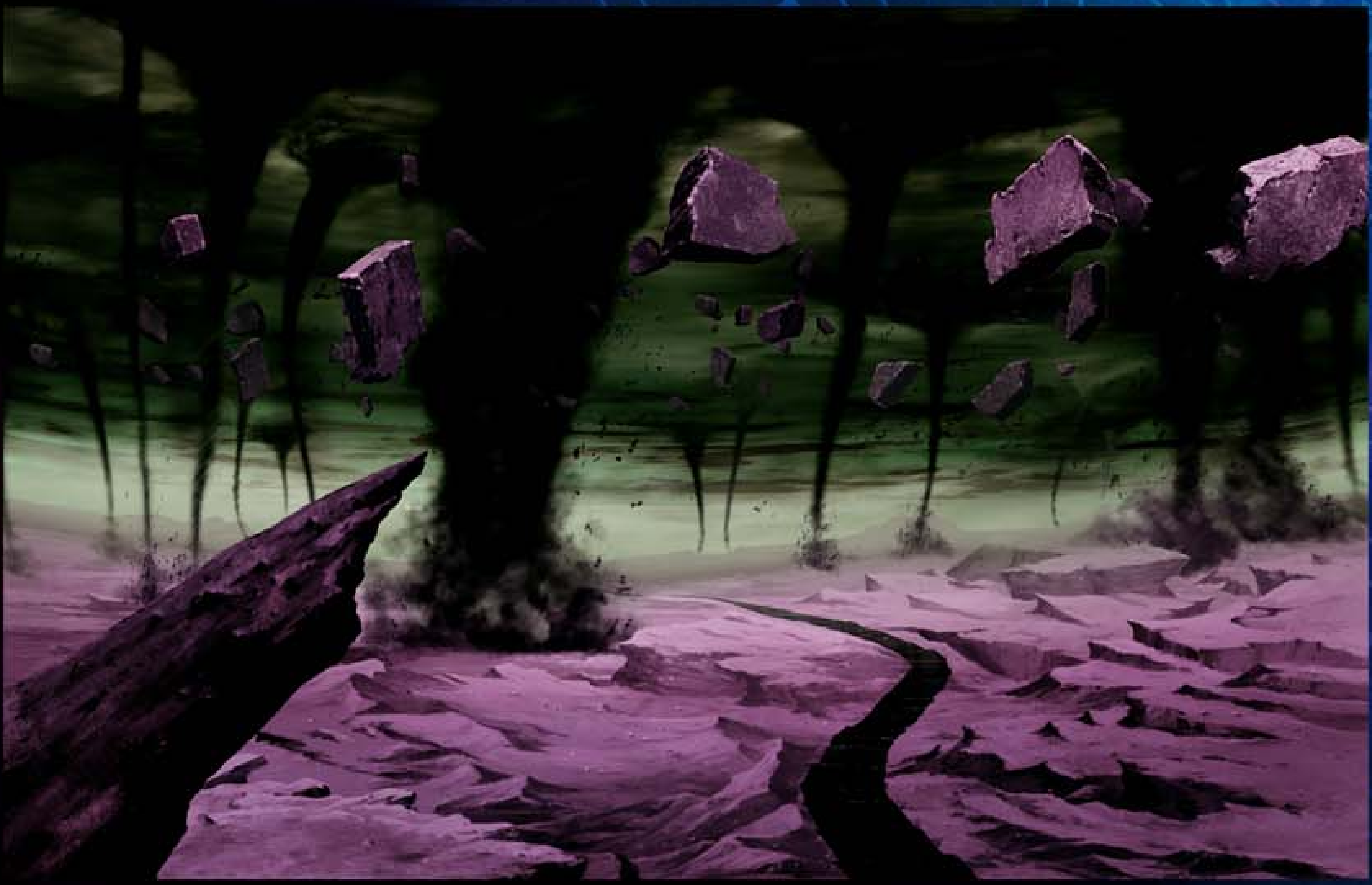
〈トリンプルンの街〉

〈山中の温泉〉

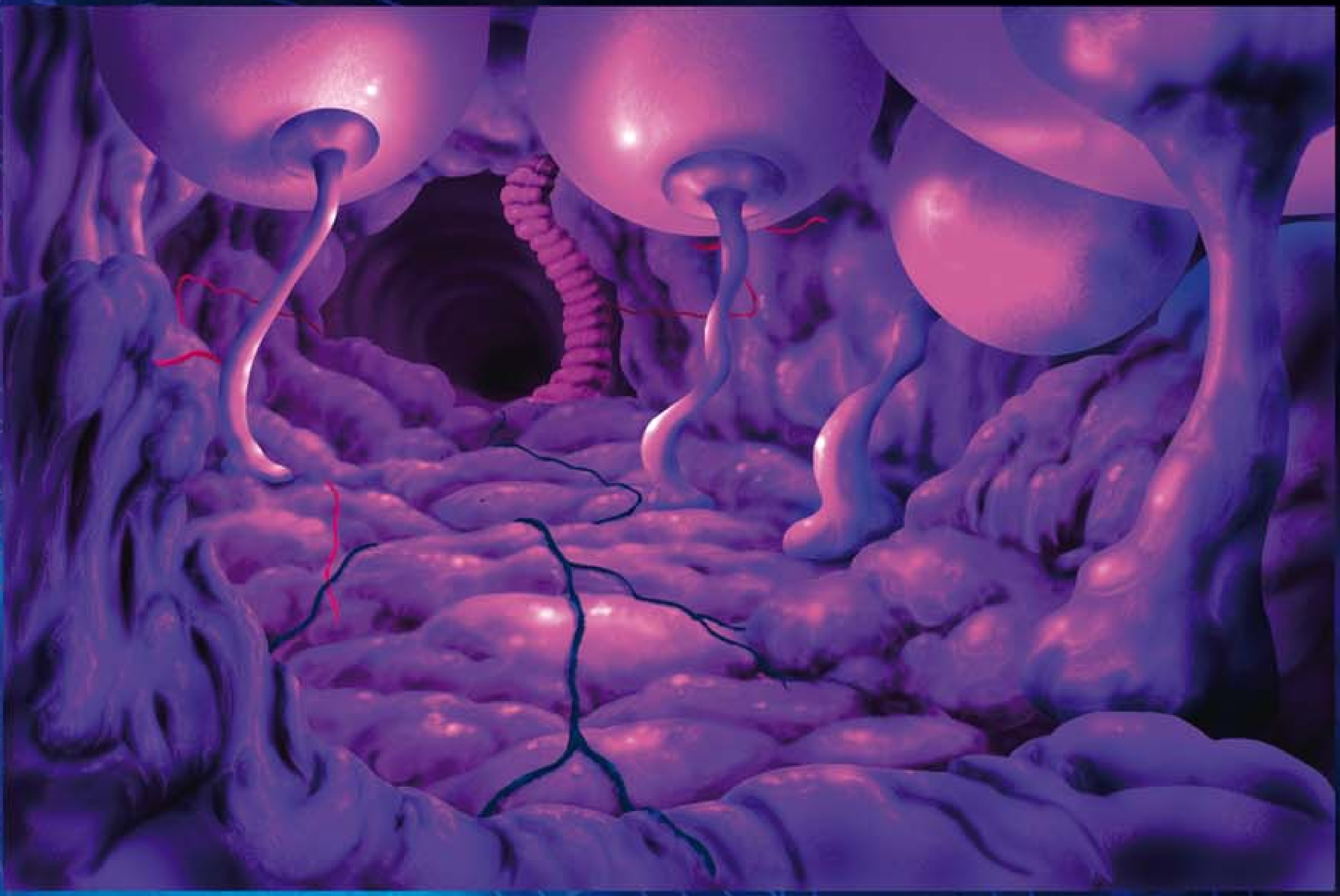
地獄

〈地獄門〉

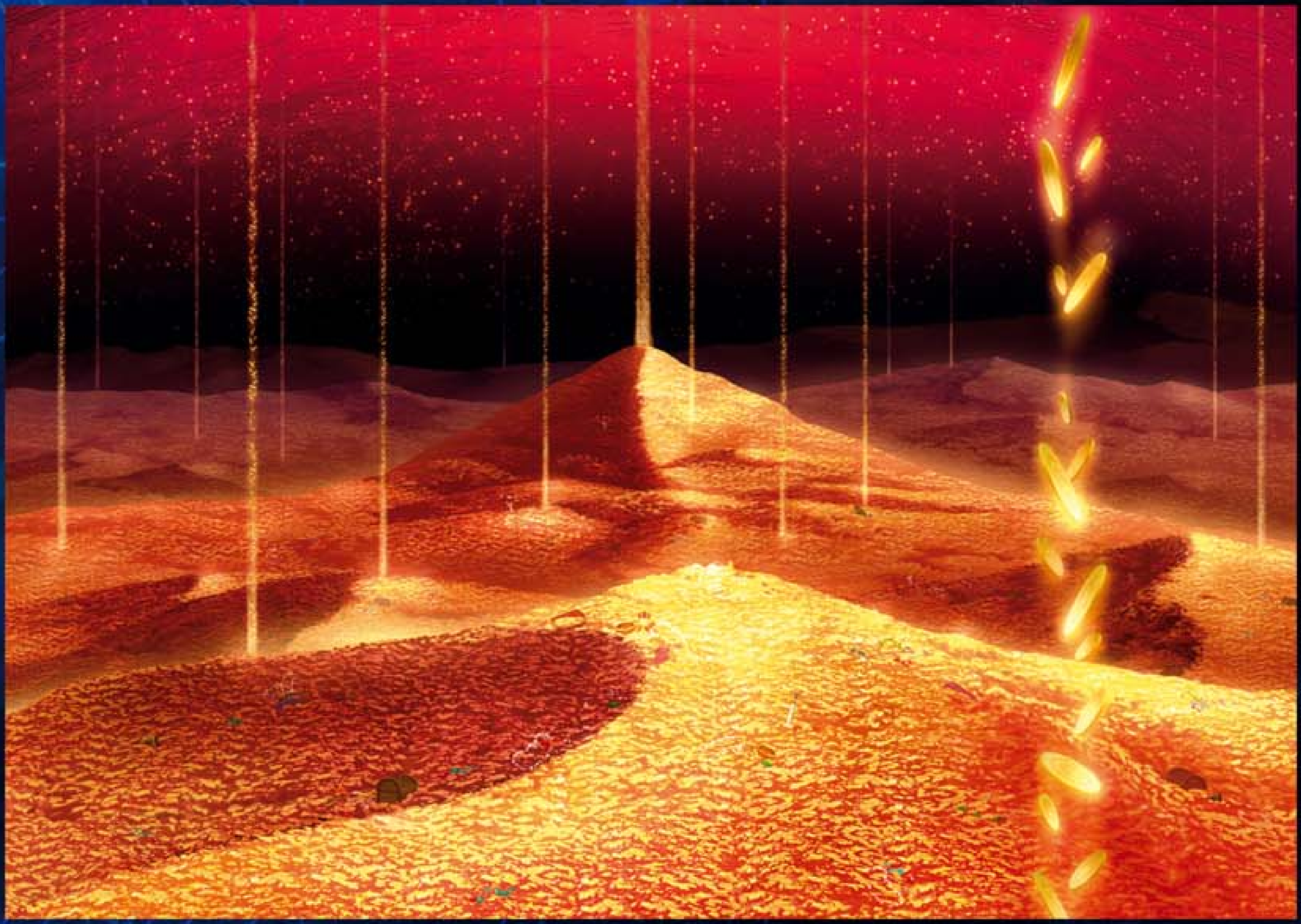
〈アケローン川〉



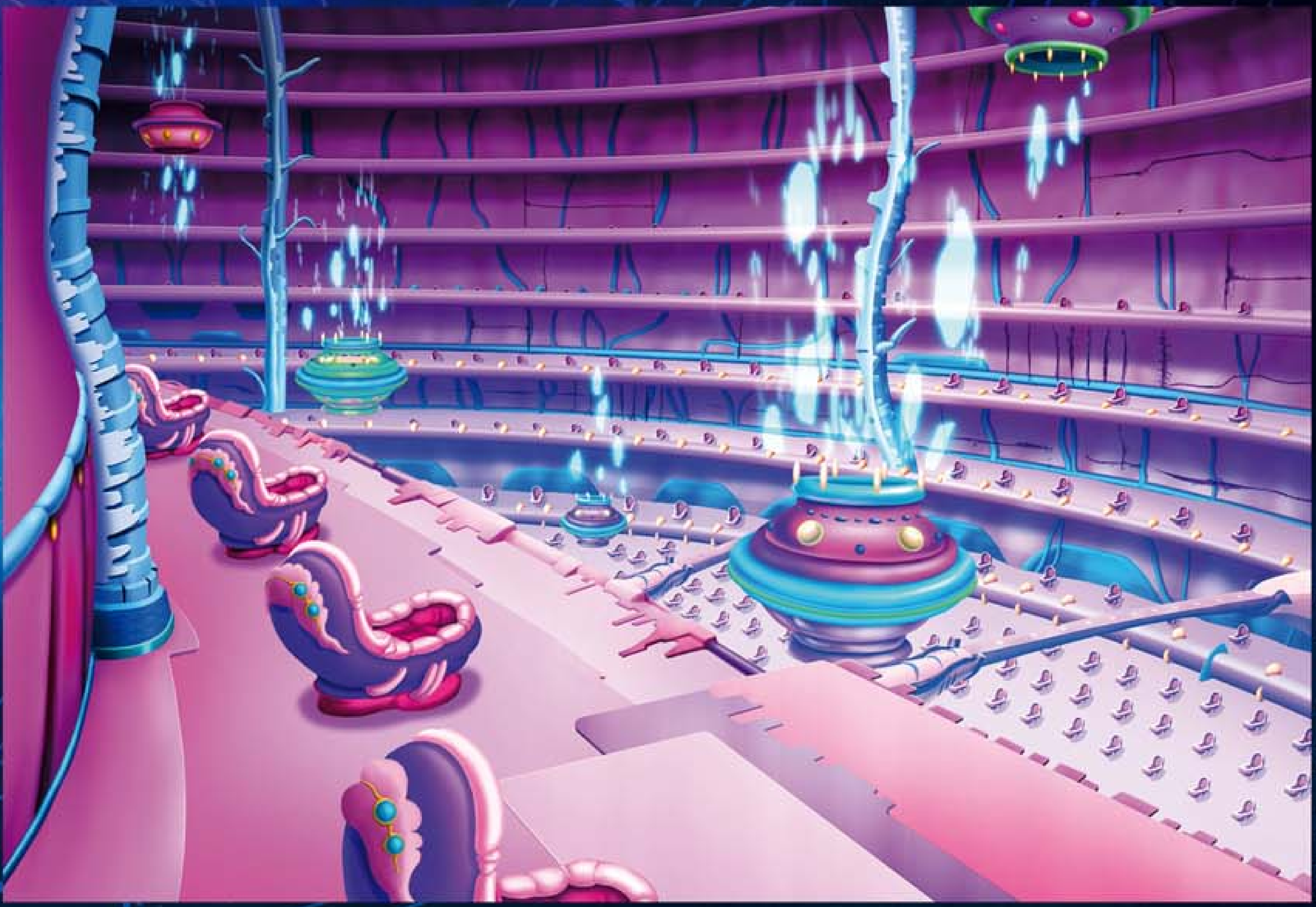
〈第二圏・暴風地獄〉



〈第三圏・暴食地獄〉



〈第四圏・金貨地獄〉



〈マモンの居城・保育室〉

〈ベッド〉

〈第六圏・火炎地獄〉

〈第八圏・マルボルジェ〉

〈第九圏・コキュートス〉

インタビュー

欲望と官能渦巻く『sin 七つの大罪』の世界を作り上げた
創造者（スタッフ）らが語る制作秘話の数々をご覧いただこう。

－INDEX－

084 Niθ × AMAKUNI ×
オーキッドシードスペシャル座談会

090 ［監督］よしもときんじインタビュー

092 ［キャラクターデザイン］安田祥子×
［総作画監督］小関雅インタビュー

094 ［総作画監督］ごとうじゅんじインタビュー

096 ［メインライター］鈴木雅詞／
［インダストリアルデザイン］松枝聖
コメントインタビュー

097 ［美術監督］益田健太／
［ビジュアルコーディネーター］松原貞姫／
［撮影監督］藤田智史コメントインタビュー

098 ［音楽］横山克／［音楽］堤博明コメントインタビュー

Niθ̂×AMAKUNI ×オーキッドシード スペシャル座談会

イラストやフィギュアを原作とし、読者やフィギュアユーザーが大罪様たちを支える魔王崇拝型コンテンツ『七つの大罪』。本作の制作・展開に携わってきた4人に、企画当初からのことを振り返っていただきながら、アニメに対しての感想から今後の展開についてまで熱く語ってもらった。

Niθ̂ にしー
イラストレーター、原画家、メカニックデザイナー。代表作は『デモンベイン』シリーズ、『百花繚乱』シリーズ、『ソード&ウィザーズ 覇剣の皇帝と七星の姫騎士』など。

河原正信 かわはら・まさのぶ
ホビージャパン キャラクタープロダクツ事業部部長。代表作は『クイーンズブレイド』シリーズ、『ビキニ・ウォリアーズ』など。

井上卓哉 いのうえ・たくや
フィギュアメーカー・オーキッドシード商品開発部。企画から開発・製造を担当するほか、イラストレーター「いのうえたくや」としても知られる。代表作は「ちちのえ」シリーズ。

柳沢祐介 やなぎさわ・ゆうすけ
ホビージャパン商品企画課。『七つの大罪』フィギュアシリーズ等のプロデュースを担当。

――Niθ̂ さんが原作である『七つの大罪』のキャラクターデザインを担当することになった経緯と、この企画を立ち上げた経緯を教えてください。

Niθ̂：：5年くらい前にメールで「こういう企画があるからやらない？」という打診をいただいたんでしたっけ？

河原：そうですそうです。

Niθ̂：もうちょっと前かな？　それで「ああいいですね」っていうのが最初でした。でも、アニメになるって知らなかったんですよね 。すごい軽い気持ちで「ああいいねそれ」って引き受けたんですよね。そうしたらいつの間にかアニメになっていたという感じですね。

――この企画が立ち上がった際にはアニメ化などは視野に入れていましたか？

河原：そうですね。 ホビージャパンの創業40周年企画で『百花繚乱 SAMURAI GIRLS』というタイトルがあり、その成功を受けてのNiθ̂さんを中心としたフィギュア企画というスタートでした。『百花繚乱』の方はアニメ化もされたので、そういう意味では若干の期待はありましたね。なので 最初から見込んでいたという訳ではないです。

――当時はどういった展開まで見込んでいましたか？

河原：そうですね、当時はフィギュアを売ることが主体でしたので、そこからのノベライズやコミカライズなどは考えていました。

――企画の最初期には、すでにフィギュア関連のお話はされていたんですか？

井上：基本的には河原さんから振っていただいたお話なので、こちら（オーキッドシード）にしてみたら、そういう版権元とのコラボレーションは初のお仕事だったので「ぜひやらせていただきます」という感じでした。

――オーキッドシードさんがフィギュアを担当することになった一番の理由はなんでしょうか。

河原：そうですね。これといってピンポイントな商品というわけでないんですが、ホビージャパンでも通販をやらせてもらったりしてたというのもありますので。衣装着脱の機構がよくできてるなと思っていました。

――『七つの大罪』のフィギュアシリーズはどこか一部が脱げる仕様になっていますが、最初から脱げる仕様だというのはお聞きになっていましたか。

井上：弊社の商品開発のスタイルは衣装の着脱を前提にしている商品が多かったので、ちょうどセクシー路線のフィギュア企画はこちらの生産しているアイテムの方向性とマッチしているから特になんの違和感もなかったです。

――Niθ̂ さんの絵をフィギュア化するにあたり、これは難しそうだと思われたことはありますか？

井上：もちろん、それ以前からNiθ̂ さんのキャラクターはいくつか作らせていただいてたんですが、やはりディテールや情報量が緻密なデザインが多かったので、普段の商品を作るより開発は苦労しそうだなというのはありました。ただ、そこがやりがいでもあったので、チャレンジ的な部分も含めてこれはいい機会だと思いました。

河原：ちょうどホビージャパンも「AMAKUNI」というフィギュアブランドを立ち上げた時期だったんですよ。

柳沢：AMAKUNIのスタッフとして今ここにいます。誰だこいつ感が漂ってそうで申し訳ないんですけど（笑）。

河原：最初にレヴィアタンはAMAKUNIで作らせてもらって、それを柳沢さんに担当してもらいました。ただ、その時はまだ立ち上げたばかりで、本当にうまくいくのかな、という気持ちもありました。

柳沢：実はレヴィアタンがAMAKUNIとして衣装着脱する初のアイテムだったんです。

――当時のことで印象深かったことはありますか？

河原：最初議論したのは（フィギュアの）台座だった気がしますね。社内から「でかすぎるんじゃないか?」という意見も出ていて。

――最初に出してきたんですか、それともデザインで？

河原：「邪神像」というコンセプトだったのでボリュームあったんですよね。最初の企画書に書いてあるんですけど（笑）。

井上：薄いバージョンもあったんですよね。「でもインパクトがないね」「本当?」とか言いながら最終的には今の台座になりました。

柳沢：台座に凝ったフィギュアが当時はほかになかったんですよね。なのでここで差別化できるんじゃないかと。

――台座のデザインもNiθ̂ さんがされていますよね。どういった流れでこのデザインに落ち着いたんでしょうか。

河原：わりとなし崩し的だった気がします。Niθ̂ さんから（デザインが）あがってきちゃったし（笑）。

――では、デザインをお願いしたのがすんなり来た感じですか。

河原：一応妥協案として（台座を）外せるようにしようというのはありました。標準的なフィギュアケースだと収まらなかったりする場合があるので。

――ほかにも気をつけた点などはありますか？

河原：さらに台座の話で申し訳ないんですが、台座の色も本来は大理石調のような色合いだったんですけども「でもこれ再現できないじゃん」と。だから、レヴィアタンだけちょっと変わってるんですよね、今見ると。

井上：確かアスモデウスの撮影でホビージャパンさんにうかがった時にレヴィアタンの彩色原型が撮影室に置いてあったんですよね。大理石調だったのを見て「え、これ生産できるんですか、かっこいい！」「よしじゃあうちもやるぞ！」とルシファーの彩色原型を塗装で大理石調にしたんですよ。当然彩色原型班の手作業なのでその工程ではできるんですけど、結局成型の時にまったくうまくいかないんですね。（台座の）天板だけだったらプリントや水転写でできるんですけれども、台座の本体部分を塗装ないし、プリントでやるっていうのが難しくて。金型に入れる樹脂に何色かチップを混ぜればマーブル状のものが作れるんですが、混ざり具合も違えば毎回色の偏りも違うんで、はっきり言って量産性も再現性も全然なかったですね。AMAKUNIさんが彩色原型でやってたけど、生産はうまくいかないねってこちらではそういう結論になって。あとで聞いたらAMAKUNIさんも「あれは無理でした」と。

柳沢：うちもまったく同じ状況でした。最初は塗装で再現しようとしたんですが、塗装だと工程が追いつかないって言われて。それで、井上さんが仰ってたみたいに樹脂を混合し、チップが混ざりきる前に射出するという製法にしました。でも、パカッと割れちゃったりとか、不良率も非常に上がってしまいました。なので次の作品からは一色にしました……。

――Niθさんにお聞きしたいんのですが、ご自身のイラストが立体化されて嬉しかった点や気に入ったポイントはありますか？

Niθ：絵より全然いい感じじゃんと思って。指摘に関しても些末なことしか言った覚えがないというか、言いましたっけ？

河原：いや、記憶にないですね。

柳沢：Niθさんからフィギュアについてのリテイクをいただくことはまずないですね。

Niθ：正直な話、今のフィギュア業界の、例えばオーキッドシードさんもAMAKUNIさんもそうですが、技術が極まっていると思っているので、こちらから何も言うところがないんですよね。むしろ俺のイラストより全然イケてんじゃんって(笑)。やはりこの企画はフィギュアに押し上げてもらったところがあると思っています。例えば今は『七つの美徳』とかも出してますけれども、（新規企画の）スタートって賛否両論あるんですね。でも立体化してもらうとコロッと反応が変わったりするので『美徳』のシリーズも楽しみです（笑)。

――製作していく中で、イラストだけではわからない点の資料をいただいたものやお話されたことってありますか。

井上：そうですね、基本メインビジュアルは正面なのでバックのデザインと、あとは例えばサタンとかだとマントがあるので、マントを外した状態のデザインとか、そういう外に出さない資料を結構作成していただけたので製作に関しては特に足りないものはなかったですね。

――フィギュア化に関してオーキッドシードさんからフィギュア化する場合の方向性の指定や要望などはあったんでしょうか？

井上：河原さんの方から、Niθさんのデザイン案を確定前の段階で見させていただいてました。デザインが何タイプかあるキャラに関してはこれが良いとか、あとはやはりイラストなので、パーツが浮いてたり、固定されないデザインになっているモノに関しては立体化が難しいので。

Niθ：（サタンのデザイン案を見ながら）これとかそうですよね。

井上：はいそうですね。サタンは難しかったですね。

Niθ：サタンに関しては色々とやり取りしましたよね。僕的にはイメージ図で描いてるつもりなんで、これを立体化するのは難しいという話になって、そこで「あ～どうしようって」最終的には繋げたりして。

井上：イラストでは腰のパーツが浮いていたので、せめてパーツの両端だけでも繋げてほしいみたいなことはお願いしましたね。

Niθ：絵描きとしては、お尻のラインを出したいというのがあって、元々はくっついていたんですが、これをスカートみたいに上げてやろうとデザインしたら、そういう話になったんですよね。

Niθ：これくらいですか。もっとほかにあったかもしれないなぁ。

河原：やはりベリアルかな。

井上：ベリアルはかなり注文を出しました。

河原：「中身どうなってくっついてんだ」みたいな。

一同：ああ～。

井上：実際生みの親に聞かないと分からないですもんね。これは確かに難航しました。

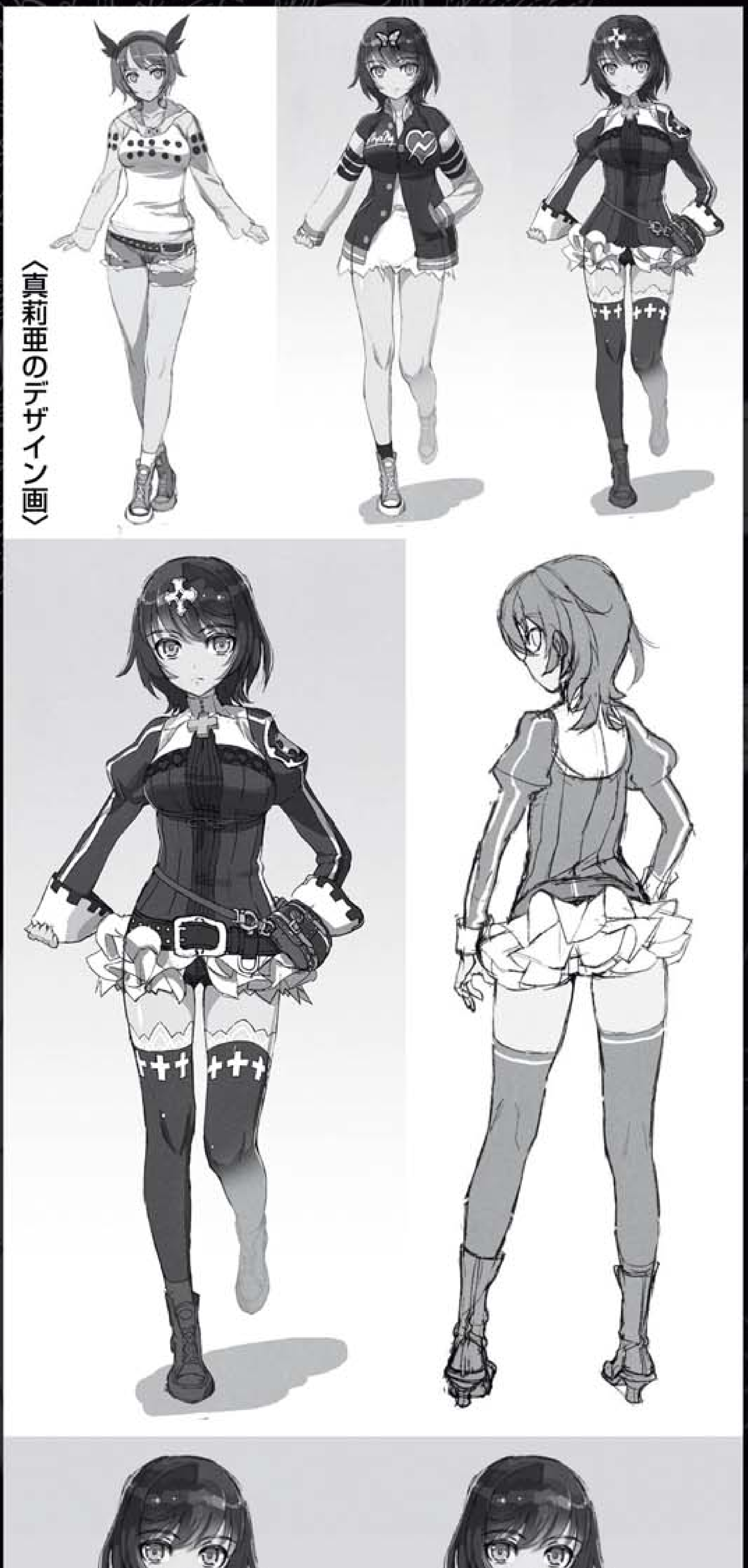
Niθ：当時は（業界的にも）デカいフィギュアが流行っていたんですよね。それで後発なのもあり、埋もれないようにと考えていました。そもそも『七つの大罪』というコンセプトからズレてる８体目、９体目な

「七つの大罪は誰もが参加できる幅が広いのが魅力です」Niθ

「いつかアニメ化されたらいいなと思っていました」河原

「フィギュアならではのギミックを追求していきたいです」井上

「アニメより俺のフィギュアの方がエロいと密かに張り合ってます」柳沢



〈真莉亜のデザイン画〉

のでインパクトを持たせないといけないかなと、どんどんデカくなっていった記憶がありますね。このふたつに関しては、もうなんでこんなデザインにしたのかよくわかんないですね。「あれ〜?」って（笑）。

河原：アニメの人も大変だったって言ってましたね。

――今回アニメオリジナルキャラクターで真莉亜が登場しました。彼女のデザインもNiθさんが担当されたと伺ったのですが、アニメ制作側から打診されたのですか？

河原：そうですね。アニメの監督から人間の女子高生を出したいというお話でした。

――デザインされる中で制作側からどのような要望がありましたか？

Niθ：要望もあったので…… あった？ かな？ ちょっと忘れちゃった。

河原：佐◯木希みたいな感じ。みたいな 、謎の指定がきました（笑）。

Niθ：デビュー当時の佐◯木希っていう。

井上：すごいピンポイント（笑）。

Niθ：だから、ちょっとボブみたいな短い感じになりました。あと、単純にフィギュアって髪の毛のボリュームで空間構成をするという要素があるんですよね。『百花繚乱』から長いことロン毛の子ばかりをデザインしてきたこともあり、アニメ版権のキャラならいいかなと思って。短い髪型という依頼が来たので大喜びでショートカットにしました。やはりロン毛って描くのが面倒なんですよね。

――真莉亜はボブヘアというのも珍しいですが、制服の下がスカートじゃなくパンツなのも珍しいですよね？

Niθ：そうですね。このアニメ企画が動き始めたのが2～3年前で、巷では割とホットパンツが流行っていたじゃないですか。でも、フィギュアって立体だから、下から眺めてパンツが見えるのはひとつの大きなバリューになるんですよね、なのでやりたくてもやれないという。例えばレヴィアタンは元々はホットパンツとかどうですか？ と提案したんですが、速攻で却下されたんで（笑）。まあ、最終的にはショーパンなんですけども。

柳沢：レヴィアタンに関してはこのデザインになったお陰でパンツがなくて造形できなかったんですよ。で、どうやってアソコを隠そうかなと思案した挙句に絆創膏を貼るという手段に出たんですよね。

――絆創膏でパンツ代用案はどこから出たものなのですか？

柳沢：つまり、「パンそうこう」ということですか。

井上：「パンそうこう」なんだ(笑)。

Niθ：誰だろう…どいつだ？ そんな悪いこと考えるのは(笑)。

河原：僕らも覚えてないですね。

――キャラクターのデザイン段階ではなくて？

Niθ：昔のことはもうだいぶ忘れてるんですよね。だって、デザインしたの5～6年前ですよ。細かい時期までは覚えてないですけど。

柳沢：確か最初「パンそうこう」は造形で再現していたんですけど、どうしても量産できないということが後から明らかになりまして。それで、やむを得ずシールにしたんですが、逆に“剥がせる＝衣装着脱できる”と好評を得まして、それから味を占めて“股間にシールを貼る”フィギュアをAMAKUNIで作るようになったんですよね。

河原：企画書見るとやはりNiθ さんですね。

井上：あ、そうですね。

Niθ：僕かぁ。最低ですね。

一同：(笑)。

井上：でも、欲望が出てるのが良いですよね

――欲望に忠実になった結果、最高のデザインができたっていう。

Niθ：ですよね（笑）。

――今回のアニメ化では原作の前日談が描かれましたが、アニメ化が決定した際はどのような話になると思っていましたか？

河原：「コミックファイア」の方で連載しているコミカライズ版があるんですけど、僕はああいう話なのかな？ と思っていました。信者のと

ころに魔王が来るみたいな話になるのかなと。

―― 各魔王がピックアップされるオムニバス形式という感じでしょうか。

河原：まあ全然違ったんですけど（笑）。

―― では、アニメのストーリーは完全にお任せだったんでしょうか。

河原：基本的にはそうです。

―― 皆さんはアニメ化したことでどのような作業をされたのでしょうか？

Niθ：僕はアニメ用のちょっとしたデザインでしょうか。

井上：ベリアルの「グノーシス」を装着する前の私服というか正装のデザインはNiθさんなんですよね。

Niθ：そうですね。ベリアルの1話の衣装と十束真莉亜……。そのぐらいでした。

―― アニメになった際に印象に残っているデザインはありますか？

Niθ：1話でレヴィアタンの使い魔が増えてるのが面白いですよね。こんなにいっぱい居たのかって。

―― あれはアニメ側のオリジナルってことですか？

Niθ：あと私服とかもいっぱい見られて楽しいですよね。

―― 私服のデザインや他キャラを担当されたりはされたんですか？

Niθ：いえいえ。僕はもう、ふたつみっつくらいですよね。

河原：そうですね。

Niθ：僕はもう本当にできあがってきたもの（放送）を見て楽しんでいた方なんで（笑）。

―― 原作側としてはイラストから立体、そしてまた二次元へと落とし込まれているわけですが、作画やアクションなどのご感想は？

井上：フィギュアのディテールは詰め込めるだけ詰め込んであるデザインなんですよね。もちろんアニメで動かすというのは難しい情報量なので、結構簡略化されているなぁというのは感じました。僕的にはここをこう簡略化するのかっていう。やはり人によって度合いや形状が違うので「あぁなるほどな」と参考になることが結構ありました。

―― 具体的にはどの辺りか覚えていますか？

〈ベリアルの正装〉

井上：ツノですね。Niθさんのイラストはツノの情報量と立体表現が明確なので。マモンのツノはアニメだと断面がハート型みたいになってまして、横から見るとちょっとモコモコしているんですよね。

Niθ：知らなかった……。そうなんだ（ボソッ）。

井上：弊社で担当したキャラなのでそこが若干違うなと。真ん中がヘコんでるんですよね。だからNiθさんのデザインと逆のとらえ方になっていて。

Niθ̂：詳しくは見てなかったけど確かにね。
―― 動かすのに複雑な形状だと影とかラインが大変ですもんね。アニメのキャラデザされた方も位置の調整などでかなり苦労されたと。
井上：そうですね。特にマモンのツノは顔の横に生えてますし、難しいだろうなと思いました。ルシファーも難しいですよね。サタンやアスモデウスみたいに上とか外に生えているのはまだ楽そうですけど。
河原：やはり絵だと1カットのこの角度だけっていう決め打ちで描かれちゃうので。ぐるっと回り込んだりするカットが多いでしょうからね。「止めのカットで綺麗に魅せるのを主軸に置きたい」というスタッフの意見は聞いていたんですけど、それでもやはり限界はあるでしょうし、アニメだからそこは仕方のないところだと思います。
井上：あとはアイラインが髪の毛と同色っていう点でしょうか。Niθ̂さんの絵はどちらかというと目の色とアイラインを合わせていることが多いんですね。アニメは髪の毛と合わせているので、例えばベリアルとかはNiθ̂さんのイラストと比較するとちょっと違うんですよ。
Niθ̂：これはあれですね。これも5～6年くらい前ですけど、マツ毛の中に色をのせるっていうのが流行ってたんですよね。それで髪の色と目の色が同じキャラを見て「は～、こういうのが流行ってるんだ。俺もやろう」って思って、何故か目の色に合わせちゃったんですよ。それでしばらくしてから「あ～！」って気づいたっていう……。もう元に戻せなくなっちゃったんですよね。いやーもう今更変えられない。
一同：（笑）。
Niθ̂：「これがNiθ̂節じゃい！」っていうのを押し通すしかないって感じなんですよ。よくよく考えたら、目の色がマツ毛になってるっておかしいんです。
井上：当時ベリアルのデザインを見せてもらったときに右目のまつ毛が黄色、左目は赤って配色になってまして、僕も当時違和感が出て河原さんに「これ直さないんですか？」みたいなことをちょっと食い下がりました。
河原：あー言われた言われた。
井上：オッドアイのキャラは『大罪』でも初だったので。マツ毛が目の色に合わせているっていうのはそこまで分かんないんですけど、左右違うのはさすがに違和感が強かったですね。
Niθ̂：ですよね（笑）。
井上：「これどうしたらいいですか？」って……。なので、一応「邪神像」はNiθ̂さんのイラストにある程度合わせていますね。
―― ちなみに、その判断は？
Niθ̂：そのまま僕が決めましたっけ？
河原：そうだった気がします。
Niθ̂：そうでしたっけ。覚えてないなぁ。でも、だいぶ年月経ってて後に引けないような状態になってた気がしますね（苦笑）。
―― その中でアスタロトのマツ毛は青ですよね。
Niθ̂：それもまた勘違いなんですけど、その当時目の中にハートマークとか模様を入れるのが流行ってたんですよね。「ははぁ、こういうのが流行ってるんだな」と思い、マツ毛の色だと勘違いしてスッと塗ってそのまま提出してしばらく経ってから気づいたという。何かそんなんばっかりですね。でも、最近これはこれでひとつの個性かと割り切るようになりました。
柳沢：フィギュアでもちゃんと再現していますよ。
―― オーキッドシードさんのベリアルのマツ毛は左右で赤と黄が……。
Niθ̂：なんかすいません。
井上：いえいえ。弊社の作品はお姉さんキャラが多いので、顔も目も小さいんですよね。なので、イラストみたいにマツ毛の部分に色を綺麗にのせるのが少し難しいんですよね。で、うちの初期の製品ではそれをしてなかったんです。でも、ベリアルは最後発なのと、あとAMAKUNIさんの作品はかなり再現してたのでうちもやらないとなってなりました。
―― AMAKUNIさんはそこは気にされなかったんですか。
柳沢：気にはなったんですけど、元イラストが素晴らしいのでこれはこれで個性だろうと。やれることは全部やってみようといった感じで、入れられるディテールはとにかく詰め込む方向でやりましたね。オーキッドシードさんはパーツが多いキャラも多く、すごい大変だったと思うんですが、こちらで担当したレヴィアタンやベルフェゴールは、服を脱がせる前提で考えると、ぴったりした服の方が実は脱がせ辛くて、プロポーションを保つのがすごく大変でした。特にベルゼバブは、ただでさえ服に余裕がないのと、体型にも余裕がないので、服がどうしても脱がせられなかったんですよ。やむを得ず胸のところだけ外す方式にしました。
井上：ベルゼバブの彩色原型を見たときにすごい良いなって思ったんですよね。目もイラストの表現が再現されてますよね。こちらは自社のフォーマットに落とし込む方向性が強かったので、ここまで絵のテイストをきっちり再現してるのは良いなと感心しました。それらもあったのでもう少しイラストに寄せようと変化していきましたね。
―― お互いに差別化しないといけない点で一番意識したのはどの辺りですか。
柳沢：僕がNiθ̂さんのシリーズを手掛けるときは、必ず目とその絵のテイストにどれだけ近づけられるかを毎回テーマにしています。Niθ̂さんキャラの目ってイラストを見ても分かるんですけど、パーツ数がすごいんですよ。普通の目じゃなくて、黒目の中にも光彩があったり、その中にも光鱗みたいなのがあって上と下でちょっと絵が違うとか、そういうことが明確なので、それをディテールとして増やせば増やすほどフィギュアの見映えもどんどん上がっていくんですよね。だから、Niθ̂さんの目を描くのだけはすごく上手くなってしまいましたね。絵はめちゃくちゃ下手なんですけど「Niθ̂さんの目ってこうだから」って説明するのだけはこの数年間ですっごい上手くなってしまいました（笑）。
井上：それと、Niθ̂さんのマツ毛の描き方とかも特徴があるんです。僕もいくつも開発に関わってますから、大体テイストは理解しているつもりなので、Niθ̂さんのまつ毛はピンピンじゃなくて三角のジグザグが多いので、それをなるべく上手く再現するようにしています。あとはうちは見映えが良いキャラを選ばせてもらったっていうのはありますね。その分、情報量が多くちょっと作るのがヘビーなのばかり選んでるなというのはありましたが（笑）。
―― Niθ̂さんはこうやって自分の絵の一部を細部にわたって解説されるなんて機会なかなかないですよね。
Niθ̂：うん（笑）。
―― AMAKUNIさんはアニメを見ていて担当したキャラクターが出てきたときに気になったところや印象に残った点はありますか。
柳沢：そうですね。まず思ったのは、自分の中で思っている像と結構違ったなというのはありました。「大罪」シリーズのフィギュアを作った時は、そのキャラクターが腹減りキャラだったり、ヤキモチやきキャラだったりと、ふわっとした情報だけしかない中でキャラを造形していたんです。なので、そのキャラを自分なりに掘り下げてポーズに反映させたり、顔の表情に反映させたんですが、特にレヴィアタンなんかはもうちょっと可愛げがあるのかなって思ってたんですけど、アニメ見たら割りと怖いキャラになってたので「あ、こんな怖い子だったのか、フィギュアももっと怖くすればよかったかな」と思いました。
―― Niθ̂さんはアニメを見ていかがでしたか。
Niθ̂：確かにそれはありますね。えっこれこんなキャラなんだとか（笑）。

河原：そういう意味ではルシファーも結構違いましたね。原作サイドではもっとバカなんですよね。普通にカッコイイ感じになってたので。でも、その辺はアニメのクリエイターさんがこうした方が良いと考えてくれたので、それを無下にしても逆に良いことはないですからね。

Niθ：ストーリーやキャラクターの造形に関しては河原さんの担当ですし、僕はシチュエーションやキャラクターを聞いて絵を起こすだけですので。確かに「おお〜、なんか違うぞ」っていうのはあったんですが、これはこれで良いなと思いました。そういう懐が広いのも『大罪』のひとつの魅力だと思っているので。

河原：そもそも『七つの大罪』のコンテンツ自体ふわっとしてるんですよ。読者投稿のページがあって、そこでキャラが勝手に作られたりすることもあるんですよね。なので、みんなの中でキャラの中身がそれぞれ違っているんだと思います。

Niθ：最近いろんな作品の流行りですよね、ある程度ぼんやりとしたコンテンツを作っておいて、お客さんなりクリエイターなりがどんどん手を入れて膨らましていくという。だから、みなさんの『七つの大罪』がそれぞれあると思うんですよね。僕と河原さんや井上さんも柳沢さんも、みんなたぶん微妙にズレてると思います。語尾や出身や年代など設定もすごいぼんやりしているので。だから、そこがこの企画の最大の魅力だと思いますね。

── ちなみにエッチなシーンも魅力なわけですが、その辺りの感想はいかがですか？

Niθ：そりゃ上には上がいるなって思いますよ。大丈夫なのかなって心配になります。僕も相当変態ですけどね。3分に1回くらい「あーっ」て言いたくなるシーンがあるんですよ。大丈夫なんですかね。BPOとかにめっちゃ怒られるんじゃないですか？

── 放送時間帯は気にされているみたいですが、やはりそこは楽しみですか。

Niθ：楽しみですね。勉強にもなりますし。「こんな性癖があるんだ」「なんか舐めてるぞ」って、大丈夫なのかこのアニメって（笑）。

── 確かに1話に1回くらいのレベルで舐めてますね。

Niθ：うん。全然ダメじゃなくて褒め言葉なんですけど、すごいなっていう（笑）。

── やはりアニメのように動く媒体だと印象は違いますか。

井上：イラストなりフィギュアっていうのはそのカットで完結するワケじゃないですか。アニメは動くし声も入っているし、全然印象が変わりますよね。特に「懺悔録」のコメディーなのとアニメ本編のシリアスで、すでにかなり違いますよね。

柳沢：声が着いたり動いたりっていうのは嬉しいですよね。単純に、いちユーザーとして見てるんですけど、自分の作ったフィギュアが動いてるようなそういう気持ちになります。

── アニメとフィギュアを比べるわけではないですが、Niθさんのイラストが二次元化、三次元化されたことでそれぞれに良い点がありますしね。

柳沢：そうですね。だから、アニメ見ながらちょっと張り合っているところはありますね。「いや、俺のフィギュアの方がここは出来がいい」とか、「俺の作ったお尻の方がアニメよりエロいんだ」みたいな。やはり顔は自分が作ったフィギュアの方が絶対可愛い（笑）。

井上：作った側なんで、そういった拘りはありますね。

Niθ：自分なんかは「今風に可愛くなったな」って思ったり、立体は立体で「ああ、すっげぇ精巧だ」って思っちゃう。やっぱ僕もそう思った方がいいんですかね（笑）。

一同：（笑）。

── 今後、『七つの大罪』シリーズを問わずご自身のジャンルで挑戦していきたいことなどはありますか？

Niθ：『七つの大罪』ってわけじゃないんですけど、『七つの美徳』という企画が立ち上がりました。これは『大罪』シリーズと地続きなんですよね。

河原：そうですね。

Niθ：今回もキャラクターデザインを担当しています。立体化も皆さんに追々お見せできるかと思います。でも、最初これ羽は大変だから外そうぜという話だった。

柳沢：ははははは（笑）。

Niθ：でも、それだともう天使じゃなくなるので、無理言って入れさせてもらいました。なので、またボリュームがデカくなってメーカーさんには迷惑をかけちゃうな。と思うんですけれど（笑）。

── そのメーカー側の柳沢さんと井上さんにお聞きしたいのですが、今後のフィギュア業界での課題や挑戦で考えてるところはありますか？

柳沢：そうですね。AMAKUNIとしてはギミックを強化していきたいなと思っています。個人的にフィギュアの造形で再現できるレベルは、結構限界まで来てるのかなっていう風に感じていて……。例えばこの前発売した『美徳』のミカエルだと、台座が光るという別方向の「持ってて良かった」という満足感を感じてもらえる商品になったと思います。造形力はもちろん落とさないのが大前提なんですが、それとはまた違った形で面白いなとか、AMAKUNIって頭の悪いこと考えてんだなと思ってもらえるといいですね。今回のミカエルの光る台座はおかげさまでかなり好評なのでありがたいです。

井上：柳沢さんが先ほど仰られたように、フィギュアのクオリティーや造形的な部分というのは、本当にもう頭打ちだと僕も思っています。弊社は原型を含めて人の手作業がメインですが。でも、最近はデジタルで原型を作られる方が増えていて、やはり手での再現性とデジタルでの突き詰め方ですと、効率的にデジタルの方が緻密で、精巧なんですよ。なので、手作業でこれ以上上乗せするのは時間的に難しいなと感じています。今回、「新約邪神像」を作る時に、柳沢さんの方から発光台座の提案をいただいて弊社の商品にもそれを搭載させていただいてるんですけど、それはこちらが考えていなかった方向性でした。一方、フィギュアとして何ができるのかっていうと、やはり衣装の着脱衣が中心だと思うのですが、着脱するのか、もしくは差し替えで別の形態、裸体にできるだけじゃなくて、例えばポーズが微妙に変化できたりとか。僕はどちらかというとフィギュアならではのギミックを追求したいなと思ってます。

── 最後にNiθさんに締めていただきたいのですが、『七つの大罪』という企画についての感想や今後の展開に期待することなどはありますか？

Niθ：さっきも少しお話ししましたが誰もが参加できる懐の広いコンテンツという点がやはり魅力のひとつですよね。仮定の話ですがスマホのゲームとかは、すごく相性いいかもしれませんよね。ああいうノリに僕は近いかなって思います。『クイーンズブレイド』もそうでしたよね。すごく入り口が広い「そして深めていくのはあなた自身ですよ」っていう。原作サイドであるホビージャパンも、めちゃくちゃ掘り下げてる訳じゃなくて、そこもまた良い戦略だなって思います。だから、もっと薄く薄く広げるって言い方はおかしいかもしれませんが、そういったことができればもっと面白くなるんじゃないかな、と思います。

［監督］よしもときんじインタビュー

アニメ化企画当初から『sin 七つの大罪』のすべてを見てきたよしもときんじ。『大罪』を描くうえでのポリシーや制作時の苦悩、オリジナルキャラクター「十束真莉亜」の誕生などファン垂涎の制作秘話をお話いただいた。

よしもときんじ

アニメーション監督。代表作は『クイーンズブレイド』シリーズ（監督）、『機巧少女は傷つかない』（監督）、『勇者になれなかった俺はしぶしぶ就職を決意しました。』（監督）など。

魔王が背負う“罪”を真正面から描く作品を作りたい 人間の身で魔王の責め苦に耐えた 真莉亜の「芯の強さ」

――『sin 七つの大罪』（以下、大罪）の監督を引き受けることになった経緯を教えてください。

よしもと：森尻プロデューサーから「この作品の企画書を作りたい」とお話をいただいたのがきっかけです。実はこれまで（キリスト教における概念の）「七つの大罪」は題材的に扱いづらくて少し距離を置いていたのですが、ホビージャパンさんの『七つの大罪』を知るうちに「魔王が背負う“罪”を真正面から描く作品ならば作りたい！」と思えるようになっていきました。メインライターの鈴木さんと企画書を作るのも楽しかったですし、「七つの大罪」だけでなく「七つの美徳」についても知識を深めることができて個人的にも実りがありましたね。

――企画段階ではどのようなストーリー案が出ていたのでしょうか？

よしもと：法廷劇や地獄の会社を舞台にしたオフィスドラマなど色々な案が出ました。「大罪の首座を取り戻そうとするベリアル」をメインに据える案も出たのですが、原作で設定されている物語の後を描くことになるので断念しています。このベリアル案の要素を取り入れて「大罪の首座に君臨するベリアル」VS「天界から堕ちてきたルシファー」を主軸にしたストーリーを固めていきました。そこに、「壮大だけど笑っちゃうようなエロバトル」を。これを説明するのは難しく、きっとよしもとの頭の中はカオスだと思われたかもしれません（笑）。

――天界、地上界、地獄を描くうえで工夫した点や苦労した点を教えてください。

よしもと：天界は、『大罪』ではあえてはっきりと描写しないようにしました。逆に地上界と地獄の設定やディテールは決め込みました。地上界に関しては、できるだけ色々な舞台を用意したいと考えました。それで、エピソードによってルシファーたちが訪れる街を変えています。

――実際、作中にマイアミやロンドンといった具体的な場所が登場しました。

よしもと：アスモデウスがリゾート地に颯爽と登場するイメージが湧いたのでマイアミにしました。“色欲の魔王”のイメージからするとエネルギッシュなアメリカ西海岸を舞台にしてもよかったのですが、どこか終の楽園というか寂れたというか、独特の雰囲気を持つマイアミをイメージしました。意外にアスモデウスのキャラクターを引き立てることができたと思います。3話が明るくカラフルなのに対して4話のロンドンを「灰色の街」にしているのは、魔王たちの信者集めへの取り組みの違いを見せてキャラ性にリアリティーを持たせたかったからです。

――オリジナルキャラクターの十束真莉亜を登場させた意図を教えてください。

よしもと：これも魔王たちにリアリティーを与えるためです。魔王たちはそれぞれ“罪”を背負っているため、かなり偏っています。まあ普通じゃない。ただ、様々な感情を乗せていくと人間味が強くなりすぎてしまい「魔王らしさ」がブレてしまう気がしてならなかったのです。それで「普通」が必要になったのです。あたりまえの「人間」、それが真莉亜です。『大罪』はほぼ女性だけなので、中には「神父にしよう」という案も出ました。でも神父にすると「神と魔王の戦い」のカラーが濃くなってしまうので、真莉亜を“ミッションスクールに通う女子高生”に落とし込みました。真莉亜の学校に立派な聖堂があるのは神父要素の名残です。

――制作中、特に苦戦したところはどこでしたか？

よしもと：オリジナルストーリーなので、話の進め方や修正の基準を決めるのに悩みました。とにかく時間が足りない。作りながら直していくというか、シナリオから絵コンテ作業に移った段階で大幅な修正を加えることも多かったですね。僕と松原（貞姫）さんがシナリオを担当した4話も、絵コンテ段階でバトルシーンを削ってマモンの授乳シーンを加えています。シーンを増減すると話の前後が合わなくなってしまうので、他シーンの修正にすぐ取りかからなくてはならなくなりました。アフレコぎりぎりまでセリフを調整していました。

――ストーリーの整合性を取るためにどのような修正をしたのでしょうか？

よしもと：『大罪』にかぎらずどの作品に携わっていても難しさを感じます。丁度よく調整したつもりでもオンエアを見て、「もっと違うアプローチがあったかな」と自問自答することの繰り返しですね。それでも最終的には視聴者が感じたことがすべてなので、僕たちはより多くの方に楽しんでいただける作品を目指して制作に励むしかないのだと思っています。

――『大罪』で「これはやらない」と決めていたことはありますか。

よしもと：魔王が背負っている“罪”にウソをつかないよう心がけていました。単純にレヴィアタンが嫉妬をしなくなってしまったら“嫉妬の魔王”とはいえないですよね。例外的に“虚飾の魔王”ベリアルは自由にウソをつけるキャラクターでしたが、自らの罪に背く行動を取れば「負ける」というルールを設けていました。そのため10話で魔王たちに本心をさらけ出したベリアルの敗北は必然だったと言えます。

――『大罪』の魅力でもあるサービスシーンで意識したポイントはありましたか？

よしもと：サービスシーンが「必然のエロ」になるようにしたことです。イメージの入り口となる1話には入れましたが、『大罪』はあくまでシリアスベースのお話なので、きつい責めは引かれてしまいます。また、エロに寄せ過ぎると放送できなくなってしまいますし、話の方向性が変わってしまうんです。なので3話の“色欲回”をピークにして、あとはストーリーに沿ってサービスシーンを入れていくように調整していました。特に9話で地獄に舞台が移ると一気にラストに向かってストーリーが進んでいくので、地上界にいるうちにどれだけサービスシーンを詰め込めるかが勝負どころでしたね。余談になりますが、サービスシーンの放送規制に使われた「魔法陣」は定番の「謎の光」やモザイクなど、色々な隠し方を検討した末に決めたものです。シンプルですが『大罪』らしくてよかったのではと思っています（笑）。

――監督がもっとも動かしやすかったキャラクターは誰ですか？

よしもと：正直に言って、全員動かしにくかったです（笑）。初めのころは真莉亜がまったく動いてくれなくて手を焼きました。レヴィを動かしてようやく真莉亜も動いてくれたかと思えば、今度はレヴィの動きが止まってしまって…。それぞれの動きが成立するようになるまでは「真莉亜がいなければもっとうまく動くのに！」と支離滅裂なことを思っていました（苦笑）。

――キャラクターを動かすうえで気をつけていたことはありますか？

よしもと：常に「全員が主役になれる」と思いながらキャラクターを動かしていたことで

しょうか。『大罪』は原作がフィギュアという珍しい作品なので、視聴者の皆さんの中には「推し魔王」のフィギュアを持っている方がたくさんいらっしゃると思います。たとえばベルフェゴール推しの方は「ベルフェ回が見たい！」とフィギュアを拝みながら念じてくれたかもしれません（笑）。あくまでルシファーが主人公なので、完全に立場を入れ替えることはできませんが「今回はこのキャラも主役」と意識しながら見せ場を作るようにしていました。もっと登場を増やして掘り下げたい部分もあったのに…というのが心残りです。

―― ミカエルは『七つの美徳』のキャラクターですが、なぜ『大罪』に登場させることになったのでしょうか。

よしもと：もともとは魔王と天使が戦う話を入れたかったのと、『大罪』のアニメ化と同時期に『七つの美徳』も大きく展開すると伺ったので、ミカエルを登場させました。アニメとしてはルシファーが下克上して終わるのが一番きれいな形ですが、「その先の戦い」を描くことで最終話にインパクトを持ってきています。ちなみにミカエルは、キャラクターデザインの安田（祥子）さんに無理を言ってアニメに登場できるように設定を仕上げていただきました。制作期間が短かったにも関わらず、とてもいいデザインをいただけて感謝しています。

―― もっとも気に入っているキャラクターを教えてください。

よしもと：みんな魅力的ですが僕はアスタロトが一番好きです。ただ、ミュージックビデオ（以下MV）の「ASUDEKO」を見たときに改めて思いましたが「七つの大罪」のメンバーは一人ひとり主人公になれるキャラクター性を持っていると感じました。

―― アスタロトが一番と感じるポイントはどこなのでしょうか？

よしもと：一目見てビジュアルが飛び込んできませんか？　アスタロトには妙に愛着が湧きます。アニメでも特別枠というか、ほとんど地上界で生活させてみたり他の魔王たちとは少し立ち位置を変えてみました。

―― 作品を象徴する話数やシーンを教えていただけますか？

よしもと：やはり２話で真莉亜がレヴィに打ち勝つシーンですね。“嫉妬の魔王”らしく嫉妬心を暴走させるレヴィや、人間の身で魔

王の責め苦に耐えた真莉亜の「芯の強さ」をうまく表現できたと思います。レヴィが魔王として未熟だったこともありますが、本来人間は魔王に勝てる存在ではないので、視聴者に真莉亜が「ひ弱なだけの女の子ではない」と印象づけられたのではないでしょうか。

―― 『大罪』のキャストについて、監督が抱いていたイメージはありましたか？

よしもと：作品の特性上、お色気担当の方たちから先にキャスティングさせていただいたのですが、喜多村英梨さんは最初から「ルシファー役で」と考えていました。僕の中でルシファーは「最後は神に敗れる」というイメージが強かったのですが、たとえ負けるとしても逆らい続けるルシファーのことをすごく魅力的に感じています。劇中のルシファーにはとにかく突っ張ってもらいたかったので、ツンな演技が得意な喜多村さんにお願いできて本当にラッキーでした。もう、「強気な声が色っぽく乱れていくのは最高！」と思いましたね。

―― アフレコ現場の様子で印象に残っていることはありましたか？

よしもと：お色気担当の皆さんが率先してテンションを上げてくださるので、いつも録音ブース内がピンク色の熱気に包まれていました（笑）。とにかくキャスト陣の熱はすさまじく高かったです。セクシーシーンで苦戦されていた方はいましたが、皆さん最後は見事に演じ切ってくださったので演出的にもとてもスムーズな現場でした。

―― キャスト陣から演出面で影響を受けたことはありましたか？

よしもと：僕はシナリオを書くとき、必ず言わせたいセリフや決めセリフを先に考えるのですが、手探りに「これは言い過ぎかな？」と思っていたセリフがストレートに受け入れられるようになったことですね。例えば、「傲慢のルシファーが勝ちといったら勝ちなんだ」とか。水戸黄門に印籠を見せられたのと同じですね。キャスト陣の演技のおかげでシーンの説得力が跳ね上がったのだと思います。

―― MV「ASUDEKO」の絵コンテ・演出・作画監督はなぜ梅津（泰臣）さんに依頼されたのでしょうか？

よしもと：僕が梅津さんの作るエロティックなMVを見たかったのが最大の理由です（笑）。依頼するときも「梅津さんらしいエロでお願いします！」と念押ししてしまいました。想像通りのすばらしいMVが上がってきて感動しました、梅津さんやスタッフに感謝です。

―― ショートアニメ「懺悔録」の制作で印象に残っていることはありますか？

よしもと：懺悔録は製作委員会からいただいたシナリオのまま作っています。ショートムービーですので、少人数で集まって数日間集中して制作するスタイルで作業しています。配信1時間前に完成なんてことも。まるで同人アニメを作っている感じです。作業量はかさみましたが、僕にとってはとてもイイ息抜きになりました。

―― 「懺悔録」はハイテンションなお話が多いですよね。

よしもと：そうですね。思わずふき出してしまうエピソードもありました。レヴィがルシファーのパンツを盗む２話は秀逸ですね。この回の原画の方は「この表情のレヴィを描くことはもう一生涯ない！」と引き受けてくださいました（笑）。他の仕事も抱えながらですのが、丁寧に仕上げていただいたので、この２話だけで４ヶ月ぐらいかかっているのではないでしょうか。オマケ班は熱量の高い方が多かったですね。

―― 最後に視聴者に向けて、メッセージをお願いします。

よしもと：作品を見てくださった方に「面白かった！」と思っていただけることが僕にとって一番の幸せです。これからも多くの方に楽しんでいただける作品作りに全力で取り組んでいきたいと思います。

[キャラクターデザイン]
安田祥子×
[総作画監督]小関雅

瑞々しい感性で美しくも愛らしいキャラクターを描く若手実力派の安田祥子。子供向けからセクシー路線まで数々の作品で手腕を振るう小関雅のお2人に『sin 七つの大罪』制作スタートから現在に至るまでのエピソードをお話しいただいた。

安田祥子 やすだ・しょうこ
アニメーター、キャラクターデザイナー。代表作は『銃皇無尽のファフニール』(キャラクターデザイン、総作画監督)、『GRANBLUE FANTASY The Animation』(作画監督)、『サクラクエスト』(作画監督)など。

小関雅 こせき・まさる
アニメーター。代表作は『いちばんうしろの大魔王』(キャラクターデザイン)、『ハンドレッド』(作画監督)、『きんいろモザイク PrettyDays』(作画監督)など。

アニメを意識してキャラに寄せるよりも、自分が感じたイメージを出していこうと思いました。(安田)

──『sin 七つの大罪』(以下、大罪)のキャラクターデザインのコンペを受ける際のお気持ちはいかがでしたか?
安田:フィギュア化を前提にして作られたキャラクターたちなので見た目が華やかな分、線が多いんですよね。アニメにするには絶対に線を減らさなければいけないので「これを動かすのは大変だ!」と思いました(笑)。
小関:僕の場合はこれまでお色気系の作品を担当することが多かったのですが、その流れでコンペを受けさせていただきました。得意分野と思っていただけてありがたかったです。僕自身グラビアアイドルが大好きなので資料はたくさん持っているのですが、「呼ばれた以上は頑張らないと!」と思って新しい資料を買ってしまいました(笑)。
──よしもと監督から受けた指示で印象に残っていることはありますか?
安田:色々なキーワードをいただいたのですが、マモンのプロポーションについて「人妻感」と言われたことが一番心に残ってます(笑)。もっと具体的に言うと「団地妻」のイメージだとお聞きしましたので、マモンは見た感じ20代ですけど、年齢より少し上をイメージしてデザインしました。ちょっと色気のある奥様で、お腹周りが少しだらしない感じ。でもただダルッとしているわけではなくて産後ならではの肉感を出すようにしています。
小関:そうなんですね。マモンは30代前半くらいをイメージしてましたよ。叶姉妹のお2人だったり、ああいう感じを加味したいと思ってましたね。
安田:叶姉妹(笑)。そういえば私も打ち合わせで「ベリアルのプロポーションは叶姉妹のイメージ」と言われました。ベリアルはとてもメリハリのあるボディなので納得ですね。
小関:たぶん僕はここまではっきりとした指示はいただいてないのですが、もうエロ担当前提で呼ばれてるからですかね(笑)。「君はできて当然」みたいな印象が先走りしていると思うのですが、僕の場合は安田さんのキャラクター設定頼りです。初めて見たときからずっと「すげーなあ!」と思ってます。
──具体的にどこが一番すごいと思ったんですか?
小関:コンペが終わってしばらくしてから皆さんのデザインを見る機会があったんですけど、安田さんのデザインの完成度に驚きました。自分の描いた絵と比べてみて「これは落ちるわ」ってちょっと凹みましたね(苦笑)。正式に安田さんのキャラクター設定が上がってきたときはもう、言葉では言い表わせない気持ちになりました。
安田:ありがとうございます。今だから言えますけど実は最終選考まで残っていた方たちは長年セクシー路線の作品を担当されている方やベテランの方が多いとうかがっていたので、自分としては記念参加の気持ちが強かったです(笑)。それもあってアニメを意識してキャラに寄せるよりも、自分が感じたイメージを出していこうと思いました。まだ手元にフィギュアもなかったので公式サイトのイラストを見ながら正面図だけ描きましたね。あのとき深く考えすぎていたらまったく違う結果になっていたんじゃないでしょうか。
──攻めて正解だったということですね。ほかになにか心に残っていることはありますか?
安田:監督からシルエットで見ても元のキャラのフォルムがわかるようにデザインしてほしいと言われました。なのでキャラ特有のフォルム、魔王だと角や装飾などのパーツは簡略化し過ぎないように注意しています。角と言えば初めのころはかなり下の位置に描いてしまって、もっと上にある方がかわいい、といった指摘もいただきましたね。
──なぜ目やまつ毛にまで細かな設定が用意されたのでしょうか?
安田:キャラクターデザインの打ち合わせで「アニメでもキャラごとにしっかりと目を差別化したい」との意見を受けて修正を重ねた結果です。初期の設定では下まつ毛のラインが一般的なアニメと同じようにつながっていました。レヴィアタンの目はほぼ通常キャラの描き方をしていると言っていいのですが、ほかのキャラは影と上まつ毛と横のラインを分けてまつ毛を立体的にしています。白目と下まつ毛の間に境界線を引いているのは『大罪』の特徴です。アップになると処理が増えるので大変です(苦笑)。
──女体の描き方について意識されたことはありますか?
安田:そうですね。原作イラストは顔はかわいく体は立体的、といった感じだったのでアニメでもそのニュアンスを前面に出しています。監督からも「キャラクターの肉付きはなるべくよくするように」と指示があったので個々の肉感を意識しました。筋肉の流れも見せるようにしています。版権イラストなどで脚を上げたり動きのあるポーズをしているキャラがいたら、筋肉がどんな風に動くのか影をつけて描くようにしています。動きについてはフィギュアも参考にしましたしお風呂で自分の体を見て関節がどう曲がるか確かめたりもしました。小関さんのようにグラビア写真もよく見ましたね。
小関:(笑)。
安田:あとはキャラごとに、たとえばサタンは好戦的だから筋肉質だとか、マモンだったら子持ちなので人妻感があったりとか、ベルフェゴールだったらゲーマーだからほかの子よりもぷよっとしているかな、と考えながら描いていました。
──安田さん自身は「筋肉好き」だったりされるのでしょうか?
安田:どうなんでしょう(笑)。あまり意識していないんですが、服や靴下の上にぷにっと乗っている「ちょっとした肉感」が好きです。『大罪』だとベルゼバブやレヴィアタンでしょうか。それとベルフェゴールは下着がそのまま見えている子なので(筋肉の)影が入れやすくてイイですね。彼女たちのように見た目が十代の子たちは描いていてひたすら楽しいです。
──お2人にお聞きしたいのですが、作画で苦労した点はありますか?
安田:ベリアルとアスタロトのデザインは苦戦しましたね。ベリアルはどうしても右肩に装飾が集中していますし、アスタロトは肩の薔薇は減らせても腕の飾りは減らせないので元のシルエットを保つのが大変でした。ただ、5話を見てアスタロトがかなり激しく動いてもシルエットが崩れていなかったので「美しくまとめられてよかった」と胸を撫で下ろしました。
小関:5話のルシファーのアイドル然とした表情は難しかったです。普段のルシファーはどちらかというとかっこいいのに、あのシー

ンだけ妙にアイドル顔になってしまうのが自分の中では少し不安でした。一度すごくキャピキャピしたルシファーの顔を描いたときも「ルシファーから離れちゃったかな？」と唸ってしまって。短い期間でしたけどずっと悩みながら作業していました。

安田：あと『大罪』はキャラが多いので宣伝ポスターともなると9、10人くらい描かなくてはいけないのですが、画面がギチギチになってもボディラインは見せる方向でしたね。キャラごとに体型が違うので「このキャラはもっと胸を強調して」といった細かい指示を受けていました。それと今回初めてパッケージイラストを担当させていただいたのですが、レンチキュラー仕様のパッケージってあまり見ないですよね。角度によってキャラクターの衣装が変わるのが新鮮でした。

―― 総作監として監修作業で注意していた点はありますか？

小関：僕はまず最初に設定を逆さにして大体の形を覚えてから作業に入ります。普通に見るとどうしても「設定を見た気」になってしまうんですね。なので逆さまにして凝視する。そうするとしっかり形を覚えることができるんです。それで形がつかめなかった場合はフィギュアを見たりします。ちょっと特殊ですが大先輩の坂巻（貞彦）さんから教わった方法です。

安田：全然知らなかった。私は作画修正では特になにも考えないです。描く度に設定を見るのでだんだん形は覚えますけど、自分の記憶に頼りすぎないようにしています。そうしないと覚えたつもりになって手癖で描いてしまうんですよね。

小関：僕も作業が後半になってくると設定を元に戻して見てるんですけど、形を覚えたとしても手癖で描かないように注意しています。

――キャラデザと総作監というお２人の間でなにかやりとりはありましたか？

小関：僕は少し遅れて作業に入ったので安田さんとやりとりすることはなかったですね。

安田：そうでしたね。もうひとりの総作監のごとう（じゅんじ）さんとは何度か打ち合わせをしています。ごとうさんが疑問に思われている点をお聞きしながら魔王たちや真莉亜の設定を一人ひとり見て、新しい設定を描き起こしたり補足説明をつけたりしていきました。

小関：おかげで僕は作業に入った時点で安田さんたちの作監修正のコピーをいただいてます（笑）。その後も随時修正を見せていただけたのでとても勉強になりましたし助かりました。

安田：それはよかったです（笑）。ほかに梅津（泰臣）さんともミュージックビデオのレイアウト打ち合わせでお会いしました。そのころはまだキャラを練っている最中だったのですが梅津さんとお話ししてアスタロトの作画事項を増やしましたね。

―― オリジナルキャラクターの真莉亜は安田さんがデザインされたのでしょうか？

安田：真莉亜はNi θ̂ さんの描き下ろしイラストを元にデザインさせていただきました。制服案もいくつかいただいていたのですが、なぜか下のデザインはスパッツか短パンしかなかったです（笑）。スパッツを選ぶとアップのときに「下着のラインを見せてください」と言われそうな気がしたので作画さんたちが描きやすい短パンの方を採用しました。ぴっちりしたデザインなのでこれはこれで肉感が出てよかったと思います。

―― 真莉亜をデザインするうえでほかのキャラクターと意識して変えたところはありますか？

安田：魔王たちは少し人間離れしたプロポーションをしていますが、真莉亜はあくまで“人間の女の子”なので体の凹凸を控えめにしています。とはいえ真莉亜のスタイルは人間の中でも飛び抜けてよいと思いますけどね（笑）。

――小関さんは真莉亜と魔王たちとの違いでなにか意識したところはありますか？

小関：変な言い方かもしれませんが究極のところ魔王たちは“セクシー女優”で真莉亜は“アイドル”だと思っています。魔王たちはちょっと露骨なエロさを出して、真莉亜は清純な雰囲気を出すようにしてますね。エロの尺度としてイメージしてました。

――魔王たちと真莉亜のイメージをお聞きしたので、ミカエルに関するイメージもお聞きしたいです。

安田：ミカエルは『七つの美徳』シリーズがフィギュア展開するとうかがった時点でラフデザインを起こしたのですが、1話では顔しか出なかったので、全身は回が進んでからデザインさせてもらいました。基本的に『大罪』キャラは露出度が高いんですけど、全員揃ってから改めて見てみると「いや、ミカエルの服はラインが普通だな」と思いました（笑）。ミニスカートなので太ももは丸見えなんですが、あとは胸元が見えているぐらいなんですよね。魔王たちの衣装と比べるとちょっと控えめに感じてしまうくらいです。

小関：ミカエルは安田さんのラフが初見だったのですが、そのデザインがものすごくカッコよくて滅茶苦茶フィギュアが欲しくなりました。意外と自分が軍服好きだったんだと思いましたね（笑）。

―― ミカエルをデザインするうえで工夫したことはありますか？

安田：あとミカエルを描くときはルシファーを参考にしていました。この２人ってもともと天使だからか、凛とした感じが似ているんですよね。体格も一番近いと思います。顔に関して言うとミカエルのまつ毛はルシファーほど特徴的ではありませんが、目の形や目つきの鋭さが似ているので差別化するためにも２人をよく見比べていました。

――お２人の中で思い入れのある衣装はありますか？

安田：服と呼べるのか怪しいですが、３話のアスモデウスの水着はインパクトがありました。もうすでにほとんど裸なのに「どの線を拾って描けばいいんだろう？」って思いました（笑）。もはや水着である必要もない気がしましたけど、誰がなんと言おうとあれは水着なんですよね。

小関：点と線だけど水着です（笑）。僕の中でもアスモデウスの水着はものすごくインパクトが大きかったです。普通、水着回なら水着を見せますよね。でもオンエアでは思い切り例の魔法陣で体が隠されていて……。思わず「え、いいの!?」と突っ込みながら最後まで見てしまいました。

――お気に入りのキャラクターについても教えてください。

安田：かわいさ重視なレヴィアタン、ベルフェゴール、ベルゼバブ、アスタロト、真莉亜ですね。中でも真莉亜は“女子高生ならではの色気”があっていいです。ベルフェゴールは基本的にシャツ１枚なので作画的にもバンザイな子ですし、レヴィアタンも腰のあたりさえ描かなくてよければバッチリです（笑）。

小関：凛々しいキャラが好きなのでサタンやルシファーがお気に入りです。キリッとした顔を描くとテンションが上りますね。あとお２人の声が好きなのもあるかもしれません。キャストさんが決まってからはどんな風に喋るのか想像しながら作業していました。個人的にモチベーションを保つためにも声は重要ですね。

―― 最後に「ここがオススメ！」というシーンを教えてください。

小関：僕は9話かな。サタンが拷問されているシーンで、サタンの顔が苦痛にゆがむ「イイ表情」を引き出せるようにがんばりました。ストーリーの前半であまり見せられなかった表情を見せたかったのもありましたが、キャストさんの演技に絵が負けないように一筆一筆丹精込めてます（笑）。やっぱりキャストさんは張り切ってるのに「絵が死んでる」なんて言われたら悔しいですからね。

安田：7話です。ベルゼバブのメインですが個人的にも描きやすいキャラなので「よっしゃ、かわいく描くぞー！」と意気込んで描いてます（笑）。ストーリー的にはベルゼバブが司る“暴食”と反するような内容になっているので彼女の表情や仕草でそれを表わすようにしているのも見どころです。あとルシファーとベルゼバブが会話するシーンでは「姉と妹」をイメージしています。幼い子が齢の離れたお姉さんを慕う感じですね。レヴィアタンのように嫉妬もしませんし、ただただかわいい妹です。正直、「かわいい」を中心で描けるキャラはベルゼバブしかいません（笑）。

究極のところ魔王たちは“セクシー女優”で真莉亜は“アイドル”だと思っています。（小関）

[総作画監督] ごとうじゅんじインタビュー

セクシーで肉感的な女性を描くことで知られるごとうじゅんじ。総作画監督として"制限があるからこそ描く楽しみがある"と語る、氏がどのように作品をまとめ上げていったのか、制作時の様子についてお聞きしました。

ごとうじゅんじ

ごとうじゅんじ／アニメーター。代表作は『健全ロボ ダイミダラー』（キャラクターデザイン、総作画監督）、『精霊使いの剣舞』（総作画監督）、『ハイスクールD×D』シリーズ（キャラクターデザイン、総作画監督）など。

"肉感重視"という前提があったのでキャラの体型についてはかなり意識しました。

──総作画監督に指名されたきっかけを教えてください。

ごとう：『健全ロボ ダイミダラー』2話で絵コンテとまったく違う動きを作ったことかなと思います（笑）。ヒロインが胸を触られるシーンがあるのですが、指で乳首を押したりこね回したりする動きをつけていました。『sin 七つの大罪』もサービスシーンが求められる作品なので、こういうエロにかける情熱が作品に合うと思っていただけたのではないでしょうか。

──『大罪』の原作はご存知でしたか？

ごとう：超合金や「キン肉マン」などのアクションフィギュアが好きなので（雑誌の）ホビージャパンは時々買っていたのですが、『大罪』についてはほとんど知りませんでした。アニメのお話を受けたときにホビージャパンさんが原作と知ってびっくりしたのを覚えています。

──初めて『大罪』の原作フィギュアをご覧になったときの感想を教えてください。

ごとう：これまで色々な女体推しの作品に携わってきましたが、その中でもダントツの線の多さに驚きました。そのあとキャラクター設定を見てもやっぱり線が多かったので「これを動かすのか…」とちょっと憂鬱になりましたね（笑）。

──フィギュアを資料として活用されましたか？

ごとう：資料としていただくことができましたので、三面図ではわかりにくいところもじっくりと見て確かめることができました。湾曲している鎧や細かいパーツは角度によって見え方がかなり違ってくるので、キャラクター設定では諸々のパーツを簡略化しています。ただし、シルエットはフィギュアのポイントを押さえるようにしているので、いつも手元にフィギュアを置いておけたのは本当に助かりました。

──設定画と立体では見え方に違いはありましたか？

ごとう：結構ありましたね。実は、個人的にはベリアルが一番ほしかったのですが、発売前ということで画像資料しかいただけていませんでした。もし手元にベリアルがあったらグノーシスの描き方がもっと変わったのかなと思います。それくらい、手元にあったフィギュアからはかなり影響を受けました。例えば、レヴィアタンの靴に関して言えば、つま先が微妙に上がっていてギザギザの歯のようなものがついているんです。ところが、あの部分を普通の靴のようなフォルムで作画として描かれてしまうことがあるので、厚みやつま先の尖り具合はフィギュアを見ながら修正を加えていました。

──では、フィギュアがあることで修正作業にもかなり影響があったということですか？

ごとう：かなりありましたね。フィギュアがあるおかげで修正が入れやすかったです。最初に3話から制作に入ったのですが、このときはやっぱり一番フィギュアを見ていましたね。特に見ていたのが、先ほどのお話にも出たレヴィアタンの靴とサタンの腕のパーツです。アスモデウスのフィギュアも、3話を作っている間はずっと目の前に置いていました。あと、各魔王に生えている角についてはよく確認していました。特にメインのルシファーとアスモデウスは、角度によって角がどこまで見えるのか繰り返し見ました。あまりにも見る頻度が多いので、いろいろな角度から確認できるように頭だけ取って延々と見ていましたね。

──角の描写で特に気をつけたところはどこでしたか？

ごとう：角は特殊なパーツなので作画に立体的な感覚を求められたことでしょうか。レヴィアタンやベルゼバブ以外の魔王は角が曲がっているのですが、そこを平面的に描いてしまうと『大罪』キャラとしてのよさが削がれてしまいますし、角の描写には作画スタッフの皆さんも苦労されたと思います。ルシファーも角が丸まっていて難しいですが、髪に張りついているイメージなのでまだ動かしたときのイメージはつかみやすかったです。マモンやアスモデウスは、振り向くシーンを描くのが難しかったですね。

──監督から受けた指示で印象に残っていることはありますか？

ごとう：「まつ毛を描き足してほしい」と言われたぐらいでしょうか。『大罪』はまつ毛にも設定があるのですが、顔がアップめになるときは

（まつ毛の）上下の塗り分け線の間にハイライトを入れてほしいとのことでした。指示を受けてからはハイライトが入っているカットが増えています。キャラごとに目の形は違いますが、上まつ毛のハイライトについては全員に同じ処理を加えました。

――描きづらかったキャラクターや動かしやすかったキャラクターについて教えてください。

ごとう：純粋に線だけで言えば、ベリアルの右肩のグノーシスがゴツくて描きづらかったです。反対に線が少ないという点では、真莉亜が一番動かしやすかったですね。ただ、レヴィアタンも意外と普通の服でしたし、描く機会が多かったルシファーに関しても慣れてくると線の多さは気にならなくなっていきました。

――ごとうさんは裸のシーンを多く担当されたとうかがいました。作業中、特に意識していたことはありますか？

ごとう：作品的に「肉感重視」という前提があったので、キャラの体型についてはかなり意識しました。いわゆるアニメ的なデフォルメが少ないリアルな人間の体型に近いデザインなので、ウエストが変に細すぎたりしないようにするとか「リアルな女体」に近づけるためにかなりの数の修正を施してます。

――具体的にどういった修正を入れたか教えていただけますか？

ごとう：そうですね。たとえば2話でルシファーに乳首を舐められた真莉亜が「マイアミ」と喘ぎだすシーンがあるのですが、あの直前のアップシーンは、「口と顔は止め絵で舌だけがクルクル動く」という指定が入っていたんです。ただ、そのまま映像にするとシュールなシーンになりそうだったのでルシファーの顔の動きと舌の動きに合わせて乳首も動くように修正しています。わりと大きな修正ですが、2話の見せ場ですしアップのシーンだったので手は抜けませんでした。

――ほかにもごとうさんの手で見せ方を大きく変えたシーンはありましたか？

ごとう：2話のルシファーが真莉亜のパンツを脱がそうとしているシーンでしょうか。真莉亜がホテルのプールで「手を止めて」と言っているシーンですね。

パンツの穴の片側から嫌がる真莉亜の顔が見えるアングルに変えたのですが、このシーンはもともとごく普通の視点からのレイアウトでした。背景は時間の都合で変えられませんでしたが、わりとあおりが入っていたのでアングルを変えても成立すると思ったんです。絵コンテ通りにしてしまうと少し淡白になりすぎてしまうかと思いましたし、ここはサービスが必要なシーンだと判断したので大胆に変えてみました。

――ご自分が担当した回の中でサービスシーンのサジ加減が難しかった回はありますか？

ごとう：8話ですね。9話から舞台が地獄に移るので、新展開の布石としてルシファーとサタンのバトルがメインになっている回です。サービスシーンはレヴィアタンの服が破れて胸が見えるくらいと控えめですが、これまでの『大罪』ではあまりなかった拳と拳がぶつかり合うような正統派のバトルシーンを描くことができたと思います。ちなみに艦隊戦はCGで作られているのですが、初めて絵コンテを見たときは、艦船も作画するのかと思って「時間もないのに！」と正直焦りました（笑）。

――ミュージックビデオやキャラクターソングが挿入されていることも多かったですが、作画側として印象に残っていることはありますか？

ごとう：一番印象に残っているのは、5話のアスタロトのミュージックビデオですね。梅津（泰臣）さんの絵コンテを見て震えました。本当にアスタロトの一番いいシーンですよね。ものすごくかっこいいです。

あと6話では、チェック中にベルフェゴールの気の抜けた歌を聞いて「そんなに働きたくないんだ？」と思わず笑ってしまいました。絵的にも面白いですし、「この人ダメだなあ」と思わせますけど僕は大好きなシーンですね。

――キャラクターソングが入るシーンというのは、最初からわかっていたのでしょうか？

ごとう：実は、絵コンテではなく、ダビングの段階で入れる場所を決めるので、僕ら作画にはわかりません。キャラソンが乗るのはだいたい本編が仕上がるちょっと前だそうです。僕自身、2話にレヴィアタンの曲が入るのも知りませんでしたし、各話にキャラソンが入るのも後から知りました。

――自分が描くキャラクターに声が入ったことで感じたことはありますか？

ごとう：そうですね。だいぶ前にもたかはし智秋さんとお仕事をさせていただいたことがあるのですが、お変わりないなと思いました（笑）。昔の作品ではたしか女子高生役を担当されていたのですが、アスモデウスばりの喘ぎ声を出したら「いらないです」と言われてしまっていたんですよね。今回は無事OKが出てよかったです（笑）。

――スピンオフを描いてみたいと思ったキャラクターはいますか？

ごとう：ベルフェゴール。それから、描くのが大変だったと言いつつもベリアルを動かしてみたいです。あと、アスタロトはあまり描く機会がなかったのですが、動かしてみたら面白いだろうなと思います。特にラップシーンの原画をやってみたいですね。

――最後に『大罪』を作っていて「ここが楽しかった！」というところはありましたか？

ごとう：『ハイスクールD×D』でも似たようなことはしたのですが、自分でデザインしたものと違って制限があるからこそ描く楽しみがあるというか、どれだけ元のイラストに合わせて描いていけるかに燃えました。安田（祥子）さんのキャラクター設定をきちんと踏まえたうえでキャラに演技をつけていくのが面白かったです。

[メインライター] 鈴木雅詞コメントインタビュー

鈴木雅詞 すずき・まさし

脚本家。代表作は『勇者になれなかった俺はしぶしぶ就職を決意しました。』『RAIL WARS!』『ISUCA』など。

Q.『sin 七つの大罪』に参加することとなった経緯を教えてください。

よしもと監督と『クイーンズブレイド～グリムワール』OVAのお仕事をしていたときに企画の話があり、声をかけていただきました。

Q.初めて原作イラストや原作フィギュアをご覧になったとき、どのような印象を受けましたか？

「こりゃエロいなあ…」って。「ベリアル、お前何も着てないじゃん！」が第一印象でした。

Q.企画段階で、原作スタッフやよしもと監督とはどのようなことを話しましたか？

イラストやキャラ設定はありましたが核になるストーリーが決まっていませんでしたので、二転三転した感じです。全員一致だったのは「とにかくエロく」だけだったと思います。「四畳半のアパートに七人の魔王が押しかけてくる展開はやめよう」という話は出ました。

Q.ルシファーの下剋上を描くことになった経緯を教えてください。

ルシファーが地獄に君臨した状態では、他の魔王との関係が安定してしまっていました。追放されたベリアルの復讐劇なども考えましたが、しっくりこない。なので、時間を巻き戻して、ルシファーが堕天してきたところから始めてみようとなりました。

Q.オリジナルストーリーを描く上で、苦労した点や工夫したことを教えてください。

すべての物語、場面や台詞は監督の頭の中にありました。が、監督の中でもまだ曖昧な部分があって、うまく表に出てこない。私の役目はどれが本当の引き出しかをあれこれ開けてみることでした。

Q.よしもと監督とのやりとりで、特に印象に残っていることを教えてください。

監督との共通イメージは"背徳"でした。視聴者が見てはいけないものを見ているような雰囲気。そこで「今こそあえてエログロナンセンス！」「究極のフェチプレイ」のコンセプトでサンプルシナリオを書いてみました。結果…、満場一致で「下品！」と却下されました。

Q.「ここがエロい！」と思ったシーンやセリフを教えてください。

私が担当した中では、2話のエレベーター内です。触手プレイは監督が飽きていたので、密室での羞恥プレイとミックスしました。真莉亜がいい顔していたと思います。

Q.シナリオ段階でやむなく削ったシーンはありましたか？

先に書いたサンプルシナリオの話ですが…、マモンの母乳ローションプレイや赤ちゃんおむつプレイ（おしっこさせられる羞恥）とかも見たかったなあ。ええ、下品ですとも！

Q.書いていて動かしにくいと感じたキャラクターは誰でしたか？

動かすのに苦労したのはレヴィですね。最初は動かしやすい気もしましたが、あまりにルシファーに対して一途過ぎたので、段々と変化がつけづらくなっていきました。

Q.なぜ人間の女子高生である真莉亜を登場させたのでしょうか？

真莉亜が人間なのは「視聴者目線」という役割だからです。企画初期には男性案もありましたが、魔王たちにエロい仕打ちを受けるのが、どうにも下品になってしまう…。なので、紳士向けの作品ではありますが、真莉亜が辱めを受ける百合の方向にもっていくことになりました。

Q.ベリアルは元天使で、魔界では違う名前を名乗っていますが、その理由を教えてください。

彼女のすべては虚飾だからです。地獄を支配するため名門バーンデール家を乗っ取るには、天使を名乗っているわけにはいかなかったのでしょう。

Q.今回、『七つの美徳』のうちでミカエルだけが本編に登場したのはなぜでしょうか？

企画初期は「七つの大罪vs七つの美徳」でした。しかし、両方のキャラクターを掘り下げていくには話数も尺も足りません。当時は『美徳』のキャラもまだ決まっていませんでしたし。美徳たちの物語を御覧いただくためにも、信者諸氏のお力添えがあると嬉しいです。

Q."神"は直接ルシファーたちと戦うことはありませんでしたが、神がラスボスになる可能性はなかったのでしょうか？

神による人類粛清計画は最初から決まっていたことでしたが、神と闘うのは「七つの美徳」との決着がついた後ですから、ずっとずっと先のことになると思います。

Q.メインシナリオライターとして思い描く、大罪と真莉亜たちの「その後」を教えてください。

美徳たちとの戦いはあるでしょうが、元々が自分の好き勝手にしている連中ですので、地獄で楽しくエロエロやっていると思います。ただ、真莉亜には最終的にルシファーから受け継いだ天使の血が残っていますので、まだまだ受難の刻は終わらないような気がしています。

Q.もっとも気に入っているキャラクターは？

マモンかなあ…。「元人妻」「お母さん」「子持ち」と背徳感に必要なキーワードをいくつも持っていますから。皆さんが見てて恥ずかしくなるようなプレイをさせ……すみません、下品です。

[インダストリアルデザイン] 枝松聖コメントインタビュー

枝松聖 えだまつ・きお

デザイナー。代表作は『宇宙戦艦ヤマト2199』『クラシカロイド』『クロックワーク・プラネット』など。

Q.「インダストリアルデザイン」とはどういった作業を担当されたのでしょうか？

ルシファーや真莉亜たちが出掛けたり大変な目にあったりする舞台をどんな場所にするか、というアイデアを提案したり、作中に登場する道具や魔物のデザインをしています。

Q.初めてこの企画や原作イラスト・フィギュアをご覧になったとき、どのような印象を受けましたか？

企画書に書かれた「ジャンル：セクシーサスペンス」という、ものすごく引きの強い説明に「これは面白そう！」と参加を決めました。デザイン、ポージングのどこをとっても立体映えのするイラスト、それを見事に再現したフィギュアの造形に惚れぼれしたのを覚えています。と同時に、これはアニメにするのが大変そう…と、思ったのも覚えております。

Q.地獄や天界といった実在しない場所をデザインする上で工夫した点を教えてください。

地獄の風景は、どこへ行っても過酷でおどろおどろしい雰囲気が出るように。天界は、美しく整っているけれどどこか味気なくて、おそらくルシファーのような性格には向いていない場所であることが伝わるように。どちらの世界も、魅力的ではあっても、普通の人間ならばあまり長くは滞在したくないと思う風景になるように心がけていました。

Q.アニメオリジナルでデザインした武器やアイテムについて工夫した点を教えてください。

真莉亜の心臓を入れる器などいくつかありますが、どのアイテムも原作にあっても不自然ではなく感じられるように、いつも原作の設定やイラスト（「魔王黙示録」など）を参考にデザインしていました。

Q.地獄にある万魔殿のほかに、魔王たちの住居についてはどの程度設定されていたのでしょうか？

現在のところ、そのすべてがビジュアル化されてはいませんが、魔王たちは地獄と地上、それぞれに住居を所有しているという設定です。第4話の後半で、真莉亜が連れてこられた広大な保育室は、マモンが地獄に持つ住居の一室という想定でデザインしています。

Q.よしもと監督から受けた指示で特に印象に残っていることを教えてください。

第5話でアスタロトの部屋をデザインする際、「あえて質素な暮らしを選んでいるけれど、もともと身の周りのことはキチンとできる子だから、こういう部屋でもあまり雑然とした雰囲気にはならないように」と、まるで自分の娘を紹介するかのように愛のある説明をいただいたのが、心に残っています。

Q.描いていてもっとも楽しかったデザイン、苦労したデザインについて教えてください。

楽しかったのは、ホエーユをはじめとしたレヴィアタンの眷属たち。嫉妬に燃えてまっしぐらな、けれどちょっとゆるいレヴィの人柄が眷属からも伝わればと。地味に苦戦したのは、万魔殿の椅子です。魔王のみなさまは尻尾があったり衣装がものすごいボリュームだったりする上に、幼い系からダイナマイト系まで体型もバラエティー豊か。全員がゆったりと座れるサイズ感になるまで、何度も調整を重ねています。

Q.もっとも印象に残っているシーンやセリフは？

第1話のオンエア時に初めて目にした「謎の魔法円」が、ものすごいインパクトでした…。過激な描写を隠しているはずなのに、逆に"禁断"感が加速されていて。

Q.『大罪』でもっともお気に入りのキャラクターは？

ルシファー。あそこまで強気に、思いのままに突き進んでゆく姿は、この時代にはとてもまぶしく映ります。もしも入信するならばルシファー様で…！

[美術監督] 益田健太コメントインタビュー

益田健太 ますだ・けんた
美術監督、美術設定を担当。代表作は『コメット・ルシファー』『少年メイド』『ナイツ&マジック』など。

Q.美術設定で『大罪』らしさを出すために工夫した点を教えてください。
私は主に人間界側の美術設定を担当したのですが、今作では地獄や天界といった非現実な空間が多く登場し、そこで作品のオリジナリティーが発揮されると思いました。逆に地上は地獄を際立たせるため、店舗や小物などは現実にあるものをしっかりと参考にすることで堅実にリアリティーを増す工夫をしています。
Q.地上と地獄、天界を描く上でどのように違いを出しましたか?
美術ボード作業においては、地上と地獄、天界で色味の扱い方を変えています。具体的には、地上は基本的に落ち着いていて常識的な色彩を中心に構成しており、夜の新宿などは、特に顕著でアニメ的な青系の夜ではなく、現実的な色味にするよう心がけました。地獄や天界はビビッドな色を前面に押し出して、鮮やかで少しアブノーマルな構成にしています。
Q.美術ボードを描く上でロケに行った場所はありますか?
ロイヤルタワーズ東京を描くため、新宿のビル街へはロケに行きました。特に都庁周りの空気感はとても参考になりました。その上で、あの特殊な形状は監督からいただいたラフを元に設定を起こしました。面白い形になったと思います。
Q.『大罪』が"エッチ"になるように、美術監督として意識して絵作りした点を教えてください。
あまり背景が作為的に演出的な主張をしてしまうとセクシーシーンがコントになってしまうと思ったので、薄暗さや陰湿さを意識する程度に留めました。
Q.もっとも時間がかかった美術設定はどれでしたか?
教会の美術ボードには時間がかかりました。地上で最も重要な場所でもあり、最初に世界観の方向性を決めるボードになると思いましたので、色味のコントロールに神経を使った覚えがあります。
Q.もっとも「大罪らしい」と感じた美術設定は?
やはり万魔殿の広間でしょうか。こちらは枝松さんの担当された設定ですが、フィギュアの企画から始まった大罪らしく、広間に原作フィギュアの形の像があるのが、とても『大罪』らしいと思います。

[ビジュアルコーディネーター] 松原貞姫コメントインタビュー

松原貞姫 まつばら・さだひめ
フォルテス所属。代表作は『クイーンズブレイド』シリーズ『モモキュンソード』『クイーンズブレイド グリムワール』など。

Q.「ビジュアルコーディネーター」とはどういった作業を担当されるのでしょうか?
まずメインキャラクターの色彩設計と撮影フィルターの方向性を監督と詰めた上で、色指定/撮影/背景の方々とまとめていく作業を行ないます。普通はない役職だと思いますが、よしもと監督作品では色彩と撮影のバランスを重視していますので調整役が必要になっていますので、いつも担当させていただいています。
Q.初めて原作イラストや原作フィギュアをご覧になったとき、どのような印象を受けましたか?
「パーツが多くて大変そう!」ですね。以前担当した『クイーンズブレイド』よりも多く、これをアニメで表現できるのかなと不安でもあり、大変困ったことを記憶しています。
Q.『大罪』らしい色彩を作るために工夫した点や苦労した点を教えてください。
監督から「キレイな色使いで!」というオーダーがありましたから、透明感を損なわないように気をつけました。また、目や眉が髪に透けるようにしたことも一助となったと思います。結果的に、1話、4話などでは使用する色数が膨大になってしまいました。むしろ、すべての話数でできればよかったのですが…。
Q.アニメオリジナルである真莉亜の制服について意識した点を教えてください。
原案イラストに合わせて作り始めましたが、当初は黒の制服でした。途中で「夏なのに長袖」だということに気づき、少しでも清涼感を出せるようにと、グレーの制服にしました。
Q.よしもと監督から受けた指示で特に印象に残っていることを教えてください。
1話目が大事ということで、「地獄・コキュートスの色にインパクトをつけるように」と言われたことと、「キレイな色使いで!」ですね。
Q.『大罪』の魔王たちの肉感的でリアルな色味を作るにあたって、何か参考にされましたか?
原作フィギュアはもちろん、原作イラストも参考にしました。それぞれのニュアンスを汲んで、色と撮影フィルターを決め込みました。
Q.ビジュアルコーディネーターとして、作品を"エロく"するために意識した点はありましたか?
女の子の体は「柔らかく」あってほしいので、基本的に肌色と薄くてキレイな乳首の色を心がけました。あとは、乳首や唇をぼかして「美味しそう」にすることですね。
Q.『大罪』でもっとも好きなキャラクターは?
レヴィですね。自分に正直で「嫉妬」の魔王という部分がしっかり出ていたと思います。おバカなところがまたいいですね。
Q.もっとも"エロい"と思うシーンやセリフは?
さまざまなシチュエーションが盛り込まれているので、ひとつに選ぶことは難しいです。ここは、あえて「三角木馬」にしておきます。

[撮影監督] 藤田智史コメントインタビュー

藤田智史 ふじた・ともふみ
撮影監督。代表作は『未来日記』シリーズ、『クイーンズブレイド グリムワール』『DAYS』など。

Q.『大罪』の撮影監督を担当することになった経緯をお教えください。
よしもと監督から直接オファーをいただきました。以前、同様の立場で参加させていただいた作品があり、その制作過程で映像に対する思考や画像構成プロセスに、監督からご理解と共感をもっていただいたようです。
Q.『大罪』で"エロさ"を引き出すために撮影監督として工夫した点や苦労した点を教えてください。
TVアニメーションという媒体で作成するにおいて、ポルノグラフィーとエロティカの違いは意識しました。どこまで表現できているのか? と問われるとつらいのですが…。単純に露出した映像や行為を表現する"ポルノグラフィー"であれば、専門の媒体映像の方が需要を満たすでしょうし、TVアニメーション媒体で放送規制を順守しながら制作する必要性がどこまであるのか? シナリオ展開上での必然性(無理やり感は強いですが…)を持った露出や行為、また、露出裸体をエロスではなく女体美として捉えられるように意識しました。体の立体感表現としての赤味ブラシや頬ブラシなどは、幼児性表現や赤面表現のような記号的表現にはせず、化粧の頬チークのような馴染みを意識し、下唇はエッジをボカすことで少し化粧落ちした感じを表現することで、劇中の日常を表現しております。彼女たちの日常を感じていただければ幸いです。
Q.『大罪』ならでは、というエフェクトや撮影方法について教えてください。
よしもと監督からのオーダーでトレス線(キャラクター実線)の加工と画面フィルターを用いております。映像を構成する上で背景とキャラクターの馴染みや空間の質感、空気感を意識しました。具体的には、外観描写や夕景描写のシーンでしょうか。
Q.「水」の表現が多かった『大罪』ですが、それらの表現で工夫した点についてを教えてください。
魔力とか魔法とか、地獄に関してはあくまでも想像の世界なので「何とでもなる?」のですが、水面や現実風景など日々目にする自然現象には気を使います。『大罪』に限ったことではないですが、作品の中の「日常」が虚構にならないように、アニメであっても、アニメだからこそリアリティーのある自然現象や質感を追い求めております。アニメーションならではの表現であったり、デフォルメであったりもしますが、共感や感銘を持てる映像を構成することで、虚構のアニメ世界が現実の世界のどこかの片隅での出来事のように感じられるほど、作品に入り込んでいただければ幸いです。もちろん、素材的限界や時間的制約などもあり、「苦肉の策」的表現もありますが…。
Q.もっとも印象に残っているシーンを教えてください。
第4話の拷問部屋のくだりでしょうか…。暗い牢獄(?)の密室感と湿度感が拷問というシチュエーションを表現出来たかな? っと。
Q.よしもと監督から受けた指示で印象に残っていることを教えてください。
唐突に「任せました! なんとか撮影でヨロシク!」というものが…。
Q.撮影していてもっとも楽しかったシーンについて教えてください。
スミマセン。楽しいことは何ひとつありません。完成のあかつきには苦労を喜びに換えられるように……、そんな苦悩の日々です。
Q.『大罪』でいちばん好きなキャラクターとその理由を教えてください。
真莉亜の同級生の「美菜」です。人畜無害だから。

[音楽]横山克コメントインタビュー

横山克 よこやま・まさる

株式会社ミラクル・バス所属。代表作は『クイーンズブレイド』シリーズ、『機動戦士ガンダム 鉄血のオルフェンズ』『Fate/Apocrypha』など。

Q.『sin 七つの大罪』の音楽を担当することになった経緯を教えてください。

よしもときんじ監督とは『クイーンズブレイド』からご一緒させていただいています。『クイーンズブレイド』はこの仕事を始めた初期の頃の作品なので、もうかなり長いお付き合いになっています。

Q.楽曲についてよしもと監督からなにか要望はありましたか?

「シンフォニックとメタルの融合を」というリクエストがありました。よしもと監督の好みはわかっているつもりですし、逆に、こちらの手の内もしっかり理解されていると思います。ですから、「それを上回るものを!」という意気込みでした。

Q.堤博明さんと一緒に作曲されていますが、どのように作業されたのでしょうか?

横山はシンフォニックな作風が得意ですし、堤さんにはいつも自分の作品のギターを弾いていただいていることもあり、お互いの手の内を知り尽くしているような関係です。お互いに連絡を取り合い、情報を交換し合いながら作業を進めました。お互いの得意な作風を突き詰め、さらに、それが混じり合うように作りました。

Q.楽曲制作で心がけていた点を教えてください。

本当にそれぞれのキャラクターや設定の個性が強いので、こちらは、ひたすらにその個性を拾いこむようにしました。それさえしっかり作り込んでいれば、『大罪』のBGMとして成立する、…というのはよしもと監督が計算していたことでもありますので、そこを信頼して、思いっきり作り込みました。

Q.劇伴を作る上で苦労した点を教えてください。

実は、よしもと監督とは「エレキギターをどうやったら劇伴に入れ込めるか」というお話を以前からしていました。もちろん作品にもよるのですが、エレキギターという楽器を劇伴に入れ込むのがなかなか難しいのではないか…と。もちろんその理由も伺っていましたので、そのあえての難しさへトライする、という課題はありました。あとは…やはり、手の内を知り尽くされた監督の期待を超える!という何よりも高いハードルでしょうか…。

Q.もっとも『大罪』らしいと感じる楽曲を教えてください。

やはりメインテーマの「傲慢の魔王ルシファー(オリジナルサウンドトラックDISC2-M18収録)」です。当初からあった、「シンフォニック」と「エレキギター」の融合、というものを最も表しています。そして、メインテーマのエレキギターを弾いてくれたのは、当然、堤博明さんです。

Q.作曲した中でもっとも楽しいと感じた曲とその理由をお聞かせください。

これもやはり「傲慢の魔王ルシファー」です。「横山っぽいよね」という楽曲に、堤博明という個性を入れ込む作業、と思っていただいても良いかと思います。作曲者同士も監督さんも、みな気心の知れた人同士であったので、今までで良かった部分を引き継ぎつつ、さらに進化・深化させることを意識できました。その作業が、やっぱり楽しかったのです。

[音楽]堤博明コメントインタビュー

堤博明 つつみ・ひろあき

株式会社ミラクル・バス所属。代表作は『ロクでなし魔術講師と禁忌教典』『潔癖男子!青山くん』『orange』など。

Q.音楽を担当することになった経緯を教えてください。

以前によしもと監督が制作された別の作品でも、横山克さんと共同で音楽を担当する機会がありました。それぞれの個性を活かしたその制作を経て、今回『sin 七つの大罪』の音楽を担当させていただくことになりました。

Q.楽曲制作にあたって、よしもと監督からなにか要望はありましたか?

各キャラクターや、旅で訪れる場所のイメージ共有をした上で、それらの個性が際立つ楽曲が欲しいというお話をいただきました。作品の世界観や大罪それぞれについての詳細も打ち合わせで聞かせていただけたので、スムーズに楽曲制作に取り掛かれたと感じています。

Q.共同作業とのことですが、どのような作業を担当されていたのでしょうか?

横山さんが作られるシンフォニックで壮大な楽曲との対比も考えて、ギターのキャラクターが活躍するような楽曲を意識して作曲しました。そのほかに、オーケストラ編成の曲も書かせていただいていますが、そこにバンドサウンドをミックスして、疾走感や力強さを強調するようにアレンジしています。作曲のほかに、各楽曲のギター演奏もしています。

Q.劇伴を作る上で苦労した点を教えてください。

よしもと監督からのご要望もあり、曲のテンポを90・120・150といったアニメのテンポに合いやすいものに限定しました。別楽曲への乗り換えがスムーズになるなどのメリットがありますが、同じテンポ同士の楽曲を違った印象に仕上げるのは工夫が必要だったので、1曲の中で飽きない展開を作っていけるように心がけました。一番苦労したのは、全大罪たちのテーマ楽曲の要素を取り入れて新たな1曲に仕上げる、という作業ですかね…(笑)。ただ、それぞれキーもテンポも違う中、各楽曲の特徴となる部分を抽出してまとめ上げる工程は学ぶことが非常に多いので、やりがいがありました。

Q.楽曲制作で心がけていた点を教えてください。

すべての大罪が持つ色気を、楽曲でも表現出来るように心がけました。メロディーのちょっとした節回しや音色の艶、リズムの刻み方など、ひとつひとつは些細な要素ではありますが、それらが少しずつ積み重なっていくことで『大罪』の世界観を表現するBGMになっていると思います。

Q.もっとも『大罪』らしいと感じる楽曲を教えてください。

横山さんが作った曲になりますが、「傲慢なる堕天使(オリジナルサウンドトラックDISC1-M1収録)」に『大罪』らしさを感じます。ルシファーの楽曲ということで"傲慢さ"が根幹のテーマとなっていますが、そこに大罪を象徴するような威厳や壮大さがうまく融合した形で表現されていると思います。

Q.作曲した中でもっとも楽しいと感じた曲とその理由をお聞かせください。

作っていて一番楽しかったのは「劫火の黙示録(オリジナルサウンドトラックDISC2-M16収録)」です。ありがたいことにオーケストラ楽器とバンドの両方を生録音できるということだったので、それぞれの生音の良さが融合して引き立てあう曲になるように、いろいろとチャレンジできました。リズムパターンがどんどん展開していくのもこの楽曲の特徴ですが、そのおかげで作曲中も常にワクワクしながら新鮮な気持ちで完成させられました。それが「もっとも楽しい曲」という印象になったのだと思います。

CD関連情報はP127をチェック

設定資料

せっていしりょう

貴重なキャラクター設定や
美術設定の線画の数々を本書にて初公開!!

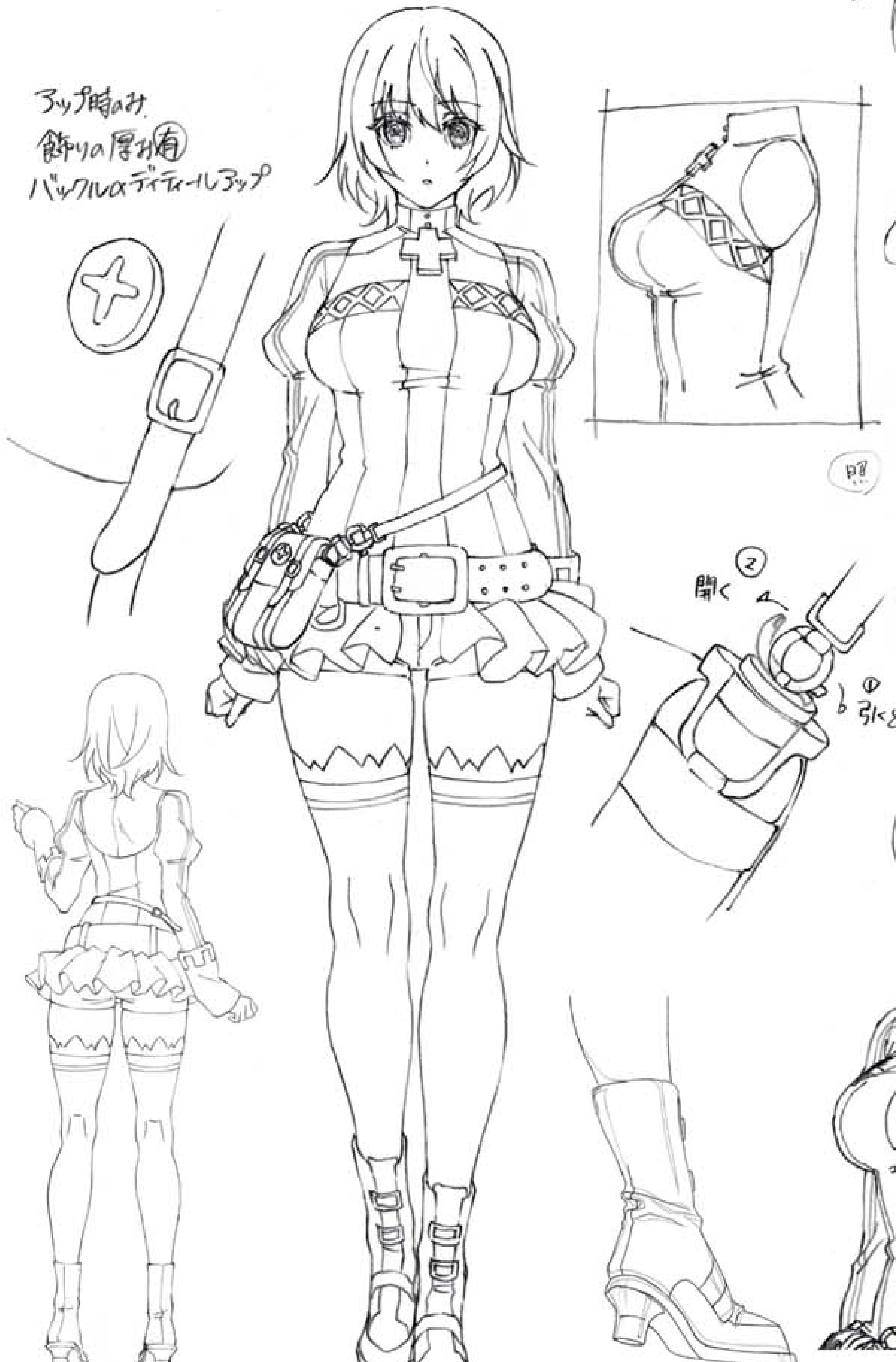
-INDEX-

100 キャラクター設定

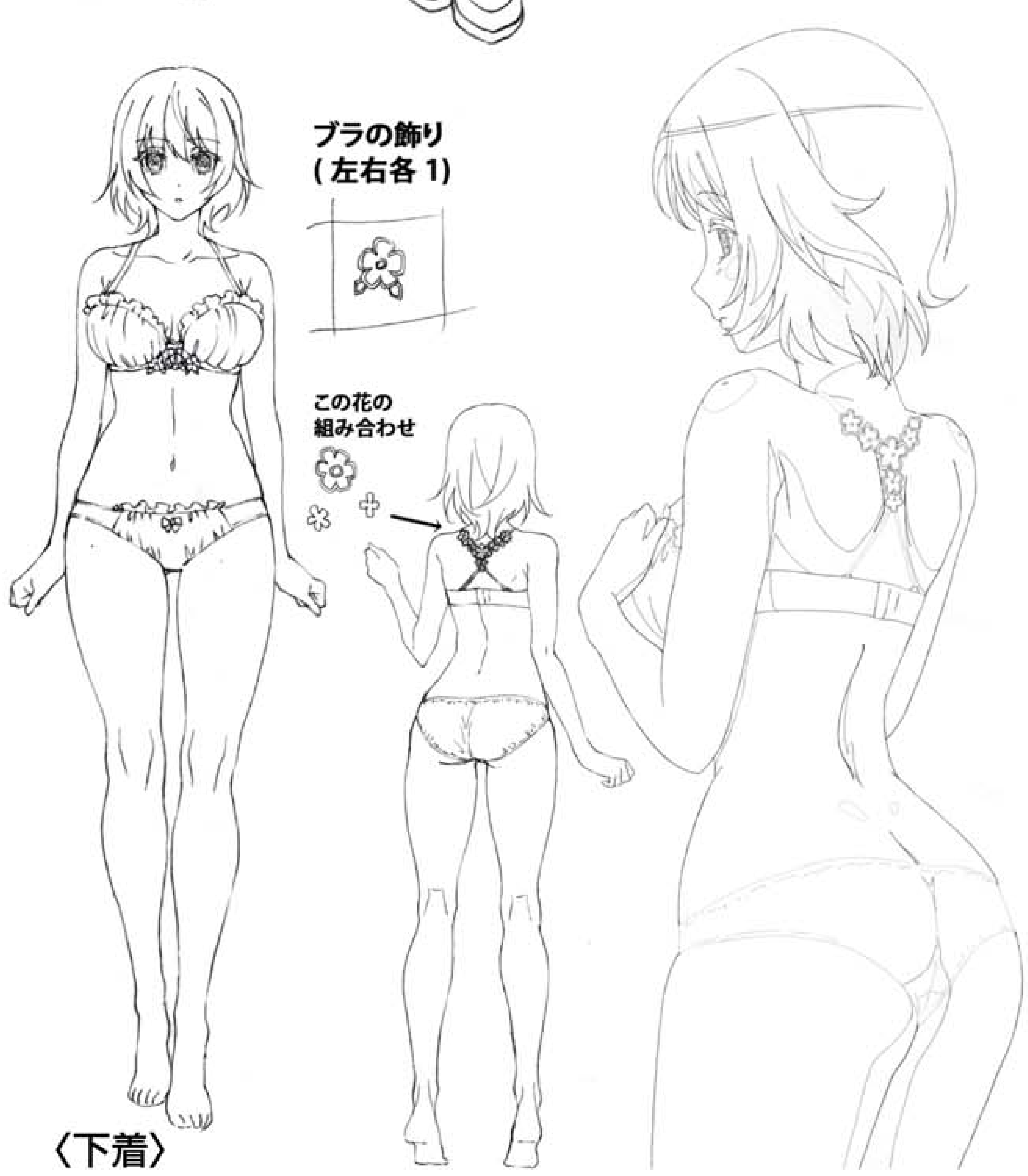
110 美術設定

キャラクター設定

十束真莉亜



〈表情集〉



ブラの飾り
（左右各1）

この花の
組み合わせ

〈下着〉

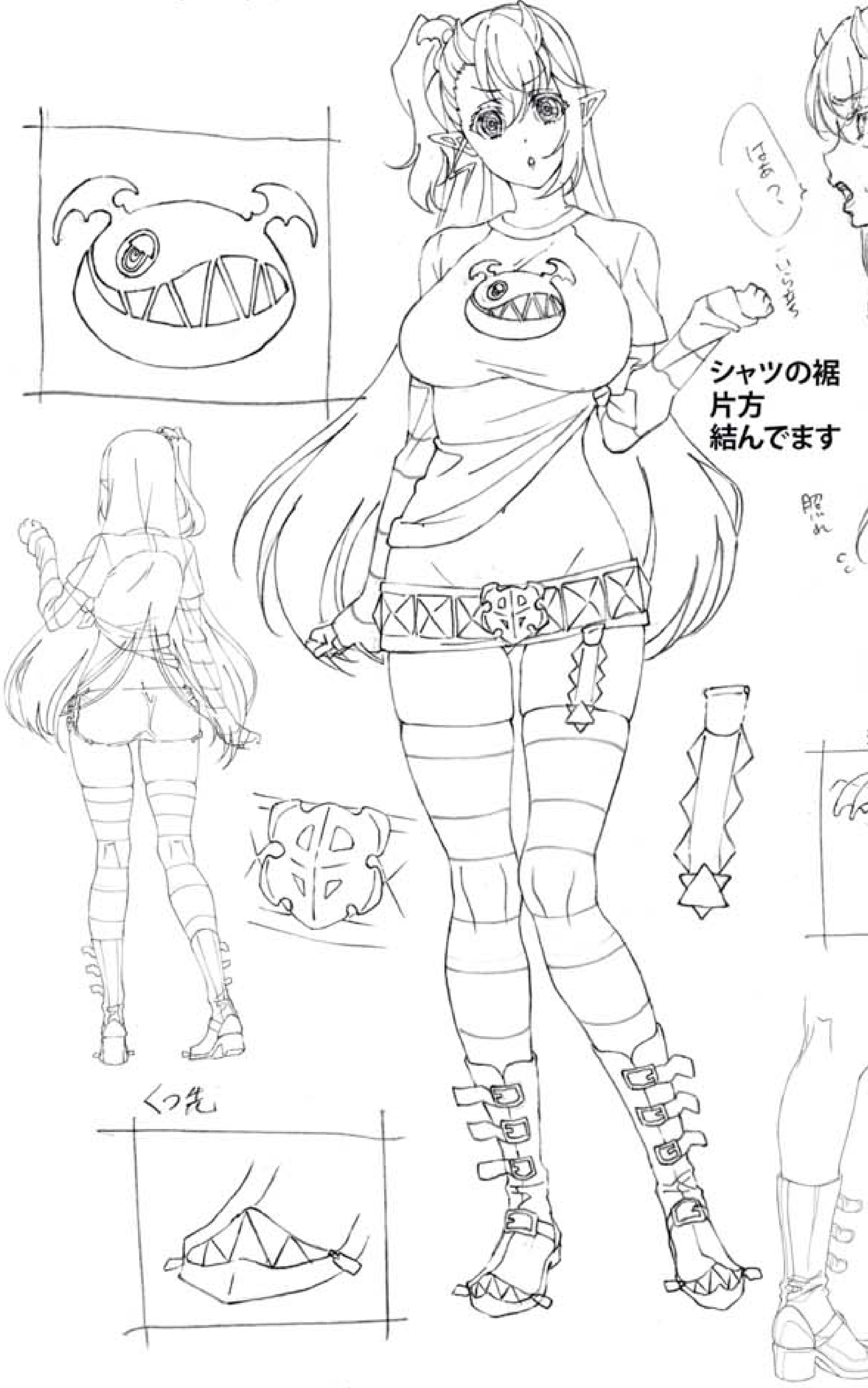
ルシファー

〈表情集〉

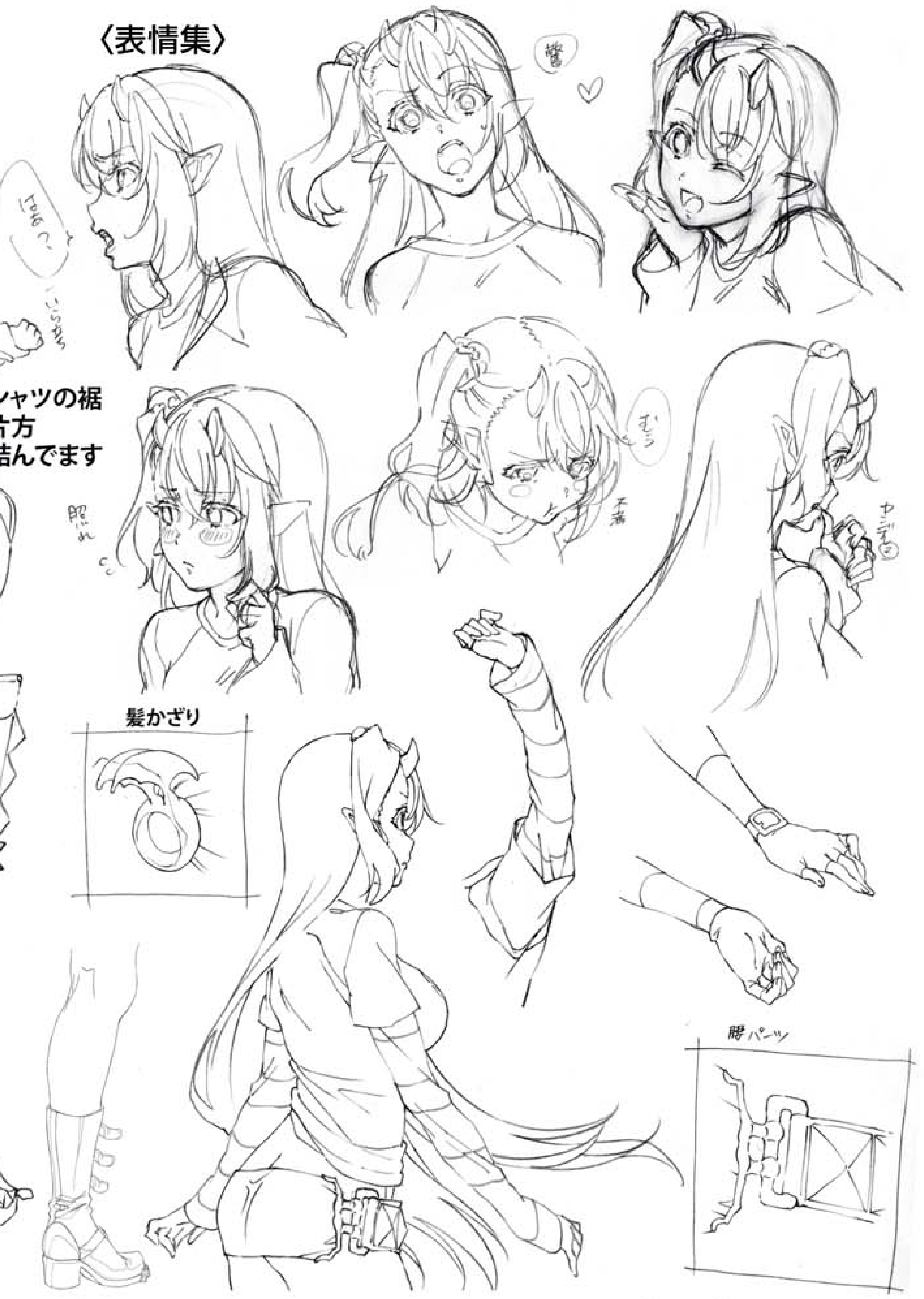
〈下着〉

思案
挑発
呆れ
耐える②
冷静
自信
※7枚
首・肩パーツ
①後ろからベルトを外します
手袋はベルトなど付いてますが、ただの装飾と思ってください。
ただのティアラです。
装飾多いっ！主役だもの
ルシファー
腕の装甲も特に留め具など気にならなくてOKです。
足周り様ガポッと脱いじゃってください
ガポッ
※裏で留めていたって事にしてください
下半身
ココ2ヶ所
①コルセットの留め具をいじって
脱ぎます。
重力とか気にしてはいけません。魔王なので何でも有りです。
スポン
クロスしているベルトで繋いでいたとお考えください
※袖もくっついてます。
カポ
③首輪の同じ部位をいじってココの布を外し
④前方に脱ぎます
首・肩パーツなくなります。
装甲が付いてますが、首輪のパーツの要領でガポッと脱げます
特にルシファーは、
※正直、1人で脱げるような服ではありませんので作画時は雰囲気で…！
コルセット
①前の金具を全て外しましたら
②ゆとりが出来て下へ脱げます
※金具が全て外れても、コルセットはココ一番下の金具でしか開きません。

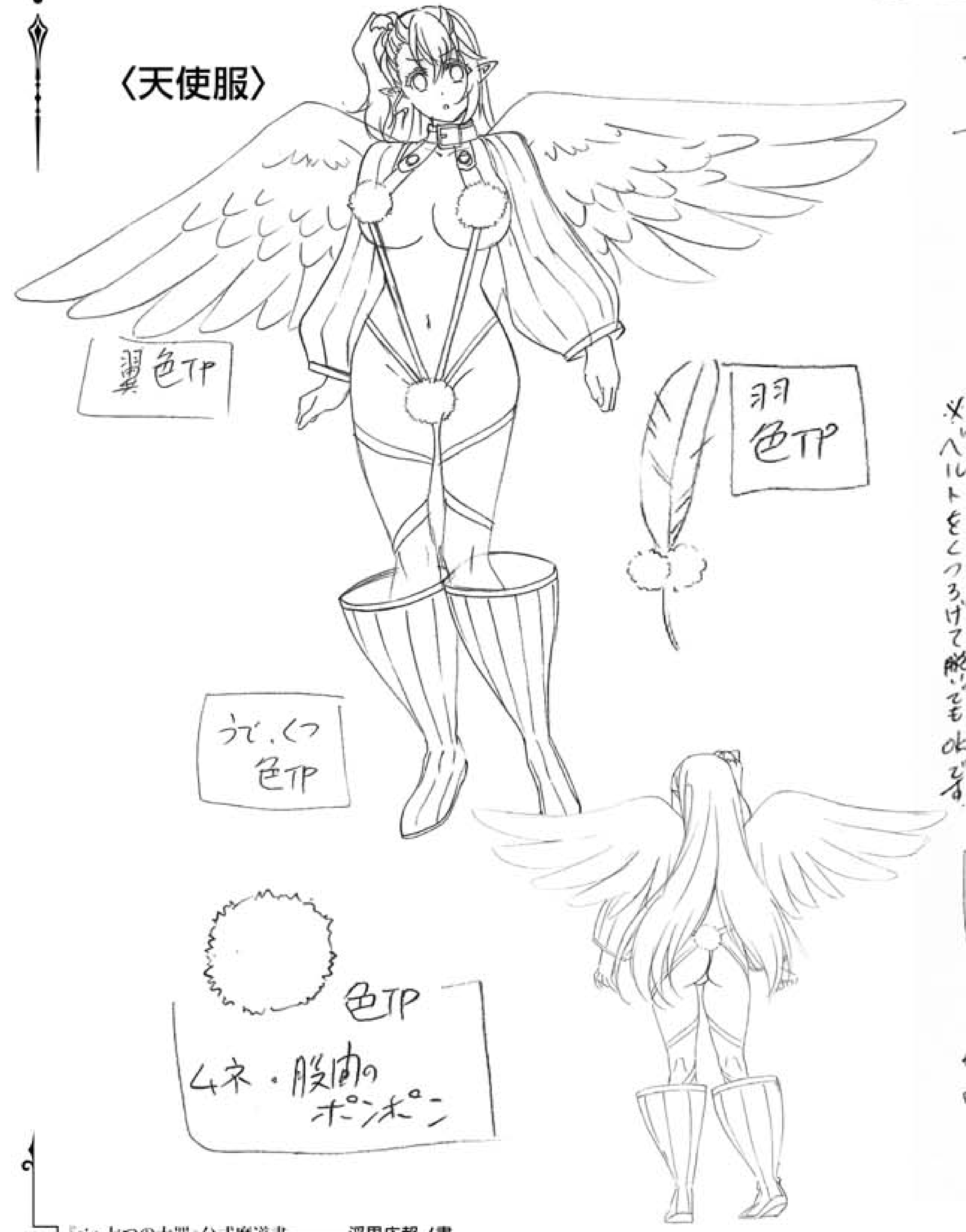
レヴィアタン



〈表情集〉



〈天使服〉



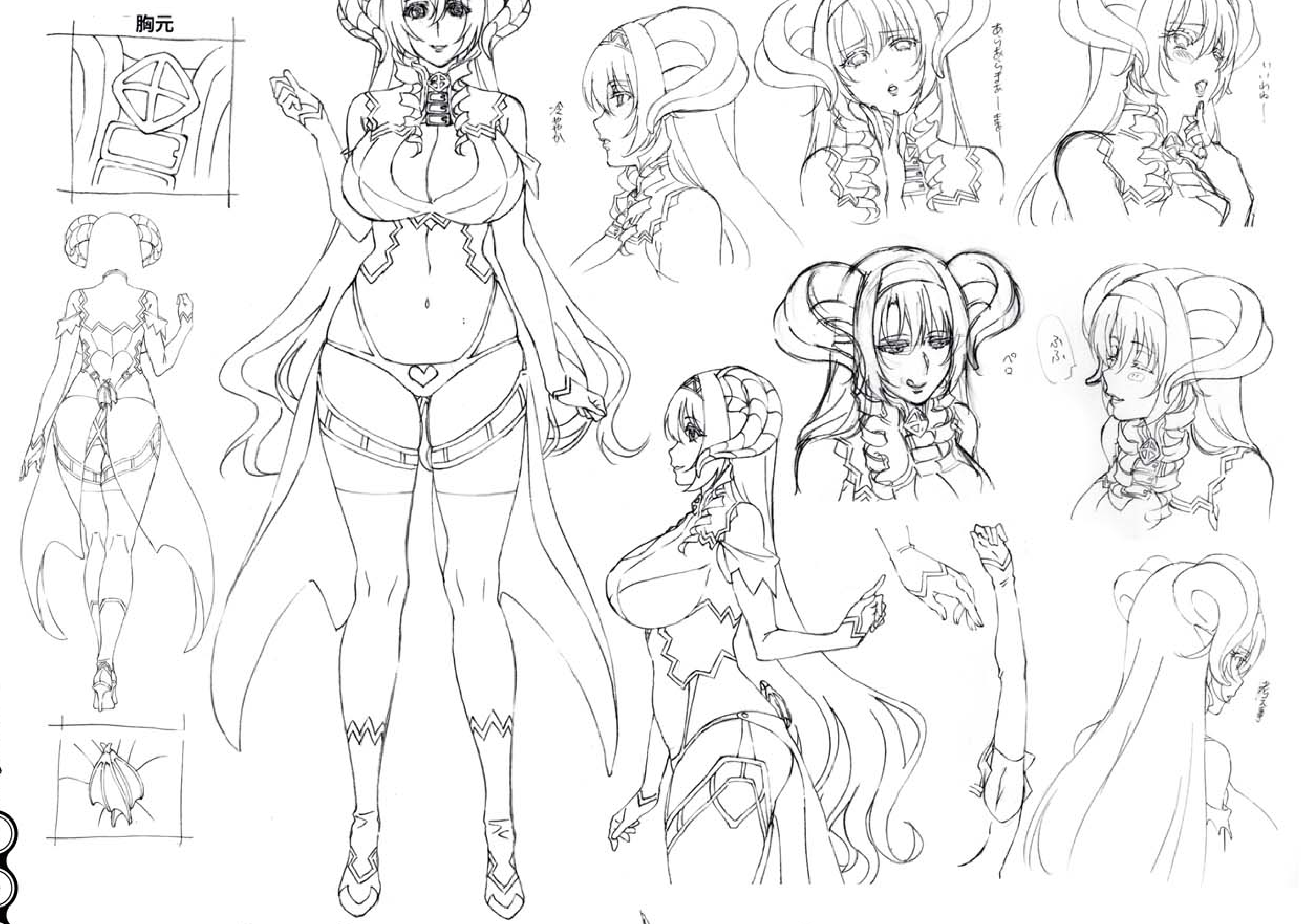
サタン

アップ時
厚みあります
ヘルメット
ベルト
ドクロ
〈表情集〉

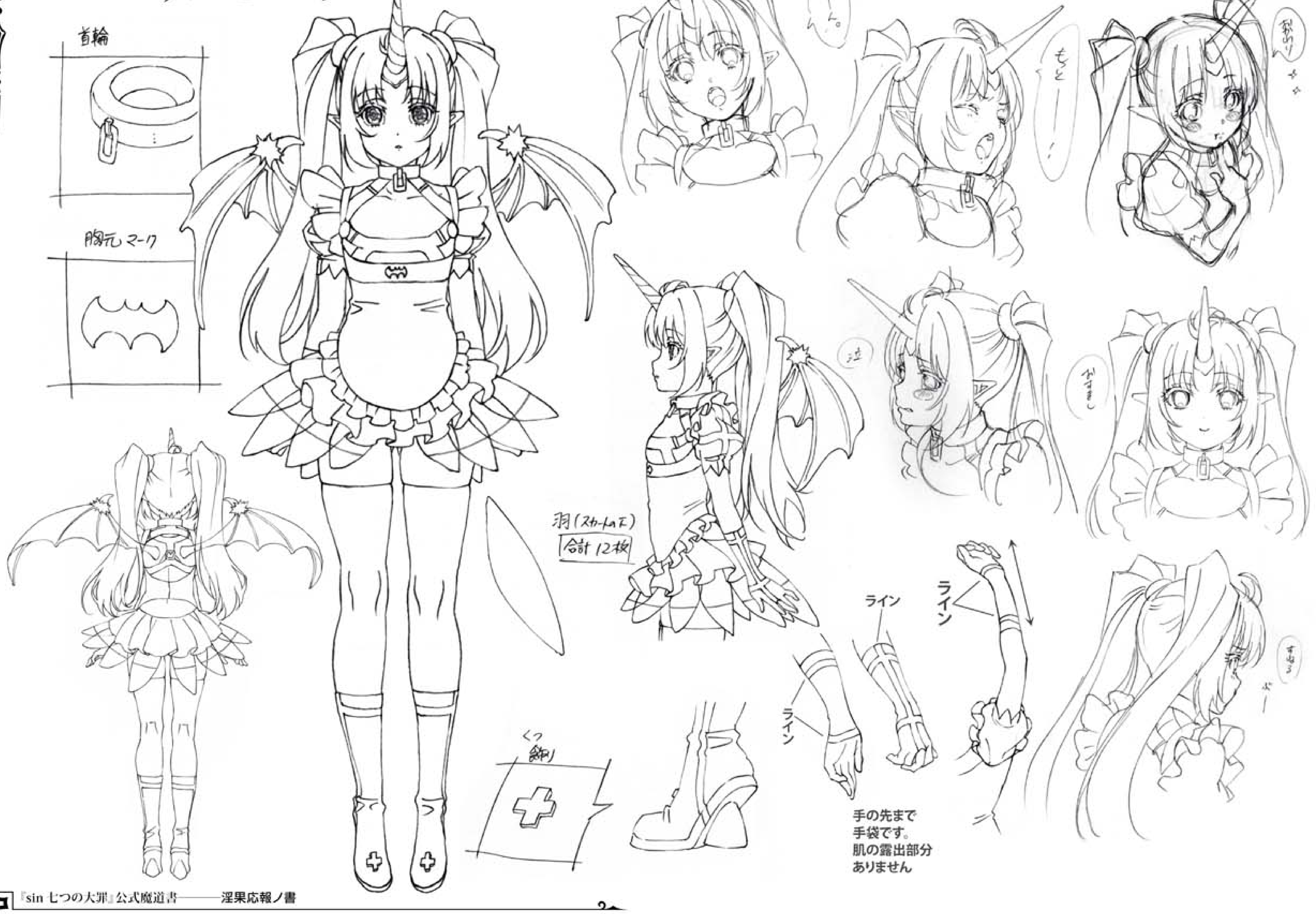
ベルフェゴール

首元
〈表情集〉
※ボア部分色T
〈猫衣装〉
〈尻尾の生え方〉
しっぽ用の穴あいてます。

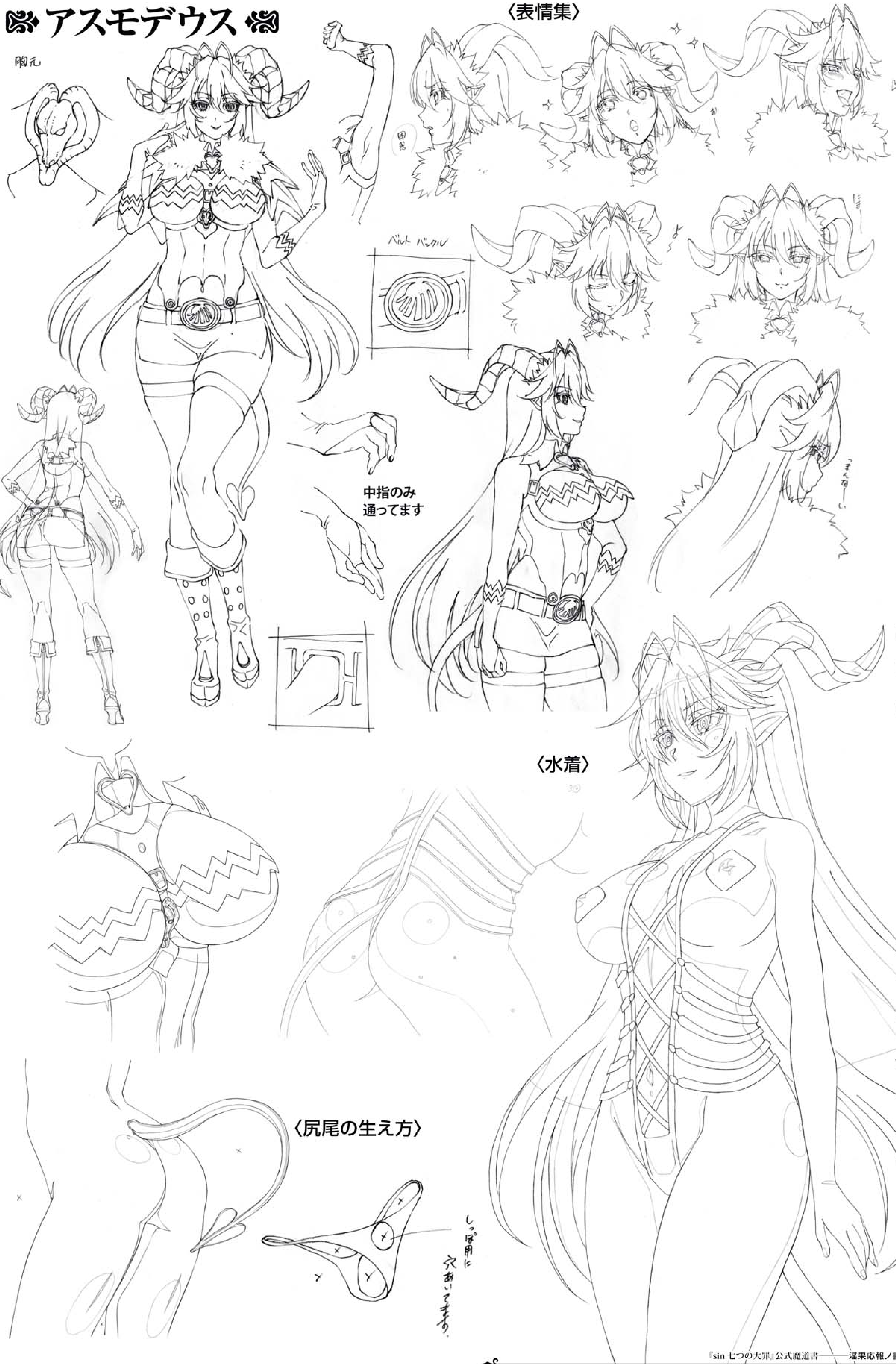
マモン


胸元
〈表情集〉

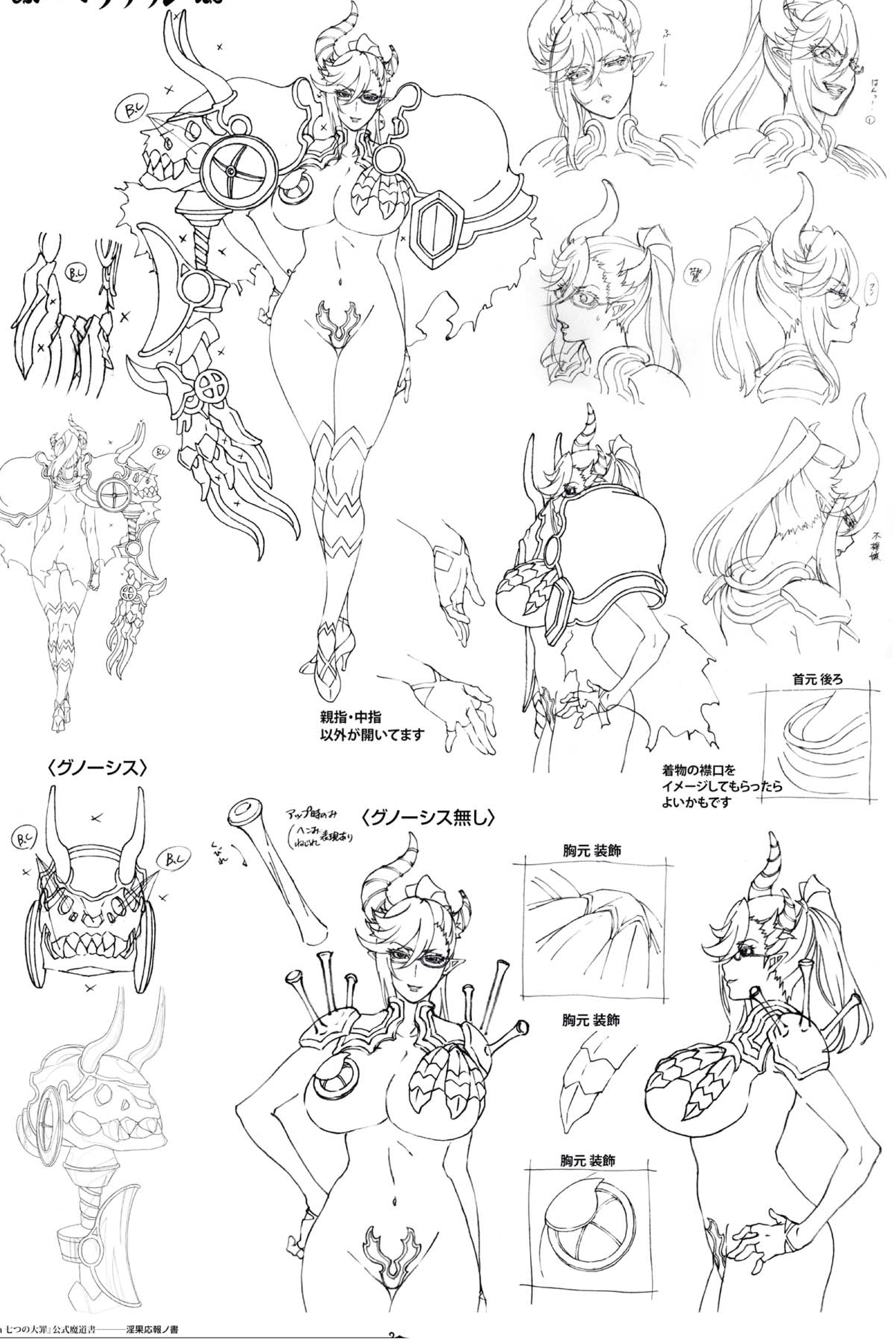
ベルゼバブ


首輪
胸元マーク
〈表情集〉
羽(スカートの下)
合計12枚
くつ飾り
ライン
ライン
ライン
手の先まで
手袋です。
肌の露出部分
ありません

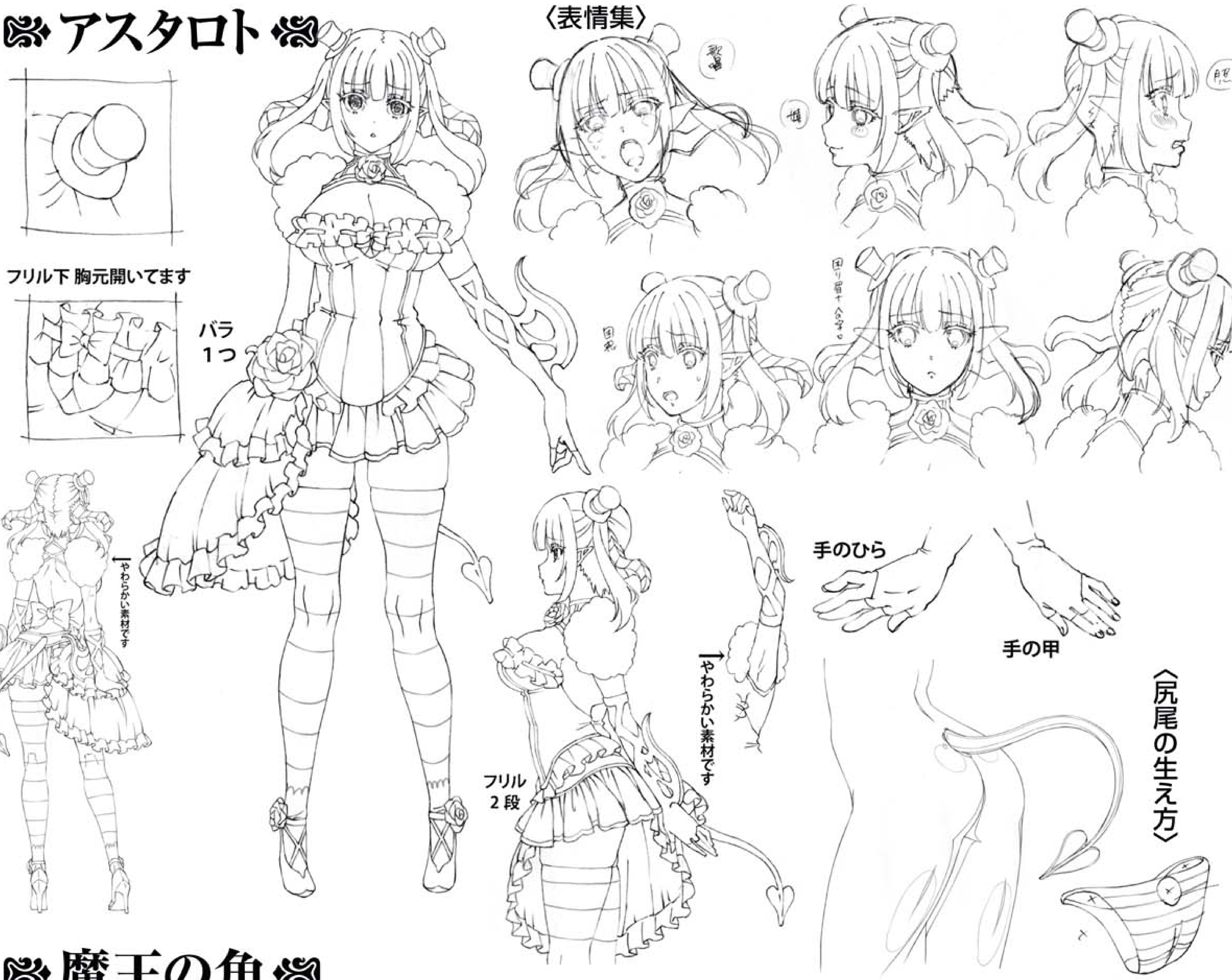
アスモデウス



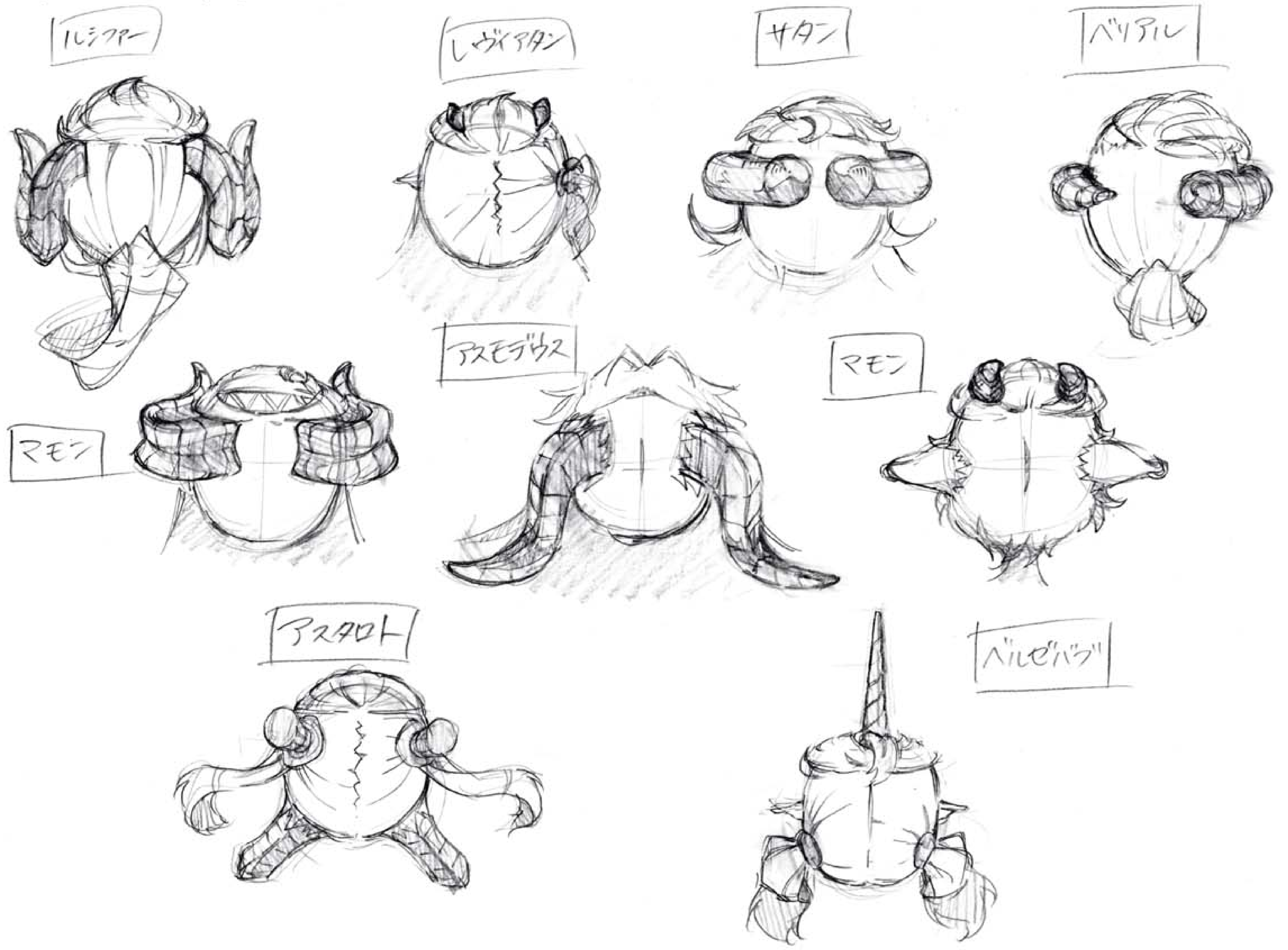
ベリアル


〈表情集〉
ふーーん
驚
不機嫌
親指・中指
以外が開いてます
首元 後ろ
着物の襟口を
イメージしてもらったら
よいかもです
〈グノーシス〉
アップ時のみ
〈グノーシス無し〉
胸元 装飾
胸元 装飾
胸元 装飾

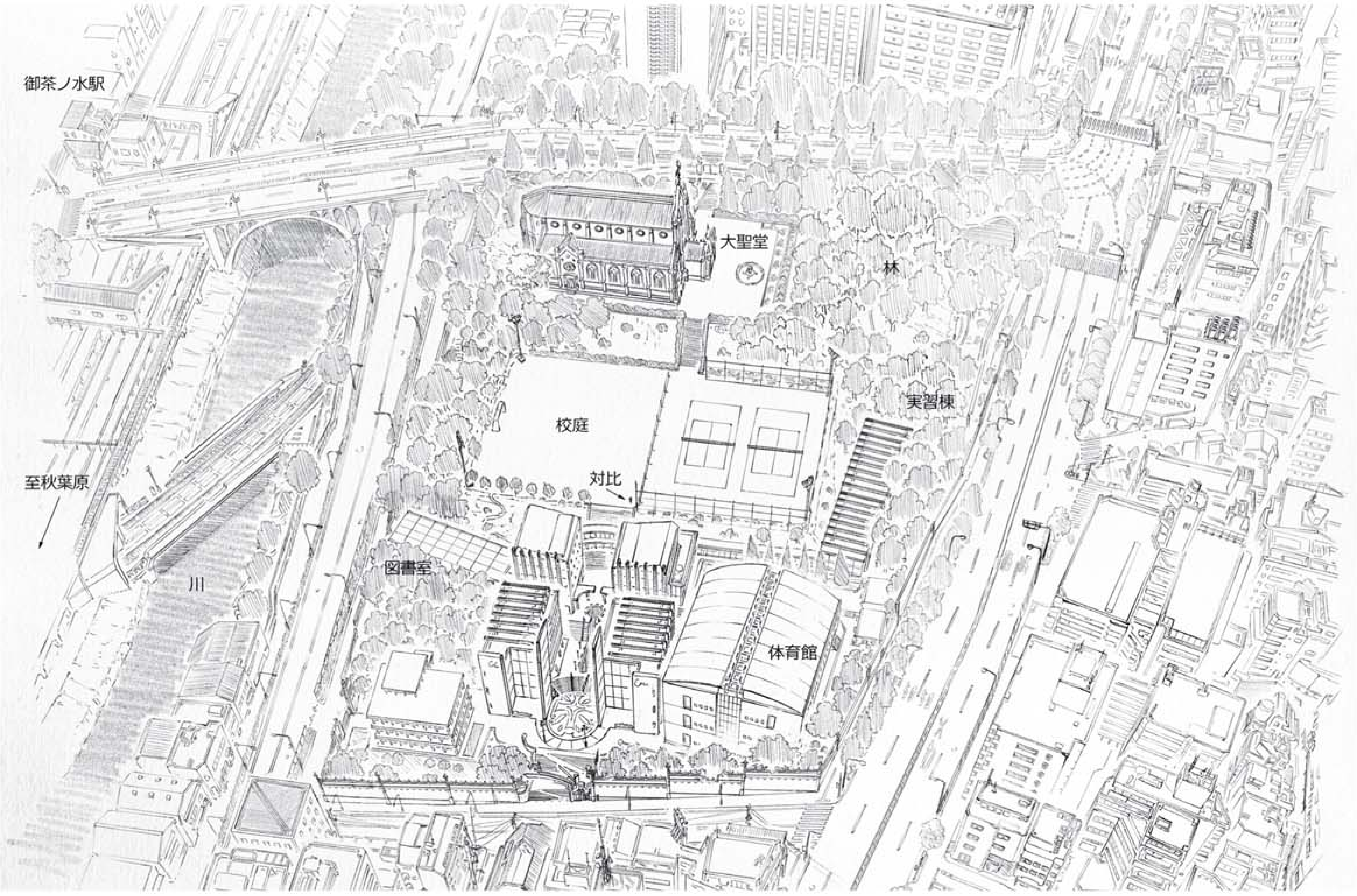
アスタロト


〈表情集〉
フリル下 胸元開いてます
バラ
1つ
やわらかい素材
手のひら
手の甲
やわらかい素材です
フリル
2段
〈尻尾の生え方〉

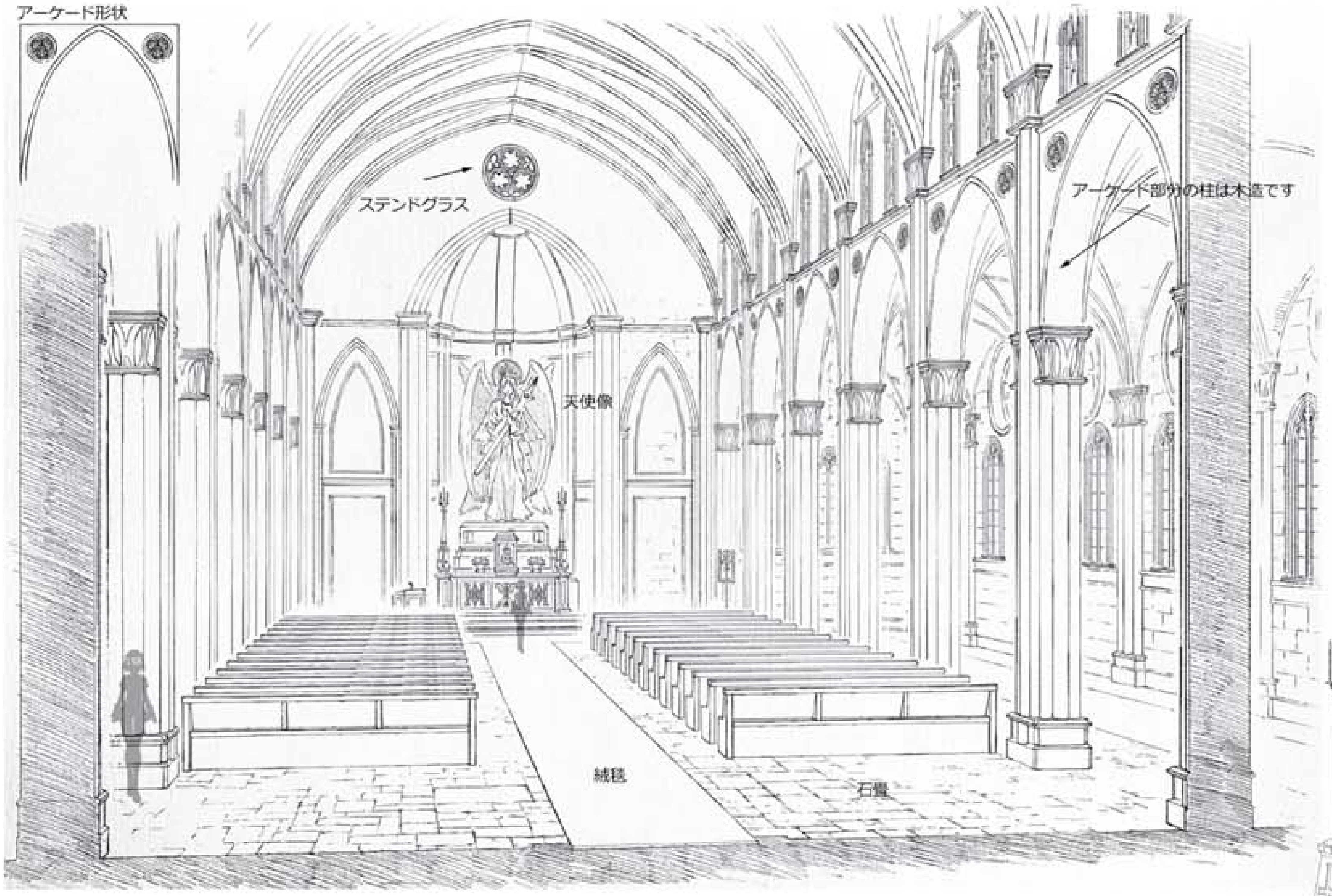
魔王の角


ルシファー
レヴィアタン
サタン
ベリアル
アスモデウス
マモン
マモン
アスタロト
ベルゼバブ

人間が暮らす地上界と魔王が統べる地獄。異なる2つの世界の魅力が詰まった緻密な美術設定をご紹介しよう！



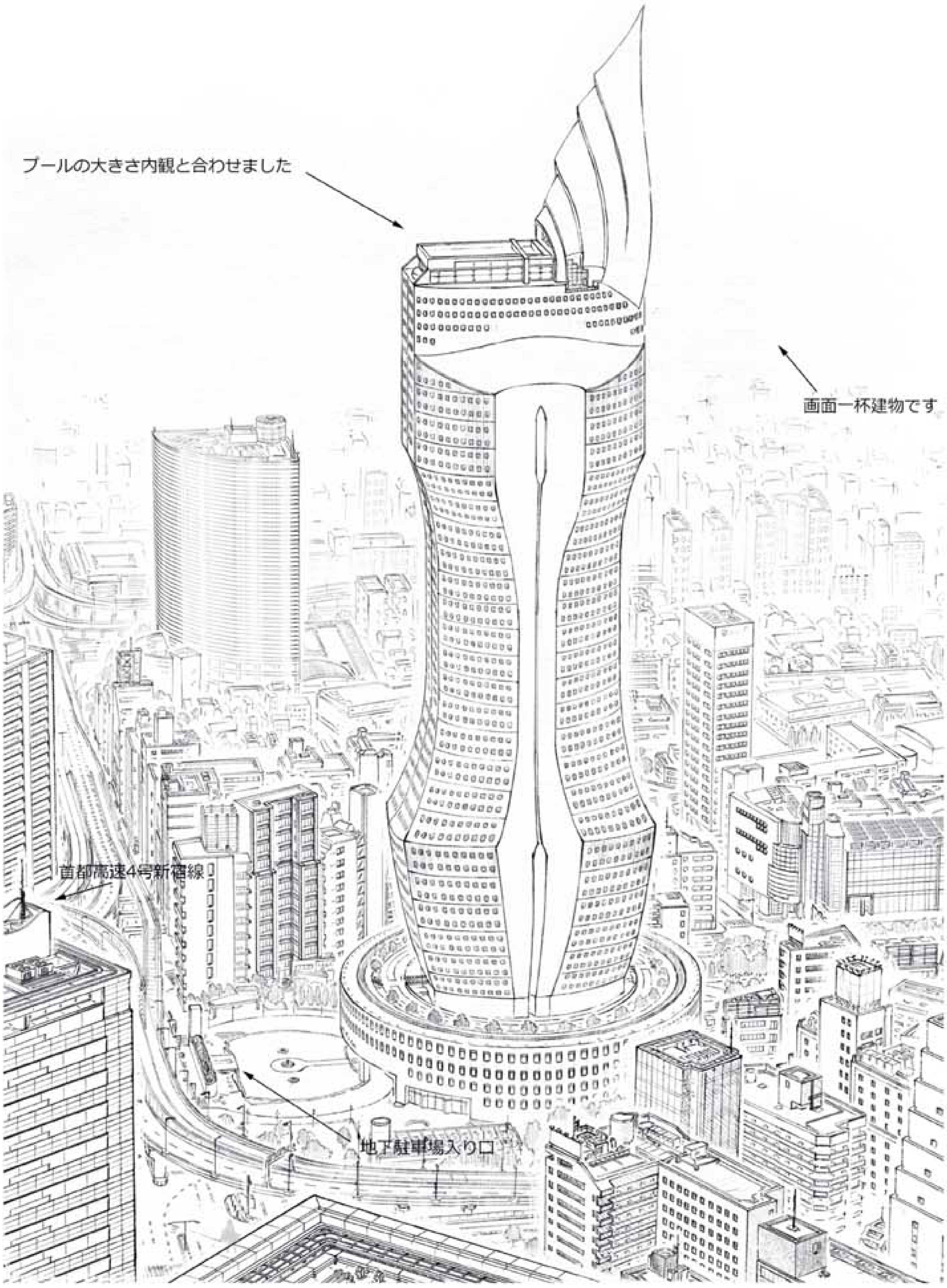
聖蹟女学院全景

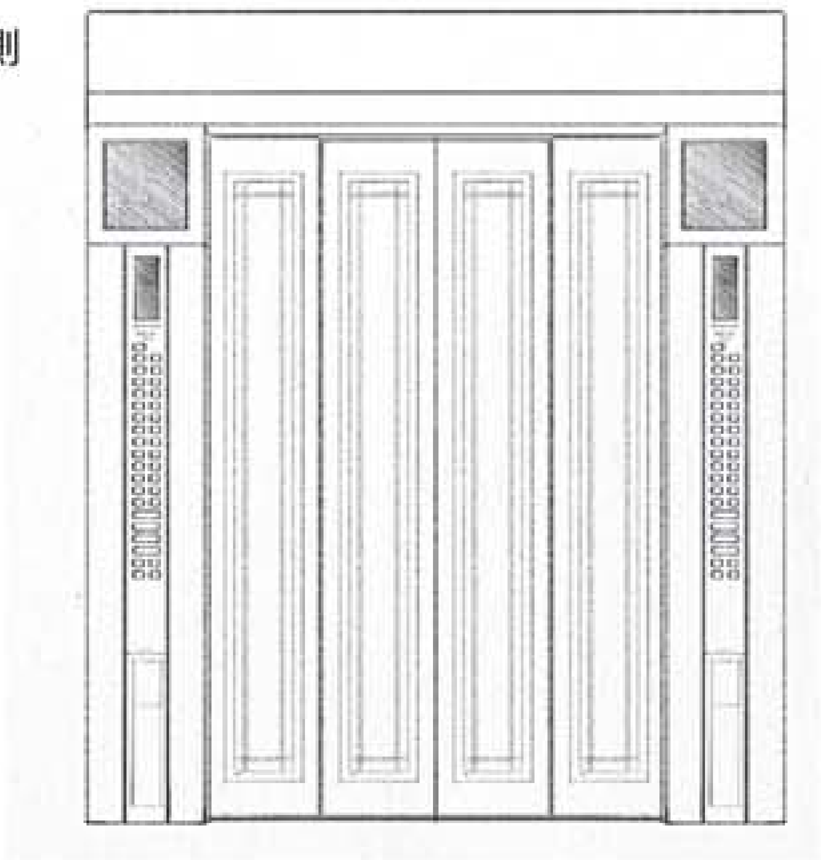


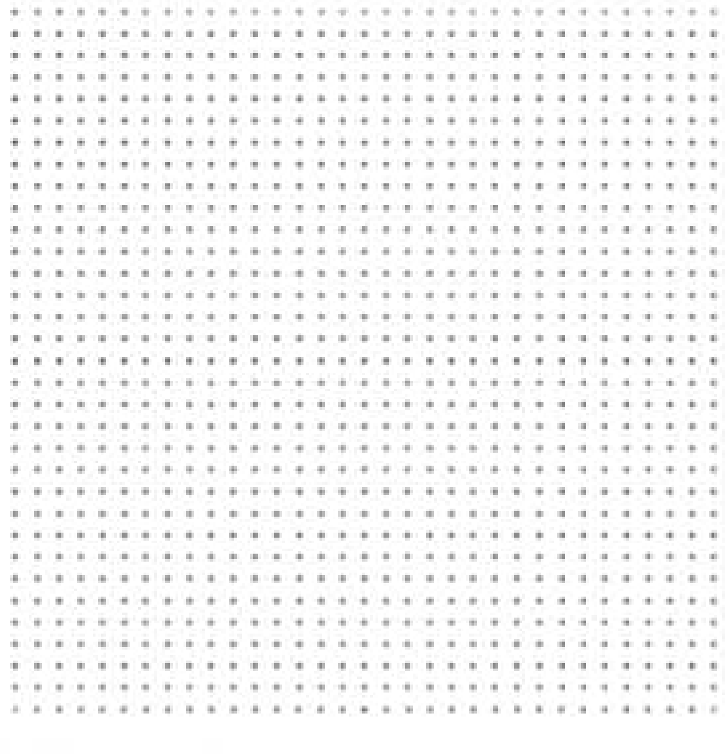
〈聖蹟女学院聖堂〉

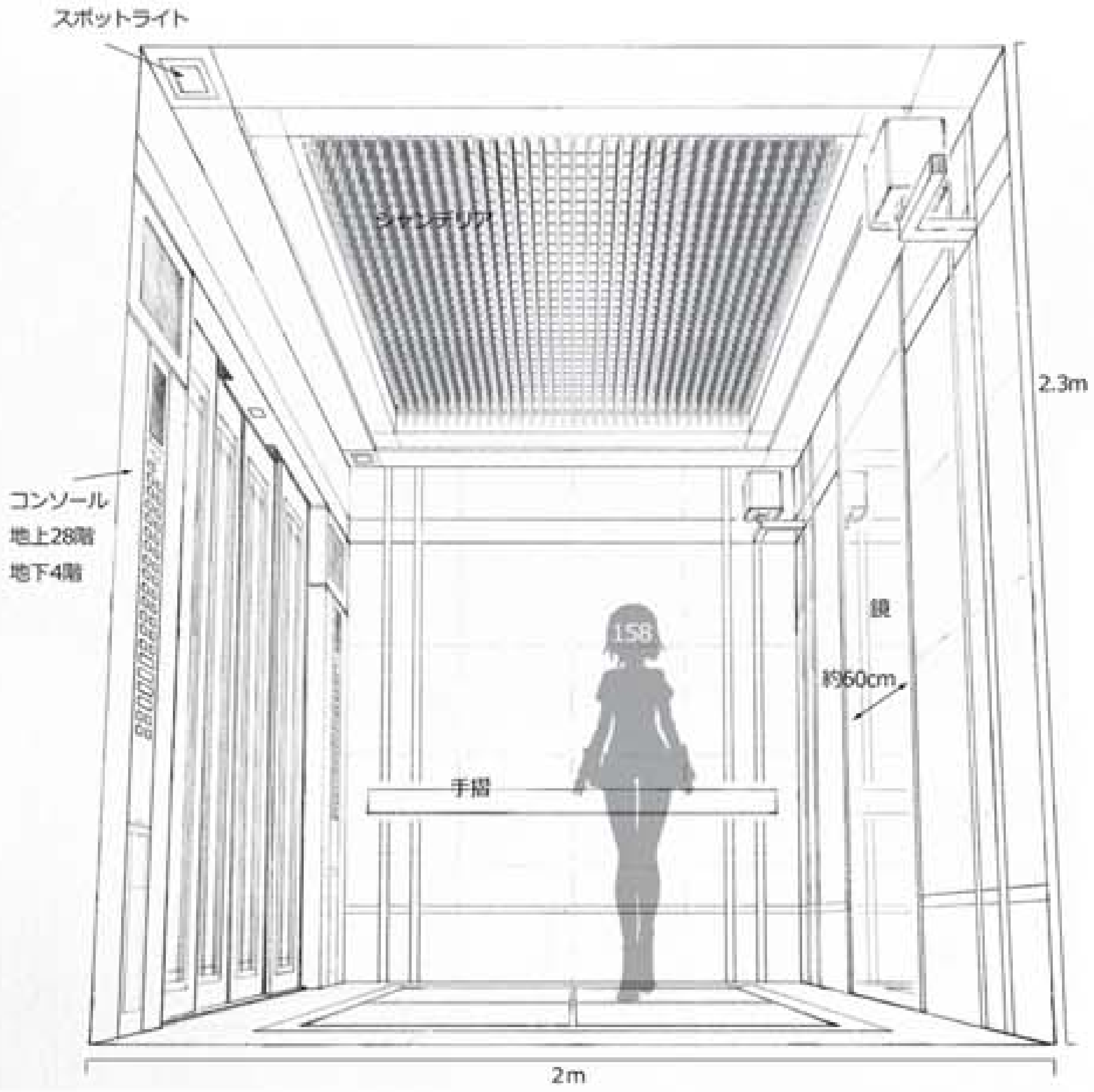
〈女神像〉

ロイヤルタワーズ東京



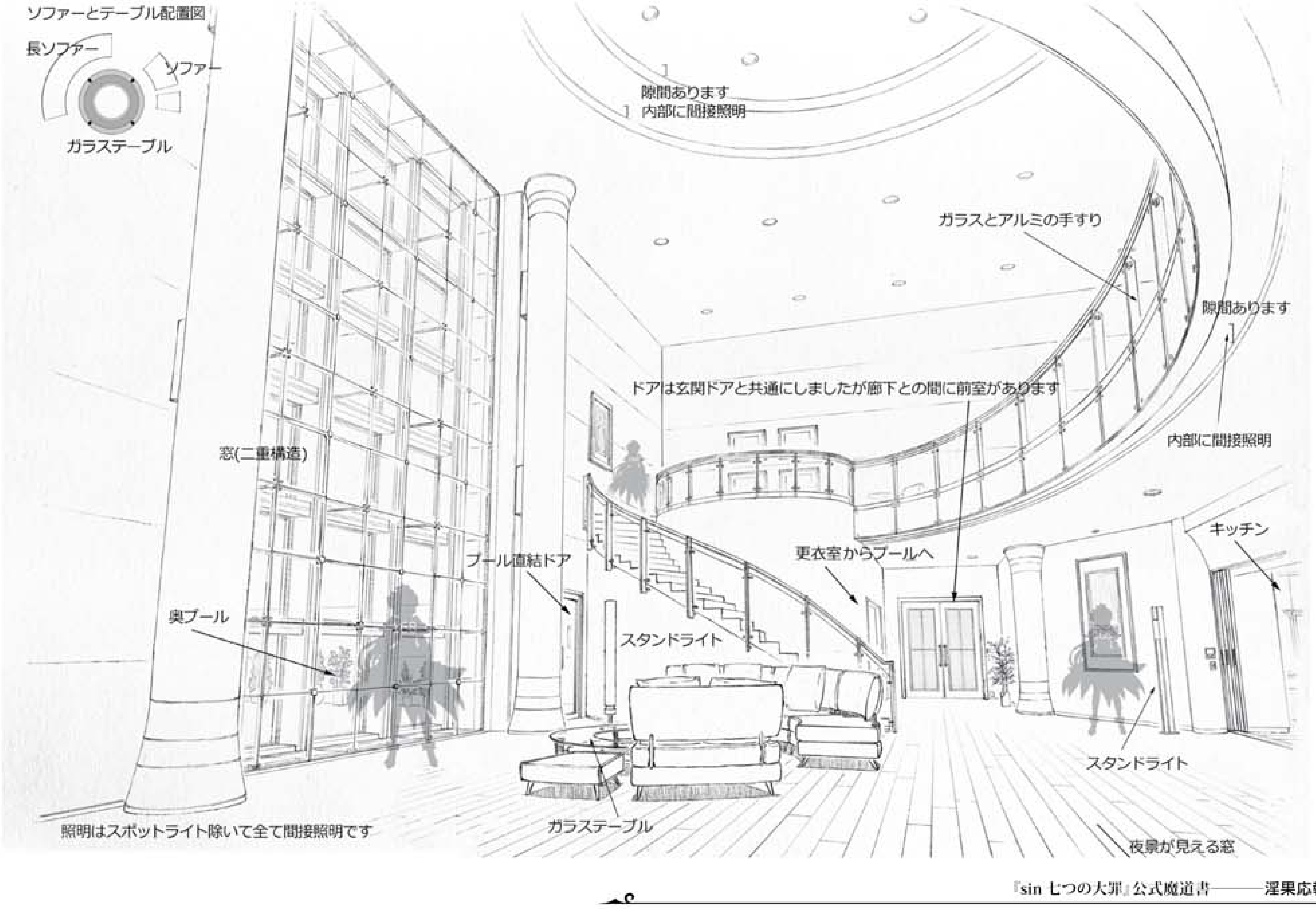




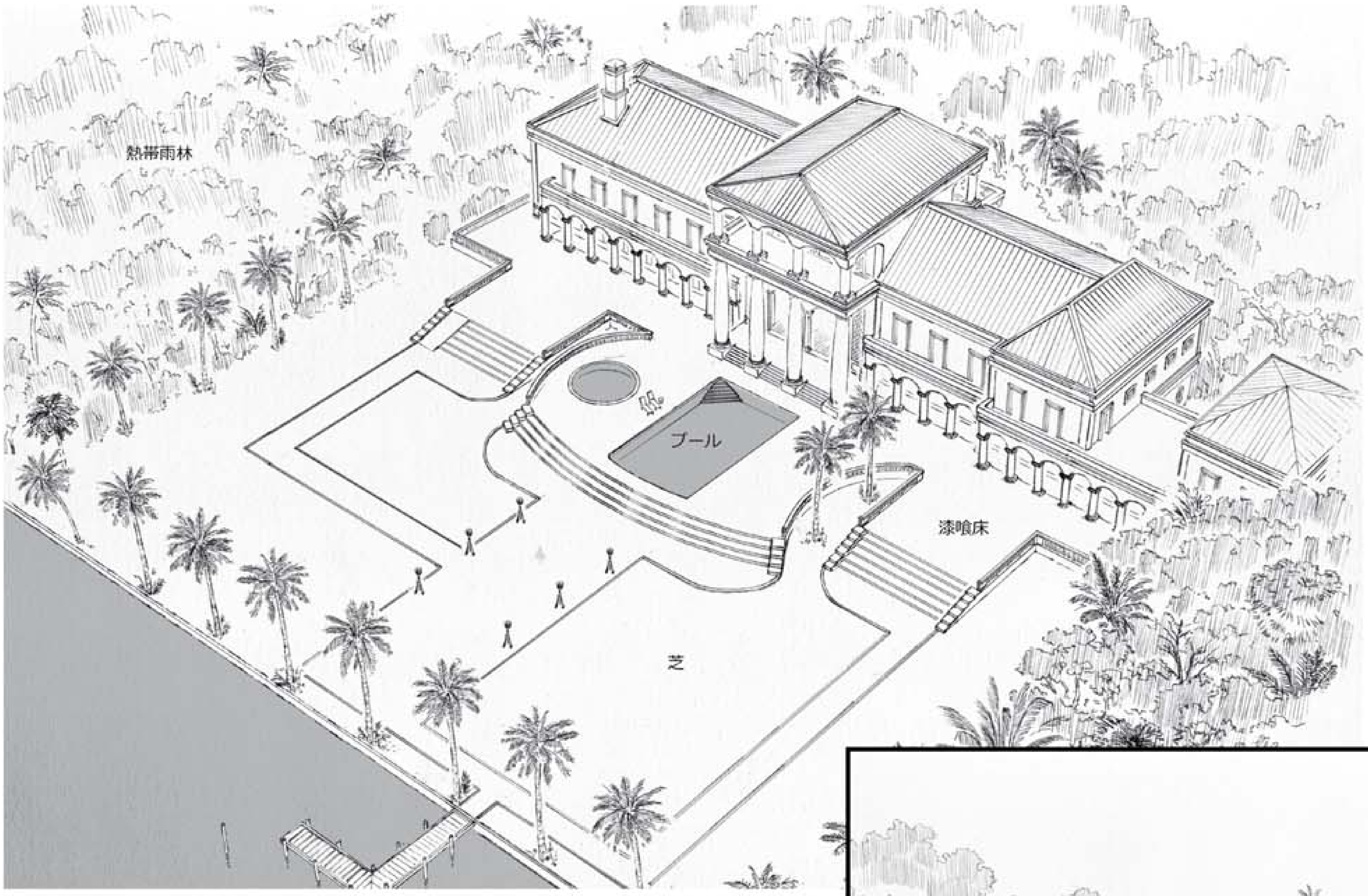


〈エレベーター〉

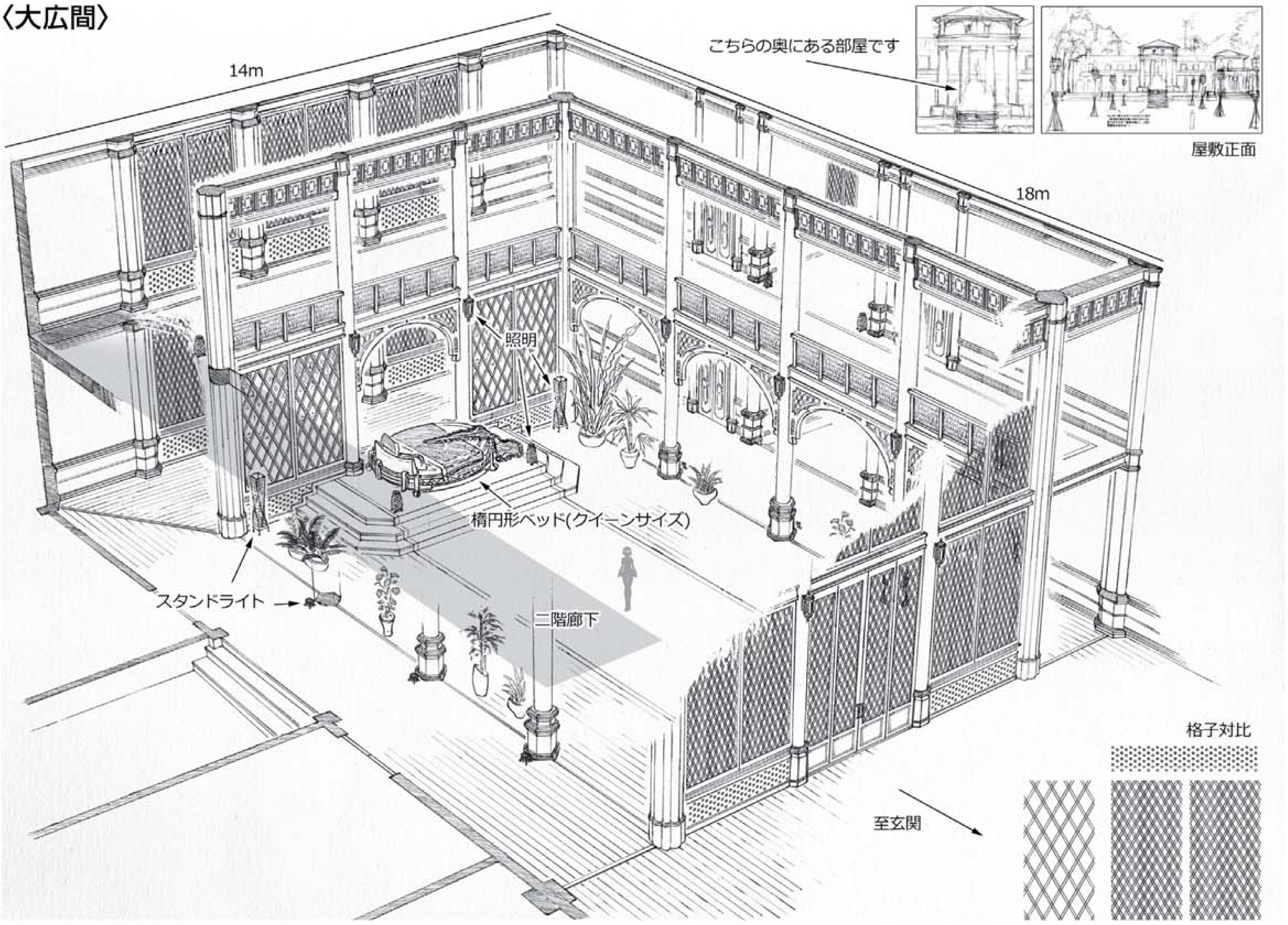
〈プレデンシャルスイート〉



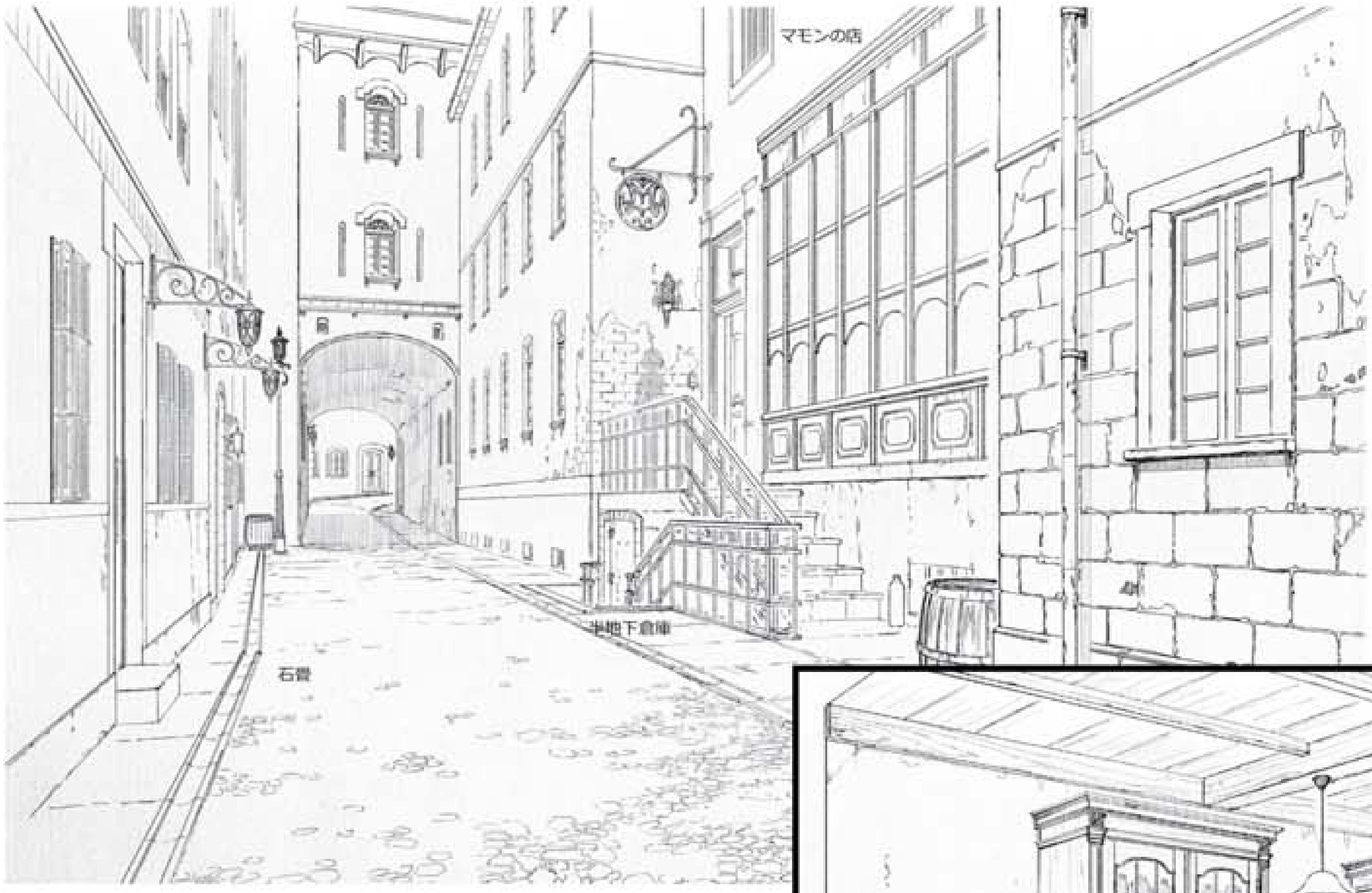
アスモデウスの屋敷



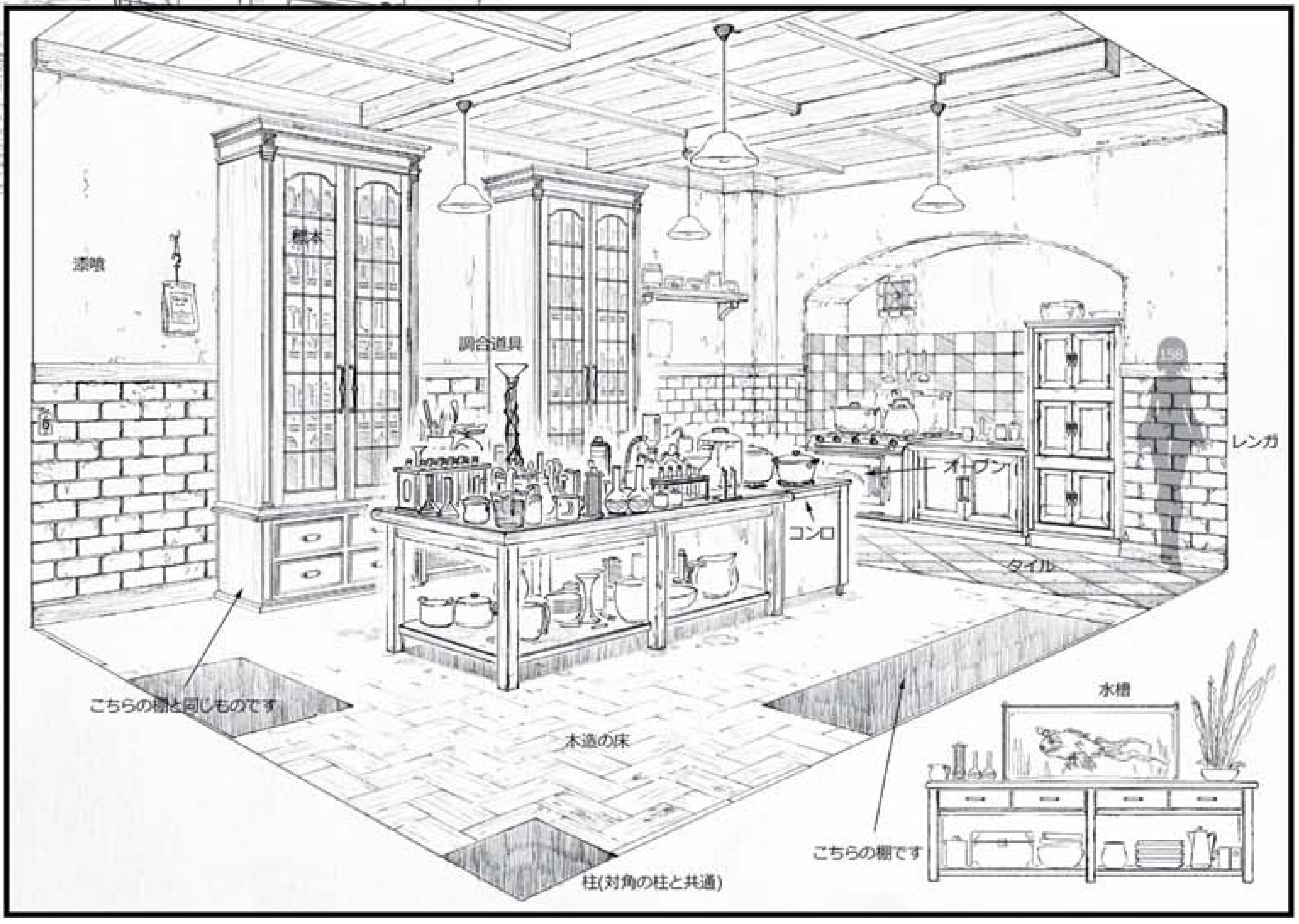
〈大広間〉



マモンの店

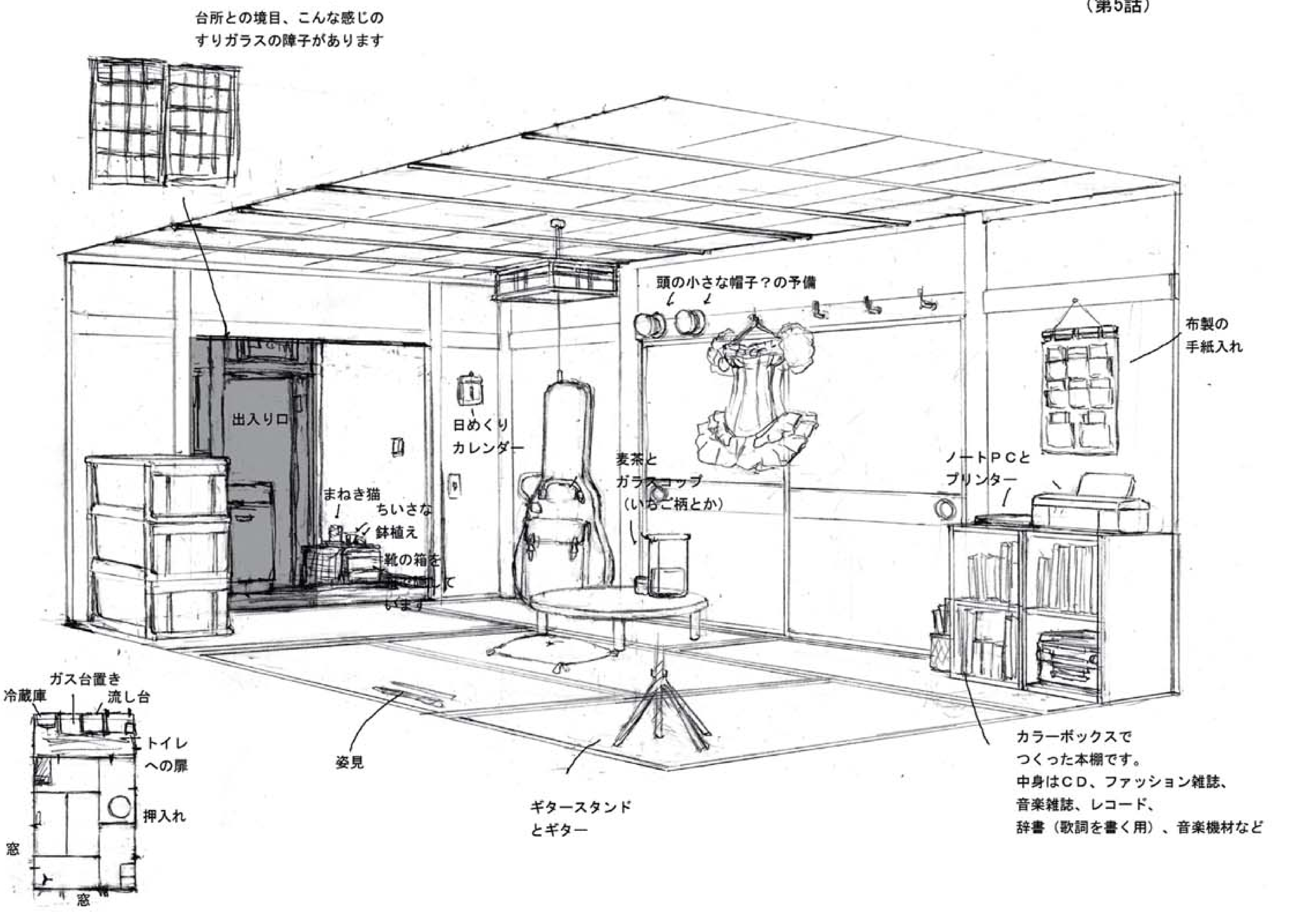


〈調合室〉

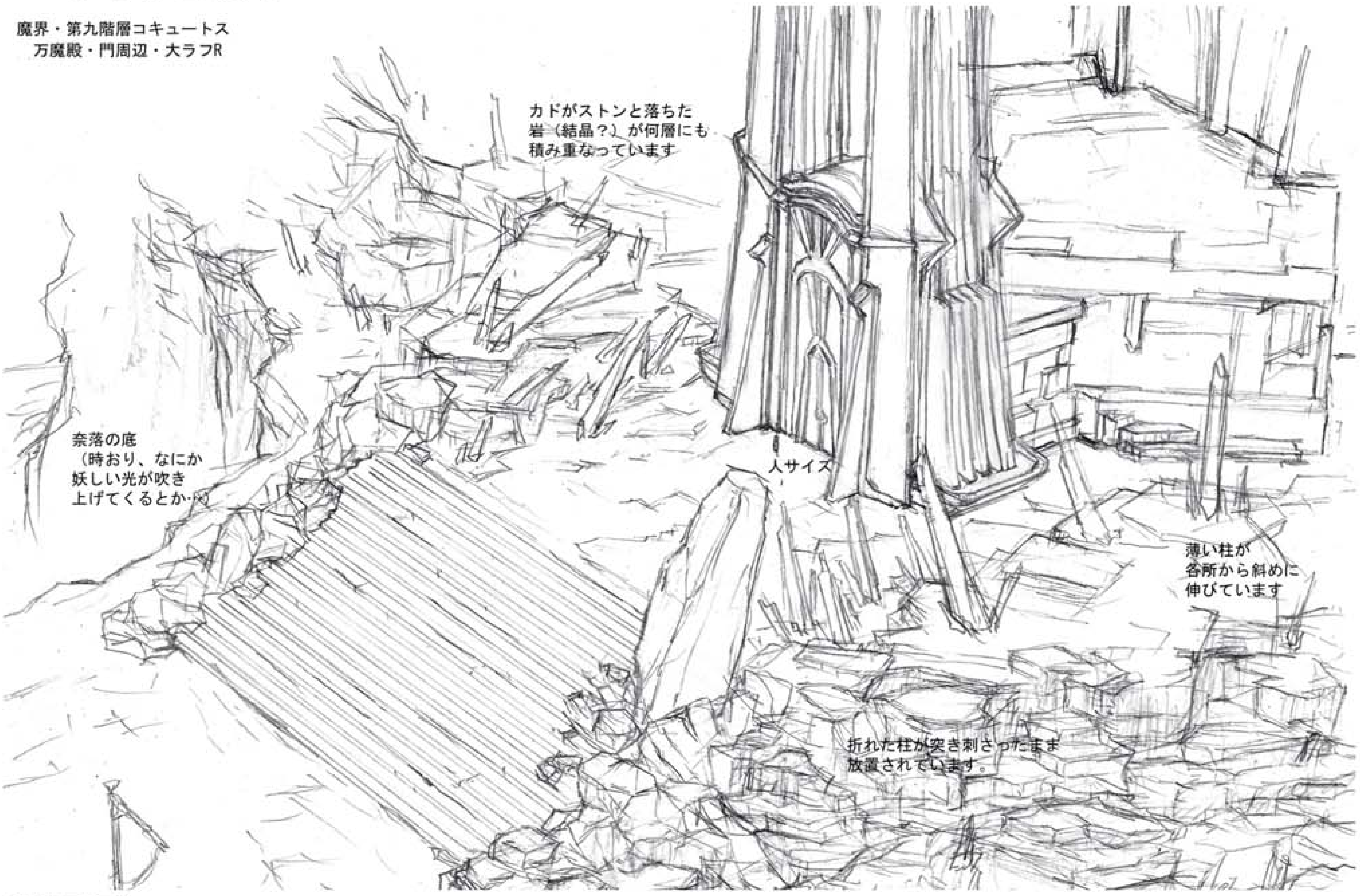


アスタロトの自宅アパート

（第5話）

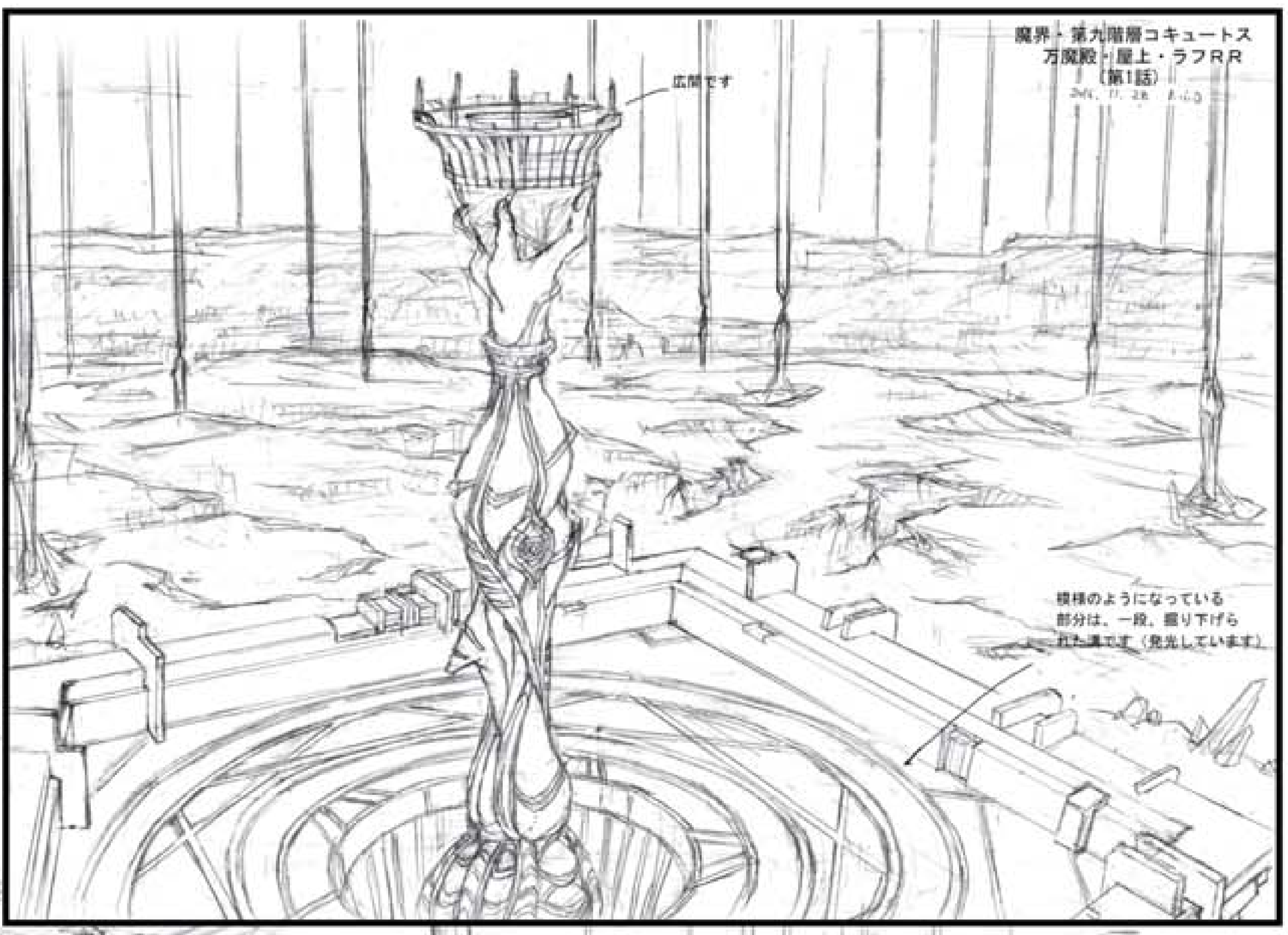


万魔殿

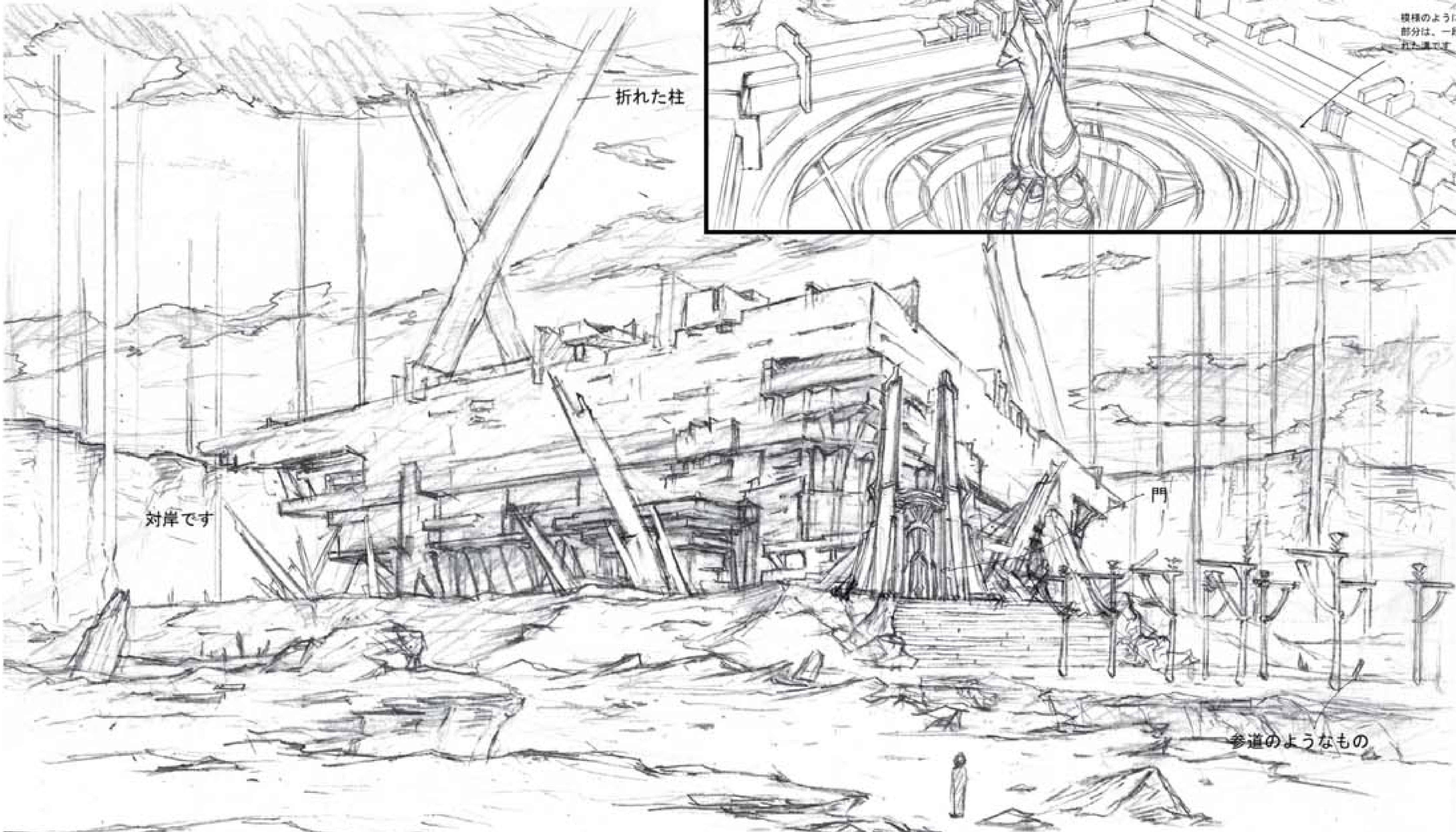


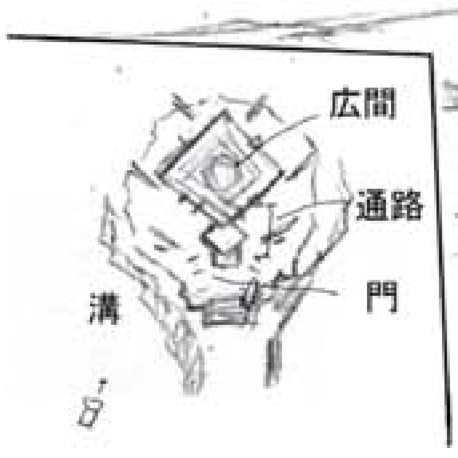
〈門周辺〉

〈屋上〉



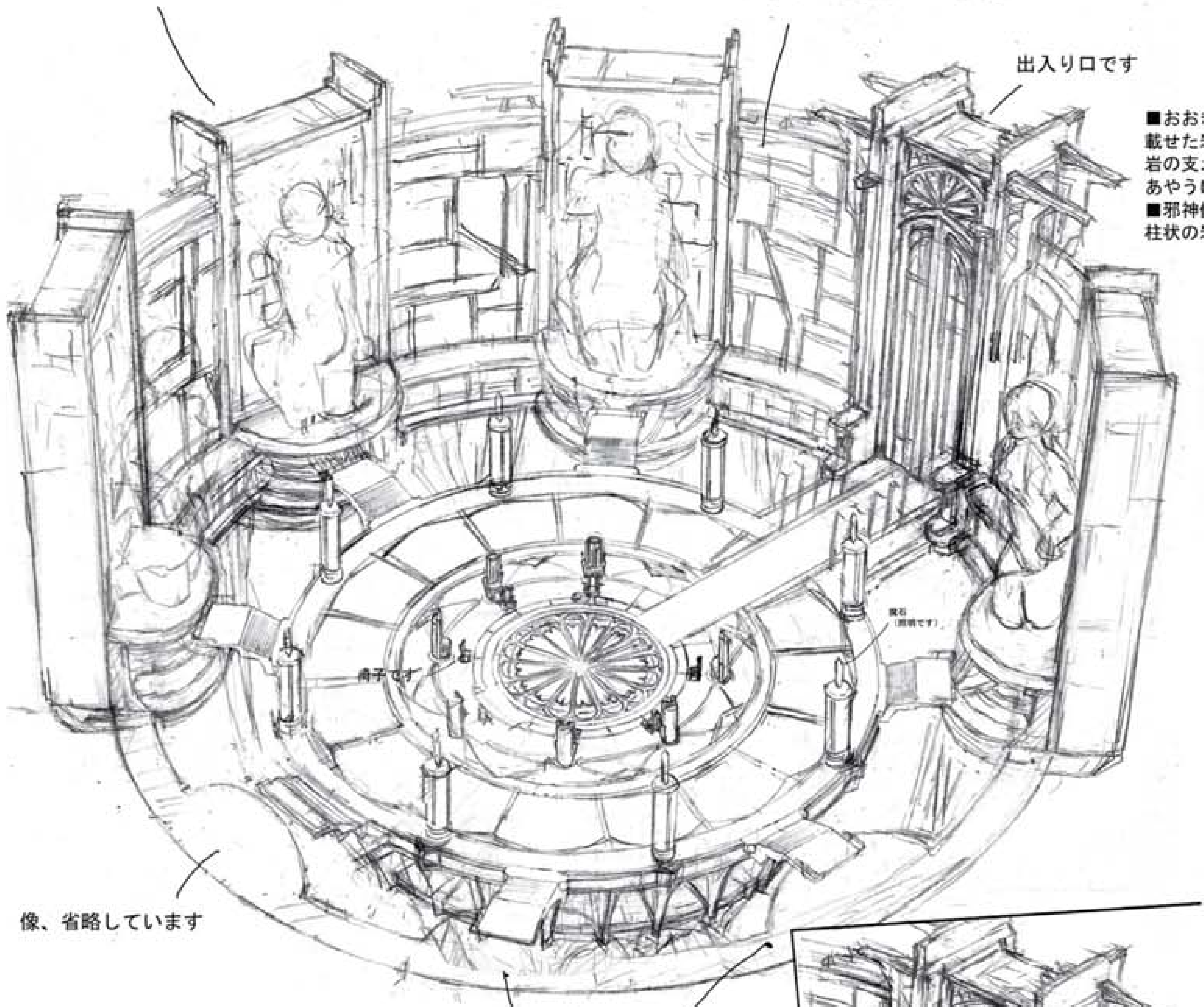
〈本殿〉



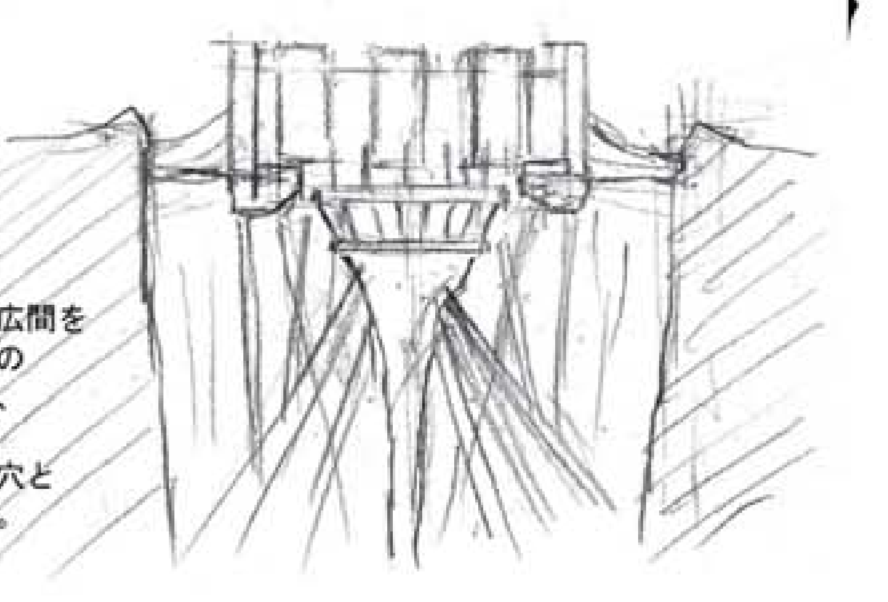


■氷のような、不透明な水晶のような質感です
■地上に出ている部分は、モニュメント程度、
主な施設は地下につくられています

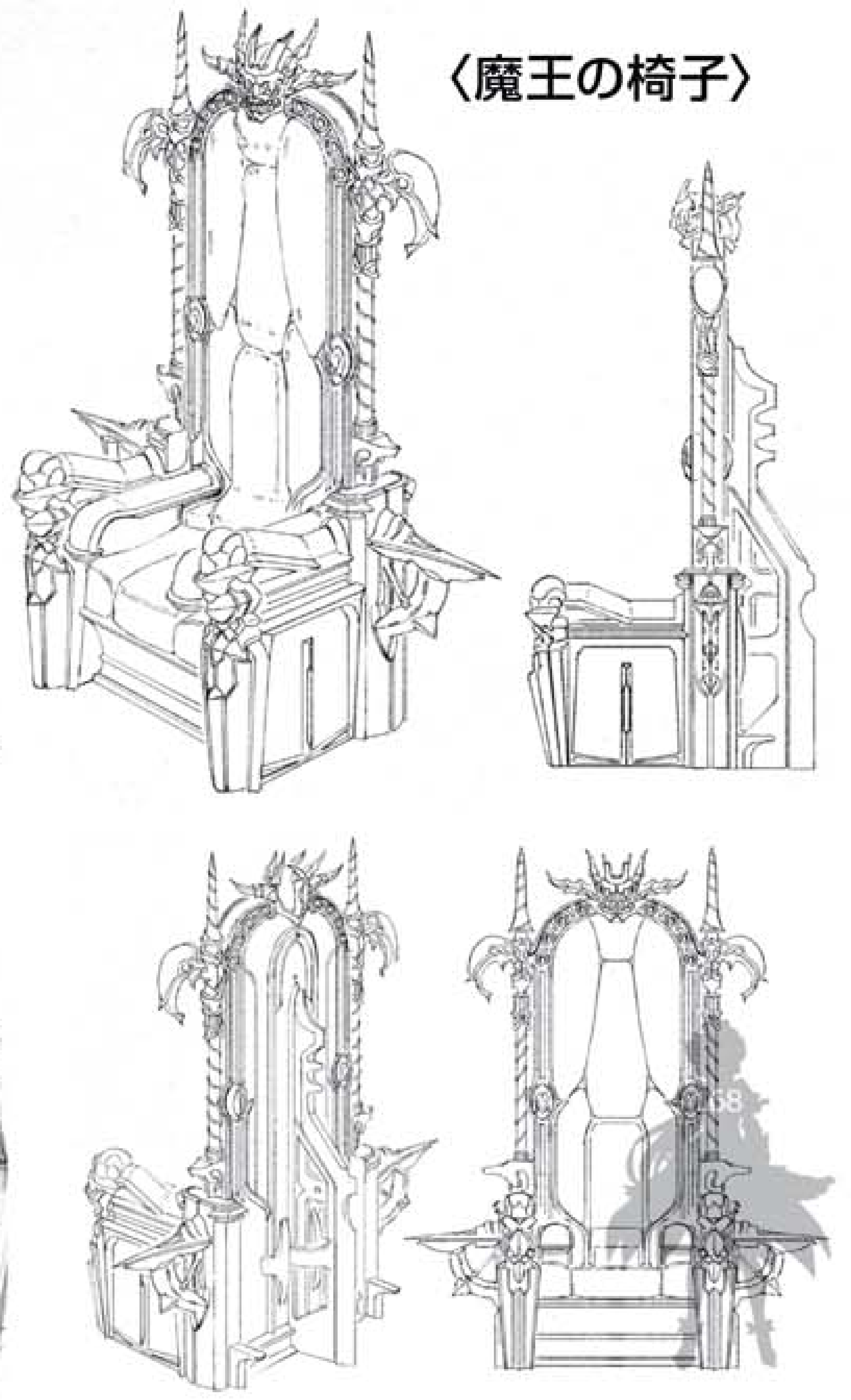
〈広間〉

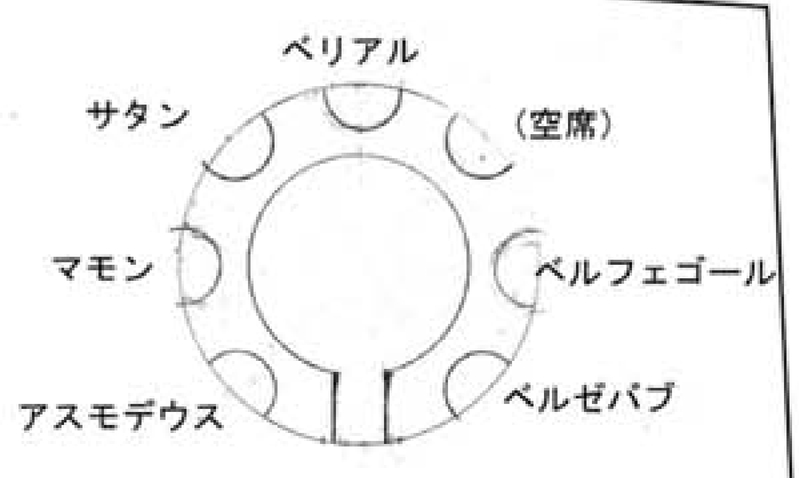


■おおきな穴の底から、中央の広間を載せた岩が伸びています。柱状の岩の支えがないと倒壊しそうな、あやうげなバランスです。
■邪神像を配した壁面は外側の穴と柱状の岩とで支えられています。

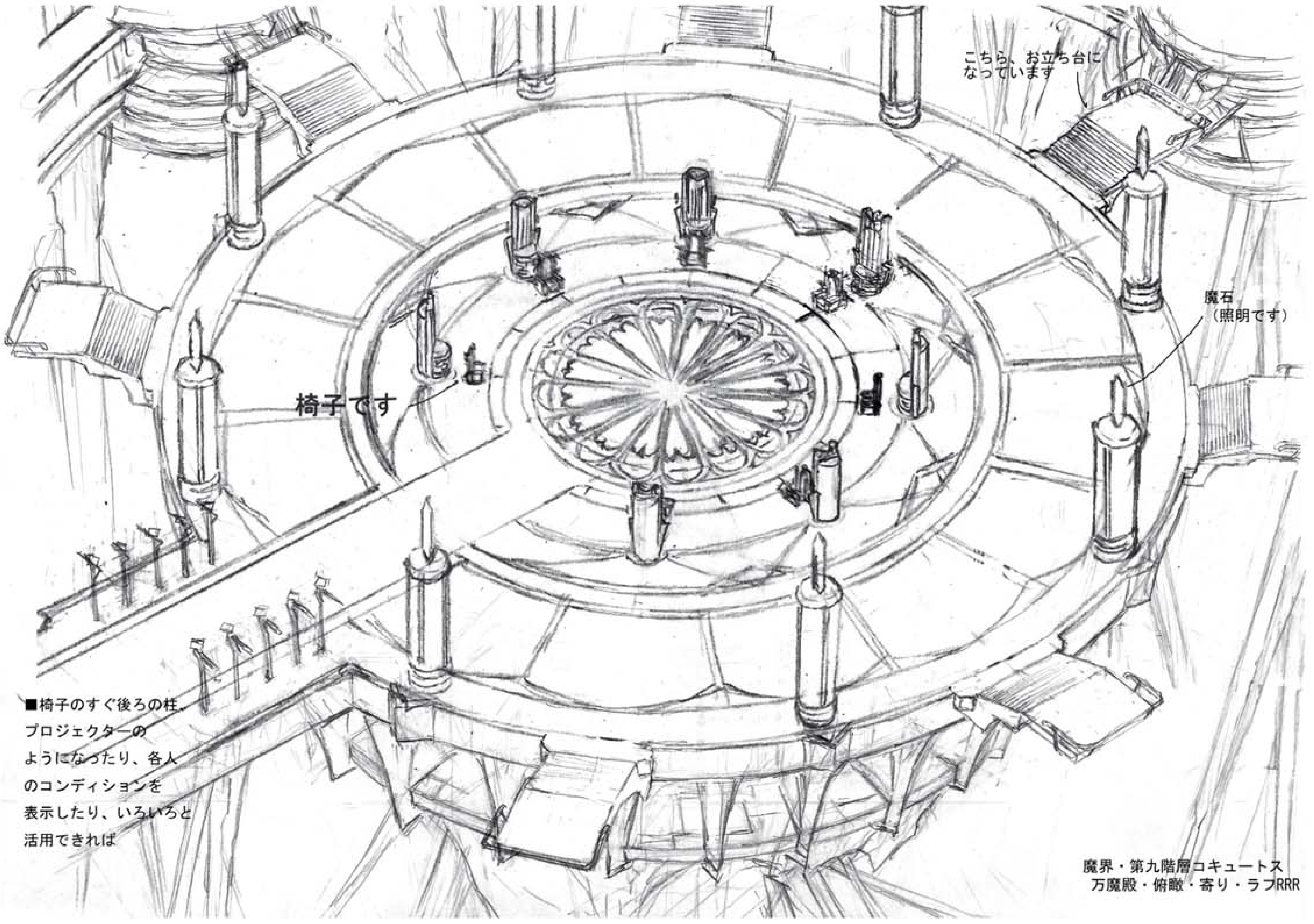


〈魔王の椅子〉





■第1話の時点での席順



■椅子のすぐ後ろの柱、プロジェクターのようになったり、各人のコンディションを表示したり、いろいろと活用できれば

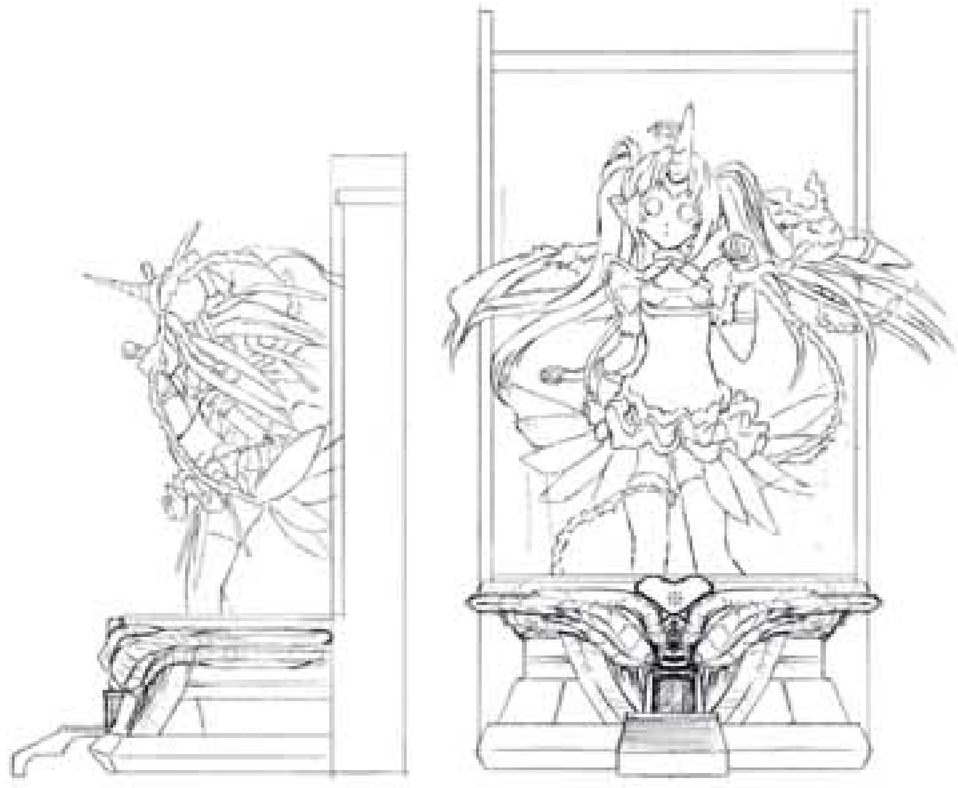
魔界・第九階層コキュートス
万魔殿・俯瞰・寄り・ラフRRR

広間の各所にある像

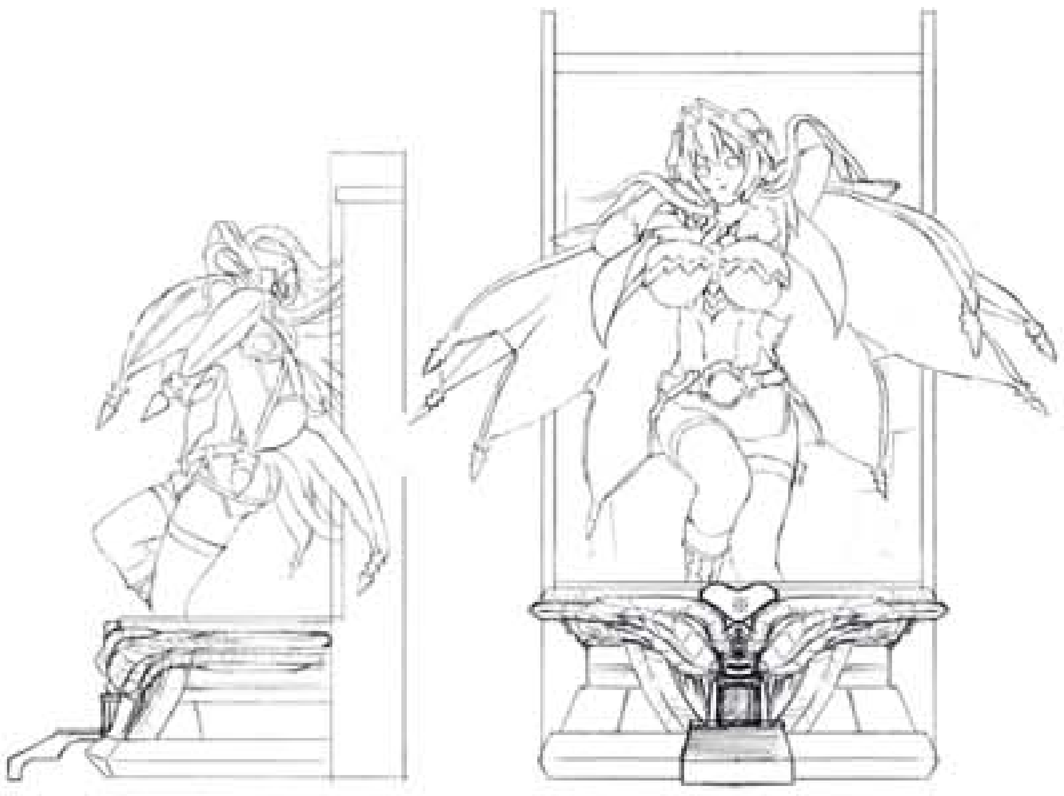
〈サタンの像〉

〈ベルフェゴールの像〉

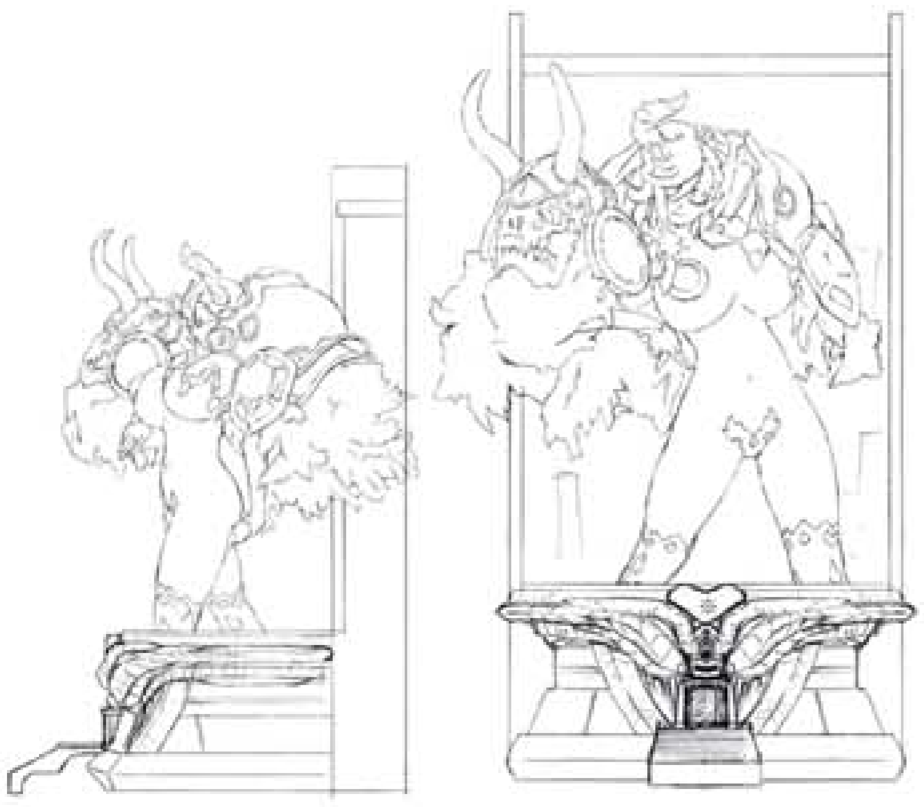
〈マモンの像〉



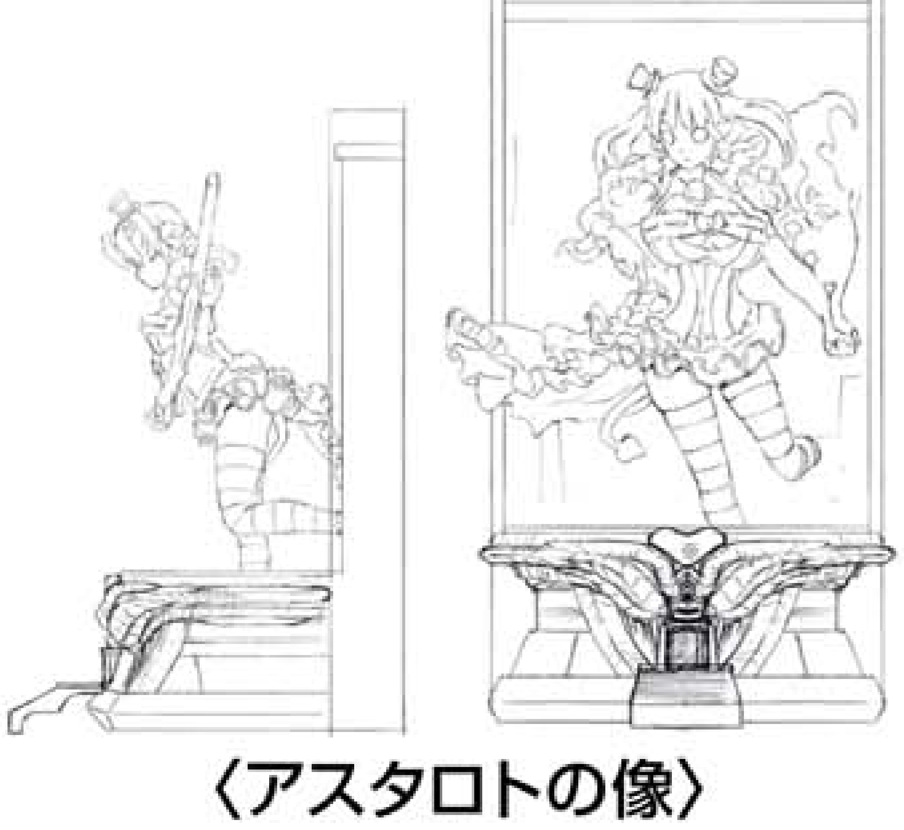
〈ベルゼバブの像〉



〈アスモデウスの像〉



〈ベリアルの像〉



〈アスタロトの像〉

ボーナス&アイテム

ショートアニメ「懺悔録」や
原作『七つの大罪』公式サイトの人気コーナー「罪の告白 電脳グリモワール」ほか、
新商品も含むフィギュア&アイテム情報を紹介。

—I N D E X—

116 懺悔録
120 罪の告白　電脳グリモワール！ 誌上出張版
122 フィギュアカタログ
125 新作フィギュア
126 アイテム
128 新作アイテム
129 スタッフ&初出一覧

懺悔録

STAFF
脚本(#13～#19)／設楽英一　絵コンテ／西島克彦　演出／よしもときんじ
原画／よりもときんじ、塚田ひろし、山崎克之、岡田豊広、正金寺直子、舛舘俊秀、大内正彦、田村勝之
美術／松宮正純(スタジオロフト)　撮影／スタジオコスモス　音響監督／森下広人
編集／瀬山編集室　制作プロデュース／吉本欣司　アニメーション制作／フォルテス

礼拝堂の祭壇に懺悔の祈りを捧げる乙女がひとり。今日も神の膝元で、敬虔なる乙女・真莉亜の懺悔が語られる——。

アニメ公式サイト＆Blu-ray／DVD映像特典のショートアニメ「懺悔録」を紹介しよう。

第一話「私、乗せられやすいんです。」

レヴィアタンから、宣戦布告するならかっこいいポーズを決めようと言われたルシファー。決めポーズをとって見せるももっとセクシーにエッチにとノセられて、どんどん大胆すぎるエロポーズに……。

第二話「私、趣味に素直なんです。」

シャワーを浴びるルシファーに妖しい影が迫る——と思いきや、影は脱ぎ捨てられたルシファーのパンティに手を伸ばす。パンティをかぶって大興奮の影、もといレヴィアタンは己の趣味を満喫する。

第三話「私、親切なんです。」

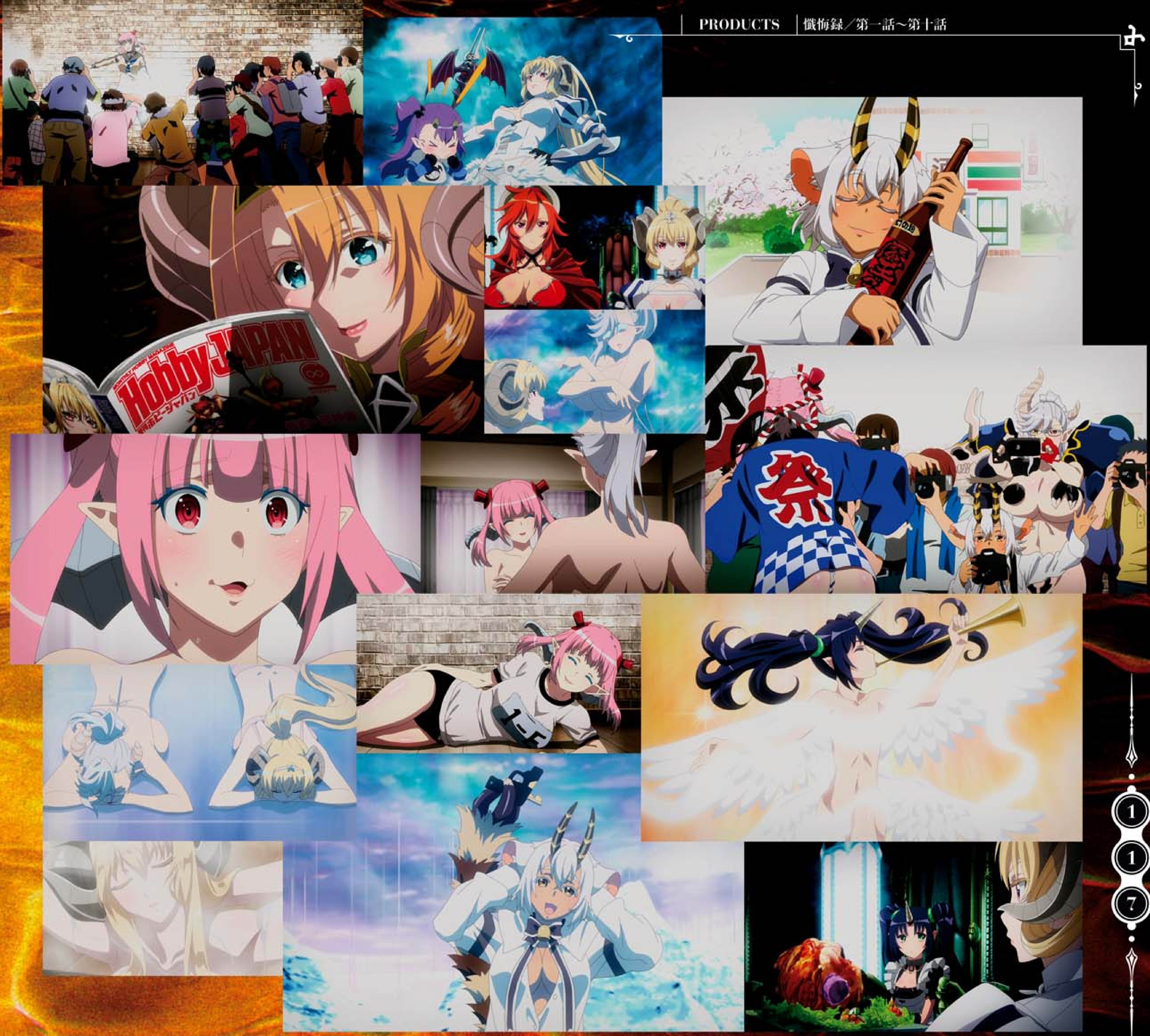
アスモデウスの“親切”に困惑気味の真莉亜。バニーやSMは必死で断るが、マッサージの準備を見せられそれならと了承する。が、もちろんただのマッサージのはずはなく…真莉亜の運命やいかに。

第四話「私、クオリティには厳しいんです。」

大罪たちのあられもない姿の生写真で、マモンはフィギュアの売り上げアップを目指す。信者を満足させるにはもっとクオリティを上げなければと考えたあげく、凝りすぎて原価割れを起こすのだった。

第五話「私、バイトが忙しいんです。」

活動資金のため、コスプレ撮影会をするアスタロト。ローアングルで激写され、もうヤダ辛いと、ついベリアルとベルフェゴールに助けを求めると…そこにはカメラをかまえ、激写に励む2人の姿が。



第六話
「私、慎ましいんです。」

お金が足りないと嘆くアスタロトに、ベリアルが節約術を伝授するという。その術・裸生門は服を脱ぎ捨て全裸で過ごす荒技！ アスタロトはベリアルの指導のもと、その術で路上ライブにも挑み…。

第七話
「私、可愛いものに目がないんです。」

捨てられていた仔猫を拾い、連れ帰ることにしたサタン。だが朝、目覚めると猫の悪戯でビリビリにされたサタンの服。思わず怒りがこみあげるも、仔猫の無垢な瞳にすぐメロメロになってしまう。

第八話
「私、アクティブなんです。」

ネットで幻の焼酎入荷を知ったベルフェゴール。お届けが一週間後と知り、待ちきれずに店に向かう。花見酒しにワシントンに飛び、桜鯛が食べたいと釣りに行く。時々“怠惰”を忘れるベルフェだった。

第九話
「私、バカなんです。」

ルシファーとベリアルが、ビーチフラッグで決闘することに。だが場所は氷漬けのコキュートスとあって、すぐ足を滑らせ転んで大開脚。水着をむしり取りあい、結局キャットファイトになってしまう。

第十話
「私、幸せにしちゃうんです。」

ルシファーがベルゼバブに用意したのは、超巨大なマンガ肉。さっそく食べ始めるバブはおいしさにあやうく昇天しかけるほど大感激。でも感情を出すのが下手なため、ルシファーには感動が伝わらない。

第十一話「私、遊んじゃうんです。」

ベルフェゴールの提案で、賞金をかけてちょっとしたゲームをするマモンとベリアル。巨乳巨尻の戦いはマモンに軍配が上がる。それを見たベルフェゴールは、次は自分と勝負しようとマモンに持ちかける。

第十二話「私、○○なんです。」

天使ミカエルとの戦いのあと、地獄の温泉で慰労会を催す大罪たち。敵対していたはずのベリアルとともに、真莉亜もまた会場へと向かう。罪を認め合った魔王たちは、みんな仲良くなったのだった。

第十三話「私、負けず嫌いなんです。」

首座の座を賭け、ルシファーとベリアルがまた決闘！ 前貼りに繋いだ紐を引きあう地獄綱引きは、はがれるときが地獄の苦しみだという。顔をゆがめて引く紐に、そのときベルフェが投げた一升瓶が…。

第十四話「私、下着がすごいんです。」

こそこそと薬局から出てきたレヴィアタンが、籠もったトイレの中で何やらモゾモゾ。声を上げつつ達成したのは、股間に貼った絆創膏の交換。やっぱり絆創膏は機能よしデザインよしの日本製に限る！

第十五話「私、聖人なんです。」

魔王なのに、サンタに扮して子どもたちの期待に応えようとするサタン。煙突から侵入を試みるも、せまくて服が引っかかりおっぱいがポロリ。パンツもちぎれて、いろいろ丸出しサンタになるのだった。

第十六話「私、片付けられないんです。」

ベルフェゴールの部屋は、足の踏み場もない散らかりっぷり。訪ねたアスタロトが片付け始めると、18禁悪魔っ娘レズゲーを発見。アスタロトの脳内に、ベルフェゴールとのイケナイ妄想が駆け巡る。

第十七話「私、仕事熱心なんです。」

とあるゲームをリサーチしていたところ、ゲーム内で遭遇した勇者に討伐されそうになったマモン。偶然勇者が好みの少年だったことから、マモンはあらわになった胸を見せ、勇者を誘惑しようと迫る。

第十八話「私、悩んでるんです。」

温泉で爆乳魔王たちに囲まれ自らの無乳を嘆くベルゼバブ。アスモデウスやマモンのレクチャーを受け豊胸に成功するが、ベリアルの教えを実践したせいでとんでもない悲劇に見舞われてしまう。

第十九話「私、悪魔なんです。」

アスモデウスに捕らえられ媚薬を飲まされた真莉亜は、薬の効果で暴走してしまう。問答無用でアスモデウスを縛り上げると、自分に使われるはずだった電マで思う存分色欲の魔王を啼かせるのだった。

罪の告白 電脳グリモワール！ 誌上出張版

罪の告白とは？

原作『七つの大罪』公式サイトのユーザー参加型コーナー「罪の告白」。信者（ユーザー）が犯した罪の告白に対し魔王たちが好き勝手にコメントする人気コーナーであり、TVアニメ化を記念してアニメキャスト を起用した音声付き版が配信された。配信版では魔王たちが罪の告白をカンファレンス（協議）し、信者の罪を1〜9のレベルに判定（ジャッジメント）する。

「You Tube」ホビージャパンチャンネルにて配信中

Episode 1
レヴィアタンの邪神像を購入した信者からパンツ代わりの"絆創膏"を剥がしたいという過激な告白が届く。無論許せるはずもなく、レヴィアタンは怒りにまかせて叫び出す。

ジャッジメント！ 嫉妬の罪レベル5！
レヴィアタン：あんまりしつこいとガムテープに貼りかえるわよっ！

Episode 2
厨二要素のある作品でもラノベとキリスト教三大文学とではなぜ扱いに差があるのか？ と告白されたルシファーたち。その後話が脱線し大好きなHJ文庫の話をはじめてしまう。

ジャッジメント！ 傲慢の罪レベル6！
ルシファー：新刊「最近、あたしがかわいすぎて生きるのがつらい」

Episode 3
ルシファーのパンツを一心不乱に嗅いでいるレヴィアタンを目撃したとのタレコ…告白を受けたルシファー。素知らぬ顔をしていたレヴィアタンに思い切り頭突きを食らわす。

ジャッジメント！ 色欲の罪レベル7！
アスモデウス：パンツの中身に興味はないの？

Episode 4
普段は怒りっぽいサタンが小動物やかわいいものには弱い姿がかわいいとの告白を聞いたベルゼバブ。毛がふわふわの子猫を呼び出し、サタンに至福の時間を味わわせる。

ジャッジメント！ 憤怒の罪レベル1！
サタン：子猫がいたら戦争などなくなってしまうな。

Episode 5
えっちな絵を描くために必要な性欲が湧かず困っているという告白を受けたルシファーたち。それぞれセックスシンボルとして性欲を煽る中、ベリアルとアスタロトが現われる。

ジャッジメント！ 虚飾の罪レベル5！
ベリアル：この私を見て思う存分欲情してみせなさい。

Episode 6
アスタロトの登場で、レヴィアタンのアイドル的な地位が奪われるのではと危ぶむ告白を気にも留めないレヴィアタン。それを聞いてアスタロトはますます自信喪失してしまう。

ジャッジメント！ 憂鬱の罪レベル4！
アスタロト：あたしがアイドルとして勝てそうな相手なんてひとりもいないよ…メソメソ。

Episode 7
マモンお手製の「爆乳になる薬」をルシファーに飲ませてほしいという告白ならぬ依頼を受けたマモン。格安で薬を作ることを約束するが、価格を見たルシファーは絶句する。

ジャッジメント！ 強欲の罪レベル9！
マモン：商売とはそういうものですわ。

Episode 8
突如異世界に召喚された信者からの告白で、元の世界に戻るためラスボスとして現われてほしいと乞われたルシファーたち。おのおの「もし自分が召喚されたら」について語りだす。

ジャッジメント！ 憤怒の罪レベル7！
サタン：さあ、いつでもかかってまいるがよい！

Episode 9
職場の同僚たちの険悪な仲の改善を願う告白を受けたルシファー。なぜか話の流れでベリアルとコスプレ対抗戦をやることになり、捨て身の一発芸を披露することに。

ジャッジメント！ 虚飾の罪レベル3！
ベリアル：こんな感じで盛り上げてみてはどう？

Episode 10
ソロモン王のように多くの悪魔を従えてチヤホヤされたいと告白されたルシファーたち。するとアスモデウスとマモンが至極真面目に「やめた方がいい」と忠告を促す。

ジャッジメント！ 傲慢の罪レベル7！
ルシファー：召喚はされてもチヤホヤするとは言ってないわよ！

キャラクターイラスト

イラスト／うるりひ

邪神像

七つの大罪 ルシファー～傲慢の像
●発売元／オーキッドシード●9800円、販売終了●1：8、約23.5㎝●原型製作／タナカマサノリ（ジェットストリーム）

七つの大罪 レヴィアタン～嫉妬の像
●発売元／ホビージャパン●8800円（通常版）、9800円（妬ましの黄色いハンカチ付き限定版）、各販売終了●1：8、約22㎝●製造／AMAKUNI●原型製作／ひろし（桜前線）

七つの大罪 サタン～憤怒の像
●発売元／オーキッドシード●11800円（オーキッドシード通販限定のみ湯呑み付属）、販売終了●1：8、約26㎝●原型製作／タナカマサノリ（ジェットストリーム）

七つの大罪 ベルフェゴール～怠惰の像
●発売元／ホビージャパン●11800円（通常版）、13880円（魔どろみのクッションカバー付き限定版）、各販売終了●1：8、約20㎝●製造／AMAKUNI●原型製作／間崎祐介、彩色見本製作／ピンポイント

七つの大罪 マモン ～強欲の像
●発売元／ホビージャパン●11800円（通常版）、12880円（守銭奴のコインポーチ付き限定版）、各販売終了●1:8、約24.5cm●製造／オーキッドシード●原型製作／石山智

七つの大罪 ベルゼバブ～暴食の像
●発売元／ホビージャパン●12800円（通常版）、13800円（食饉喰なランチョンマット付き限定版）、各販売終了●1：8、約21㎝●製造／AMAKUNI●原型製作／ひろし（桜前線）

七つの大罪 アスモデウス～色欲の像
●発売元／ホビージャパン●9800円（通常版）、10800円（ティッシュカバー付き限定版）、各販売終了●1：8、約23㎝●製造／オーキッドシード●原型製作／石山智

七つの大罪 ベリアル～虚飾の像
●発売元／オーキッドシード●15894円（通常版）、17604円（虚飾の杯枕カバー付き限定版）、発売中●1：8、約24㎝●原型製作／タナカマサノリ（ジェットストリーム）

七つの大罪 アスタロト～憂鬱の像
●発売元／ホビージャパン●12800円（通常版）、14800円（魂刺痕ライブタオル付き限定版）、各販売終了●1:8、約22cm●製造／AMAKUNI●原型製作／ひろし（桜前線）

邪神像 カラーバリエーション

七つの大罪 ルシファー～傲慢の像 黒ノ衣版
●発売元／ホビージャパン●11880円（通常版）、13980円（傲慢ご奉仕ボディミトン付き限定版）、各販売終了●1:8、約23.5cm●製造／オーキッドシード●原型製作／タナカマサノリ（ジェットストリーム）

七つの大罪 ルシファー～傲慢の像 ワンフェス ver
●発売元／オーキッドシード●9800円、販売終了●1:8、約23.5cm●原型製作／タナカマサノリ（ジェットストリーム）

七つの大罪 レヴィアタン～嫉妬の像 紫ノ衣版
●発売元／ホビージャパン●8800円（通常版）、9800円（ねたましたじき&クリアファイル付き限定版）、各販売終了●1:8、約22cm●製造／AMAKUNI●原型製作／ひろし（桜前線）、彩色見本製作／ピンポイント

七つの大罪 サタン～憤怒の像 蒼ノ衣版
●発売元／ホビージャパン●11880円（通常版）、13380円（憤怒のローアングル両面クロスポスター付き限定版）、各販売終了●1：8、約26㎝●製造／オーキッドシード●原型製作／タナカマサノリ（ジェットストリーム）

七つの大罪 マモン～強欲の像 薄桃ノ衣版
●発売元／オーキッドシード●11880円（オーキッドシード通販限定のみマグカップ付属）、各販売終了●1：8、約24.5㎝●原型製作／石山智

七つの大罪 アスモデウス～色欲の像 白銀ノ衣版
●発売元／オーキッドシード●11880円（オーキッドシード通販限定のみマグカップ付属）、販売終了●1:8、約23cm●原型製作／石山智

七つの大罪 ベルゼバブ～蒼ノ衣版
●発売元／ホビージャパン●13300円（通常版）、14800円（限定版）、通常版のみ発売中●1：8、約21㎝●製造／AMAKUNI●原型製作／ひろし（桜前線）、彩色見本製作／ピンポイント●フィギュアJAPAN「七つの大罪」特別付録

◀『フィギュアJAPAN』シリーズ第3弾『七つの大罪』編（2016年2月13日発売）掲載グラビア

魔王黙示録＆カラーバリエーション

七つの大罪 魔王黙示録 傲慢の章～スイカ割りノ節
●発売元／ホビージャパン●9500円（通常版）、11000円（驕り de ポロリ B3両面魔観布付き限定版）、各販売終了●1:7、約24cm●製造／AMAKUNI●原型製作／遠那かんし（りゅんりゅん亭）、彩色見本製作／ピンポイント

七つの大罪 魔王黙示録 傲慢の章～スイカ割りノ節 金色ノ項
●発売元／ホビージャパン●9800円（通常版）、10800円（ドヤ顔ダブルピース両面お風呂ポスター付き限定版）、各販売終了●1:7、約24cm●製造／AMAKUNI●原型製作／遠那かんし（りゅんりゅん亭）、彩色見本製作／ピンポイント

七つの大罪 魔王黙示録 傲慢の章～愛獲オンステージノ節
●発売元／ホビージャパン●15980円（通常版）、17980円（魅幽忸ライブタオル付き限定版）、各販売終了●1:7、約25cm●原型製作／間崎祐介、彩色見本製作／ピンポイント

七つの大罪 魔王黙示録 嫉妬の章～叛傑ホットパンツノ節
●発売元／オーキッドシード●12960円（通常版）、14580円（フリースブランケット付き限定版）、通常版のみ発売中●1:7、約22cm●原型製作／タナカマサノリ（ジェットストリーム）

七つの大罪 魔王黙示録 嫉妬の章～叛傑ホットパンツノ節 桃色ノ項
●発売元／オーキッドシード●12960円（通常版）、14580円（嫉妬の乳欲シャワータペストリー付き限定版）、通常版のみ発売中●1:7、約22cm●原型製作／タナカマサノリ（ジェットストリーム）

七つの大罪 魔王黙示録 憤怒の章～羞恥サンタクロースノ節
●発売元／ホビージャパン●12960円（通常版）、14160円（地獄の釜でメリー苦しみますお風呂ポスター付き限定版）、各販売終了●1:7、約26cm●製造／AMAKUNI●原型製作／間崎祐介、彩色見本製作／ピンポイント

七つの大罪 魔王黙示録 強欲の章～銃弑ウエスタン水着ノ節
●発売元／オーキッドシード●14904円（通常版）、16524円（マイクロファイバータオル付き限定版）、各販売終了●1:7、約25.5cm●原型製作／タナカマサノリ（ジェットストリーム）

七つの大罪 魔王黙示録 強欲の章～銃弑ウエスタン水着ノ節 黒色ノ項
●発売元／オーキッドシード●14904円（通常版）、16524円（強欲の湯婀魅シャワータペストリー付き限定版）、発売中●1:7、約25.5cm●原型製作／タナカマサノリ（ジェットストリーム）

七つの大罪 魔王黙示録 暴食の章～魔吊夜店巡りノ節
●発売元／ホビージャパン●12960円（通常版）、13980円（暴食祭ハンドタオル2枚付き限定版）、各販売終了●1:7、約23cm●製造／AMAKUNI●原型製作／遠那かんし（りゅんりゅん亭）、彩色見本製作／ピンポイント

七つの大罪 魔王黙示録 色欲の章～魔惑バニーガールノ節
●発売元／ホビージャパン●11800円（通常版）、12981円（羞刊CHERRY BOY広報お風呂ポスター付き限定版）、各販売終了●1:7、約24cm●製造／AMAKUNI●原型製作／Vispo、彩色見本製作／真辺菜月（CREA MODE）

七つの大罪 魔王黙示録 色欲の章～魔惑バニーガールノ節 白色ノ項
●発売元／ホビージャパン●11800円（通常版）、13880円（羞刊CHERRY BOY広報両面クロスポスター付き限定版）、各販売終了●1:7、約24cm●製造／AMAKUNI●原型製作／Vispo、彩色見本製作／ピンポイント

七つの大罪 魔王黙示録 色欲の章～氷尻アイスクリームノ節
●発売元／ホビージャパン●12960円（通常版）、14160円（ねっとり愛巣の両面ハンカチーフ付き限定版）、各販売終了●1:7、約19cm●製造／AMAKUNI●原型製作／Vispo、彩色見本製作／真辺菜月（CREA MODE）

新作フィギュア

新約・邪神像

七つの大罪 新約・邪神像 ルシファー
●発売元／オーキッドシード●12960円（通常版）、14580円（降臨ノ台座版）、2017年10月予定●1：8、約23．5㎝●原型製作／タナカマサノリ（ジェットストリーム）

七つの大罪 新約・邪神像 レヴィアタン
●発売元／ホビージャパン●11880円（通常版）、13380円（降臨ノ台座版）、各受注終了、2017年10月～11月発送予定●1：8、約20㎝●製造／AMAKUNI●原型製作／ひろし（桜前線）、台座、彩色見本製作／ピンポイント

七つの大罪 新約・邪神像 アスモデウス
●発売元／オーキッドシード●13500円（通常版）、15120円（降臨ノ台座版）、2017年11月予定●1：8、約23㎝●原型製作／石山智

七つの大罪 新約・邪神像 アスタロト
●発売元／ホビージャパン●13800円（通常版）、15300円（降臨ノ台座版）、各受注終了、2017年11月～12月発送予定●1：8、約20㎝●製造／AMAKUNI●原型製作／ひろし（桜前線）、台座、彩色見本製作（ピンポイント）

魔王黙示録

七つの大罪 魔王黙示録 怠惰の章～艶舞ショータイムノ節
●発売元／オーキッドシード●14904円（通常版）、16200円（怠惰の罰躯マイクロファイバータオル付き限定版）、2017年12月予定●1：7、約24．5㎝●原型製作／タナカマサノリ（ジェットストリーム）

七つの大罪 マモン
-いのうえたくや ver-
●発売元／オーキッドシード●価格未定、発売時期未定●1:6、約21.5cm●原型製作／石山智、台座製作／ピンポイント

天使像

七つの美徳 ミカエル～忠義の像
●発売元／ホビージャパン●13800円（通常版）、16500円（忠義ノ福音セット）、各受注終了、2018年2月～3月発送予定●1:8、約23cm●製造／AMAKUNI●原型製作／横田健、台座製作／ピンポイント、彩色見本製作／星名詠美

アイテム

チャーム＆ストラップ

sin 七つの大罪 カナちびアクリルチャーム
●発売元／ACG●各702円、発売中●約4㎝

sin 七つの大罪 MOMS（ミニおっぱいマウスパッドストラップ）
●発売元／ACG●各864円、発売中●約6㎝

カードスリーブ

sin 七つの大罪キャラクタースリーブ
●発売元／エンスカイ●各853円、発売中●各約9cm

抱き枕カバー

sin 七つの大罪 マモン 抱き枕カバー
●発売元／KADOKAWA●12960円、発売中●約160cm

タペストリー

sin 七つの大罪 B2タペストリーA、B
●発売元／アズメーカー●各3240円、発売中●各73㎝

Blu-ray＆DVD

キャラクターデザイン安田祥子描き下ろしジャケットが目印のBlu-ray＆DVDは5巻「第五の罪」が10月25日、6巻「第六の罪」は11月29日、7巻（最終巻）「第七の罪」は12月20日発売予定。

sin 七つの大罪 第一の罪
●発売元／NBCユニバーサル●7560円（Blu-ray）、6480円（DVD）、発売中●本編約47分

sin 七つの大罪 第二の罪
●発売元／NBCユニバーサル●7560円（Blu-ray）、6480円（DVD）、発売中●本編約47分

sin 七つの大罪 第三の罪
●発売元／NBCユニバーサル●7560円（Blu-ray）、6480円（DVD）、発売中●本編約47分

sin 七つの大罪 第四の罪
●発売元／NBCユニバーサル●7560円（Blu-ray）、6480円（DVD）、9月28日予定●本編約24分

CD

TV アニメ『sin 七つの大罪』OP・ED テーマ
My Sweet Maiden ／
Welcome To Our Diabolic Paradise
アーティスト／ Mia REGINA
●発売元／ランティス●1296円、発売中

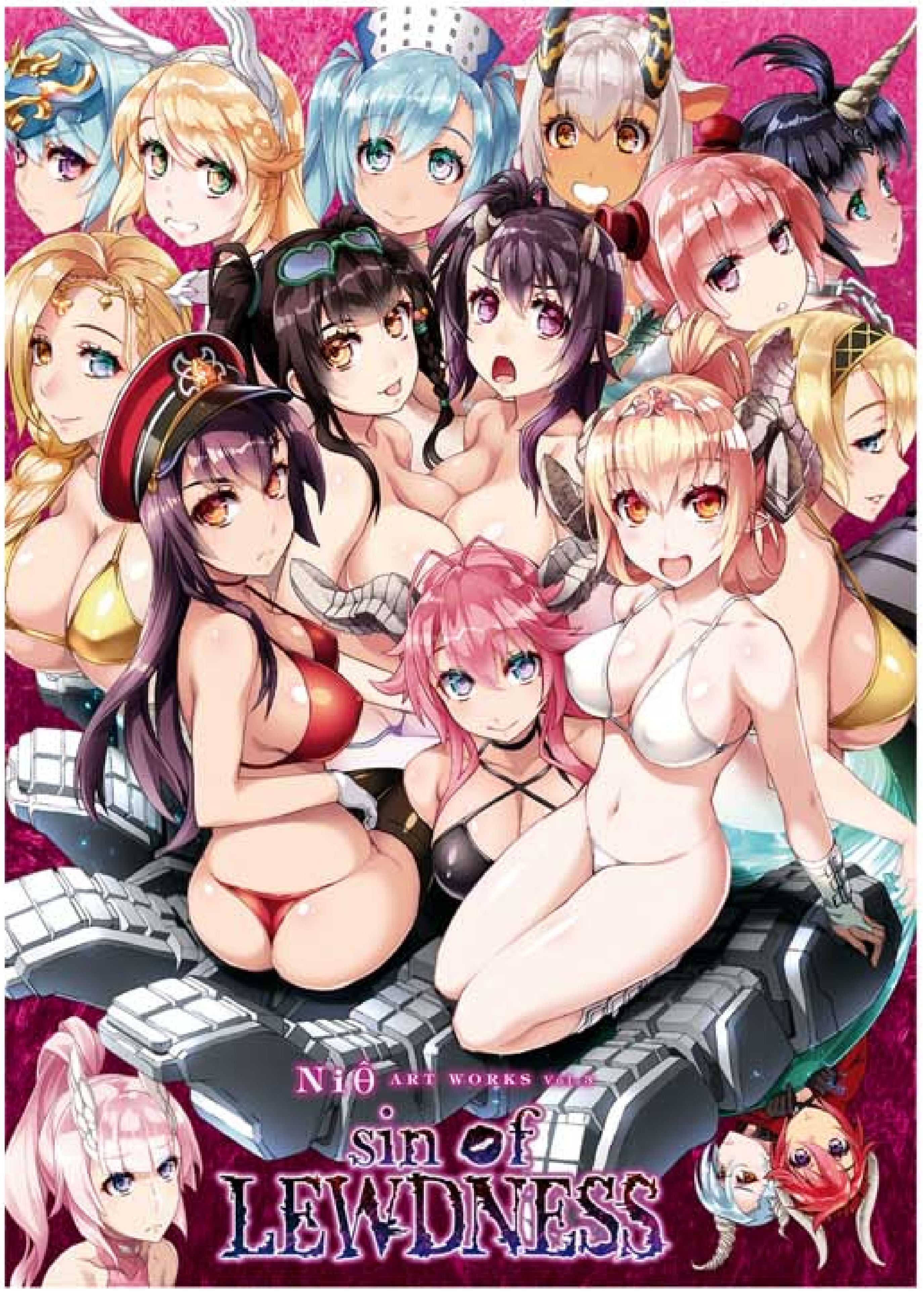
TV アニメ『sin 七つの大罪』オリジナルサウンドトラック
音楽／横山克・堤博明
アーティスト／ Mia　REGINA
●発売元／ランティス●3456円、発売中●2枚組

書籍

sin 七つの大罪①
●発行元／ホビージャパン●670円、発売中●B6判

sin 七つの大罪 日常黙示録
●発行元／KADOKAWA●594円、発売中●B6判

フィギュア JAPAN『七つの大罪』編
●発行元／ホビージャパン●13300円、発売中●A4判
※限定版は受注終了。通常版のみ発売中。



Niθ ART WORKS Vol.3 sin of LEWDNESS
●発行元／ホビージャパン●2916円、発売中●A4判

新作アイテム

缶バッチ

sin 七つの大罪
缶バッチ100
●発売元／ペンギンパレード
●各756円、発売中

カードスリーブ

「sin 七つの大罪」きゃらスリーブコレクションマットシリーズ
●発売元／ムービック●各821円、8月下旬予定●各約9cm

マグカップ

A

B

sin 七つの大罪 マグカップ
●発売元／ペンギンパレード●各1296円、発売中●全2種

抱き枕カバー

sin 七つの大罪 レヴィアタン 抱き枕カバー
●発売元／KADOKAWA●12960円、9月下旬予定●約160cm

sin 七つの大罪 サタン 抱き枕カバー
●発売元／KADOKAWA●12960円、9月下旬予定●約160cm

sin 七つの大罪 アスモデウス 抱き枕カバー
●発売元／KADOKAWA●12960円、10月予定●約160cm

sin 七つの大罪 ベルフェゴール 抱き枕カバー
●発売元／KADOKAWA●12960円、11月予定●約160cm

枕カバー

七つの大罪
レヴィアタン 枕カバー
●発売元／オーキッドシード●価格未定、発売時期未定●約43cm

七つの大罪 マモン枕カバー
●発売元／オーキッドシード●価格未定、発売時期未定●約43cm

タペストリー

sin 七つの大罪
マモン いのうえたくや Ver.
B2 タペストリー
●発売元／オーキッドシード●3780円、9月予定●約73cm

七つの大罪 ベリアル
B2 タペストリー
●発売元／オーキッドシード●3780円、9月予定●約73cm

STAFF

原作 ホビージャパン「七つの大罪」
原案 河原正信
企画 田中信作 星野孝太 山崎明日香
井上俊次 森幸司 熊谷拓登
神部宗之
監督 よしもときんじ
ストーリーコンセプト・シリーズ構成
吉本欣司
メインライター 鈴木雅詞
キャラクター原案 Niθ
キャラクターデザイン・総作画監督
安田祥子
総作画監督 小関雅 ごとうじゅんじ
インダストリアルデザイン
枝松聖
美術監督 益田健太
ビジュアルコーディネーター
松原貞姫
撮影監督 藤田智史
編集 坂本雅紀
録音監督 森下広人
選曲 吉本欣司
音楽 横山克 堤博明
プロデューサー
髙橋和彰 横田正明 礒谷徳知
井上卓哉 浅賀孝郎
制作プロデューサー
渡辺秀信 河井敬介 森尻和明
プロデュース ジェンコ
アニメーション制作
アニメーションスタジオ・アートランド
ティー・エヌ・ケー
製作
「sin 七つの大罪」パートナーズ
NBCユニバーサル・エンターテイメント
ホビージャパン
エー・ティー・エックス
ランティス オーキッドシード
叶音
ジェンコ
キャスト
喜多村英梨（ルシファー）
藤田茜（レヴィアタン）
櫻庭有紗（サタン）
加隈亜衣（ベルフェゴール）
日笠陽子（マモン）
小倉唯（ベルゼバブ）
たかはし智秋（アスモデウス）
田所あずさ（アスタロト）
伊藤静（ベリアル）
戸田めぐみ（十束真莉亜）
内山夕実（ミカエル）
美奈（富田美憂）
山田浩貴（グノーシス）
岡村明美（真莉亜の母）
磯部綾音（天使）
かどたにまみ（天使）
木本瑞紀（天使）
花田茜（天使）
渡辺理沙（天使）
モニターワークス 長谷川朋史
特殊効果 石原智美
プロップデザイン協力 竹谷徹平
オフライン編集 森田編集室
編集助手 宮崎直樹
ビデオ編集 グッド・ジョブTOKYO
録音調整 太田泰明
録音助手 南うんじ
音響効果 八十正太（スワラ・プロ）
録音スタジオ制作担当 安野文左衣
録音スタジオ
P'sSTUDIOazabudaiA／RONE
音響制作担当 鈴木里美
音響制作 叶音
音楽プロデューサー 吉江輝成 佐藤純之介

音楽A&R 保坂拓也
音楽制作 ランティス
オープニングテーマ
「My Sweet Maiden」
歌:Mia REGINA 作詞:真崎エリカ
作曲:SHINTA-LOW・本多友紀
（ArteRefact）
編曲:本多友紀（ArteRefact）（ランティス）
エンディングテーマ
「Welcome To Our Diabolic Paradise」
歌:Mia REGINA
作詞・作曲:デーモン閣下 編曲:pal@pop
オープニングスタッフ
絵コンテ・演出 よしもときんじ
作画監督 安田祥子 神木はな
原画 石橋有希子 うるし原智志 田村勝之
塚田ひろし よしもときんじ
エンディングスタッフ
絵コンテ・演出 よしもときんじ
原画 小関雅 安田祥子
手島勇人 吉本欣司
企画協力
加藤信也（AMAKUNI／ホビージャパン）
柳沢祐介（AMAKUNI／ホビージャパン）
コミック連載 漫画:うるりひ
（「コミックファイア」ホビージャパン）
協力
月鈴舎 石川功（クオラス）
伊藤憲祐（クオラス）
アシスタントプロデューサー
塩入聡太 臼倉竜太郎 藤田幹人
宣伝プロデューサー 原田淳
宣伝アシスタント 石垣拓人
宣伝デザイン 福島了（Drift）
デザイン協力 有限会社ハイヴ hushinc.
PV制作 10GAUGE
パッケージコーディネート 湯原隆幸
ライセンス担当
加来格 梅橋美香 葵知子
青木美里 目崎裕美 河野愛
設定制作 株本毅 田部伸一 大島泰美

第一話 傲慢たる堕天使
脚本 鈴木雅詞 吉本欣司
絵コンテ・演出 よしもときんじ
総作画監督 安田祥子 小関雅
作画監督 塚田ひろし 小関雅
岡田豊広 神木はな
挿入歌 「がってむ☆くりてぃかる」
作詞・作曲・編曲:ZAQ
歌:アスタロト（CV.田所あずさ）（ランティス）
アニメーション制作
アニメーションスタジオ・アートランド

第二話 嫉妬ゆえの暴走
脚本 鈴木雅詞 吉本欣司
絵コンテ 西島克彦
演出 日下直義 勝亦祥視
総作画監督 ごとうじゅんじ
作画監督 野本正幸
挿入歌 「レヴィのレシピ」
作詞:中村彼方 作曲・編曲:EFFY
編曲:pal@pop
歌:レヴィアタン（CV.藤田茜）（ランティス）
アニメーション制作 ティー・エヌ・ケー

第三話 色欲の渚
脚本 鈴木雅詞 吉本欣司
絵コンテ 斎藤久 **演出** 藏本穂高
総作画監督 ごとうじゅんじ
作画監督 石動仁 神田岳 中島美子
山崎輝彦 李周炫
挿入歌 「baby now」
作詞:中村彼方 作曲・編曲:AstroNoteS
歌:アスモデウス（CV.たかはし智秋）
（ランティス）
アニメーション制作 ティー・エヌ・ケー

第四話 強欲うごめく霧の街
脚本 松原貞姫 吉本欣司
絵コンテ うるし原智志 **演出** 千葉孝幸
総作画監督 安田祥子 小関雅
作画監督 正金寺直子 塚田ひろし
神木はな 小関雅 石橋有希子
挿入歌 「Requiem Lullaby」
作詞:中村彼方 作曲・編曲:原田アツシ
歌:マモン（CV.日笠陽子）（ランティス）
アニメーション制作
アニメーションスタジオ・アートランド

第五話 憂鬱なる歌姫
脚本 小鹿りえ 吉本欣司 松原貞姫
絵コンテ 石黒達也
演出 川西泰二 山口美浩 冨田剛司
総作画監督 安田祥子 小関雅
作画監督 安田祥子 小関雅 手島隼人
飯飼一幸 服部益美
作画監督補佐 余島郁枝 田中美奈
挿入歌 「がってむ☆くりてぃかる」
作詞・作曲・編曲:ZAQ
歌:アスタロト（CV.田所あずさ）（ランティス）

「Goddamn Critical（ルシファーver）」
作詞・作曲・編曲:ZAQ
歌:ルシファー（CV.喜多村英梨）（ランティス）

「がってむ♡くりてぃかる（ルシファーver）」
作詞:ZAQ&河田貴央&juun.coo
作曲:ZAQ 編曲:河田貴央
歌:ルシファー（CV.喜多村英梨）（ランティス）

「微熱なDancin'」
作詞:ZAQ 作曲・編曲:河田貴央
歌:ルシファー（CV.喜多村英梨）（ランティス）

「ASUDEKO」
作詞:ZAQ 作曲・編曲:河田貴央
歌:アスタロト（CV.田所あずさ）（ランティス）

「微熱なASUDEKO」
作詞:ZAQ 作曲・編曲:河田貴央
歌:ルシファー（CV.喜多村英梨） × アスタロト
（CV.田所あずさ）（ランティス）

ミュージックビデオ「ASUDEKO」
絵コンテ・演出・作画監督 梅津泰臣
アニメーション制作
アニメーションスタジオ・アートランド

第六話 怠惰オンライン
脚本 大久保昌弘 吉本欣司
絵コンテ 大畑晃一
演出 日下直義 勝亦祥視 野本正幸
総作画監督 ごとうじゅんじ
作画監督 朝岡卓矢 ごとうじゅんじ
斉藤香織 斉藤和也 清水勝祐
挿入歌 「もうどぉもぷにぱにゃモード」
作詞:中村彼方 作曲・編曲:AstroNoteS
歌:ベルフェゴール（CV.加隈亜衣）
（ランティス）
アニメーション制作 ティー・エヌ・ケー

第七話 咎なき暴食
脚本 鈴木雅詞 吉本欣司
絵コンテ 高本宣弘 **演出** 高橋順
総作画監督 安田祥子 小関雅
作画監督 山本善哉
挿入歌 「ミル・ひみつ・フィーユ」
作詞:中村彼方 作曲・編曲:小松一也
歌:ベルゼバブ（CV.小倉唯）（ランティス）

アニメーション制作
アニメーションスタジオ・アートランド

第八話 解き放たれた憤怒
脚本 大久保昌弘 **絵コンテ** 西島克彦
演出 ながはまのりひこ
総作画監督 ごとうじゅんじ
作画監督 朝岡卓矢 石動仁 神田岳
中島美子 西山伸吾
挿入歌 「戦の逆鱗」
作詞:中村彼方 作曲・編曲:酒井陽一
歌:サタン（CV.櫻庭有紗）（ランティス）
アニメーション制作 ティー・エヌ・ケー

第九話 汝、一切の希望を捨てよ
脚本 鈴木雅詞 吉本欣司
絵コンテ よしもときんじ 夕澄慶英！
演出 夕澄慶英！ 山口美浩
総作画監督 安田祥子 小関雅
作画監督 KIM SU-HO
アニメーション制作
アニメーションスタジオ・アートランド

第十話
汝の敵を愛し、汝らを責むる者のために祈れ
脚本 大久保昌弘 鈴木雅詞
絵コンテ 柳沢テツヤ **演出** 吉本俊司
総作画監督 ごとうじゅんじ
作画監督 朝岡卓矢 石動仁 岡辰也
神田岳 ごとうじゅんじ
斉藤香織 清水勝祐
渡辺はるか
アニメーション制作 ティー・エヌ・ケー

第十一話 求めよ、さらば与えられん
脚本 大久保昌弘 鈴木雅詞
絵コンテ 原博 **演出** 藏本穂高 相浦和也
総作画監督 小関雅 ごとうじゅんじ
作画監督 飯飼一幸 石動仁 神田岳
小関雅 ごとうじゅんじ
清水勝祐 服部益実
Lee Sok Yun
Hue Hey Jung
Chang Bum Chul
Choi Nak Jin
挿入歌 「YES or YES」
作詞:中村彼方 作曲:桑原聖
編曲:酒井拓也
歌:ベリアル（CV.伊藤静）（ランティス）
アニメーション制作
アニメーションスタジオ・アートランド

第十二話
神は天にいまし、すべて世は事も無し
脚本 鈴木雅詞 よしもときんじ
絵コンテ 西島克彦 柳沢テツヤ
演出 ながはまのりひこ 柳沢テツヤ
総作画監督 安田祥子 小関雅
ごとうじゅんじ
作画監督 朝岡卓矢 石動仁 神田岳
斉藤和也 清水勝祐 中島美子
渡辺はるか
アニメーション制作 ティー・エヌ・ケー

愚裸美亞惚素堕&愚裸美亞（グラビアポスター&グラビア）初出一覧

表紙カバー
初出／TVアニメ「sin 七つの大罪」公式魔導書 淫果応報ノ書
原画／安田祥子 仕上げ／井口誠、古市裕一 特効／石原智美、古市裕一
グラビアポスター（折込）
初出／「月刊ホビージャパン」2017年5月号
原画／石塚有希子、野口孝行 仕上げ／中田亮大
フィニッシュ／松原貞姫
P004
初出／「月刊コミックアライブ」2017年7月号
作画／手島典子 作画監督／ごとうじゅんじ 仕上げ・特効／古市裕一
P005
初出／「メガミマガジン」2017年2月号
原画／竹谷隆平 仕上げ／山崎朋子
P006
初出／「メガミマガジン」2017年3月号
作画／ごとうじゅんじ 仕上げ・特効／古市裕一
P007
初出／「メガミマガジン」2017年6月号
原画／手島典子 作画監督／ごとうじゅんじ
仕上げ／佐々木桃乃 特効／太田良之
P008
初出／「メガミマガジン」2017年5月号
作画／手島典子 作画監督／ごとうじゅんじ 仕上げ・特効／古市裕一
P009
初出／「メガミマガジン」2017年4月号
作画／ごとうじゅんじ 仕上げ・特効／古市裕一
P010
初出／「娘TYPE」2017年7月号
作画／世良コータ 背景／益田健太
作画監督／ごとうじゅんじ 仕上げ・特効／古市裕一
P011
初出／「娘TYPE」2017年5月号
原画／手島典子 作画監督／ごとうじゅんじ 仕上げ・特効／古市裕一
P012
初出／TVアニメ「sin 七つの大罪」キービジュアル
作画／安田祥子
P013
初出／TVアニメ「sin 七つの大罪」キービジュアル
作画／安田祥子
P014
初出／sin 七つの大罪 マモン 抱き枕カバー（KADOKAWA）
原画／ごとうじゅんじ 仕上げ・特効／古市裕一
P014、P015
初出／sin 七つの大罪 レヴィアタン（KADOKAWA）
原画／ごとうじゅんじ 仕上げ・特効／古市裕一
P015
初出／sin 七つの大罪 サタン 抱き枕カバー（KADOKAWA）
原画／ごとうじゅんじ 仕上げ・特効／古市裕一（BOSABOSA）

TVアニメ『sin 七つの大罪』

公式魔導書（グリモワール）淫果応報ノ書

[写真／PHOTOGRAPHERS]
葛貫紀 -Takanori Katsura- （井上写真スタジオ）

[デザイン／ART WORKS]
林健一 -Kenichi Hayashi-
林繭子 -Mayuko Hayashi-

[協力／SPECIAL THANKS]
株式会社アニメーションスタジオ・アートランド
AMAKUNI
有限会社オーキッドシード
株式会社ケンユウオフィス
株式会社ジェンコ
株式会社ティー・エヌ・ケー
Niθ
有限会社フォルテス
株式会社ランティス

[編集／EDITOR]
中野英司 -Eiji Nakano- （ホビージャパン）
師岡真那 -Mana Morooka- （セブンデイズウォー）

[執筆／WRITER]
中岡達也 -Tatsuya Nakaoka-
加藤秀和 -Hidekazu Kato-
瀬戸智美 -Tomomi Seto-
萬田翔 -Shou Manda-
清水耕司 -Kouji Shimizu- （セブンデイズウォー）

ホビージャパン MOOK810
TVアニメ『sin 七つの大罪』公式魔導書
淫果応報ノ書

2017年8月31日初版発行

編集人　木村 学
発行人　松下大介
発行所　株式会社ホビージャパン
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-15-8
電話　03(5304)7601（編集）
03(5304)9112(営業)

印刷所　株式会社廣済堂

乱丁・落丁（本のページ順序の間違いや抜け落ち）は購入された店舗名を明記して当社パブリッシングサービス課までお送りください。送料は当社負担でお取り替えいたします。但し、古書店で購入したものについてはお取り替え出来ません。

©HOBBY JAPAN
©ホビージャパン・Niθ/「sin 七つの大罪」パートナーズ

禁無断転載・複製

Printed in Japan
ISBN978-4-7986-1499-1　C9476